



日本語能力試験 **N1**～**N3**の  
重要表現を網羅

どんなとき  
どう使う  
**日本語**  
**表現文型**  
**500**

**500 Essential  
Japanese Expressions:  
A Guide to Correct  
Usage of Key  
Sentence Patterns**

友松悦子・宮本 淳・和栗雅子

●各課の「知っていますか」「使えますか」で、今の知識をまず確認

●機能別・レベル別に表現文型を整理

●課末の「練習問題」で知識を運用に結び付ける！

1. [はじめに](#)
2. [目次](#)
3. [本書の目的](#)
4. [本書をお使いになる方々へ](#)
5. [記号について](#)
6. [本書を使って学習する方々へ](#)
7. [接続の形について](#)
8. [1 行為の対象](#)
9. [2 目的・手段・媒介](#)
10. [3 起点・終点・限界・範囲](#)
11. [4 時点・場面](#)
12. [5 時間的同时性・時間的前後関係](#)
13. [6 進行・相関関係](#)
14. [7 付帯・非付帯](#)
15. [8 限定](#)
16. [9 非限定・付加](#)
17. [10 比較・程度・対比](#)
18. [11 判断の立場・評価の視点](#)
19. [12 基準](#)
20. [13 関連・対応](#)
21. [14 無関係・無視・例外](#)
22. [15 例示](#)
23. [16 程度の強調](#)
24. [17 話題](#)
25. [18 逆接・譲歩](#)
26. [19 原因・理由](#)
27. [20 仮定条件・確定条件](#)
28. [21 逆接仮定条件](#)
29. [22 不可能・可能・困難・容易](#)
30. [23 傾向・状態・様子](#)
31. [24 経過・結末](#)
32. [25 否定・部分否定](#)
33. [26 伝聞・推量](#)
34. [27 心情の強調・避けられない心情や行動](#)
35. [28 誘い・勧め・注意・禁止](#)

- 36. [29 主張・断定の評価](#)
- 37. [30 感嘆・願望](#)
- 38. [索引（50音順）](#)
- 39. [参考文献](#)
- 40. [奥付](#)



日本語能力試験 **N1**～**N3**の  
重要表現を網羅

どんなとき  
どう使う  
日本語  
表現文型  
500

500 Essential  
Japanese Expressions:  
A Guide to Correct  
Usage of Key  
Sentence Patterns

友松悦子・宮本 淳・和栗雅子



## はじめに

---

初級を終えて中級に入った学習者は、論理的な文章を読んだり、書いたり、微妙な気持ちや感動を表現したりする時に使われる、より高度な日本語を習得したいと願います。そのような学習者から次のような声が聞かれます。本や新聞などを読んでいると新しい言葉が出てくるが、文法的な言葉は辞書で引こうとしても、辞書には出ていない、いい参考書はあるが、言葉の数が少ない、などです。また、大学や専門学校のための日本語予備教育課程で学びつつ、日本語能力試験の準備をしている学習者からも、問題集や直前対策などの教材だけではなく、中・上級で学ぶ文型の全体を見通しつつ、計画的に落ち着いて学習できる教材が欲しい……という希望が聞かれます。

このような中・上級の学習者の要望に応えたく、わたしどもは、1996年9月に、この『どんな時どう使う日本語表現文型500』をまとめました。これは、私どもが現場で得た経験を生かし、学習者のお役に立つよう、長年使用してきた自主教材を基にまとめたものです。

さて、このたび『どんな時どう使う日本語表現文型500』の改訂版を発行する運びとなりました。改定に当たって幾つかの点に留意しました。まず、2010年よりの日本語能力試験の改定に当たって示されたN5～N1のレベル分けについて、私どもは現場での経験や関連の書物から学んだことを基に、独自に★5～★1を設定いたしました。本書では、このうち★3～★1を扱っています。例文は各レベルに合わせて大幅に手を加えました。各課の後に続く練習問題は、各レベルの学習者が学習しやすいようにレベル別に設定し、マークで表示しました。練習問題は学習しやすいように、より基本的なものからより高度なものへと並んでいます。

この教材の初版発行の際には、国立国語研究所（当時）の佐々木倫子先生に非常に有益なご助言とお励ましをいただきました。心より感謝申し上げます。

この改訂版作成に当たり、株式会社アルク日本語・マルチリンガル事業部の新城宏治氏、日本語書籍編集部の立石恵美子さんには、一方ならぬお世話になりました。深く感謝いたします。

この学習書が、日本語を学ぼうとしている方々のお役に立つことを  
心から願っております。

2010年6月  
友松悦子  
宮本 淳  
和栗雅子

もくじ

# 目次 CONTENTS 目录 목차

---

[はじめに](#)

[本書の目的](#)

[本書をお使いになる方々へ](#)

[1 本書の特徴と方針](#)

[2 各課の構成](#)

[記号について](#)

[本書を使って学習する方々へ](#)

[接続の形について](#)

---

## 1 [こうい](#) [たいしょう](#) 行為の対 象

～について / ～に<sup>たい</sup>対して

Objects of Action  
动作行为的对象  
동작의 대상

---

## 2 [もくてき](#) [しゅだん](#) [ばいかい](#) 目的・手段・媒介

～ように / ～によって

Purpose / Means / Media  
目的、手段、媒介  
목적/수단/매개

I <sup>もくてき</sup> 目的      II <sup>しゅだん</sup> <sup>ばいかい</sup> 手段・媒介

---

## 3 [きてん](#) [しゅうてん](#) [げんかい](#) [はんい](#) 起点・終 点・限 界・範圍

～をはじめ / ～にわたって

Starting and Ending Points / Limits / Range  
起点，终点，界限，范围  
기점/종점/한계/범위

---

---

## 4 じ てん ば めん 時点・場面

さい  
～に際して / ～において

Time and Place of Action  
动作的时间，场合  
시점/장면

---

---

## 5 てきどう じ せい ぜん ご かんけい 時間的同时性・時間的前後関係

～たとたん / ～うちに

Concurrent Actions / Sequential Actions  
动作同时发生，动作先后发生  
시간적 동시성/시간적 전후관계

I 時間的同时性      II 時間的前後関係

---

---

## 6 しんこう そうかんかんけい 進行・相關関係

いっぽう  
～一方だ / ～につれて

Progressive Actions / Correlations  
动作的进行，动作之间的关系  
진행/상관관계

I 進行      II 相關關係

---

---

## 7 ふ たい ひ 付帯・非付帯

～ついでに / ～ぬきで

With / Without  
附帶，不附帶  
부대/비부대

---

---

## 8 げんてい 限定

かぎ  
～に限り

Limiting Conditions  
限定



9 ひげんてい ふか  
非限定・付加

～ばかりでなく / ～<sup>うえ</sup>上に

Non-limitation / Additions

非限定，附加

비한정/부가

I 非限定      II 付加

---

10 ひかく ていど たいひ  
比較・程度・対比

～くらいなら / ～どころか

Comparison / Degree / Contrast

比较，程度，对比

비교/정도/대비

I 比較・程度      II 対比

---

11 はんだん たちば ひょうか してん  
判断の立場・評価の視点

～にとって / ～にしては

Standpoint of Judgment / Viewpoint of Evaluation

判断的立場，评价的视点

판단의 입장/평가의 시점

I 判断の立場      II 評価の視点

---

12 きじゅん  
基準

～<sup>もと</sup>に基づいて

Basis of Action

基准

기준

13 かんれん たいおう  
関連・対応

---

おう  
～に<sup>お</sup>応じて / ～をきっかけに

Dependency / Correspondence

关联, 对应

관련/대응

---

14 む かんけい む し れいがい  
無 関 係 ・ 無 視 ・ 例 外

と  
～を問<sup>と</sup>わず / ～はともかく

Unrelated Conditions / Exceptions

无关, 无视, 例外

무관계/무시/예외

---

15 れい じ  
例 示

～とか～とか

Giving Examples

举例

예시

---

16 てい ど きょう ちよう  
程 度 の 強 調

～さえ / ～こそ

Emphatic Expressions

对程度的强调

강조

強調 I

強調 II

---

17 わ だい  
話 題

～というのは

Topics

话题

화제

---

18 ぎゃく せつ じよう ほ  
逆 接 ・ 譲 歩

～ものの / ～とはい<sup>は</sup>うものの

Contradiction / Concession  
逆接，让步  
역접/양보

---

げんいん りゆう  
**19 原因・理由**

～ばかりに / ～からには

Causes / Reasons  
原因，理由  
원인/이유

原因・理由 I      原因・理由 II

---

かていじょうけん かくていじょうけん  
**20 假定条件・確定条件**

～としたら / ～となると

Hypothetical Conditions / Definite Conditions  
假定条件，确定条件  
가정조건/확정조건

---

ぎゃくせつ かていじょうけん  
**21 逆接假定条件**

～たところで

Adversative Hypothetical Conditions  
逆接假定条件  
역접의 가정조건

---

ふかのう かのう こんなん ようい  
**22 不可能・可能・困难・容易**

～ようがない / ～得<sup>う</sup>る

Impossibility / Possibility / Difficulty / Easiness  
不可能，可能，困难，容易  
불가능/가능/곤란/용이

---

けいこう じょうたい ようす  
**23 傾向・状态・様子**

～がち / ～だらけ / ～げ

Tendency / Condition / Appearance  
倾向，状态，情况

경향/상태/모습

I 傾向・状態 II 様子

---

24 けい か けつまつ  
経過・結末

～あげく / ～次第<sup>しだい</sup>だ

Process / Conclusion

经过，结果

경과/결말

I 経過 II 結末

---

25 ひ てい ぶ ぶん  
否定・部分否定

～はずがない / ～わけではない

Negatives / Partial Negatives

否定，部分否定

부정/부분부정

I 否定 II 部分否定

---

26 でんぶん すいりょう  
伝聞・推量

～ということだ / ～かねない

Conveying Information / Expressing Certainty and Uncertainty

传闻，推测

전문/추량

I <sup>でんぶん</sup> 伝聞 II <sup>すいりょう</sup> 推量

---

27 しんじょう きょうちょう さ こうどう  
心情の強調・避けられない心情や行動

～てたまらない / ～ざるをえない

Emphasizing Feelings / Compulsion

强调某种感情，不得不做的事情或那时的感情

감정의 강조/피할 수 없는 심정과 행동

---

- 28 [さそ](#) [すす](#) [ちゅうい](#) [きんし](#)  
[誘い・勧め・注意・禁止](#)  
～こと / ～ものだ / ～べきではない  
Invitations / Advice / Warnings / Prohibitions  
邀请，建议，提醒，禁止  
권유/추천/주의/금지
- 

- 29 [しゅちょう](#) [だんていてきひょう](#) [か](#)  
[主張・断定的評価](#)  
～にほかならない / ～にきまっている  
Assertion / Assertive Evaluation  
主张，判断性的评价  
주장/단정적 평가
- 

- 30 [かんたん](#) [がんぼう](#)  
[感嘆・願望](#)  
～ことに / ～たいものだ  
Exclamatory Expressions / Expressing Wishes  
感叹，愿望  
감탄/희망
- 

[索引（50音順）](#)

[参考文献](#)

[奥付](#)

## 本書の目的

---

初級の学習項目を終えた学習者は、論理的な文章を読んだり書いたり、微妙な気持ちや感動をうまく表現したりするときに使われる、より高度な日本語の言い方を学習したいと願う。

この学習書は、そうした中・上級の文法形式を体系的に学びたいと思っている学習者のために作られたものである。それぞれに微妙な特徴を持つ文法形式を学び、運用する力を付けたいと思ってこつこつと勉強している方々にはお役に立つものと信じている。

この学習書が使われる場面としては、例えば、教科書に沿って中級以上の語彙や文法を積み上げつつ勉強する日本語学校で、中級の学習がある程度進んでから中級文法のまとめのための副教材として使うということが考えられる。また、日本語能力試験を目指して勉強している学生の大勢いる日本語学校で、その対策のための授業で使用するのも一案である。学習者が自習用、独習用の教材として使用することもできるであろう。

# 本書をお使いになる方々へ

---

## 1 本書の特徴と方針

### 〔意味による分類〕

本書は、1994年に国際交流基金・日本国際教育協会（当時）から発表された（2002年改訂）日本語能力試験（文法）の出題基準サンプル（文法的な〈機能語〉の類）を参考にし、そのほかに、数種類の教科書（参考文献参照）の中で重要学習項目として取り上げられているもの、これまで能力試験に出題されたものなどを整理して編集された。

執筆者らは、2010年から改訂された日本語能力試験のレベル（N5～N1）を考慮し、これらの項目を独自の判断でレベル分けして本書に掲載した。

学習者が文法形式をまとめて勉強しようとするとき、さまざまなものが脈絡なく次々と出てくるよりは、何かのまとまりをもって体系的に提出されている方が学習の助けになると考え、文法形式を意味によって分類して1つの課を構成した。各課の題はその課の項目の代表的な意味機能を考えて付けたが、その用語（例：7付帯・非付帯 など）については、ご批判を仰ぎたい。

1つの文法形式の意味・機能は1つではない。例えば、「～ながら」は、初級の学習項目である「同時進行」と、中級の学習項目である「逆接」の2つの意味・機能を持つ。しかし、この2つの意味は孤立して存在しているのではなく、連続的にその意味をカバーしている。

また、「～にきまっている」は、確信に近い推量を表す文法形式であるとともに、断定的発言を表すものとも考えられる。「～はずがない」は「推量」と分類した方がいいのか、「否定」と分類した方がいいのか、どこで線を引いて分類するのかは極めて難しい問題である。しかし、執筆者らの立場としては、学習者が学習する際に取り付きやすく、わかりやすいようにということを第一に考え、あえて分類を試みた。そのため学習者の混乱を招かないように配慮し、それぞれの典型的な例を出して分類するという方法を取った。1つの文法形式が複数の意味・機能を持つ場合は、それぞれのグループに収めた。例え

ば、「～によって」は、次の3つの課に収めた。

- ・話し合いによって解決する。 手段 2課Ⅱ・1
- ・その日の気分によって服を変える。 関連 13課1
- ・津波によって大きな被害が出た 原因 19課Ⅰ・1

### [文法的性質についての記述]

文法形式を学習する上で必要なことは、まず、意味と機能を理解することである。さらに、自分で使えるようになるためには、それを使う場面・接続のしかた・使われる動詞の種類などについての知識を持ち、接続する言葉の制限や文末の制限などについての文法的な性質についても知る必要がある。執筆者らは、それぞれの現場の経験から、学習者のわかりにくいところや間違いやすいところを押さえて、できるだけ簡単明瞭<sup>めいりょう</sup>に文法的性質を解説しようと試みた。

### [例文]

各文法形式について3～5つの例文を載せた。まず、典型的な例文を紹介し、ほかに、接続する品詞・時制・使われる場面・話題などが偏らないように、可能なかぎりさまざまなものを提示できるように試みた。各例文は基本的に普通体の書き言葉のものを主としたが、当然ながら書き言葉には丁寧体のものもあるので、手紙・テレビなどのニュース報道・スピーチ・会議の報告などに使われるものも丁寧体の書き言葉として取り入れてある。

[「知っていますか」「使えますか」（各課の最初）と「練習問題」（各課の最後）]

各課に入る前にその課で学ぶべきことをどの程度知っているかを試してみる「知っていますか」と「使えますか」を設けた。その課にまとめられた意味・機能を持つ文法形式をどのくらい知っているか、知っているだけでなく適切に使えるかを試す性質のものである。問題は★3、★2程度のものだけに限定して作ってある。「知っていますか」はそれらの文法形式を知っているかどうかのチェックであり、「使え



ますか」は適切な使い方ができるかどうかのチェックである。さらに、その課で学習したことの確認のために、本文の終わりに練習問題を付けた。その課で学んだ文法形式が適当なところで使えるか・その文法形式を使って短文完成ができるか・文法的な性質についての知識が身に付いたか・あるまとまりのある文章（談話）の中でその文法形式が使えるか、などを確認するためのものである。

## 〔その他〕

文法の力を養うための学習書であるから、説明の文の語彙はなるべく学習者の負担にならないようにした。漢字の提出については、漢字圏の学習者が本書の内容を容易に理解できるようにするため、また、非漢字圏の学習者にはなるべく漢字に慣れる機会を提供する意味もあり、レベルに合わせて読み仮名を付けた。

---

## 2 各課の構成

### • 「知っていますか」「使えますか」

その課にまとめられた文法形式について、どの程度の基礎知識があるかを問うもの。（答えはポップアップで表示）

### • 文法形式一覧 その課で学習する文法形式一覧。レベル別に分けて提示。レベルごとに学習しやすいと思われる順に提示した。

### • 本文 見出し語

その言い換え.....【      】

使われる場面について.....**W F S**

例文.....① ② ③～

接続.....**接続**

文法的性質と意味的特徴.....▶

### • 練習 その課で学習したことをチェックするためのもの。レベル順に段階的に並べてある。問題の種類はいろいろで、談話単位の中でどう使われるかという点を確認する問題も取り入れた。（答えはポップアップで表示）

# 記号について

---

かく き ごう つぎ い み あらわ  
各記号は次のような意味を表す。

★3 ★2 ★1 それぞれのレベルの文型 ぶんけい

**S** しゅ 主として はな 話し ことば 言葉

**W** か 主として 書き 言葉

**F** あらた 主として 改まった い 言い かた 方

**接続** せつぞく 接続

→ おな 同じ かたち 形だが ちが 違う意味のもので、ほかの か 課に はい 入っている。

# 本書を使って学 習する方々へ

本書は1課から30課まであります。後半の課になると、話す人の<sup>き</sup>気持ちや態度が<sup>も</sup>含まれる文法形式が多くなってきます。1課から<sup>じゅんばん</sup>順番に進んでいくのもいいし、<sup>おも</sup>順番どおりでなくてもいいと思います。

## 〈「知っていますか」「使えますか」〉

どの場合でも、まず「知っていますか」と「使えますか」をやってみましょう。これは、その課で学ぶことの<sup>き</sup>基礎的な知識がどの<sup>ちしき</sup>程度まで進んでいるかを自分で<sup>すす</sup>チェックするものです。「知っていますか」は「～と<sup>い</sup>言いたいとき」のいろいろな文法形式をどのくらい<sup>し</sup>知っているかを問うものです。いちばんいい<sup>ことば</sup>言葉を選んで\_\_\_\_に入れてください。1つの<sup>ことば</sup>言葉は1回しか<sup>つか</sup>使いません。次に「使えますか」に進んでください。これは適切な<sup>えら</sup>使い方ができるかどうかを問うものです。使<sup>えら</sup>い方が適切な文のほうを選んでください。

中<sup>ちゅうきゅう</sup>級以上の文法形式は、<sup>せいげん</sup>接続する言葉や文の<sup>せつぞく</sup>終わり方などにさまざまな制限があります。接続のし方も文法形式によっていろいろです。そうした制限を<sup>まも</sup>守らないと適切な使い方ができません。この<sup>もん</sup>問題を間違えた人は、本文の▶を<sup>だ</sup>注意して読んでください。どの課も10問あります。10問中、4問以上<sup>いじょう</sup>間違いのある人はその課を<sup>とく</sup>特に<sup>がくしゅう</sup>ていねいに学習しましょう。

## 〈本文〉

まずその課で学<sup>か</sup>習する文法形式にはどんなものがあるかを見てみ

ましょう。項目は学習しやすい順に並んでいますから、順を追ってその課の本文を読み進んでいくことをおすすめします。

まず、【      】を読んでください。やさしい言葉で言い換えた場合の「意味」が書いてあります。次に例文を読んでください。例文を読むときは、どんな性質の言葉、どんな品詞に接続しているか、文の終わり方はどうなっているかなどにも注意しながら読んでください。

▶にはその文法形式の意味的特徴や文法的な性質が書いてあります。その文型を使って自分で文を作るときの注意点です。

次に練習問題に進んでください。これはその課で学習したことを理解できたかどうかをチェックするためのものです。あるまとまりをもった少し長い文章の中で、習った文法形式をどう使うかを練習する問題もあります。手紙、作文、論文などを書くときの参考にしてください。

せつぞく かたち

## 接続の形について

接続のし方は、下の表のような用語で記した。

(あまり使われない接続は取り上げていない)

活用形と品詞の記号		例
N	めい し 名詞	<u>りんご</u> は <u>みかん</u> より
V ー	どう し      じ しょけい 動詞の辞書形	<u>行く</u> つもりだ
V ます	動詞の（ます）形	<u>うた</u> <u>歌</u> いながら
V ない	動詞の ない形	<u>み</u> <u>見</u> ないでください
V <del>ない</del>	動詞の（ない）形	かさを <u>も</u> <u>持</u> たずに
V て	動詞の て形	<u>あら</u> ってから
V た	動詞の た形	<u>あ</u> <u>会</u> ったことがある
V よう	動詞の い し けい 意志形	<u>かえ</u> <u>帰</u> ろうと思う
V ば	動詞の か て い けい 仮定形	くすり <u>の</u> 薬を <u>飲</u> めば
V たり	動詞の た形＋り	本を <u>よ</u> <u>読</u> んだり
V たら	動詞の た形＋ら	雨が <u>ふ</u> <u>降</u> ったら
イ A い	けいよう し イ形容詞の辞書形	<u>おいしい</u> と思う

イ A↔	イ 形容詞の語幹 <sup>ご かん</sup>	<u>おい</u> し そうだ
イ A く	イ 形容詞の語幹＋く	<u>あ</u> つ くな った
ナ A	ナ 形容詞の語幹	<u>元</u> 気 になりました
する動 詞		食 <sup>しょく</sup> 事 <sup>じ</sup> する、散 <sup>さん</sup> 歩 <sup>ぽ</sup> する、コピ <sup>こ</sup> ー <sup>ぱ</sup> す る、など
する動 詞の N		食 <sup>しょく</sup> 事 <sup>じ</sup> 、散 <sup>さん</sup> 歩 <sup>ぽ</sup> 、など
動詞 I	5 段動詞	行 <sup>と</sup> く、取 <sup>と</sup> る、会 <sup>あ</sup> う、など
動詞 II	1 段動詞	着 <sup>き</sup> る、寝 <sup>ね</sup> る、食 <sup>く</sup> べる、など
動詞 III	ふ き そく 不規則動詞	する、来る
ふ っ っ け い 普通形	動詞	行 <sup>い</sup> く、行 <sup>い</sup> かない、行 <sup>い</sup> った、行 <sup>い</sup> かな かった
	形容詞	さむい、さむくない、さむかっ た、さむくなかった
	ナ形容詞	元 <sup>も</sup> 気 <sup>も</sup> だ、元 <sup>も</sup> 気 <sup>も</sup> ではない、元 <sup>も</sup> 気 <sup>も</sup> だっ た、元 <sup>も</sup> 気 <sup>も</sup> ではなかった
	名詞	雨 <sup>あめ</sup> だ、雨 <sup>あめ</sup> ではない、雨 <sup>あめ</sup> だっ た、雨 <sup>あめ</sup> ではなかった

### 〈接続の例〉

かっぱつ あね たい いもうと しず  
活発な姉に対して、妹は静かなタイプです。（10課Ⅱ・1）

にほんかいがわ 日本海側では、ふゆ 冬、ゆき 雪がよくふ 降るのに対して、たいへいようがわ 太平洋側ではは 晴れの日はつづ 続く。

**接続** N / 普通形（ナAな・ナAである / Nな・Nである）十の十に対して

この場合、名詞には直接接続する、または、普通形には「の」をつけて接続する、という意味です。ただし、普通形は、後に（ ）がある場合には、上の表の「普通形」の形ではなく、（ ）の中の形になります。

- ・活発な姉に対して、... → N
- ・姉が活発なのに対して、... → 普通形（ナAだ→ナAな）十の
- ・姉が活発であるのに対して、... → 普通形（ナAだ→ナAである）十の
- ・姉が活発なタイプなのに対して、... → 普通形（Nだ→Nな）十の
- ・姉が活発なタイプであるのに対して、... → 普通形（Nだ→Nである）十の
- ・日本海側では、冬、雪がよく降るのに対して、... → 普通形十の

## 1

## 行為の対象

Objects of Action

动作行为的对象

동작의 대상

行為が向かう相手やものごとを示したいときは、どんな言い方があり  
ますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. について    b. に対して    c. 向きに    d. にこたえて    e.  
をめぐる

1. わたしは日本の民謡\_\_\_\_調べている。
2. 大会ではみんなの期待\_\_\_\_、精いっぱいがんばろうと思います。
3. デパートの店員はお客様\_\_\_\_、できるだけ丁寧な言葉を使わなければならない。
4. ダム建設の問題\_\_\_\_さまざまな議論は簡単にはまとまらないだろう。
5. このバッグは本やノートがたくさん入ります。教師のわたし\_\_\_\_デザインされているので気に入っています。

つか  
使えますか

ただ    ほう    えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。



こた  
答えは [こちら](#)

1. わたしはあの人に対して、{ a. 失礼な態度をとってしまいました。  
た。 b. 変なうわさを聞きました。 }
2. わたしのアパートは { a. 南向けだから、日当たりがいい。  
どくしんしゃ b. 独身者向けだから、あまり広くない。 }
3. わたしはあの人に関して、{ a. 何も知らないのです。 b. あ  
す まり好きではありません。 }
4. { a. 社員たちの要望にこたえて、 b. 社長の反対にこたえ  
しゃいん りょうこう しょうぼう はく か けってい て、 } 社員旅行は2泊3日と決定した。  
しゃちょう はんたい
5. 土地の問題をめぐって、{ a. あなたにお話ししておきたいこと  
とち きょうだい あらそ つづ があります。 b. 兄弟の争いが続いている。 }

**1**

## 行為の対象こう い たいしょう

行為が向かう相手やものごとを示したいときむ あいて しめ

**★3**

1 ～について

2 ～に対して・～に対するたい3 ～向けむ

4 ～向き

**★2**5 ～に関して・～に関するかん

6 ～にこたえて・～にこたえる

7 ～をめぐる・～をめぐる

**★1**

8 ～にかかわる

**1**1 ～について **★3**

【～のことを】

①この町の歴史まち れきしについて調べています。しら②田中さん、この番組た なか ばんぐみについてどう思われますか。おも③この本にはトマトの育て方そだ かたについて詳しく書いてある。くわ④兄は文学あに ぶんがくについてはまったく無関心む かんしんなんです。

接続 N＋について

▶話す・聞く・考える・書く・調べるなどの行為こう い たいしょうの対象いを言うときに使う。つか

**1**2 ～に対して・～に対する **★3**たい

【～に / ～を相手として】

- ①この老人ホームのスタッフたちは、お年寄りに対してほんとうにやさしいです。
- ②今のランさんの発言に対して、何か意見のある方は手を上げてください。
- ③ご迷惑をおかけした方々に対しまして、心からおわびいたします。
- ④鈴木先生に対するわたしの気持ちは昔も今も変わりません。

接続 N＋たいに対して

- ▶「何に向かってそうするか・そう感じるか」を言うとき、その直接の相手や対象を示す。

1 3 ～む向け ★3

【～のために】

- ①これは幼児向けに書かれた本です。
- ②1人暮らしの女性向けのマンションはありませんか。
- ③この『東京案内』は外国人向けだが、日本人が読んでもとてもおもしろくて、ためになる。

接続 N＋む向け

- ▶「～を対象として・～のために」と言いたいときに使う。

1 4 ～む向き ★3

【～にちょうど合うように】

- ①当店では10代の女性向きに作ったかわいいアクセサリを扱ってお

ります。

②お年寄<sup>としよ</sup>り向<sup>りょうり</sup>きの料理にはどんなものがありますか。

③この家の台所<sup>いえ だいどころ</sup>は広<sup>ひろ</sup>いし、明<sup>あか</sup>るいし、使<sup>つか</sup>いやすそうで、大家族向<sup>だい かぞく いみ</sup>きですね。

### 接続 N＋向き

▶「その対<sup>たいしやう</sup>象にちやうど合<sup>あ</sup>うように・その人<sup>き</sup>が気<sup>い</sup>に入<sup>い</sup>るように」という意味で使<sup>つか</sup>われる。

## 1 5 ～に<sup>かん</sup>関して・～に<sup>かん</sup>関する ★2 W

【～に<sup>かんけい</sup>関係することを】

①この町<sup>そうおん</sup>の騒音問題<sup>すこ</sup>に<sup>かん</sup>関して<sup>ひつよう</sup>もう少し考<sup>かんが</sup>える必要<sup>ひつよう</sup>がある。

②この件<sup>けん</sup>に<sup>かん</sup>関しては現<sup>げんざい</sup>在<sup>ちやうさ</sup>調<sup>さ</sup>査<sup>さ</sup>してお<sup>り</sup>ます。結<sup>けつろん</sup>論<sup>ろん</sup>が出<sup>で</sup>るま<sup>ま</sup>でもうし<sup>し</sup>ば<sup>ば</sup>ら<sup>ら</sup>くお待<sup>まち</sup>ちく<sup>く</sup>ださい。

③今<sup>し</sup>、わ<sup>ぜん</sup>た<sup>さい</sup>し<sup>がい</sup>たちは自<sup>し</sup>然<sup>り</sup>災<sup>りやう</sup>害<sup>が</sup>に<sup>かん</sup>関して<sup>し</sup>の資<sup>し</sup>料<sup>りやう</sup>を集<sup>あ</sup>めてい<sup>ま</sup>す。

④この論<sup>ろんぶん</sup>文<sup>ぶん</sup>は日<sup>せい</sup>本<sup>じ</sup>の政<sup>ぶ</sup>治<sup>ぶん</sup>史<sup>し</sup>に<sup>かん</sup>関<sup>かん</sup>する<sup>する</sup>部<sup>ぶ</sup>分<sup>ぶん</sup>の調<sup>しら</sup>べ<sup>べ</sup>方<sup>ほう</sup>が少<sup>すく</sup>し足<sup>たり</sup>り<sup>ない</sup>ない。

### 接続 N＋に<sup>かん</sup>関して

▶話<sup>こう</sup>す・聞<sup>い</sup>く・考<sup>たいしやう</sup>える・書<sup>く</sup>く・調<sup>たう</sup>べ<sup>い</sup>るな<sup>たいしやう</sup>どの行<sup>こう</sup>為<sup>い</sup>の対<sup>たいしやう</sup>象<sup>たいしやう</sup>を言<sup>い</sup>うと<sup>き</sup>に使<sup>つか</sup>う。1  
「～につ<sup>ようぼう</sup>いて」と意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>・用<sup>よう</sup>法<sup>ほう</sup>は大<sup>たい</sup>体<sup>たい</sup>同<sup>どう</sup>じだ<sup>が</sup>「～につ<sup>かた</sup>いて」より硬<sup>きやう</sup>い表<sup>ひやうげん</sup>現<sup>げん</sup>。

## 1 6 ～に<sup>そ</sup>こたえて・～に<sup>そ</sup>こたえる ★2

【～に<sup>そ</sup>沿<sup>そ</sup>うよ<sup>う</sup>うに】

①住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>の要<sup>よう</sup>望<sup>ぼう</sup>に<sup>そ</sup>こた<sup>こた</sup>えて、こ<sup>し</sup>の町<sup>せつ</sup>にス<sup>けん</sup>ポ<sup>せつ</sup>ー<sup>けん</sup>ツ<sup>せつ</sup>施<sup>し</sup>設<sup>せつ</sup>が建<sup>けん</sup>設<sup>せつ</sup>さ<sup>る</sup>るこ<sup>と</sup>に<sup>な</sup>った。

②聴衆のアンコールにこたえて、指揮者はふたたび舞台に姿を見せた。

③政府には、国民の期待にこたえるような有効な解決策を出してもらいたい。

接続 N＋にこたえて

▶質問・期待・要望などを表す名詞につき、「それに沿うような行為をする」と言いたいときに使われる。

## 1 7 ～をめぐって・～をめぐる ★2

【～を議論や争いの中心点として】

①マンション建設をめぐって、住民たちと建設会社との対立が続いている。

②彼の急死をめぐって、みんながいろいろなうわさをしている。

③町の再開発をめぐり、討論が3日続いた。

④宇宙開発をめぐる各国の競争はさらに激しくなってきた。

接続 N＋をめぐって

▶「そのことについて、どんな議論や対立関係が起きているか」を言うときに使う。後には、意見の対立・いろいろな議論・争い・競争などの意味を持つ動詞が来ることが多い。やや硬い表現。

## 1 8 ～にかかわる ★1

【～のような重大なことに影響を及ぼす】

①父はこれまで3度も命にかかわる病気をした。

②プライバシーまもを守るということは人権じんけんにかかわる大切な問題です。

③教育きょういくは国の将来しょうらいにかかわる大事業だいじぎょうではないでしょうか。

接続 N＋にかかわる

▶「～にかかわるN」の形かたちで「ただ～にかんけい関係があるのでなく、～に重大な影響を及ぼすN」と言いたいときの表現ひょうげん。

## 1

## 行為の対象 練習

## A ★3・★2

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた 答えは [こちら](#)

1. あなたの林さんに（a. 対して b. 対する）尊敬心はいつごろからのものですか。
2. これは若い人（a. 向けて b. 向けの）デザインされた服だけれど、母にもとてもよく似合う。
3. 地元の人たちの期待に（a. こたえて b. こたえる）ような活躍をしたいと思います。
4. 事故の原因に（a. 関して b. 関する）ただ今調査中です。
5. この空き地の利用法を（a. めぐって b. めぐる）まだ両者の対立が続いている。

## B ★3・★2

中の言葉を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. について b. に対する c. 向けの d. に関する e. にこたえて f. をめぐって

わたしは人間の命と生き方（1. ）本をよく読んでいます。最近読んだこの本は、7、8歳ぐらいの子ども（2. ）本で、やさしく書かれています。もっともほんとうに子どものためになるものかどうか

(3. )は、いろいろ議論ぎろんがあったようだ。この本を書いたAという作家さっか(4. )わたしはよく知らなかったが、本の中の「病気びょうき(5. )反抗心はんこうしんより、病気と友だちになる心を持つことが大切だ」という言葉ことばにはたいへん励はげまされた。この作家には、これからも読者どくしゃの期待きたい(6. )、いい作品さくひんを書いてほしいと思う。

---

**C ★3・★2・★1**

の中の言葉ことばを使って、文ぶんを完成かんせいさせなさい。1つの言葉は1回かいしか使いません。

答えは [こちら](#)

a. 要求ようきゅう   b. 人命じんめい   c. 病気   d. 子ども   e. 財産問題ざいさんもんだい

1. その\_\_\_\_についてインターネットで調べてみました。
2. \_\_\_\_にかかわる大切な問題たいせつ もんだいだから、よく聞きなさい。
3. 学校側がわは、学生たちの\_\_\_\_にこたえて討論会とうろんかいを行うことになった。
4. この服ふくは汚よごれても洗あらえばすぐきれいになるので、外遊びあそびが好きな\_\_\_\_向きです。
5. \_\_\_\_をめぐってまだ話し合いあひつづが続いている。



## 2

もくてき しゅだん ばいかい

## 目的・手段・媒介

Purpose / Means / Media

目的、手段、媒介

목적/수단/매개

ものごとがおこなわれる目的や手段や方法、その間で役目を果たす人やものを言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. によると b. ように c. を通じて d. によって e. 上で

1. 約束の時間に遅れない\_\_\_\_、早く家を出た。
2. 小林さんの話\_\_\_\_、駅前にスポーツセンターができるそうだ。
3. 木村さんとは共通の友人\_\_\_\_知り合ったんです。
4. 調査を進めていく\_\_\_\_、関係者全員から意見を聞くことが必要だ。
5. 農家の努力\_\_\_\_今年のりんごの生産量は増えています。

つか  
使えますか

ただ ほう えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 上野には { a. 地下鉄より J R 線で b. 地下鉄より J R 線に

よって} 行く方が便利でしょう。

2. この広告によれば、{ a. 新しいゲームソフトが発売されると書いてある。 b. 新しいゲームソフトが発売されるそうだ。 }
3. 旅行の切符やホテルの予約は、{ a. 旅行会社を通しての b. 旅行会社を通して} 予約が簡単で便利です。
4. { a. 小学生とテレビの関係について調査するために b. 小学生とテレビの関係について調査するように } アンケートを行うことにした。
5. 外国語を勉強する上で { a. テレビをさっそく買った。 b. テレビはかなり役に立つ。 }

## 2

## I

もくてき  
目的

あることを目指して、またはあることをするために、と言いたいとき

★3

1 ～ように

★2

2 ～<sup>うえ</sup>上で

★1

3 ～べく

## 2

## I・1

## ～ように ★3

【～という目的が実現することを期待して】

①子どもでも読めるように、漢字のかんじの上にふりがなが書いてあります。

②飛行機の中から富士山がよく見えるように、窓側<sup>まどがわ</sup>の席<sup>せき</sup>にすわった。

③外国からの客が困らないように、店には英語や中国語<sup>ちゅうごくご</sup>がわかる店員<sup>てんいん</sup>がいる。

④工事中、歩行者が安全なところを通るように、係り<sup>かか</sup>の人が案内<sup>あんない</sup>している。

接続 Vる・Vない＋ように

▶1) 「～」には話す人の意志を表さない動詞（無意志の動詞や可能の意味を表す動詞など）が来る。

2) ④のように、「～ように」の前後の主語が違う場合は、意志を含む動詞も来る。

→12課1 「～<sup>か</sup>ように・～<sup>か</sup>ような」

## 2

## I・2

～<sup>うえ</sup>上で ★2

## 【～のに】

- ① 今度の企画を成功させる上で、ぜひみんなの協力が必要なのだ。  
② 人々の社会的な行動や目標などについての傾向を知る上で、アンケート調査は欠かさない。  
③ これはこの食品を保存する上での注意点です。よくお読みください。  
④ 理科の学習の上で大切なことは、身の回りのことに疑問を持つことだという。

## 接続 Vる / する動詞のNの＋上で

- ▶ 「～上で…」の形で、「～」に積極的な目的を示し、「…」にその目的や目標に必要なこと、大切なことなどを述べる。行為を表す文は来ない。  
× 生け花教室に入会する上で、申込書に名前を書いた。  
○ 生け花教室に入会する上で、なにか用意するものがありますか。  
→ 5 課 II・5 「～上で」

2

I・3

～べく

★1

W

## 【～ようと思って】

- ① 会議での決定事項を知らせるべく、メーリングリスト上の20名にメールを送った。  
② 田中氏は記者会見場に向かうべく、上着を着て部屋を出た。  
③ 父は海外出張の前に投票を済ませるべく、区役所の「期日前投票所」へ行った。  
④ 彼女は新しい気持ちで再出発するべく、海外支援活動の募集に応募した。

接続 Vる＋べく（「する」は「すべく」もある）

- ▶ 1) 「ある目的<sup>もくてき</sup>をもってそうした」と言いたいときに使う。硬い表<sup>かた</sup>現<sup>ひょうげん</sup>ではあるが、現代語<sup>げんだいご</sup>でも使われる。
- 2) 後の文<sup>あとぶん</sup>にはこれから行うことや、依頼<sup>いらい</sup>・命令<sup>めいれい</sup>・働きかけ<sup>はたら</sup>を表す文は来ない<sup>あらわ</sup>。
- ×この書類<sup>しょうい</sup>を会議<sup>かいぎ</sup>に提出<sup>ていしゅつ</sup>するべく、コピー<sup>ねが</sup>をお願いします。
- 課長<sup>かちょう</sup>はその書類<sup>しょうい</sup>を会議<sup>かいぎ</sup>に提出<sup>ていしゅつ</sup>するべく、徹夜<sup>てつや</sup>で完成<sup>かんせい</sup>させた。

## 2

## II 手段・媒介

ものごとが行われる手段や方法、その間で役目を果たす人やものを言いたいとき

★3

1 ～によって・～による

2 ～によると・～によれば

3 ～を通<sup>つう</sup>じて・～を通<sup>とお</sup>して

★1

4 ～をもって

## 2

## II・1 ～によって・～による ★3

【～の方法で】

①その問題は話し合<sup>あ</sup>い<sup>もんだい</sup>によって解決<sup>かいけつ</sup>できるとおも<sup>おも</sup>います。

②アンケート調<sup>ちょう</sup>査<sup>さ</sup>によ<sup>よ</sup>って学生たちの希望<sup>きぼう</sup>や不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>をし<sup>し</sup>る。

③ボランティ<sup>かつどう</sup>ア活動<sup>さんか</sup>に参加<sup>さんか</sup>することによ<sup>よ</sup>り、自分自身<sup>じぶん</sup>も多<sup>おほ</sup>くのこ<sup>こと</sup>を学<sup>まな</sup>んだ。

④小<sup>しょう</sup>学<sup>がく</sup>生<sup>せい</sup>の間<sup>あいだ</sup>でも携<sup>けい</sup>帯<sup>たい</sup>電話<sup>でんわ</sup>によ<sup>よ</sup>るコ<sup>こ</sup>ミュ<sup>ミュ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ケー<sup>ケー</sup>ション<sup>ション</sup>が盛<sup>さか</sup>んだ。

接続 N+によって

▶1) 「Nによって...」の形<sup>かたち</sup>で「Nという手段や方法で...する」と言<sup>い</sup>たいとき<sup>つか</sup>に使う。

2) 「N」が具<sup>ぐ</sup>体<sup>たい</sup>的<sup>てき</sup>な物<sup>もの</sup>の場合<sup>ばい</sup>は、「Nによ<sup>よ</sup>って」より「Nで」が多<sup>おほ</sup>く使<sup>つか</sup>われ、名<sup>めい</sup>詞<sup>し</sup>を説<sup>せつ</sup>明<sup>めい</sup>する位<sup>い</sup>置<sup>ち</sup>に來<sup>き</sup>るときは、「Nによ<sup>よ</sup>る」となるこ<sup>こ</sup>とが多<sup>おほ</sup>い。

×わたしは自<sup>じ</sup>転<sup>てん</sup>車<sup>しゃ</sup>によ<sup>よ</sup>って通<sup>つう</sup>勤<sup>きん</sup>してい<sup>い</sup>る。

○わたしは自<sup>じ</sup>転<sup>てん</sup>車<sup>しゃ</sup>で通<sup>つう</sup>勤<sup>きん</sup>してい<sup>い</sup>る。

○自転車による通勤は禁止されている。

×その件をメールによって通知してください。

○メールによる一斉通知は便利だ。

→13課1「～によって・～による」 / 19課I・1「～によって・～による」

## 2 II・2 ～によると・～によれば ★3

【～では】

①テレビの長期予報によると、10月、11月はいつもより暖かい日が多いそうです。

②専門家の予想によれば、円高は今後も続くということだ。

③母からのメールによれば、今年は父が初めての海外旅行をするそうだ。

④新聞によると、たばこ税が上がるらしい。

接続 N+によると

▶ほかから聞いたことや推量したことを言う場合、その情報がどこから来たかを表す。

## 2 II・3 ～を通じて・～を通して ★3

【～を手段として / ～を媒介として】

①この会での活動を通じて、わたしは伊藤さんという女性と知り合いました。

②このような民間レベルの国際交流を通じて、両国間の理解が少しずつ進んでいくことを願っています。

③仕事の<sup>しごと</sup>内容<sup>ないよう</sup>についてのお問<sup>と</sup>い合<sup>あ</sup>わせは、事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>所<sup>しょ</sup>を<sup>おこな</sup>通<sup>おこな</sup>して行<sup>い</sup>ってくだ  
さい。

④田中<sup>たなか</sup>さん<sup>さん</sup>を<sup>さんねん</sup>通<sup>さんねん</sup>してのビジネスの話は残念<sup>ざんねん</sup>ながらうまいかなかっ  
た。

### 接続 N+を通じて

▶2つの言<sup>ふた</sup>い方<sup>い</sup>は同<sup>かた</sup>じように使<sup>おな</sup>えることが多<sup>つか</sup>いが、「～を通<sup>つか</sup>じて」は、ある媒<sup>せいらつ</sup>介<sup>おこな</sup>や手<sup>ことがら</sup>段<sup>こと</sup>を使<sup>こと</sup>って成<sup>おこな</sup>立<sup>こと</sup>する、または行<sup>おこな</sup>わ<sup>こと</sup>れる事<sup>こと</sup>柄<sup>こと</sup>にポイ<sup>おこな</sup>ント<sup>こと</sup>があり、「～  
を通<sup>おこな</sup>して」は、何<sup>おこな</sup>か<sup>こと</sup>を行<sup>こと</sup>うとき、ど<sup>おこな</sup>んな媒<sup>こと</sup>介<sup>こと</sup>や手<sup>こと</sup>段<sup>こと</sup>を使<sup>こと</sup>うかにポイ<sup>おこな</sup>ント<sup>こと</sup>が  
ある。

→ 3 課 2 「～を通<sup>おこな</sup>じて・～を通<sup>おこな</sup>して」

## 2 II・4 ～をもって ★1 W

### 【～を用<sup>もち</sup>いて】

①誠<sup>せい</sup>実<sup>じつ</sup>な田<sup>た</sup>中<sup>なか</sup>さん<sup>さん</sup>は非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>な努<sup>ど</sup>力<sup>りょく</sup>を<sup>かいけつ</sup>も<sup>あ</sup>って問<sup>かいけつ</sup>題<sup>あ</sup>解<sup>あ</sup>決<sup>あ</sup>に当<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>った。

②面<sup>めん</sup>接<sup>せつ</sup>の結<sup>けつ</sup>果<sup>か</sup>は、1 週<sup>しゅう</sup>間<sup>かん</sup>後<sup>ご</sup>に書<sup>し</sup>面<sup>しよめん</sup>を<sup>し</sup>も<sup>し</sup>ってお知<sup>し</sup>らせし<sup>し</sup>ます。

③今<sup>こん</sup>回<sup>かい</sup>のアル<sup>あ</sup>バ<sup>い</sup>イトでわ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>しは働<sup>はたら</sup>くこ<sup>き</sup>の厳<sup>み</sup>し<sup>けい</sup>さ<sup>けん</sup>を身<sup>み</sup>を<sup>けい</sup>も<sup>けん</sup>って経<sup>けい</sup>験<sup>けん</sup>し  
た。

④彼<sup>かれ</sup>の实<sup>じつ</sup>力<sup>りょく</sup>を<sup>きん</sup>も<sup>ま</sup>ってす<sup>ち</sup>れば、金<sup>きん</sup>メ<sup>ま</sup>ダ<sup>ち</sup>ルは間<sup>ま</sup>違<sup>ちが</sup>い<sup>が</sup>ないだ<sup>が</sup>らう。

⑤彼<sup>かれ</sup>の能<sup>のう</sup>力<sup>りょく</sup>を<sup>き</sup>も<sup>き</sup>ってし<sup>ぬ</sup>ても、こ<sup>むず</sup>の危<sup>き</sup>機<sup>き</sup>を切<sup>ぬ</sup>り抜<sup>むず</sup>けるの<sup>むず</sup>は難<sup>むず</sup>しいだ<sup>むず</sup>ら  
う。

### 接続 N+をもって

▶1) 「それを用<sup>もち</sup>いてあることをする」と言<sup>ひょうげん</sup>いたい<sup>ひょうげん</sup>とき<sup>ひょうげん</sup>の表<sup>ひょうげん</sup>現<sup>ひょうげん</sup>。

2) ③の「身<sup>み</sup>を<sup>けい</sup>も<sup>けん</sup>って」は「実<sup>じつ</sup>際<sup>さい</sup>に深<sup>ふか</sup>く体<sup>たい</sup>験<sup>けん</sup>して」という意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>。

3) ④⑤のよう<sup>かたち</sup>に、「～を<sup>かたち</sup>も<sup>かたち</sup>ってす<sup>かたち</sup>れば」「～を<sup>かたち</sup>も<sup>かたち</sup>ってし<sup>かたち</sup>ても」の形<sup>かたち</sup>もよ  
く使<sup>かたち</sup>わ<sup>かたち</sup>れる。



4) 身近な道具や手段にはあまり使われない。

×この紙を10枚ずつクリップをもって留めておいてください。

○この紙を10枚ずつクリップで留めておいてください。

→ 3 課11「～をもって」

## 2

もくてき しゅだん ばいかい れんしゅう  
目的・手段・媒介 練習

## A ★3

中の言葉を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. を通して b. ように c. によると d. によって e. による

1. テレビの番組案内\_\_\_\_、わたしの好きなアニメがはじめてテレビで放映されるそうだ。
2. 近所の人が夜遅くごみを出さない\_\_\_\_、張り紙を出した。
3. 毎日少しずつでも運動を続けること\_\_\_\_健康のための効果は大きいと思う。
4. 使っていない部屋の電気を消すこと\_\_\_\_、少しでもエネルギーを節約しよう。
5. ここに車を置きたいなら、管理事務所\_\_\_\_頼んでください。

## B ★3・★2

こた 答えは [こちら](#)

中の言葉を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

a. ように b. を通じて c. による d. 上で e. によると

わたしの兄は、現在、京都のある大学で環境デザインを勉強して

いる。兄（1. ）、この学部は若い先生が多く、授業もとても活  
があるそうだ。先生たちの考えでは、いい授業をする（2. ）何よ  
り大切なのは、教師と学生の間の知的な相互作用であり、その考え  
から、学生たち1人1人が積極的に授業に参加できる（3. ）、  
少人数制のクラスになっているそうだ。また、学生たち（4. ）  
自主的な活動も盛んだということだ。わたしは兄（5. ）この大学  
についていろいろ知るようになった。来年はわたしもこの大学に入れ  
るように、努力するつもりだ。

---

C ★3・★2・★1

こた  
答えは [こちら](#)

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

1. あそこなら自転車（a. によって b. で）行けば、15分もかか  
らないよ。
2. 先輩（a. を通じて b. によって）新しいアルバイトを紹介  
してもらった。
3. ビザの延長を（a. する上で b. した上で）必要な書類は何  
ですか。
4. 言葉を（a. 増やすべく b. 増やすように）、彼はさまざまな  
分野の本を読むことに努めている。
5. 入会金は、この払込書（a. を通して b. をもって）〇〇銀  
行の口座あてにお振り込みくださいますようお願いいたします。

## 3

き てん しゅうてん げんかい はん い  
 起点・終点・限界・範囲

Starting and Ending Points / Limits / Range

起点, 終点, 界限, 範囲

기점/종점/한계/범위

ものごとの始まりと終わり・上と下の限界・その間を言いたいときは、  
 どんな言い方がありますか。

し  
 知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
 答えは [こちら](#)

a. にかけて b. を通じて c. だけ d. にわたって e. を  
 はじめ

1. 京都には清水寺\_\_\_\_、観光名所がたくさんある。
2. テーブルの上のものは食べたい\_\_\_\_食べていいんですよ。
3. 9月から10月\_\_\_\_、日本各地で祭りが行われます。
4. 今、世界ではすべての分野\_\_\_\_女性たちの活躍が目立つ。
5. 在学期間\_\_\_\_、彼はいつもクラスのリーダーだった。

つか  
 使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
 答えは [こちら](#)

1. { a. 夜中から明け方まで、 b. 夜中から明け方にかけて、 }  
 弱い地震が数回あった。

2. ここにある本を { a. できるだけたくさん b. できるばかりたくさん } 持って帰ってください。
3. { a. ご両親をはじめ、 b. ご両親からして、 } ご家族のみなさんはお元気ですか。
4. あしたは { a. 東北地方の全域にかけて、 b. 東北地方の全域にわたって、 } 雪が降るでしょう。
5. { a. この地方は年間のかぎり、 b. この地方は年間を通じて、 } 雨が少ない。

## 3

## 起点・終点・限界・範囲

ものごとの始まりと終わり・上と下の限界・その間を言いたいとき

## ★3

1 ～から～にかけて

2 ～を通<sup>つう</sup>じて・～を通<sup>とお</sup>して

3 ～だけ・～だけの

4 ～にわたって・～にわたる

## ★2

5 ～をはじめ（として）・～をはじめとする

6 ～からして

7 ～かぎり・～かぎりの

## ★1

8 ～を皮<sup>かわ</sup>切りに（して）・～を皮<sup>かわ</sup>切りとして

9 ～に至<sup>いた</sup>るまで

10 ～を限<sup>かぎ</sup>りに

11 ～をもって

12 ～というところだ・～といったところだ

## 3

## 1 ～から～にかけて ★3

【～から～までの間<sup>あいだ</sup>】

①朝<sup>あさ</sup>、7時半から8時<sup>こ</sup>にかけて、バスがとても込む。

②昨年<sup>さくねん</sup>の夏<sup>なつ</sup>から今年<sup>はる</sup>の春<sup>はる</sup>にかけて、わたしのうちではいろいろなことが起<sup>お</sup>こった。

③あすは関東地方<sup>かんとうちほう</sup>から東北地方<sup>こさめ</sup>にかけて、小雨<sup>ふ</sup>が降<sup>ふ</sup>るでしょう。（天気予報<sup>よほう</sup>）

- ④首都<sup>しゅ と こうそくどう ろ</sup>高速道路は銀座<sup>ぎん ざ</sup>から羽田<sup>はね だ</sup>にかけて<sup>じゅうたい</sup>渋滞<sup>じゅうたい</sup>しています。(交通情<sup>こうつうじょう</sup>報<sup>ほう</sup>)

接続 N＋から＋N＋にかけて

- ▶ 1) 始まり<sup>はじ</sup>と終わり<sup>お</sup>がそれほどはっきりしていない<sup>はん い</sup>範囲<sup>あらわ</sup>を表し、その範囲内<sup>はん い ない</sup>で連続的<sup>れんぞくてき</sup>に、または断続的<sup>だんぞくてき</sup>にあることが続<sup>つづ</sup>いていると言<sup>い</sup>いたいとき<sup>つか</sup>に使う。
- 2) 後の文は 1 回<sup>あと ぶん</sup>だけのこと<sup>かい</sup>ではなく、連続的<sup>れんぞくてき</sup>なことである。
- ×A<sup>えき</sup>駅<sup>えき</sup>からB<sup>えき</sup>駅<sup>えき</sup>にかけて<sup>えき</sup>、わたしのアパートがあります。
- A<sup>えき</sup>駅<sup>えき</sup>からB<sup>えき</sup>駅<sup>えき</sup>にかけて<sup>えき</sup>アパートがた<sup>なら</sup>くさん並<sup>なら</sup>んでいる。
- ×夜中<sup>よ なか</sup>から明け方<sup>あ がた</sup>にかけて<sup>えき</sup>、チン<sup>たず</sup>さんが訪<sup>たず</sup>ねてきました。
- 夜中<sup>よ なか</sup>から明け方<sup>あ がた</sup>にかけて<sup>えき</sup>雨<sup>あめ</sup>が降<sup>ふ</sup>りました。

### 3 2 ～を通じて・～を通して ★3

【～の間<sup>あいだ</sup>ずっと】

- ①この地方<sup>ち ほう</sup>は年間<sup>ねんかん</sup>を通じて<sup>おな</sup>ほとんど同<sup>おな</sup>じような天候<sup>てんこう</sup>です。
- ②人類<sup>じんるい</sup>の歴史<sup>れきし</sup>を通じて<sup>おな</sup>、地球<sup>ち きゅう</sup>のどこか<sup>どこか</sup>でつねに戦争<sup>せんそう</sup>が行<sup>おこな</sup>われていた。
- ③この画家<sup>が か</sup>は一<sup>いっ</sup>生<sup>しょう</sup>を通じて<sup>おな</sup>小<sup>どうぶつ</sup>さい動<sup>え</sup>物<sup>つづ</sup>たちの絵<sup>え</sup>をかき続<sup>つづ</sup>けた。
- ④母<sup>はは</sup>は 3 か月<sup>3 か げつ</sup>の入<sup>にゅう</sup>院<sup>いん</sup>期<sup>き</sup>間<sup>かん</sup>を通じて<sup>おな</sup> 1 度<sup>ど</sup>も不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>を言<sup>い</sup>わなかった。

接続 N＋を通じて

- ▶ 「～の間<sup>おな</sup>ずっと同<sup>じょう</sup>じ状<sup>たい</sup>態<sup>たい</sup>だ」と言<sup>つか</sup>いたいとき<sup>あと</sup>に使う。「～を通じて」の後<sup>あと</sup>には積<sup>せつ</sup>極<sup>ごく</sup>的<sup>てき</sup>・意<sup>い</sup>志<sup>し</sup>的<sup>てき</sup>なことを表<sup>あらわ</sup>す文<sup>ぶん</sup>が来<sup>お</sup>ることが多<sup>おほ</sup>い。
- 2 課 II・3 「～を通じて・～を通して」

### 3 3 ～だけ・～だけの ★3

【～の限度まで】

①わたしはごみの袋ふくろ もを持てるだけ持もってごみ置おき場ばまで運はこんだ。

②どうぞお菓子かしを好きすなだけお取とりください。

③あしたはできるだけ早はやく来こてください。

④わたしは彼かれに言いいたいだけのことを全ぜん部ぶ言いうつもりだ。

接続 普通形ふ ふうけいの肯定形こうていけい（ナAな）＋だけ（Nにつく例はない）

▶「～だけ...」の形かたちで、「もうこれ以上い じょうはないという限度かんようてきまで...する」と言いいたいつかのときに使う。③のように「できるだけ」の形で慣用的かんようてきに使うこともある。

→10課 I・6 「～だけの」

3 4 ～にわたって・～にわたる ★3

【～の全体に】

①山田先生やま だは長い年月おんがくきょういくにわたちからって、子どもその音楽教おんがくきょういく育ちからに力そを注そいだ。

②この店みせは親おや、子まご、孫だの3代だいにわたでんとうてきり、伝統でんとうてき的な和風わ ふうの味あじを守まもっている。

③1年はし間にわたこう じる橋おの工くわ事じがやおっと終おわった。

④15日か き間にわたたいかいった夏なつ季きオリオリンリンピピックピク大たい会かいも今いま日にちで幕まくを閉とじます。

接続 N＋にわたって

▶期き間かんや場ば所しょなどある範はん圍いを表あらわす言こと語ばを受うけて、その範はん圍いが大おきいといかんう感かんじをつか表あらわしたいつかのときに使う。



### 3 5 ～をはじめ（として）・～をはじめとする ★2

【～を第1に】

- ①ご両親<sup>りょうしん</sup>をはじめ、家族<sup>かぞ</sup>のみなさんによろしくお伝え<sup>つた</sup>ください。
- ②わたしは日本<sup>にほん</sup>に来てから先輩<sup>せんぱい</sup>のリンさんをはじめ<sup>おお</sup>多くの方<sup>せわ</sup>のお世話<sup>せわ</sup>になっています。
- ③東京<sup>とうきょう</sup>の永田町<sup>ながたちょう</sup>には国会議事堂<sup>こっかいぎじどう</sup>をはじめ<sup>き</sup>として、国のいろいろな機<sup>き</sup>関<sup>かん</sup>が集まっています。
- ④今回のサミットでは、アメリカをはじめ<sup>しゅよう</sup>とする主要<sup>しゅのう</sup>8か国の首脳<sup>しゅのう</sup>が参加<sup>さんか</sup>して話し合<sup>あ</sup>いが行われる。

接続 N+をはじめ（として）

- ▶代表<sup>だいひょう</sup>となるものを「～をはじめ」で挙げ<sup>あ</sup>ておいて、「同じグループのほかのものもみんな」と言いたいときに使う。後<sup>あと</sup>の文<sup>ぶん</sup>には、みんな・いろいろ・たくさん・大勢<sup>おおぜい</sup>など、多数<sup>たすう</sup>を表<sup>あらわ</sup>す語<sup>ことば</sup>が来ることが多い。

### 3 6 ～からして ★2

【～を第1の例として】

- ①この職場<sup>しょくば</sup>には時間<sup>まも</sup>を守らない人<sup>ひと</sup>が多い。所長<sup>しよちょう</sup>からしてよく遅刻<sup>ちこく</sup>する。
- ②新しく買<sup>か</sup>い替<sup>か</sup>えた携<sup>けい</sup>帯<sup>たい</sup>電話<sup>でんわ</sup>は前<sup>まえ</sup>のとはずいぶん違<sup>ちが</sup>う。だいいち、色<sup>いろ</sup>からして違<sup>ちが</sup>う。
- ③この店<sup>みせ</sup>の雰<sup>ふん</sup>圍<sup>い</sup>気<sup>き</sup>は好<sup>す</sup>きになれない。まず、流<sup>なが</sup>れている音<sup>おん</sup>楽<sup>がく</sup>からしてわたしの好<sup>この</sup>みではない。

接続 N+からして

- ▶「～<sup>かたち</sup>からして…」の形で、最も基本的な<sup>もっと</sup>ことや普通<sup>きほんてき</sup>はあまり問題<sup>ふつう</sup>にならないことを取り上げ、「～さえ…だからほかのこともそうだ」と言いたいときに使う。

→11課 I・5 「～<sup>か</sup>からすると・～<sup>か</sup>からすれば・～<sup>か</sup>からして」

### 3 7 ～かぎり・～かぎりの ★2

【～の<sup>げんかい</sup>限界ぎりぎりまで】

- ①できる<sup>てつだ</sup>かぎりお手伝いいたします。遠慮<sup>えんりょ</sup>なく言ってください。
- ②さあ、いよいよあしたは入学試験だ。力のか<sup>ま</sup>ぎりがんばろう。
- ③この事件<sup>じけん</sup>について知っているか<sup>ま</sup>ぎりのことを話してください。
- ④わたしたちのチームが負けそうになったので、みんなあらんか<sup>こえ</sup>ぎりの<sup>おうえん</sup>声を出して応援した。

接続 Vる / Nの十かぎり

- ▶「限界<sup>ひょうげん</sup>まで～する」と言いたいときの表現。慣用表現<sup>かんよう</sup>として④のような例もある。

→8課3 「～<sup>か</sup>かぎり（は）」

### 3 8 ～を皮<sup>かわ</sup>切りに（して）・～を皮<sup>き</sup>切りとして ★1

【～から始<sup>はじ</sup>まって】

- ①あのスーパーは大阪<sup>おおさか</sup>での出店<sup>しゅってん</sup>を皮<sup>かわ</sup>切りに、日本各地<sup>かくち</sup>に次々<sup>つぎつぎ</sup>に支店<sup>してん</sup>を出している。
- ②彼の発言<sup>かれ はつげん</sup>を皮<sup>かわ</sup>切りにして、大勢<sup>おおぜい</sup>の人が次々に意見を言った。
- ③この作品<sup>かのじょ</sup>を皮<sup>かわ</sup>切りとして、彼女<sup>ご</sup>はその後<sup>おの</sup>、多く<sup>しょうせつ</sup>の小説<sup>はっぴょう</sup>を発表した。

接続 N十を皮切りに

- ▶「～から始まって、その後次々に」と言いたいときに使う。その後<sup>あと つづ こう</sup>に続く行為<sup>い</sup>のきっかけになるいちばん初<sup>はじ</sup>めの行為<sup>あらわ</sup>を表す。

3 9 ～に至<sup>いた</sup>るまで ★1

【～までも】

- ①フィギュアスケートの指導<sup>し どう きび</sup>は厳<sup>きび</sup>しかった。指<sup>ゆび</sup>の先<sup>さき</sup>に至<sup>こま</sup>るまで細<sup>こま</sup>かく注意<sup>ちゅうい</sup>された。
- ②身近<sup>み ぢか</sup>なごみ問題<sup>こくさいけいざい</sup>から国際経済<sup>めんせつ</sup>の問題<sup>ない</sup>に至<sup>こま</sup>るまで、面接試験<sup>めんせつ</sup>の質問<sup>しつもん</sup>内容<sup>りやう じつ</sup>は実にいろいろだった。
- ③何年<sup>なんねん</sup>か前に、0歳<sup>さい</sup>の赤ん坊<sup>あか ぼう</sup>から100歳<sup>こ</sup>を越<sup>こ</sup>える高齡者<sup>こうれいしゃ</sup>に至<sup>こま</sup>るまで、すべての住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>に国<sup>こく</sup>から一定額<sup>いっていがく</sup>のお金<sup>し きゅう</sup>が支<sup>し</sup>給<sup>きゅう</sup>された。

接続 N十に至るまで

- ▶「ものごとの範囲<sup>はん い</sup>がそんなこと<sup>たっ</sup>にまで達<sup>たっ</sup>した」と言いたいときに使う。上<sup>じょう</sup>限<sup>げん</sup>を強<sup>きやう</sup>調<sup>じやう</sup>して表<sup>あらわ</sup>すのであるから、極<sup>きよく</sup>端<sup>たん</sup>な意味<sup>い み</sup>の名詞<sup>めい し</sup>に接<sup>せつ</sup>続<sup>ぞく</sup>する。

3 10 ～を限<sup>かぎ</sup>りに ★1

【～を最後<sup>さいご</sup>として】

- ①今日<sup>けふ</sup>を限<sup>かぎ</sup>りに禁煙<sup>きんえん</sup>することにしました。
- ②20年<sup>にじゅう</sup>続<sup>つづ</sup>いたこのマラソン大会<sup>たいかい</sup>も、今回<sup>こんかい</sup>を限<sup>かぎ</sup>りに打<sup>う</sup>ち切<sup>き</sup>られるそう  
だ。
- ③今年度<sup>こんねん ど</sup>を限<sup>かぎ</sup>りに土曜日<sup>どようび</sup>の業<sup>ぎやう</sup>務<sup>む</sup>は行<sup>い</sup>わな<sup>な</sup>いことになりました。

接続 N十を限りに

- ▶今まで続いてきたことが今後はもう続かなくなるということを言うときに、  
その最後の期限を表す。

### 3 11 ～をもって ★1 F

#### 【～で】

- ①本日をもって職場の皆様とお別れすることになりました。
- ②展示会の最終日は午後5時をもって終わりにさせていただきます。
- ③これをもちまして第10回卒業式を終了いたします。

#### 接続 N＋をもって

- ▶それまで続いてきたことの終わりの時点を宣言するときに使う。公式文書やあいさつなどにみられる硬い言い方。
- 2 課Ⅱ・4 「～をもって」

### 3 12 ～というところだ・～といったところだ ★1

#### 【最高でも～だ / せいぜい～だ】

- ①来年度わたしがもらえそうな奨学金はせいぜい5万円というところだ。
- ②わたしが作れる料理ですか。そうですね。卵焼き、みそ汁といったところです。
- ③彼女、ダンスがうまくなったね。仕上がりまでもう1歩といったところだね。

#### 接続 N＋というところだ

- ▶「せいぜい～だ・最高でも～だ・～以上ではない」と言いたいときの表現。

あまり多くないと思える数量<sup>すうりょう</sup>や、軽い<sup>かる</sup>と感じ<sup>かん</sup>られる言葉<sup>ことば</sup>に接続<sup>せつぞく</sup>する。

## 3

き てん しゅうてん げんかい はん い れんしゅう  
 起点・終点・限界・範囲 練習

## A ★3

の中の言葉を使って、下線の部分を言い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
 答えは [こちら](#)

- a. から～にかけて    b. を通じて    c. にわたって    d. にわたる    e. だけ

1. バイキングでは、食べたいものを 全部 食べられるんですよ。
2. 3時間続いた 試合 がやっと終わった。会 場から大きな拍手が起こった。
3. 明日は 夕方から夜までの間、小雨が降るでしょう。
4. 4年間ずっと 研究 されてきた新しいロボットが、明日いよいよ働き始める。
5. うちの畑では 1年の間 次々にいろいろな草花が育つんです。

## B ★3・★2

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
 答えは [こちら](#)

1. この店の商品 は高級品ばかりだ。(a. ハンカチ    b. ダイヤの指輪) からして、わたしには手が出ない。
2. 年末から年始にかけて、わたしは (a. 新しい服を買った    b. 母のところに行っていた)。
3. この学校の屋上から見ると、見渡すかぎり (a. 富士山が見え

る b. ビルばかりだ)。

4. (a. 週末 <sup>しゅうまつ</sup> b. 1週間 <sup>しゅうかん</sup>) にわたる講習会 <sup>こうしゅうかい</sup> は、とても評判 <sup>ひょうばん</sup> がよく、次回 <sup>じかい</sup> もぜひ参加 <sup>さんか</sup> したいという人 <sup>ひと</sup> が大勢 <sup>おおぜい</sup> いた。

5. 今年 <sup>こと</sup> は1年 <sup>いちねん</sup> を通じて (a. 忙しかった <sup>いそがしかった</sup> b. 日本語学校 <sup>にほんごがっこう</sup> に入学 <sup>にゅうがく</sup> した)。

---

### C ★3・★2

<sup>ことば</sup> 中の言葉 <sup>つか</sup> を使って、次の文 <sup>つぎ</sup> を完成 <sup>ぶんかん</sup> させなさい。1つの言葉 <sup>ひと</sup> は1回 <sup>かい</sup> しか使 <sup>つか</sup> いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. にかけて b. にわたる c. を通じて d. だけ e. をはじめ f. からして g. かぎり

わたしは2004年から2005年 (1. )、世界 <sup>せかい</sup> のあちこちに行 <sup>い</sup> った。そして、2006年から2010年まで日本 <sup>にほん</sup> の大学 <sup>だいがく</sup> で勉強 <sup>べんきょう</sup> した。4年間 <sup>ねんかん</sup> (2. ) 留 <sup>りゅう</sup> 学 <sup>がく</sup> 生活 <sup>せいかつ</sup> の間 <sup>あいだ</sup>、田中先生 <sup>たなか</sup> (3. ) いろいろ <sup>いろいろ</sup> な方 <sup>かた</sup> のお世話 <sup>せわ</sup> になった。日本 <sup>にほん</sup> では食べ物 <sup>もの</sup> (4. ) わたしには合 <sup>あ</sup> わなくて、はじめのうち <sup>うち</sup> はとても困 <sup>こま</sup> った。しかし、日本 <sup>にほん</sup> には年間 <sup>ねんかん</sup> (5. ) いろいろ <sup>いろいろ</sup> な野菜 <sup>やさい</sup> があるし、田中先生 <sup>たなか</sup> も「うちの畑 <sup>はたけ</sup> のものは好き <sup>す</sup> な (6. ) 持 <sup>も</sup> っていていいですよ」と言 <sup>い</sup> ってくれたのでありがたかった。わたしもお金 <sup>お金</sup> が続 <sup>つづ</sup> く (7. ) がんばって日本 <sup>にほん</sup> で勉強 <sup>べんきょう</sup> を続 <sup>つづ</sup> けようと思 <sup>おも</sup> った。

---

### D ★1

どちらが正 <sup>ただ</sup> しいですか。正 <sup>ただ</sup> しい方 <sup>ほう</sup> を選 <sup>えら</sup> びなさい。

こた 答えは [こちら](#)

1. 彼は 5 年前初めて本を出版したのを皮切りに、以後（ a . 次々にいい本を出版している b . 1 冊も出版していない ）。
2. うちの親は（ a . 自分の友だちの電話番号 b . わたしの友だちの電話番号 ）に至るまで関心があるようだ。
3. 今日を限りに（ a . 別の薬を飲み始める b . この薬を飲むのをやめる ）。
4. 今年度をもって（ a . この研究会は終わります b . 新しい研究会が発足します ）。
5. わたしの睡眠時間は（ a . 5 時間 b . 10 時間 ）といったところ

E ★1

中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1 つの言葉は 1 回しか使いません。

答えは [こちら](#)

- a . を皮切りに    b . に至るまで    c . を限りに    d . ををもって  
e . といったところ

1. 今日\_\_\_\_、A 社との交渉を打ち切ることにした。
2. A 会社の初任 給はそんなに高くないです。せいぜい 18 万円\_\_\_\_で  
しょうか。
3. この映画\_\_\_\_、以後次々にアジアの映画が日本で上映されるよ  
うになった。
4. 彼は神経の細かい人で、その日に食べた食事の内容やその値段、  
買った店の名前\_\_\_\_ノートに書いている。



5. 本年度<sup>ほんねん ど</sup>\_\_\_\_、当<sup>とう</sup>協<sup>ぎょう</sup>会<sup>かい</sup>は解<sup>かい</sup>散<sup>さん</sup>いたします。

## 4

じ てん ば めん  
時点・場面

Time and Place of Action

动作的时间，场合

시점/장면

ものごとが<sup>おこな</sup>行われるときや<sup>しめ</sup>場面を示したいときは、どんな<sup>い</sup>言い方<sup>かた</sup>がありますか。

し  
知っていますか

の中の<sup>こと</sup>言葉<sup>ば</sup>を使って、<sup>ぶん</sup>文<sup>かんせい</sup>を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. うちに    b. ところに    c. <sup>さいちゅう</sup>最中に    d. <sup>おり</sup>折に    e. <sup>さい</sup>に際して

1. コーヒーショップで話をしている\_\_\_\_、<sup>たいせつ</sup>大切な用事<sup>ようじ</sup>を<sup>わす</sup>忘れてしまった。
2. <sup>りゅうがく</sup>留学\_\_\_\_、わたしはいろいろな人のお<sup>せ</sup>世話<sup>わ</sup>になった。
3. <sup>へいかい</sup>閉会のあいさつが<sup>お</sup>終わった\_\_\_\_、<sup>なかがわ</sup>中川さんが入ってきた。
4. <sup>せんじつきょう</sup>先日<sup>と</sup>京 都へ<sup>りょこう</sup>旅行した\_\_\_\_、<sup>だいがく</sup>京都大学<sup>やま</sup>の山田<sup>きょうじゅ</sup>教 授<sup>たず</sup>を訪ねた。
5. <sup>めんせつ</sup>面接試験<sup>し</sup>の<sup>けん</sup>\_\_\_\_、<sup>きゅう</sup>急に<sup>いた</sup>おなかが痛くなった。

つか  
使えますか

<sup>ただ</sup>どちらが正しいですか。正しい方<sup>ほう</sup>を<sup>えら</sup>選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. <sup>おんがく</sup>音楽<sup>き</sup>を聴いているうちに、    b. 音楽を聴いているところ

で、} 眠<sup>ねむ</sup>くなってきた。

2. { a. わたしはにぎやかな最<sup>さい</sup>中<sup>ちゆう</sup>でも、 b. わたしは会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>の最<sup>さい</sup>中<sup>ちゆう</sup>でも、} 眠ることがある。

3. みち子<sup>こ</sup>はちょっと本を読みかけたが、{ a. すぐに眠ってしまった。 b. 1時間<sup>ぜんぶ</sup>で全部読んでしまった。}

4. { a. 非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>の折<sup>おり</sup>には、 b. 非<sup>さい</sup>常<sup>じょう</sup>の際<sup>さい</sup>には、} この出<sup>で</sup>口<sup>ぐち</sup>から出てください。

5. 研<sup>けん</sup>究<sup>きゆう</sup>発<sup>はつ</sup>表<sup>びょう</sup>をするにあたって、{ a. 病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>になってしまった。 b. いろい<sup>じゅん</sup>ろ<sup>び</sup>準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>をした。}

## 4

じ てん ば めん  
時点・場面

ものごとがおこなわれるときや場面をしめ示したいとき

## ★3

- 1 ～際（に）・～際の
- 2 ～ところ
- 3 ～かける
- 4 ～うちに・～ないうちに
- 5 ～最中（に）・～最中だ
- 6 ～において・～における

## ★2

- 7 ～折（に）・～折の
- 8 ～に際して
- 9 ～にあたって

## ★1

- 10 ～にあって

## 4

1 ～際（に）・～際の ★3 F

## 【～ときに】

- ①お帰りの際はあしもとお足元にお気をつけください。
- ②先月モンゴルを訪問した際に、現地の子どもたちと親しく交流することができた。
- ③申し込み用紙は3月1日までにおくへんしんようふうにお送りください。その際、返信用封筒をわすれずにどうふう同封してください。
- ④昨年、ボランティアのためのセミナーを行った際のきろく記録をお見せいたします。

## 接続 Vる・Vた / Nの＋際（に）

- ▶「ある特別<sup>とくべつ</sup>の状<sup>じょうきょう</sup>況にあるときに、またはそうなったときに」という意味<sup>いみ</sup>。  
硬<sup>かた</sup>い言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>。

## 4 2 ～ところ ★3

### 【～とき】

- ①いい夢<sup>ゆめ</sup>を見ていたのに、ごちそうを食<sup>め</sup>べるところで目<sup>め</sup>が覚<sup>さ</sup>めてしまった。  
②日曜日<sup>にちようび</sup>のお楽<sup>たの</sup>しみ番<sup>ばん</sup>組<sup>ぐみ</sup>が始<sup>はじ</sup>まったところに電話<sup>でんわ</sup>がかかってきた。  
③ご飯<sup>はん</sup>を食<sup>た</sup>べているところへ友<sup>とも</sup>だちが訪<sup>たず</sup>ねてきた。  
④家<sup>いえ</sup>を出<sup>で</sup>るところを母<sup>はは</sup>に呼<sup>よ</sup>び止<sup>と</sup>められ、いろいろう事<sup>ようじ</sup>を頼<sup>たの</sup>まれた。

## 接続 Vる・Vている・Vた＋ところ

- ▶1) ある動作<sup>どうさ</sup>、作用<sup>さよう</sup>の流れ<sup>なが</sup>の中で、行<sup>こう</sup>為<sup>い</sup>や変<sup>へん</sup>化<sup>か</sup>のどの時<sup>じ</sup>点<sup>てん</sup>であるか<sup>とく</sup>を特<sup>とく</sup>に言<sup>い</sup>いたいときに使<sup>つか</sup>う。「Vるところ」は直<sup>ちよく</sup>前<sup>ぜん</sup>の時<sup>じ</sup>点<sup>てん</sup>、「Vているところ」は進<sup>しん</sup>行<sup>こう</sup>中<sup>ちゅう</sup>の時<sup>じ</sup>点<sup>てん</sup>、「Vたところ」は直<sup>ちよく</sup>後<sup>ご</sup>の時<sup>じ</sup>点<sup>てん</sup>であること<sup>あらわ</sup>を表<sup>あらわ</sup>す。  
2) 後<sup>あと</sup>の文<sup>ぶん</sup>にどん<sup>どう</sup>な動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>が来<sup>き</sup>るかによ<sup>よ</sup>って「～ところ」の後<sup>のち</sup>につく助<sup>じょ</sup>詞<sup>し</sup>が「～ところ<sup>へん</sup>で・～ところ<sup>か</sup>に・～ところ<sup>へ</sup>・～ところ<sup>を</sup>」のよう<sup>よう</sup>に変<sup>へん</sup>化<sup>か</sup>する。

## 4 3 ～かける ★3

### 【途<sup>と</sup>中<sup>ちゅう</sup>まで～して、～し終<sup>お</sup>わらない】

- ①かぜは治<sup>なお</sup>りかけたが、またひどくなってしまった。  
②わたしは雑<sup>ざっ</sup>誌<sup>し</sup>を讀<sup>よ</sup>みかけて、そのま<sup>ねむ</sup>ま眠<sup>ねむ</sup>ってしまった。

③こんなところに食べかけのりんごを置いて、あの子はどこへ行ったのだろう。

④一郎の宿題はまだやりかけだ。

接続 Vます十かける

▶「ある動作・できごとが始まるが、まだ途中の段階である」というときの表現。③④のように「～かけ」の形で名詞のように使われる場合もある。

#### 4 4 ～うちに・～ないうちに ★3

【～している間に】

①今は上手に話せなくても練習を重ねるうちに上手になります。

②友だちに誘われて何回か山登りをしているうちに、わたしもすっかり山が好きになった。

③ふと外を見ると、気がつかないうちに雨が降り出していた。

④5日間の外国出張のうちに、近くの公園の桜が全部散ってしまった。

接続 Vる・Vている・Vない / Nの十うちに

▶継続性を表す語につながり、その継続状態の間に、はじめは予想しなかったような変化が現れることを表す。後の文は事態の変化を表す文。

→ 5課Ⅱ・4 「～うちに・～ないうちに」

#### 4 5 ～最中（に）・～最中だ ★3

【ちょうど～しているときに】

①会議の最中、だれかの携帯が鳴った。

②シャワーを浴びている最中に、玄関にだれか人が来た。

③来年度の行事予定については、今話し合いをしている最中です。

接続 Vている / Nの＋最中（に）

▶動作を表す言葉につく。「ちょうど～しているときに予期しないことが起こった」と言いたいときによく使われる。

## 4 6 ～において・～における ★3 W

【～で / ～に】

①卒業式はA会館において行われる予定です。

②最近、環境への関心が高まったためか、人々の暮らし方においてもある変化が見られる。

③マスコミはある意味において、人を傷つける武器にもなる。

④経済界における彼の地位は高くはないが、彼の主張は注目されている。

接続 N＋において

▶1) ものごとが行われる場所・場面・状況・分野・領域などを表す。

2) 「～で」と大体同じ意味だが、改まった書き言葉だから、日常的な文の中ではあまり使わない。

×わたしは毎日図書館において勉強します。

## 4 7 ～折（に）・～折の ★2

【～機会に】

①このことは今度お目にかかった折に詳しくお話しいたします。

②先月上海<sup>シャンハイ</sup>に行った折、日本語学校時代の友だちの家を訪ね<sup>たず</sup>ました。

③何かの折にわたしのことを思い出したら手紙をくださいね。

④わたしは最近<sup>さいきん</sup>イタリア語のレッスン<sup>う</sup>を受けています。来年イタリア旅行をする折の楽しみが増えました。

接続 Vる・Vた / Nの＋折（に）

▶「あるいい機会に」という意味であるから、後の文にはマイナスの事柄<sup>ことがら</sup>はあまり来ない。手紙文によく使われる。

4 8 ～に際して ★2 F

【～をするときに】

①お2人の人生の門出<sup>ふたり じんせい かど</sup>に際して、ひとことお祝いの言葉<sup>いわ ことば もう</sup>を申し上げます。

②田中氏は今回の会議参加<sup>た なかし こんかい かい ぎ さん か</sup>に際して、前もってしっかりと議案<sup>まへ ぎ あん けんとう</sup>の検討を行った。

③このたびの私の転職<sup>わたくし てんしょく</sup>に際しましては、たいへんお世話<sup>せ わ</sup>になりました。

④建設工事を始める<sup>けんせつこうじ</sup>に際し、これまでの経過<sup>けい か</sup>をまとめて報告書<sup>ほうこくしょ さくせい</sup>を作成した。

接続 Vる / する動詞のN＋に際して

▶「ある特別なことを始めるときに」または「その進行中<sup>しんこう</sup>に」と、改まった気持<sup>あらた</sup>ちで言うときに使われる。

4 9 ～にあたって ★2 F

【～をするときに】



①新しい年のはじめにあたって、ひとことごあいさつ<sup>もう</sup>申し上げます。

②この店を開店するにあたって、<sup>しゅうい</sup>周囲の人の<sup>きょうりよく</sup>協力を求め、しっかり<sup>じゅんび</sup>準備をしました。

③この計画<sup>じっこう</sup>を実行するにあたり、できるだけ<sup>しりょう</sup>の資料<sup>あつ</sup>を集める<sup>ひつよう</sup>必要がある。

④コンサートの開会にあたりまして、<sup>みなさま</sup>皆様<sup>ねが</sup>にお願いがございます。

接続 Vる / N+にあたって

▶ある特別な<sup>じゅうよう</sup>ときに、または重<sup>こうどう</sup>要な行動を前<sup>たい</sup>にして、それ<sup>せっきょくてき</sup>に対しての積極的な<sup>しせい</sup>姿勢<sup>あらた</sup>を言いたいときに使う。改まった言い方。

## 4 10 ～にあって ★1 W

【～に / ～で】

①今、わが国は社会の<sup>てんかんき</sup>転換期にあって、人々の<sup>ひとびと</sup>価値観<sup>かちかん</sup>も揺れている。

②<sup>げんざい</sup>現在のような<sup>じょうほう</sup>高度情報社会にあって、<sup>こじんじょうほう</sup>個人情報<sup>まも</sup>を守る<sup>じゅうよう</sup>ことの重要性<sup>せい</sup>が叫ばれている。

③この<sup>ひじょう</sup>非常時にあって、あなたは<sup>へいき</sup>どうしてそんなに平気でいられるのですか。

接続 N+にあって

▶①②のように「～のような特別な<sup>じたいじょうきょう</sup>事態・状<sup>み</sup>況に身をおいているので（<sup>じゅんせつ</sup>順接）」または③のように「身をおいているのに（<sup>ぎやくせつ</sup>逆接）」と言いたいときに使う。

## 4

じ てん ば めん れんしゅう  
 時点・場面 練習

## A ★3

\_\_\_\_\_に「で・に・を」を入れなさい。必要がないときもあります。

こた  
 答えは [こちら](#)

1. たばこを吸<sup>す</sup>っているところ\_\_\_\_\_見つかったしまった。
2. 家に帰ると夫<sup>おとこ</sup>が出<sup>で</sup>張<sup>か</sup>先<sup>せん</sup>から帰<sup>かえ</sup>ったところ\_\_\_\_\_だった。
3. コウさんはいつもわたしがご飯<sup>はん</sup>を食べようとしているところ\_\_\_\_\_来るんです。
4. き<sup>し</sup>のうの試験<sup>けん</sup>では、もうすぐ書き終<sup>お</sup>わるところ\_\_\_\_\_、終<sup>しゅう</sup>了<sup>りょう</sup>のベルが鳴<sup>な</sup>ってしまった。
5. 窓<sup>まど</sup>から顔<sup>かお</sup>を出<sup>で</sup>しているところ\_\_\_\_\_写真<sup>しゃしん</sup>に撮<sup>と</sup>られてしまったのです。
6. 今<sup>いま</sup>、食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>をしているところ\_\_\_\_\_なので、後<sup>あと</sup>でこちらからお電話<sup>でんわ</sup>します。
7. この時計<sup>とけい</sup>は3時<sup>3じ</sup>をちよっと過<sup>す</sup>ぎたところ\_\_\_\_\_止<sup>と</sup>まっている。
8. 赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>ちゃん</sup>がもう少<sup>すこ</sup>しで眠<sup>ねむ</sup>るところ\_\_\_\_\_だから、ちよっと静<sup>しず</sup>かにしてください。

## B ★3

\_\_\_\_\_の中の言葉<sup>ことば</sup>を使<sup>つか</sup>って、次<sup>つぎ</sup>の文<sup>ぶん</sup>を完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>させなさい。1つの言葉<sup>ことば</sup>は1回<sup>かい</sup>しか使<sup>つか</sup>いません。

こた  
 答えは [こちら](#)

- a. 際<sup>さい</sup>    b. ところ<sup>ところ</sup>に    c. うち<sup>うち</sup>に    d. 最<sup>さい</sup>中<sup>ちゅう</sup>に    e. におい  
 て    f. かけ<sup>かけ</sup>て

---

年のはじめにひとことごあいさつ申し上げます。昨年<sup>さくねん</sup>は<sup>きび</sup>厳しい年でした。契約交渉<sup>けいやくこうしょう</sup>の(1. )地震<sup>じしん</sup>が<sup>お</sup>起こったり、ようやく<sup>こうじ</sup>工事が始まった(2. )台風<sup>たいふう</sup>が<sup>き</sup>来たりしました。やり(3. )中断<sup>ちゅうだん</sup>された作業<sup>さぎょう</sup>もいろいろあります。しかし、<sup>きび</sup>厳しいということはある意味<sup>いみ</sup>(4. )いいことです。困難<sup>こんなん</sup>なときにあれこれ<sup>かんが</sup>考えている(5. )新しい<sup>あたらしい</sup>計画<sup>けいかく</sup>が生まれてくるのです。今後<sup>こんご</sup>も何か<sup>こま</sup>困ったことが<sup>お</sup>起こった(6. )は、みんな<sup>たす</sup>で助け合<sup>あ</sup>っていきたいと思います。

---

**C ★2・★1**

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. (a. 上京した b. 入院した)折<sup>おり</sup>に 高校時代の先生に会った。
2. (a. 入浴<sup>にゅうよく</sup>する b. 海外<sup>かいがい</sup>に転勤<sup>てんきん</sup>する)に際<sup>さい</sup>して、どのようなもの<sup>ひつよう</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>でしょうか。
3. スポーツ大会を開催<sup>たいかい</sup>するにあたって、{ a. 実行委員<sup>かいさい</sup>がごあいさつを<sup>もう</sup>申し上げます。 b. わたしはわくわくした気持ち<sup>じっこう い いん</sup>になった。 }
4. 現代<sup>げんだい</sup>の (a. 老人ホーム<sup>ろうじん</sup> b. 高齢化社会<sup>こうれい か</sup>) にあって、介護<sup>かいご</sup>の質<sup>しつ</sup>が問<sup>と</sup>われている。

## 5

てきどう じ せい      ぜん ご かんけい

## 時間的同时性・時間的前後関係

Concurrent Actions / Sequential Actions

動作同时发生，动作先后发生

시간적 동시성/시간적 전후관계

ふた      ことがら      お      い  
2つの事柄がほとんど同時に起こると言いたいときや、2つの事柄の  
時間的な前後関係を言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

- a. はじめて    b. うちに    c. からでないと    d. かと思うと  
                  うえ  
e. 上で

1. ラッシュアワーのときは、今電車が出て行った\_\_\_\_もう次の電車  
                  つぎ  
                  が来る。
2. 料理の材料は忘れない\_\_\_\_ノートに書いておこう。  
                  りょうり      ざいりょう      わす
3. この果物は実がもっと大きくなって\_\_\_\_おいしくない。  
                  くだもの      み
4. 木村さんと別れて\_\_\_\_、彼女の本当の心の深さを知った。  
                  き      むら      わか      かのじょ      ほんとう      こころ      ふか      し
5. 会に入るかどうか、友だちとよく相談した\_\_\_\_決めたいと思いま  
                  かい      そうだん      き      おも  
                  す。

つか  
使えますか

ただ      ほう      えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. テレビをつけたとたんに、テレビの後ろでバチッと音がした。  
b. テレビが終わったとたんに、お風呂に入りなさいよ。 }
2. 社長が着き次第、 { a. 会議を始めた。 b. 会議を始めよう。 }
3. 国では見なかったが、日本に来てからは、 { a. はじめて日本のドラマを見た。 b. テレビでドラマをよく見ている。 }
4. { a. 研究会では、発表に先立って、主催者から発表者の紹介があった。  
b. 買い物に行くに先立って、窓を閉め、かぎをかけた。 }
5. { a. 8時になったら、 b. 8時になるかならないかのうちに、 } 出かけよう。

## 5

## I 時間的同時性

ふた ことがら お い  
2つの事柄がほとんど同時に起こると言いたいとき

## ★3

1 ～たとたん（に）

## ★2

2 ～とともに

3 ～（か）と思うと・～（か）と思ったら

4 ～か～ないかのうちに

5 ～次第しだい

## ★1

6 ～が早いか

7 ～や・～や否いなや

8 ～なり

9 ～そばから

## 5

## I・1 ～たとたん（に） ★3

【～したら、その瞬間しゅんかんに】

①ずっとすわって本を読んでいて急に立ち上がったとたんきゅう た、気分きぶんが悪くなった。

②「キミちゃん、どこにいたの。心配しんぱいしたよ」と言ったとたん、キミは泣き出した。

③出かけようと思って家を出たおも いえとたんに、雨が降ふってきた。

④帰りのバスに乗ったとたんにかえ の、薬屋くすり やに寄るのを忘れたことに気がついた。

接続 Vた十とたん（に）

▶1) 「～たとたん（に）…」の形で、「～が終わったのとほとんど同時に、  
…という予期しないことが起こった」と言いたいときに使う。前のこと  
と後のことは、互いに関係があることが多い。

2) I・4 「～か～ないかのうちに」の▶2) を参照。

## 5 I・2 ～とともに ★2 W

【～すると、同時に】

①ベルが鳴るとともに、子どもたちはいっせいに運動場へ飛び出した。

②彼は京都への転勤が決まるとともに、アパートを探すなど新生活の準備を始めた。

③試合の終了とともに、観客は総立ちとなって勝者に盛大な拍手を送った。

接続 Vる / する動詞のN+とともに

▶1) 「～とともに…」の形で、「～が起こるとほとんど同時に、…が起こる」と言いたいときに使う。

2) I・4 「～か～ないかのうちに」の▶2) を参照。

→6課II・4 「～とともに」

## 5 I・3 ～（か）と思うと・～（か）と思ったら ★2

【～すると、すぐに】

①空でなにかピカッと光ったかと思うと、ドーンと大きな音がして地面が揺れた。

②母はいつも忙しい。今、そうじしていたと思ったら、もう買い物に

出かけて、いない。

- ③うちの子どもは学校から帰ってきたか<sup>か</sup>と思うと、いつもすぐ遊び<sup>あそ</sup>に行ってしまう。

**接続** Vた＋（か）と思うと

- ▶1) 「～（か）と思うと...」の形で、「～が起<sup>お</sup>こったすぐ直<sup>ちよく</sup>後に、...が起<sup>お</sup>こる」と言いたいときに使う。自分のことには使えない。
- 2) I・4 「～か～ないかのうちに」の▶2) を参<sup>さん</sup>照<sup>しょう</sup>。

## 5 I・4 ～か～ないかのうちに ★2

【～すると、同時に】

- ①子どもは「おやすみなさい」と言ったか言<sup>ねむ</sup>わ<sup>ない</sup>か<sup>のうちに</sup>、もう眠<sup>ねむ</sup>ってしまった。
- ②彼はいつも終<sup>かれ</sup>了<sup>しゅうりょう</sup>のベルが鳴<sup>な</sup>るか鳴<sup>ない</sup>か<sup>のうちに</sup>、教室<sup>と</sup>を飛<sup>と</sup>び出<sup>で</sup>ていく。
- ③このごろ、うちの会社では1つの問題<sup>ひと</sup>が解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>するか<sup>し</sup>ないか<sup>のうちに</sup>に、次々と新しい問題が起<sup>つぎつぎ</sup>こってくる。

**接続** Vるか・Vたか＋Vないか＋のうちに

- ▶1) 「～か～ないかのうちに...」の形で、「～が起<sup>お</sup>こったすぐ直<sup>ちよく</sup>後に、...が起<sup>お</sup>こる」と言いたいときに使う。
- 2) I・1 「～たとたん（に）」、I・2 「～とともに」、I・3 「～（か）と思うと」、I・4 「～か～ないかのうちに」は現実<sup>げんじつ</sup>のできごとを描<sup>びょうしゃ</sup>写<sup>あ</sup>するのであるから、意志<sup>い</sup>的<sup>し</sup>な行<sup>こう</sup>為<sup>い</sup>を表<sup>あらわ</sup>す文<sup>ぶん</sup>・依<sup>い</sup>頼<sup>らい</sup>文<sup>ひ</sup>・否<sup>ひ</sup>定<sup>てい</sup>文<sup>あと</sup>などが後<sup>あと</sup>に来<sup>き</sup>ることはない。
- ×国<sup>けっこん</sup>へ帰<sup>かえ</sup>ったとたんに、結<sup>けっこん</sup>婚<sup>こん</sup>しよ<sup>う</sup>と思<sup>おも</sup>います。
- ×この企画<sup>きかく</sup>が採<sup>さい</sup>用<sup>よう</sup>されるかどうか決<sup>き</sup>まるとともに、知<sup>し</sup>ら<sup>せ</sup>てほ<sup>し</sup>い。
- ×学校<sup>がっこう</sup>から帰<sup>かえ</sup>ってきたか<sup>か</sup>と思<sup>おも</sup>うと、す<sup>す</sup>ぐ勉<sup>めん</sup>強<sup>きやう</sup>しよ<sup>う</sup>。
- ×空<sup>くうこう</sup>港<sup>こう</sup>に着<sup>き</sup>くか着<sup>か</sup>かないか<sup>のうちに</sup>に会<sup>かい</sup>社<sup>しゃ</sup>へ電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>をか<sup>か</sup>け<sup>て</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>い</sup>。



## 5

## I・5

～次第<sup>しだい</sup> ★2

## 【～したらすぐ】

- ①スケジュールが決まり<sup>き</sup>次第<sup>しだい</sup>、飛行機<sup>ひこうき</sup>のチケットとホテルの予約<sup>よやく</sup>をしましょう。
- ②資料<sup>しりょう</sup>の準備<sup>じゅんび</sup>ができ<sup>き</sup>次第<sup>しだい</sup>、会議室<sup>かいぎ</sup>にお届け<sup>とど</sup>けます。
- ③詳しい<sup>くわ</sup>ことがわかり<sup>き</sup>次第<sup>しだい</sup>、すぐ知らせてください。
- ④会長<sup>かいちょう</sup>が到着<sup>とうちゃく</sup>し<sup>き</sup>次第<sup>しだい</sup>、会を始めたいと思います。もうしばらくお待ちください。

## 接続 V-ます+次第

- ▶「～次第<sup>かたち</sup>...」の形で、「～が起こ<sup>お</sup>ったらすぐ、...をする」という意志<sup>いし</sup>を伝えたいときに多く使う。過去<sup>かこ</sup>のことには使わない。  
 ×アルバイトが終わり<sup>おわり</sup>次第<sup>しだい</sup>、うちへ帰りました。

## 5

## I・6

## ～が早いか ★1

【～すると、同時に<sup>どうじ</sup>】

- ①その人は電車の座席<sup>ざせき</sup>にすわる<sup>が</sup>早<sup>はやく</sup>いか、袋<sup>ふくろ</sup>からおにぎりを出して食べ始めた。
- ②姉<sup>はいゆう</sup>はあの俳優<sup>はいゆう</sup>の大ファンだ。今回<sup>こんかい</sup>も彼の新作<sup>しんさく</sup>が公開<sup>こうかい</sup>される<sup>が</sup>早<sup>はやく</sup>いか見<sup>み</sup>に行った。
- ③警察官<sup>けいさつかん</sup>は遠<sup>とお</sup>くに犯人<sup>はんじん</sup>らしい姿<sup>すがた</sup>を見つける<sup>が</sup>早<sup>はやく</sup>いか追<sup>お</sup>いかけていった。

## 接続 V-る+が早いか

- ▶1) 「～が早<sup>はやく</sup>いか...」の形で、「～が起こ<sup>お</sup>ると直後<sup>ちよくご</sup>に、...の動作<sup>どうさ</sup>をする」と言いたいときに使う。

2) I・8 「～なり」の▶2)を参照。<sup>さんしょう</sup>

**5** I・7 ～や・～や否や <sup>いな</sup> ★1

【～すると、同時に】

- ①よし<sup>こ</sup>子は部屋<sup>へや</sup>に入<sup>い</sup>って来<sup>こ</sup>るや、「変<sup>へん</sup>なにおい<sup>まじ</sup>がする」と言<sup>い</sup>って窓<sup>まど</sup>を開<sup>あ</sup>けた。
- ②そのニュースが伝<sup>つた</sup>わるや否<sup>いな</sup>や、たちまちテレビ局<sup>きょく</sup>に抗議<sup>こうぎ</sup>の電話<sup>でんわ</sup>がかか<sup>か</sup>ってき<sup>き</sup>た。
- ③社<sup>けつ</sup>長の決断<sup>けつだん</sup>がなされ<sup>な</sup>るや否<sup>いな</sup>や、担当<sup>たんとう</sup>のスタッフはいっせいに仕事<sup>しごと</sup>にとりか<sup>か</sup>か<sup>か</sup>った。

接続 Vる＋や

- ▶1) 「～や否<sup>いな</sup>や...」の形<sup>かたち</sup>で、「～が起<sup>お</sup>こると直<sup>ちよく</sup>後<sup>ご</sup>に、...が起<sup>お</sup>こる」と言<sup>い</sup>いたいとき<sup>はんのう</sup>に使う。前<sup>まへ</sup>のこ<sup>こ</sup>とに反<sup>はん</sup>応<sup>おう</sup>して起<sup>お</sup>こる予<sup>よ</sup>想<sup>そう</sup>外<sup>がい</sup>の<sup>さんしょう</sup>できごとが多い。
- 2) I・8 「～なり」の▶2)を参照。

**5** I・8 ～なり ★1

【～すると、同時に】

- ①彼<sup>かれ</sup>はしばらく電話<sup>でんわ</sup>で話<sup>わ</sup>していたが、とつぜん受<sup>お</sup>話<sup>わ</sup>器<sup>き</sup>を置<sup>お</sup>く<sup>なり</sup>部屋<sup>へや</sup>を出<sup>で</sup>てい<sup>い</sup>った。
- ②彼<sup>かれ</sup>は合格<sup>ごうかく</sup>者<sup>しゃ</sup>のリス<sup>り</sup>トに自<sup>お</sup>分<sup>お</sup>の名<sup>な</sup>前<sup>まへ</sup>を発<sup>は</sup>見<sup>けん</sup>する<sup>なり</sup>、とび上<sup>お</sup>が<sup>お</sup>って大<sup>お</sup>声<sup>こゑ</sup>をあ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>た。
- ③彼女<sup>かのじょ</sup>は展<sup>てん</sup>覧<sup>らん</sup>会<sup>かい</sup>の会<sup>かい</sup>場<sup>じょう</sup>に入<sup>い</sup>る<sup>なり</sup>、目<sup>め</sup>指<sup>さ</sup>す絵<sup>え</sup>の方<sup>かた</sup>に走<sup>はし</sup>ってい<sup>い</sup>った。

接続 Vる＋なり

- ▶1) 「～なり...」の形<sup>かたち</sup>で、「～を<sup>を</sup>する<sup>する</sup>と同時<sup>ふつう</sup>に、...<sup>こうい</sup>という普通<sup>ふつう</sup>では<sup>では</sup>ない行<sup>こう</sup>為<sup>い</sup>」

をした、または普通ではないことが起こった」と言いたいときに使う。

- 2) I・6 「～が早いいか」、I・7 「～や・～や否いなや」、I・8 「～なり」は現実げんじつのできごとを描写びょうしゃするのであるから、意志い的してきな行こう為いを表あらわす文・依ぶん頼らい文・否ひ定てい文などが後に来ることはない。

×チャイムが鳴るが早いか授な業じゅぎょうをやめてください。

×わたしはお金ちよんをもらうや否いなや貯金ちよんします。

×会社かいに着きくなり、社長室しやうに行いってください。

## 5 I・9 ～そばから ★1

【～しても、すぐまた】

- ①小さい子どもは、お母さんがせんたくするそばから、服よごを汚よごしてしまいます。

- ②仕事をかたづけるそばから次つぎの仕たの事を頼たのまれるのでは体がいくつあっても足りない。

- ③もっと若いわかうちに語学ごがくを勉強べんきやうしておくべきだった。今は習わすったそばから忘わすれてしまう。

- ④これはヒット商しょうひん品だ。仕入しれるそばから、売うり切きれてしまう。

接続 Vる・Vた＋そばから

- ▶「～そばから...」の形かたちで、「～しても～しても、すぐまた...が起ここる」と言いいたいときに使う。好このましくないことに使うことが多い。

## 5

II 時間的前後関係<sup>てきぜん ご かんけい</sup>

ふた ことがら い  
2つの事柄の時間的な前後関係を言いたいとき

★3

1 ～てはじめて

2 ～てからは

3 ～てからでないと・～てからでなければ

4 ～うちに・～ないうちに

★2

5 ～上<sup>うえ</sup>で6 ～て以<sup>い</sup>来<sup>らい</sup>7 ～に先<sup>さき</sup>立<sup>だ</sup>って・～に先立つ

★1

8 ～てからというもの（は）

## 5

## II・1 ～てはじめて ★3

あと  
【～た後ではじめて】

①入<sup>にゅういん</sup>院<sup>けんこう</sup>してはじめて健康のありがたさがわかりました。

②スポーツは自分<sup>じぶん</sup>でやってみてはじめてそのおもしろさがわかるのです。

③大<sup>し</sup>きな仕<sup>じ</sup>事<sup>ごと</sup>は十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>な準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>があっ<sup>て</sup>てはじめて成<sup>せい</sup>功<sup>こう</sup>するのだ。

④外<sup>あ</sup>国<sup>こく</sup>の友<sup>とも</sup>だちとつ<sup>あ</sup>き合<sup>あ</sup>うようになっ<sup>て</sup>てはじめて、わたしは自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の国<sup>こく</sup>のこ<sup>し</sup>をよ<sup>お</sup>く知<sup>し</sup>りた<sup>い</sup>と思<sup>おも</sup>うようになっ<sup>た</sup>。

接続 Vて十はじめて

▶「Vてはじめて...」の形<sup>かたち</sup>で、「～する前<sup>まえ</sup>はそうではな<sup>な</sup>かったが、した<sup>あ</sup>後<sup>ご</sup>、そ<sup>い</sup>れがき<sup>い</sup>っかけとな<sup>な</sup>ってやっ<sup>と</sup>、...にな<sup>い</sup>る」という意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>。

## 5 II・2 ～てからは ★3

【～してから、今までずっと】

- ① 2年前に社会人になっててからは、ひまな時間はほとんどありません。
- ② このメーカーのくつをはくようになっててからは、ほかのメーカーのくつがはけなくなった。
- ③ 毎日飲んでいた薬をやめててからは、かえって食欲も出て元気に過ごしています。
- ④ いなかに引っ越しててからは、学校時代の友人に会うことも少なくなった。

接続 Vて十からは

- ▶ 1) 「ある行動の後、ある状態がずっと続いている」と言いたいときに使う。
- 2) II・6 「～て以来」とほとんど同じ意味。
- 3) 「～てから」と違って、1回だけのことには使えない。
- × 就職しててからは、カナダ旅行に行きました。
- 就職してから、カナダ旅行に行きました。

## 5 II・3 ～てからでないと・～てからでなければ ★3

【～した後でなければ】

- ① 豚肉は、十分火が通ってからでないと食べてはだめだよ。
- ② そのことについては、よく調査してからでなければ、お答えできません。
- ③ 田中さんは出張中だから、来週になってからでないと出社しません。

- ④「飲み会<sup>の かい よてい き</sup>の予定は決まった？」  
「先輩<sup>せんぱい</sup>の予定<sup>よてい</sup>を聞いてからでないと……」

接続 Vて十からでないと

- ▶「あることをした後でなければだめだから、まずそうすることが必要<sup>ひつよう</sup>だ」と  
言<sup>い</sup>いたいときに使<sup>つか</sup>う。後<sup>あと</sup>には否定<sup>ひてい</sup>や不可能<sup>ふかのう</sup>の意味<sup>いみ</sup>の文<sup>ぶん</sup>が来る。

## 5 II・4 ～うちに・～ないうちに ★3

【ある状<sup>じょうきょう</sup>況<sup>きやう</sup>になる前に】

- ①独身<sup>どくしん</sup>のうちに、イタリアへ語学<sup>ごがくりゅうがく</sup>留<sup>りゅう</sup>学<sup>がく</sup>をしてみたい。
- ②母<sup>はは</sup>がよく作<sup>つく</sup>るカレーなんです。どうぞ温<sup>あた</sup>かいうちに食<sup>く</sup>べてくださ  
い。
- ③体<sup>からだ</sup>が丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>なうちに、1度<sup>いちど</sup>富士山<sup>ふじさん</sup>に登<sup>のぼ</sup>ってみたい。
- ④「タンさんは3月に国<sup>かえ</sup>へ帰<sup>かえ</sup>るそうだよ」  
「本当<sup>ほんとう</sup>? じゃ、東京<sup>とうきょう</sup>にいるうちに、ぜひ3人<sup>しよくじ</sup>で食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>をしよう  
よ」
- ⑤スー<sup>すー</sup>プ<sup>ぷ</sup>に生<sup>くわ</sup>クリーム<sup>ふつとう</sup>を加<sup>くわ</sup>えたら、沸<sup>ふ</sup>騰<sup>つとう</sup>しないうちに火<sup>お</sup>から降<sup>お</sup>ろす。  
(料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>の本<sup>ほん</sup>から)

接続 Vる・Vない / イAい / ナAな / Nの十うちに

- ▶「～うちに…」の形<sup>かたち</sup>で、「～と反<sup>はん</sup>対<sup>たい</sup>の状<sup>じょう</sup>態<sup>たい</sup>になったら実<sup>じつ</sup>現<sup>げん</sup>がむずかしいか  
ら、そうなる前<sup>い</sup>に」と言<sup>い</sup>いたいときに使<sup>つか</sup>う。  
→ 4課<sup>か</sup>4「～うちに・～ないうちに」

## 5 II・5 ～上<sup>うえ</sup>で ★2

【まず～してから】

①詳しいことはお目にかかった上で、説明いたします。

②申込書の書き方をよく読んだ上で、記入してください。

③どちらの案を採用するかは、編集会議での検討の上で、決めます。

④これは1週間考えた上での決心だから、気持ちが変わることはない。

接続 Vた / する動詞のNの+上で

▶「～上で…」の形で、「まず～をした後で、それを土台にして…という次の行動をとる」という意味。「～上で」の前後には意志動詞が来る。少し硬い言い方。

→ 2 課 I・2 「～上で」

## 5 II・6 ～て以来 ★2

【～してから、今までずっと】

①学校を卒業して以来、田中さんには1度も会っていません。

②1人暮らしを始めて以来、ずっと外食が続いている。

③あの画家の絵を見て以来、あの画家にすっかり夢中になっています。

④来日以来、中野駅のそばにある寮に住んでいます。

接続 Vて / する動詞のN+以来

▶1) 「ある行動の後、ある状態が今までずっと続いている」と言いたいときの言い方。

2) II・2 「～てからは」とだいたい同じ意味で、1回だけのことには使えない。

×退院して以来、山に出かけました。

○退院して以来、家で静かに暮らしています。

また、「～て以来」は近い過去から続いていることには使えない。

×彼は晩ごはんを食べて以来、ずっとパソコンの前にすわっている。

## 5 II・7 ～に先立って・～に先立つ ★2

【～の前に必要なこととして】

①出発に先立って、大きい荷物は全部宅配便で送っておきました。

②マンション建設を開始するに先立って、周辺の住民に説明する必要がある。

③首相がA国を訪問するに先立って両国の政府関係者が打ち合わせを行った。

④留学に先立つ書類の準備に、時間もお金もかかってしまった。

接続 Vる / する動詞のN+に先立って

▶「そのことが行われる前にその準備として、しておかなければならないことをする」と言いたいときに使う。「～に先立って」の前には大きな仕事や行為などを表す言葉が来る。

## 5 II・8 ～てからというもの（は） ★1

【～してから、ずっと】

①たばこをやめてからというもの、食欲が出て体の調子がとてもいい。

②あの本を読んでからというもの、どう生きるべきかについて考えない日はない。



③会のリーダーが<sup>か</sup>変わ<sup>な</sup>ってからというもの、会員たちは新しいリーダーのやり方に慣れず、とまどっている。

接続 Vて＋からというもの（は）

▶ 1) 「その行為<sup>こう い</sup>やできごとが後の状態<sup>じょうたい</sup>の契機<sup>けい き</sup>になって」という意味<sup>あらわ</sup>を表す。以後<sup>い ご</sup>の変化<sup>へん か</sup>が大きいこと<sup>たい</sup>に対して話者<sup>わ しゃ</sup>が心情<sup>しんじょう</sup>を込<sup>こ</sup>めて言う。

2) II・2 「～てからは」と意味・用法<sup>ようほう</sup>がだいたい同じであるが、「というもの」があるために、より話者の気持ちのこもった言い方になっている。

## 5

てきどう じ せい      ぜん ご かんけい      れんしゅう  
 時間的同時性・時間的前後関係      練習

## A

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

## ★3

a. うちに    b. からは    c. とたんに    d. からでないと    e. はじめて

1. 子犬のマルが家に来て\_\_\_\_、子どもたちはいつも居間でマルと遊んでいる。
2. 夕方になると寒くなるから、暖かい\_\_\_\_、買い物に行こう。
3. あの作家の本を読んで\_\_\_\_ファンタジーのおもしろさを知った。
4. 泳ぐときは、よく準備運動をして\_\_\_\_、危ないよ。
5. お母さんが帰ってきた\_\_\_\_、今までいい子だったケンちゃんかわがママを言い始めた。

## ★2

a. とともに    b. 次第    c. かと思ったら    d. 先立って    e. 上で

6. 今井さんは外出した\_\_\_\_、すぐ帰ってきたよ。大事な書類を忘れたらしい。
7. 社員研修の開始に\_\_\_\_、社長のあいさつがあった。
8. ホテルの予約が確認でき\_\_\_\_、お知らせします。

9. どちらのせんたく機きがいいか、特徴とくちょうをよく比べた\_\_\_\_、決めよう。
10. 学期が終了する\_\_\_\_、学生たちの多くはふるさとへ帰っていった。

★1

a. そばから    b. が早いか    c. なり    d. からというもの

11. 列車のドアが開く\_\_\_\_、乗客たちは次々に乗り込んでいった。
12. 道を歩いていると、男が走って近づいてくる\_\_\_\_、わたしのバッグを取ろうとした。
13. 石井さんは、いいライバルだった池田さんが外国勤務になって\_\_\_\_、すっかり元気がなくなってしまった。
14. そのニュースを伝える号外は、用意する\_\_\_\_飛ぶようになくなっていった。

B

中の言葉と、(    ) の言葉をいっしょに使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

★3・★2

a. 次第    b. たとたん    c. てはじめて    d. うちに    e. てからでない    f. て以来

1. いすから (立ち上がる →    )、いすが倒れた。
2. 大学を (卒業する →    ) 1度もあの人に会っていない。
3. (冷める →    ) 召し上がってください。

4. (入院する→ ) 看護師の仕事の大変さがわかった。

5. よく (考える→ ) 行くか行かないか決められない。

6. 雨が (やむ→ )、出かけましょう。

★2・★1

a. に先立って	b. かと思うと	c. 上で	d. てからというもの
e. そばから			

7. 親や先輩とよく (相談する→ ) 進路を決めます。

8. 子どもたちは、わたしが (かたづける→ ) 部屋中ちらかす。

9. (工事開始→ ) 管理の責任者が各家をあいさつして回った。

10. 彼は家に (着く→ ) 玄関に倒れてしまった。

11. 病気で (入院する→ ) 世間のできごとがまったくわからない。

## 6

しんこう そうかんかんけい  
進行・相関関係

## Progressive Actions / Correlations

动作的进行，动作之间的关系

진행/상관관계

ものごとがある<sup>ほうこう む</sup>方向に向かって進行している、または、一方が<sup>いっぽう へん か</sup>変化すると、それに<sup>おう た ほう</sup>応じて他方も変化する、と言<sup>い</sup>いたいときは、どんな言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>がありますか。

し  
知っていますか

の中の<sup>こと ば</sup>言葉<sup>つか</sup>を使って、文<sup>ぶん</sup>を完成<sup>かんせい</sup>させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. 一方だ<sup>いっぽう</sup>   b. につれて   c. ほど   d. つつある   e. として  
いる

1. 退院<sup>たいいん</sup>した<sup>あと</sup>後、日<sup>ひ</sup>がたつ<sup>たいりよく</sup> \_\_\_\_ 体<sup>たい</sup>力<sup>りよく</sup>も回<sup>かい</sup>復<sup>ふく</sup>してきた。
2. これは山<sup>のぼ</sup>に登<sup>のぼ</sup>る人<sup>いのち</sup>の命<sup>ささ</sup>を支<sup>ささ</sup>えるロープ<sup>じょう ぶ</sup>なのだから、丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>なら丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>な \_\_\_\_ いい。
3. 学校<sup>がっこう</sup>で習<sup>なら</sup>った英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>は、その<sup>のち</sup>後<sup>ご</sup>ぜんぜん使<sup>つか</sup>わないので、忘<sup>わす</sup>れる \_\_\_\_。
4. 都会<sup>と かい</sup>に住<sup>す</sup>む人<sup>うしな</sup>が失<sup>うしな</sup>い \_\_\_\_ もの、それは昔<sup>むかし</sup>の人<sup>ひと</sup>が生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>の中<sup>なか</sup>に感<sup>かん</sup>じた<sup>かん</sup>季節<sup>きせつ</sup>感<sup>かん</sup>ではないだろうか。
5. 夏<sup>か</sup>期<sup>き</sup>オリムピッ<sup>たいかい</sup>ク大会<sup>にゅうじょうこうしん</sup>の入<sup>はじ</sup>場<sup>ば</sup>行<sup>はじ</sup>進<sup>しん</sup>が今<sup>いま</sup>、始<sup>はじ</sup>まろう \_\_\_\_。観<sup>かん</sup>客<sup>きゃく</sup>が  
大<sup>はくしゅ</sup>きな拍<sup>むか</sup>手<sup>て</sup>で迎<sup>むか</sup>えている。

つか

## 使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

1. 暖かくなるにつれて、{ a. いろいろな花が次々と咲き始めた。 b. 桜の花を見に行こう。 }
2. { a. 課長になればなるほど b. 会社での地位が上がれば上がるほど } 責任のある仕事が増える。
3. この本は初めはむずかしいが、読み進むにしたがって { a. おもしろくなってくる。 b. おもしろい。 }
4. カードで買い物をすると、{ a. いいものが増えるばかりだ。 b. 結局は要らない物が増えるばかりだ。 }
5. { a. 試験の日になる b. 試験の日が近づく } にしたがって、だんだん心配になってきた。

こた 答えは [こちら](#)

## 6

I 進行 しんこう

ものごとがある方向ほうこうに向かって進行むしていると言いいたいとき

## ★3

1 いっぽう ～一方だ

2 ～つつある

## ★2

3 ～ようとしている

4 ～ばかりだ

## 6

I・1 いっぽう ～一方だ ★3

【ますます～していく】

①最近さいきん、わたしは太ふとる一方です。少し運動すこ うんどうをしようと思おもっています。

②ティーナさんの日本語ちから あの力は上がる一方です。

③去年きょねん、駅えきの中にできた店みせは人気があって、客きやくが増える一方だ。電車ふに乗らないのに、買い物か ものに来る人がいるそうだ。

④この町まちにはよい仕事しごとがないので若い人わかは町を出て行ってしまう。この町じんこうの人口は減る一方だ。

接続 Vる＋一方だ

▶「～一方だ」の形かたちで、「～」の方向ほうこうにだけ変化へんかが進すすんでいることを表す。  
「～」には変化どうしを表す動詞が来る。

## 6

## I・2 ～つつある ★2 W

【今ちょうど～している】

①大型おおがたの台風かんとうが関東地方に近づきつつある。

②子どもたちも携帯電話けいたいを使うようになり、子どもたちをとりまく環かん境きょうが変かわりつつつある。

③世界は不景気ふけいきから回復かいふくしつつある。この国の経済けいざいも次第しだいに安定あんていしてきた。

接続 Vます＋つつある

▶「ものごとがある方向ほうこうに向むかって進すすんでいる」という意味。特に進行中しんこうちゅうであるということをはっきり言こといたいときに使う。書き言葉ことば的。

## 6 I・3 ～ようとしている ★2

【まもなく～する / 今～するところだ】

①新しい年の太陽たいようが今、昇のぼろうとしている。海の向むこうから大きな太陽がだんだん見えてくる。

②高校生の全国バスケットボール大会たいかいが来週しからこの市で開かれようとしています。

③春はもうすぐだ。長かった冬がやっと終わろうとしている。

接続 Vよう＋としている

▶「ものごとが変化へんかに向むかって進行しんこうしている」という言い方。変化の始はじまりや、終わりの直前ちよくぜんであることを表す。書き言葉ことば的。

## 6 I・4 ～ばかりだ ★2

【ますます～していく】

①父は年を取とってから気難きむずかしくなるばかりで、このごろはだれも話し相手あいてにならない。

②食中毒しょくちゅうどくの原因げんいんを早く調査ちょうさしないと、国民こくみんの不安ふあんは増ますばかりだ。



③昨年さくねんの会 長 選挙かいちょうせんきょのときの対立たいりつが原因げんいんで、2つのグループふた あらわの關係かんけいは悪くなるばかりだ。

接続 Vる＋ばかりだ

▶ものごとの変化へん かが悪い方向ほうこうにだけ進すすんでいることを表す。I・1「～一方いっぽうだ」と同じように、前まえには変化へん かを表す動詞どうしが来る。

×このごろ、雨ふが降る一方です。

×外国こ ぎょうにいるので、故 郷を思う気持ちを持つばかりだ。

○このごろ、寒さむくなる一方です。

○外国まにいて故郷を思う気持ちは増すばかりだった。

## 6

## II 相関関係

一方が変化すると、それに応じて他方も変化と言いたいとき

## ★3

1 ～ば～ほど・～なら～ほど・～ほど

2 ～につれて

3 ～にしたがって

## ★2

4 ～とともに

5 ～に伴って

## 6

## II・1 ～ば～ほど・～なら～ほど・～ほど ★3

【～すれば...になり、もっと～すればもっと...になる】

- ①面接試験のことを考えれば考えるほど、心配になってくる。
- ②アルバイトを探しています。場所は学校に近ければ近いほどいいんですが。
- ③この会社で仕事をするには、英語が上手なら上手なほどいい。
- ④あの人の話はむずかしくて、聞けば聞くほどわからなくなる。
- ⑤外国語は深く勉強するほど難しくなる。
- ⑥わたしは何もしないでいるのが好きだから、休みの日は暇なほどいい。
- ⑦優れた営業マンほど客の苦情を熱心に聞く。

接続 Vば＋Vる / イAければ＋イAい / ナAなら＋ナAな＋ほど

- ▶ 1) 「一方の程度が変われば、それとともに他方も変わる」と言いたいときの表現。

2) ④⑤のように、ふつう予想することと反対の結果になる場合にも使う。

3) ⑤⑥のように「～ば・～なら」のない使い方もある。また、⑦のように「名詞＋ほど」の使い方もある。

→10課 I・1 「～ほど・～ほどの・～ほどだ」

## 6 II・2 ～につれて ★3

【～すると、だんだん】

①時間がたつにつれて、人の名前も経験したことも忘れてしまう。

②イタリア語の上達につれて、イタリア人の考え方がわかってきた。

③健太はよく話す子だったが、大きくなるにつれて、あまり話さなくなった。

④電車が町を離れるにつれ、家の数が減り、緑の畑が広がっていく。

接続 Vる / する動詞のN+につれて

▶1) 「～につれて、…」の形で、「～の程度が変化すると、そのことが理由となって、…の程度も変化する」という表現。

2) 「～」にも「…」にも変化を表す言葉が来る。

×20歳になるにつれて、将来の志望を決めた。

○20歳に近づくにつれて、将来の志望がはっきりしてきた。

3) 「…」には話す人の意志を表す文(例「～つもりだ」)や働きかけのある文(例「Vましょう」)は使わない。

## 6 II・3 ～にしたがって ★3 W

【～すると、だんだん】

①経済が発達し、生活が豊かになるにしたがって、人々は物を使い捨てにするようになった。

②興味が広がるにしたがって、彼はさまざまな分野の本を読むようになった。

③今後、通勤客が増えるにしたがい、バスの本数を増やしていこうと思っている。

接続 Vる / する動詞のN+にしたがって

▶「～にしたがって…」の形で「～が変化すると、…の変化も起こってくる」という言い方。「～」にも「…」にも変化を表す言葉が来る。

## 6 II・4 ～とともに ★2 W

【～すると、それにおうじてだんだん】

①日が短くなり、冷え込みが厳しくなるとともに、山の木の葉が色づき始める。

②歴史の推移とともに人々の価値観も変わっていく。

③時間がたつとともに、友を失った悲しみが少しずつ消えていく。

接続 Vる / する動詞のN+とともに

▶「～とともに、…」の形で「～が変化すると、…も変化する」という言い方。「～」にも「…」にも変化を表す言葉が来る。

→ 5 課 I・2 「～とともに」

## 6 II・5 ～に伴って ★2 W

【～すると、それにおうじて】

①成長するに伴って、彼は昆虫に特別の興味を示すようになってきた。

②病気の回復に伴って、運動の種類を少しずつ増やしていく。

③社会の情報化に伴い、子どもたちは今までにない危険にあうことが増えた。

④バス停の場所の移動に伴い、バスの時刻表にも変更があります。  
(お知らせ)

⑤政権の交代に伴い、内閣改造が行われた。

#### 接続 Vる / する動詞のN+に伴って

▶ 1) 「～に伴って、…」の形で、「～が変化すると、それといっしょに…も変化する」という言い方。「～」にも「…」にも変化を表す言葉が来る。

2) ④⑤のように、「～という原因や理由で、…が起こった」という文もある。

**A ★3・★2**

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

答えは [こちら](#)

1. 寒くなってきたので、{ a. 遅刻する学生がいる一方だ。 b. 遅刻する学生が増える一方だ。 }
2. 暑くなるにつれて、{ a. エアコンの生産を増やそう。 b. エアコンの売り上げが伸びてきた。 }
3. 日本にいる期間が長くなればなるほど、{ a. 日本のことがわからなくなる。 b. 日本のことがわからない。 }
4. 女性の社会進出に伴って、{ a. 日本でも離婚が増えてきた。 b. 日本でも離婚が多い。 }
5. このごろ、{ a. 成績がよくなるばかりなので、わたしはうれしいです。 b. 成績が悪くなるばかりなので、わたしは心配です。 }
6. { a. 卒業式が近づくにしたがって、 b. 卒業にしたがって、 } 高校生活のいろいろなことが心に浮かんでくる。
7. { a. A社との共同プロジェクトは順調に進行しつつあります。 b. 食事の準備ができつつあるから、もうちょっと待ってね。 }
8. 朝晩は涼しくなり、長く暑かった夏もやっと { a. 終わろうとしています。 b. 終わる一方です。 }

**B ★3・★2**

( ) 中の言葉を使って、\_\_\_\_ の言葉を言い換えなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. この本は読んでいったら、だんだんおもしろくなってきた。  
(につれて)
2. お礼のメールを出すのは早い方がいい。(ば〜ほど)
3. 専用テレビを持つ子どもの数はどんどん増えているそうだ。(一  
ほう  
方だ)
4. 医学が進歩すると、それといっしょに人の寿命が延びてきた。  
(とともに)
5. ソーラー発電の技術は年々改良されている。(つつある)

### C ★3・★2

中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉  
は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. につれて   b. ほど   c. にしたがって   d. つつある   e.  
ばかり   f. 一方

わたしは今、大学院の2年生です。専攻は「コンピューターによる  
画像処理」です。どんな勉強をしているのか、家族に説明するの  
ですが、みんな、難しくて聞けば聞く(1. )わからなくなるとい  
ます。社会の情報化が進む(2. )重要性を増してきた分野で、  
いろいろな方面で注目され(3. )んですよ。専攻を希望する学生  
も増える(4. )で、教授も喜んでいきます。教授は、卒業生が増  
える(5. )将来の就職先をどんどん開拓するつもりだ、と言っ

ています。わたしも実験が多くて、家へ帰る時間が遅くなる  
(6. )ですが、充実した毎日を過ごしています。



## 7

## 付帯・非付帯

With / Without

附帯，不附帯

부대/비부대

ふた 2つのことをいっしょに、またはあることを伴わないで何かをすると  
い 言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. ついでに b. つつ c. ぬきで d. ぬきの e. ぬきに  
て

1. 健康診断には朝 食  来てください。
2. その日あったことを考え 、いつも夜散歩をする。
3. ボストンに出 張した 、美術館に寄ってみた。
4. この教科書代2,000円というのは消費税  値段です。
5. 今シーズンはけがをしたキャプテンを  チーム作りをしな  
ばならない。

つか  
使えますか

ただ どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. 駅前  本屋まで行ったついでに、プリンターのインクを買

ってきた。 b. 医者<sup>いしゃ</sup>として病院<sup>びょういん</sup>に勤める<sup>つと</sup>ついでに、漫画家<sup>まんが</sup>として雑誌<sup>ざっし</sup>に漫画をかいている。}

2. { a. さあ、硬い<sup>かた</sup>あいさつはぬきにして、今夜<sup>こんや</sup>は大いに<sup>の</sup>飲みましょう。 b. 日曜日<sup>にちようび</sup>をぬきにして、わたしは毎日<sup>はたら</sup>働いている。}

3. { a. 先生<sup>たく</sup>のお宅<sup>ほうもん</sup>を訪問<sup>のぼ</sup>しつつ、ごあいさつをした。 b. 山道<sup>やまみち</sup>を登り<sup>かんが</sup>つつ、人生について考えた。}

4. { a. うっかりして切手<sup>きって</sup>ぬきの手紙<sup>てがみ</sup>をポストに入れてしまった。 b. 今晚<sup>こんばん</sup>はアルコールぬきのパーティーです。}

5. { a. 前置き<sup>まえお</sup>ぬきで、先に結論<sup>けつろん</sup>からご説明<sup>せつめい</sup>いたします。 b. 前置きぬきの、先に結論からご説明いたします。}

## 7

## 付帯・非付帯

ふた

2つのことをいっしょに、またはあることを伴わないで何かする  
と言いたいとき

## ★3

1 ～ついでに

2 ～つつ

## ★2

3 ～ぬきで・～ぬきに・～ぬきの

4 ～をぬきにして・～はぬきにして

5 ～がてら

## ★1

6 ～かたわら

7 ～かたがた

## 7

## 1 ～ついでに ★3

【～する機会につけ加えて】

①買い物のついでに、郵便局に寄って書留を送った。

②ドイツで国際会議に出席したついでに、昔、通った小学校を訪ねてみた。

③上野の美術館に行ったついでに、近くに住んでいる友だちに会って話をした。

④母「ちあきちゃん、立ったついでにお茶いれてね」

接続 Vる・Vた / する動詞のNの＋ついでに

▶「ものごとを行う機会を利用して、都合よくほかのことにつけ加えて行う」と言うときの言い方。前の文は初めからの予定の行動で、後の文は追加的

な行動。

7

2

～つつ

★2

W

【～ながら】

- ①夜行バスに揺られつつ、朝、大阪に着くまでいい気持ちで眠った。  
や こう ゆ おおさか ねむ
- ②わが社では今の機種を改善しつつ、一方で新しい製品の開拓も心がけております。  
き しゅ かいぜん いっぽう せいひん かいたく
- ③政府は住民や関係団体と話し合いを重ねつつ、道路を作る計画を進めている。  
せい ふ じゅうみん かんけいだんたい あ かせ どうろ すす

接続 Vます＋つつ

- ▶ 1) 「1つのことをしながら、同時にもう1つのことをする」という意味。  
ひと どうじ  
「～つつ」の後の動作が主な動作である。  
あと どうさ おも
- 2) 「～ながら」と同じような使い方をするが、「～ながら」より硬い表現。  
かた ひょうげん  
→18課3 「～つつ・～つつも」

7

3

～ぬきで・～ぬきに・～ぬきの

★2

【～を入れないで】

- ①たまには子どもぬきで集まって、落ち着いてランチでも楽しみましょう。  
お
- ②砂糖ぬきのコーヒーはおいしくない。  
さとう
- ③今日はアルコールぬきだよ。

接続 N＋ぬきで

- ▶「普通は含まれるもの、本来当然あるべきものを加えずに」と言いたいときに使う。  
ふつう ふく ほんらいとうぜん くわ

## 7 4 ～をぬきにして・～はぬきにして ★2

【～を入れないで】

- ①今日は硬い話をぬきにして、気楽に飲みましょう。
- ②冗談はぬきにして、もっとまじめに考えてください。
- ③政治の問題はぬきにして、とにかく会おうということになった。

接続 N+をぬきにして

- ▶「普通は含まれるもの、当然あるものを加えずに」と言いたいときに使う。

## 7 5 ～がてら ★1

【～を兼ねて】

- ①月1回開かれるフリーマーケットをのぞきがてら、公園を散歩した。
- ②祖父は毎日散歩がてら、パン屋へ行って焼きたてのパンを買ってくる。
- ③買い物がてら、新宿へ行ってカメラ屋をのぞいてこよう。
- ④近くの公園の桜が満開です。お花見がてらうちにもお寄りください。

接続 Vます / する動詞のN+がてら

- ▶1) 「1つの行為をするときに2つの目的をもたせてする」「1つのことをすると、結果として2つのことができる」などの意味に使う。
- 2) 「～がてら」の後には「歩く・行く」など移動に関係のある動詞がよく使われる。

## 7 6 ～かたわら ★1

【～一方で、別に】

- ①佐藤<sup>さとう</sup>さんは銀行<sup>はたら</sup>で働くかたわら、ボランティア<sup>ちやうないかい</sup>として町内会<sup>かい</sup>の会長<sup>ちやう</sup>をしている。
- ②彼は会社<sup>かれ</sup>に勤める<sup>つと</sup>かたわら、結婚式<sup>けっこんしき</sup>の司会者<sup>し かいしゃ</sup>として活躍<sup>かつやく</sup>している。
- ③あの人は大学院<sup>だいがくいん</sup>で研究<sup>つづ</sup>を続けるかたわら、作曲<sup>さつきよく</sup>をしているそう  
だ。
- ④出版社勤務<sup>しゅつばんしゃきんむ</sup>のかたわら、姉<sup>あね</sup>は江戸時代<sup>え ど じ だい</sup>の出版文化<sup>ぶん か</sup>について研究<sup>けんきゆう</sup>している。

接続 Vる / Nの＋かたわら

- ▶ 1) 「(本来<sup>ほんらい</sup>の仕事である) ～をする一方で、並行<sup>いっぼう</sup>してほかのこともしている」という表現<sup>へいこう</sup>。
- 2) 「～かたわら」は「～ながら」に比べ<sup>くら</sup>、長期間<sup>ちやう き かんづ</sup>続いていることに使<sup>く</sup>う。職業<sup>しよくぎやう</sup>や立場<sup>たちば</sup>などを両立<sup>りやうりつ</sup>させている場合<sup>ば あい</sup>によく使われる。

## 7 7 ～かたがた ★1

【～も同時にするつもりで】

- ①大学卒業<sup>そつぎやう</sup>と就職<sup>しゅうしよく</sup>の報告<sup>ほうこく</sup>かたがた、ひさしぶりに高等学校<sup>こうとう</sup>の先生<sup>せんせい</sup>を訪ね<sup>たず</sup>た。
- ②外国<sup>てんきん</sup>に転勤<sup>てんきん</sup>するので、ごぶさたのおわびかたがた昔<sup>むかし</sup>の上司<sup>じやうし</sup>にあいさつ<sup>あいさつ</sup>に行った。
- ③友人<sup>ゆうじん</sup>がけがをしたので、見舞<sup>み ま</sup>いかたがた手伝<sup>てつだ</sup>いに行った。

接続 N＋かたがた

- ▶ 1) 「1つの行為に、2つの目的を持たせて行う」という表現。改まった場面やビジネス上の人間関係の場面でよく使われる。
- 2) 「～かたがた」の後には「訪問する・上京する」など移動に関係のある動詞がよく使われる。
- 3) 「お祝いかたがた・お礼かたがた・ご報告かたがた」などが慣用的によく使われる。

## 7

ふ たい ひ ふ たい れんしゅう  
付帯・非付帯 練習

## A

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. つつ    b. ぬきの    c. ついでに    d. ぬきで

1. 2度と悲しい事故が起こらないようにと祈り\_\_\_\_、わたしは毎朝  
仏壇に手を合わせている。
2. 一郎、買い物に行く\_\_\_\_、この手紙をポストに入れてくれない  
か。
3. 塩味\_\_\_\_料理はおいしくない。
4. 今月の定例ミーティングでは、問題が多かったので休み時間\_\_\_\_  
3時間も話し合った。

## ★2・★1

a. はぬきにして    b. かたわら    c. かたがた    d. がてら

5. きのう、幼稚園へ子どもを迎えに行き\_\_\_\_、新しくできた図書館  
に寄ってみた。
6. 堅苦しいあいさつ\_\_\_\_、すぐに食事にしましょう。
7. 転職の報告\_\_\_\_、久しぶりに父と外で食事をした。
8. 小川さんは大学で教える\_\_\_\_、小説を書いている。



**B ★3・★2・★1**

の中の言葉を使って、      の部分を言い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. はぬきにして    b. ぬきで    c. つつ    d. かたわら    e. ついでに

1. 朝、会社を出て昼食を食べずに、5時まで営業をして回った。
2. 1つのプロジェクトを進めながら、別の新しいプロジェクトを始めるのは大変だ。
3. 今回のハイキングは子どもが多いから、難しい道は入れないで、コースを決めよう。
4. 東京へ行く機会を利用して、浅草に寄っておみやげを買おう。
5. 大川さんは高校に勤める一方で、別に塾で英語の講師をしている。

## 8

げんてい  
限定

## Limiting Conditions

限定

한정

じょうきょう じょうけん かぎ

状況や条件を限定したいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

中の言葉を使って、文を完成させなさい。（1つの言葉は  
1回しか使いません）

こた  
答えは [こちら](#)

a. に限り    b. に限って    c. かぎり    d. かぎりでは

1. あの人がそばにいてくれる\_\_\_\_、わたしは安心していただける。

2. 名簿で調べた\_\_\_\_、そういう名前の人はこの学校にはいません。

3. この健康センターでは、お子さま連れの方\_\_\_\_、遊び道具をお貸しいたします。

4. うちの子\_\_\_\_、そんな悪いことをするはずがない。

つか  
使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. この健康センターの入場料は、{ a. 70歳以上の方に限り無  
料です。    b. 70歳以下の方に限り有料です。 }

2. わたしが { a. 疲<sup>つか</sup>れているときに限って b. 疲<sup>つか</sup>れているかぎり  
では } 部<sup>ぶ</sup>長<sup>ちょう</sup>に仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>を頼<sup>たの</sup>まれる。
3. あの<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>に限<sup>かぎ</sup>って { a. い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>に親<sup>しん</sup>切<sup>せつ</sup>だ。 b. そ<sup>そ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>ば<sup>ば</sup>か  
な<sup>な</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>う。 }
4. { a. 日<sup>に</sup>本<sup>ぽん</sup>に<sup>に</sup>来<sup>き</sup>た<sup>た</sup>か<sup>か</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>り、 b. 日<sup>に</sup>本<sup>ぽん</sup>に<sup>に</sup>住<sup>す</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>り、 } 日<sup>に</sup>本<sup>ぽん</sup>  
語<sup>ご</sup>が<sup>が</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>不<sup>ふ</sup>便<sup>べん</sup>だ。
5. わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>が<sup>が</sup>知<sup>し</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>り<sup>し</sup>で<sup>で</sup>は、 { a. そ<sup>そ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>町<sup>まち</sup>に<sup>に</sup>行<sup>い</sup>き<sup>き</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>。 b. そ<sup>そ</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>町<sup>まち</sup>  
は<sup>は</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>方<sup>ほう</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>。 }

## 8

げんてい  
限定

じょうきよう じょうけん かぎ  
状況や条件を限定したいとき

## ★2

- 1 ～に限り  
2 ～に限って  
3 ～かぎり（は）  
4 ～かぎりでは

## ★1

- 5 ただ～のみ  
6 ～ならでは  
7 ～をおいて

## 8

1 ～に限り ★2

【～だけは】

- ①朝10時までにご来店の方<sup>らいてん</sup>に限り、コーヒーのサービスがあります。
- ②5月5日（子どもの日）に限り、動物園<sup>どうぶつえん</sup>の入場料<sup>にゅうじょうりょう</sup>を無料<sup>むりょう</sup>といたします。
- ③当院<sup>とういん</sup>では、インフルエンザ<sup>いんぷるえんざ</sup>の予防接種<sup>よぼうせっしゅ</sup>に限り、土曜日<sup>ど</sup>も受け付け<sup>う</sup>ております。

接続 N+に限り

- ▶「～に限り...」の形で、「～だけ特別<sup>かたち</sup>に...する」と言いたいときに使う。

## 8

2 ～に限って ★2

【～の場合<sup>ばあい</sup>だけは】

- ①いつもは積極的<sup>せっきよくてき</sup>に意見を言うあなたが、どうして今日に限<sup>だま</sup>って黙っているんですか。
- ②わたしは毎日バスで通勤<sup>つうきん</sup>しているのだが、この日に限<sup>だま</sup>って自転車で家を出た。すると.....。
- ③急いでいるときに限<sup>だま</sup>ってバスがなかなか来ない。
- ④ハイキングに行こうという日に限<sup>だま</sup>って雨が降<sup>ふ</sup>る。わたしはいつも運が悪いなあ。
- ⑤あの政治家<sup>せいじか</sup>に限<sup>ふせい</sup>って不正なんかするはずはない。
- ⑥S社の製品<sup>しゃせいひん</sup>に限<sup>こわ</sup>ってすぐに壊れるなんてことはないだろうと思っていたのに.....。

#### 接続 N+に限って

- ▶あるものを限定<sup>げんてい</sup>して取り上げ、<sup>と</sup>「～だけ特に」と言いたいときに使う。①②のように「～だけは...だ」と事実<sup>じじつ</sup>を言うとき、③④のように「特別<sup>とくべつ</sup>に～の場合<sup>この</sup>だけ好ましくない状況<sup>じょうきょう</sup>になって不満<sup>ふまん</sup>だ」と言いたいとき、また⑤⑥のように、信頼<sup>しんらい</sup>や特別な期待<sup>きたい</sup>をもって話題<sup>わだい</sup>にし、「～だけは好ましくないことはしないはずだ」という判断<sup>はんだん</sup>を言うときに使う。

### 8 3 ～かぎり（は） ★2

#### 【～の状態<sup>じょうたい</sup>が続<sup>つづ</sup>く間は】

- ①体が丈夫<sup>じょうぶ</sup>な<sup>おも</sup>かぎり、思いきり社会活動<sup>かつどう</sup>をしたい。
- ②わたしの目が黒い<sup>まへ</sup>かぎり、お前に勝手<sup>かって</sup>なことはさせないぞ。
- ③人間<sup>にんげん</sup>が地球<sup>ちきゅうじょう</sup>上で生きているかぎり<sup>は</sup>、エネルギー<sup>しょうひ</sup>が消費<sup>しょうひ</sup>されるのだ。
- ④「そろそろ会議<sup>かいぎ</sup>を始めませんか」

「あの部屋では今、別の会議をやっているから、それが終わらない  
かぎり使えないんですよ」

**接続** 普通形（現在形だけ）（ナAな・ナAである / Nである）＋かぎり（は）

▶「～かぎり…」の形で、「～」の状態が続いている間は「…」の状態が続く、と言いたいときに使う。「～かぎり」の前後には時間的に幅のある表現が来る。

→ 3 課 7 「～かぎり・～かぎりの」

## 8 4 ～かぎりでは ★2

【～の範囲のことに限れば】

- ①わたしが覚えているかぎりでは、去年は地震が5回あった。
- ②ちょっと話したかぎりでは、彼はいつもとまったく変わらないように思えた。
- ③今回の調査のかぎりでは、この問題に関する外国の資料はあまりないようだ。

**接続** V る・V た / N の＋かぎりでは

▶ある判断をするための情報の範囲を限定する。見る・聞く・調べる、などの言葉につく。

## 8 5 ただ～のみ ★1 W

【ただ～だけ】

- ①若いころは貧しくて、ただ働くのみの毎日だった。
- ②ただ厳しいのみではいい教育とはいえない。

③今はもう過去<sup>かこ</sup>を振り返<sup>ふ</sup>るな。ただ前進<sup>ぜんしん</sup>あるのみ。

④この地球<sup>ちきゅうじょう</sup>上から戦争<sup>せんそう</sup>をなくすこと。今はただそれのみがわたしの願<sup>ねが</sup>いである。

接続 ただ＋N / 普通形（ナAである / Nである）＋のみ

▶「ただ～だけ」と限定するときの表現。硬い書き言葉。

## 8 6 ～ならでは ★1

【～でなければ不可能な】

①この絵<sup>え</sup>には子どもならでは表<sup>あらわ</sup>せない無邪気<sup>むじゃき</sup>さがある。

②その買い物袋<sup>ぶくろ</sup>、すてきですね。手作り<sup>てづく</sup>ならではの温かみ<sup>あたた</sup>がありますね。

③これはおもしろい発想<sup>はっそう</sup>をする山本<sup>やまもと</sup>さんならではの作品<sup>さくひん</sup>だと思います。

接続 N＋ならでは

▶「～以外では不可能だ、ただ～だけができる」と感心<sup>かんしん</sup>するときの言い方。  
「～ならではの」の「の」は、「見られない・できない」などの動詞<sup>どうし</sup>の代わりである。

## 8 7 ～をおいて ★1

【～以外に】

①この仕事をやれる人はあなたをおいてほかにいないと思います。

②現代小説<sup>げんだいしょうせつ</sup>を知りたいなら、読むべき本はこの作品をおいてほかにない。

③みなさん、彼<sup>かれ</sup>をおいてこの国<sup>まか</sup>を任せられる人はいません。彼<sup>とう</sup>に投

<sup>ひょう</sup>  
票してください。

接続 N＋をおいて

- ▶ 「～以外にない」と言いたいときに使う。「それと<sup>ひ かく</sup>比較できるほどのものはほかにない」と高く<sup>ひょう か</sup>評価するときを使うことが多い。



## A ★2・★1

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. ノーベル賞しょうをもらったO氏し   b. 最後までがんばった人さいご   c. 医学を学んだことのあるK氏さい   d. 70歳以上の人さい い じょう   e. 早く答案とうあんを出す人

1.  かぎに限ってあまりよくできていないようだ。
2. ただ  えいかんのみが栄冠を手にするのだ。
3. このテーマについて講演こうえんをする適任者てきにんしゃは  をおいてほかにいない。
4.  だいいちしんさつしつに限り、第一診察室で健康診断けんこうしんだんを受けることができます。
5. この小説しょうせつは  しょうじょうならではの作品びょうしゃですね。病気の症状じつの描写が実にうまい。

## B ★2・★1

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉はI、IIそれぞれで、1回ずつしか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. かぎに限り   b. に限って   c. かぎりかぎは   d. かぎりでは   e. のみ   f. ならでは   g. をおいて

I

わたしの知る（1. ）、ヤンさんはとても芸術的才能がある人だ。今度の個展でも、ヤンさん（2. ）の作品を見せてくれると信じている。この個展では先着30名（3. ）、彼がかいた色紙をもらえることになっているから、友人にもすすめてみようと思っている。

ヤンさんはわたしの後輩だから、わたしが日本にいる（4. ）ヤンさんのお世話をしたいと思っているが、彼はなぜかわたしがお金がないとき（5. ）、お金を借りに来る。しかし、将来わたしの画廊を発展させてくれる人は、彼（6. ）ほかにいないと思っているので、わたしは彼との交際を大切にしたい。

ヤンさんは今、ただ前進ある（7. ）だ。将来が楽しみな青年である。

---

## II

わたしが調べた（1. ）、わが国でこういう手術ができる人は森先生（2. ）ほかにいない。ただ森先生（3. ）がこの難しい手術ができるのだ。あきらめていた人に希望を与える手術は、腕がよくて心がやさしい森先生（4. ）のものだ。

先生の手術は週に1回だけだが、急を要する場合（5. ）、すぐに手術を始めることになっている。それで、先生はいつも緊張している。夕食後の数時間だけが先生のリラックスタイムなのだが、そんなとき（6. ）、急に患者さんが来る。森先生がわたしたちの病院にいる（7. ）、わたしたちスタッフものんびりしてはいられな

い。

## 9

ひげんてい ふ か  
非限定・付加

Non-limitation / Additions

非限定，附加

비한정/부가

それだけではない、ほかにもあると言いたいときや、それもあるし、  
その上、ほかにもあると言いたいときは、どんな言い方があります  
か。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. だけでなく b. もちろん c. なら d. 限らず e. もとより

1. うちの妹は、ペットの世話は\_\_\_\_、家族の手伝いもよくするんだよ。
2. 今のアルバイトは、仕事も簡単\_\_\_\_、店の人もやさしいので、楽です。
3. 正子さんは性格が明るい\_\_\_\_、だれにでもとてもやさしいので人気がある。
4. 東京に\_\_\_\_どこの大都市でも環境に気を配った建物が増えている。
5. 今回のプロジェクトでは、スタッフは\_\_\_\_、各方面からのご協力<sup>きょうりょく</sup>が得<sup>え</sup>られたことを感謝<sup>かんしゃ</sup>しております。

つか

使えますか

---

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. このレストランは味がいい上に、{ a. 値段も安いので、いつも  
込んでいる。 b. 値段も安くした方がいい。 }
2. 手術の後は、{ a. おかゆはもちろん、普通のごはんも食べられ  
ない。 b. 普通のごはんはもちろん、おかゆも食べられな  
い。 }
3. この服は色がいいのみならず、{ a. デザインも新しい。 b.  
わたしが一番好きな服だ。 }
4. このバンドは若者に限らず、{ a. うちの母も好きだ。 b. 40  
歳以上の人たちにも人気がある。 }
5. 専門の経済問題ばかりか、{ a. 法律についても詳しい人が入  
社しました。 b. 法律も少し勉強しなさい。 }

## 9

## I

ひ げんてい  
非限定

それだけではない、ほかにもあると言いたいとき

## ★3

1 ～だけでなく

2 ～ばかりでなく

## ★2

3 ～ばかりか

4 ～に<sup>かぎ</sup>限らず

5 ～のみならず

## ★1

6 ～にとどまらず

## 9

## I・1

## ～だけでなく

## ★3

## 【～のほかに】

- ①この町では多くの農家が野菜だけでなく、はちみつも作っています。
- ②申込書には、住所と氏名だけでなく、できればメールアドレスも書いてください。
- ③ダイエットをするときは、食べ物に気をつけるだけでなく、運動することも大切なんだよ。
- ④食事についてのアンケートでは、何を食べるかだけでなく、どう食べるかについても聞きます。
- ⑤日本のアニメ文化は、ただ日本だけでなく多くの国の若者文化にも影響を与えている。
- ⑥今回の水不足はひとりA県だけでなく、わが国全体の問題でもある。

接続 N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ただけでなく

- ▶ 1) 「～ただけでなく…」の形で、「～」のほかに「…」も、<sup>い</sup>と言いたいときに使う。後の文には「も・まで・さえ」などがよくいっしょに使われる。
- 2) 話し言葉では、③のように「～だけじゃなく」になることが多い。
- 3) ⑤⑥のように硬い文では「ただ～ただけでなく・ひとり～ただけでなく」の形も使われる。

## 9 I・2 ～ばかりでなく ★3

【～のほかに】

- ①今日は頭が痛いばかりでなく、吐き気もするんです。
- ②ご飯ばかりでなく、おかずもちゃんと食べなさい。
- ③この町は住民の努力で、ごみが減ったばかりでなく、公園や道路もきれいになった。
- ④彼はわたしの夫であるばかりでなく、人生の先輩でもあるんです。

接続 N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ばかりでなく

- ▶ 1) 「～ばかりでなく…」の形で、「～」のほかに「…」も、<sup>い</sup>と言いたいときに使う。後の文には「も・まで・さえ」などがよくいっしょに使われる。
- 2) 話し言葉では、1 「～ただけでなく」の方がよく使われる。

## 9 I・3 ～ばかりか ★2

【～ただけでなく】

- ①いくら薬を飲んでも、かぜが治らないばかりか、もっと悪くなってきた。

②最近<sup>さいきん</sup>佐藤<sup>さとう</sup>さんは、休みが多いばかりか、仕事のミスも増<sup>ふ</sup>えている。

③彼は仕事や財産<sup>ざいさん</sup>ばかりか、家族<sup>かぞ</sup>まで捨<sup>す</sup>てて家を出てしまった。

④あの人は仕事に熱心<sup>ねっしん</sup>なばかりか、地域活動<sup>ちいきかつどう</sup>にも積極<sup>せっきよくてき</sup>的に参加<sup>さんか</sup>している。

接続 N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ばかりか

▶ 1) 「～だけでなく、その上にもっと程度の重い事柄<sup>ことがら</sup>も加<sup>くわ</sup>わる」という意味。

2) 後の文には「も・まで・さえ」などがよくいっしょに使われる。

3) 1 「～だけでなく」、2 「～ばかりでなく」と違い、後に意志<sup>いし</sup>・希望<sup>きぼう</sup>・命令<sup>めいれい</sup>・誘<sup>さそ</sup>いなどの働きかけの文が来ることはほとんどない。

×有名な観光地<sup>かんこうち</sup>ばかりか、静かな田舎<sup>しずいなか</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>も見たい。

×自分のことばかりか、他人<sup>たにん</sup>のことも考えなさい。

○有名な観光地<sup>かんこうち</sup>だけでなく、静かな田舎<sup>しずいなか</sup>の生活<sup>せいかつ</sup>も見たい。

○自分のことばかりでなく、他人<sup>たにん</sup>のことも考えなさい。

## 9 I・4 ～に限らず<sup>かぎ</sup> ★2

【～だけでなく】

①日曜日<sup>にっようび</sup>に限らず、休みの日はいつでも、家族と運動をしに出かけます。

②男性<sup>だんせい</sup>に限らず女性<sup>じょせい</sup>も、新しい職<sup>しよくぎ</sup>業<sup>ぎょう</sup>分野<sup>ぶん</sup>の可能性<sup>かのうせい</sup>を広げようとしている。

③この家<sup>い</sup>に限らず、このあたりの家はみんな庭の手入れがいい。

接続 N＋に限らず<sup>かぎ</sup>

▶ 「～だけでなく、～が属<sup>ぞく</sup>するグループの中の全部<sup>ぜんぶ</sup>に当てはまる」と言いたいときに使う。



9 I・5 ～のみならず ★2 W

【～だけでなく】

- ①この不景気では、中 小 企 業のみならず大企業でも経費を削る必要がある。
- ②山川さんは出張先でトラブルを起こしたのみならず、部長への報告もしなかった。
- ③この総合雑誌は、時事問題の扱いが公平であるのみならず、文化面の記事も豊富だ。
- ④会社の業績改善は、ただ営業部門のみならず、社員全体の努力にかかっている。
- ⑤学校のいじめの問題は、ひとり当事者のみならず家庭や学校全体で解決していかなければならない。

接続 N / 普通形（ナAである / Nである）十のみならず ひとり十 N十のみならず

- ▶ 1) 「～だけでなく、範囲はもっと大きくほかにも及ぶ」と言いたいときに使う。硬い表現。
- 2) 後の文には「も・まで・さえ」などがよくいっしょに使われる。
- 3) ④⑤のように、硬い文では「ただ～のみならず・ひとり～のみならず」などの形もある。

9 I・6 ～にとどまらず ★1 W

【～だけでなく】

- ①彼のテニスは単なる趣味にとどまらず、今やプロ級の腕前です。

②田中<sup>た なか</sup>さんの話は専門<sup>せんもん</sup>の話題<sup>わ だい</sup>だけにとどまらず、いろいろな分野<sup>ぶん や</sup>にわたるので、いつもとても刺激的<sup>し げき て き</sup>だ。

③石井<sup>い し い</sup>先生による子ども中心<sup>ちゅうしん</sup>の授業<sup>じゅぎょう</sup>は、1つのクラスにとどまらず、学校全体<sup>ぜんたい</sup>の授業に影 響<sup>えい きょう</sup>を与えた。

④学歴<sup>がくれき</sup>重視<sup>じゅうし</sup>は子どもの生活<sup>せいかつ</sup>から子どもらしさを奪<sup>うば</sup>うにとどまらず、社会全体<sup>ぜんたい</sup>をゆがめてしまう。

接続 <sup>ふ つう けい</sup> N / 普通形（ナAである / Nである）+にとどまらず

▶「～にとどまらず...」の形で、ある事柄<sup>かたち</sup>が「～」という狭い範囲<sup>こと が ら</sup>を越えて、  
「...」という、より広い範囲<sup>せま はん い こ</sup>に及<sup>およ</sup>ぶ、という意味。

## 9 II 付加

それもあるし、その上、ほかにもあると言いたいとき

★3	1	～も～ば～も・～も～なら～も
	2	～ <sup>うえ</sup> 上（に）
	3	～はもちろん
★2	4	～はもとより
★1	5	～はおろか
	6	～もさることながら
	7	～と <sup>あい</sup> 相まって

### 9 II・1 ～も～ば～も・～も～なら～も ★3

【～も～し～も】

- ①きのうの試験は問題<sup>し けん もんだい</sup>もむずかしければ<sup>りょう おお</sup>量も多かったので、よくできなかった。
- ②部長は人柄<sup>ぶ ちょう ひとがら</sup>もよければ<sup>ぶ か たいせつ</sup>部下も大切に<sup>しんらい</sup>するので、信頼されている。
- ③あの店の物は値段<sup>みせ もの ね だん</sup>も安め<sup>やす</sup>なら、品質<sup>ひんしつ</sup>もいいのでよく<sup>う</sup>売れる。
- ④勉強<sup>べんきょう</sup>の好きな子<sup>す</sup>もいれば、きらいな子<sup>とうぜん</sup>もいるのは当然です。
- ⑤人の助け<sup>たす</sup>になることもあれば、人に助けてもらうことも<sup>う</sup>あるのが人生というものです。

接続 Nも＋Vば / イAければ / ナAなら / Nなら＋Nも

- ▶ 1) 前の事柄<sup>ことがら</sup>と同じ方向<sup>おな ほうこう</sup>の事柄<sup>くわ</sup>を加える（プラスとプラス、マイナスとマイナス）。

2) ④⑤は、<sup>どうるい</sup>同類の<sup>たいりつ</sup>ものや対立するものを<sup>なら</sup>並べて、<sup>りょうほう</sup>両方あるという<sup>いみ</sup>意味。

## 9 II・2 ～<sup>うえ</sup>上（に） ★3

【～。それに】

①先輩の<sup>せんぱい</sup>吉田<sup>よしだ</sup>さんには<sup>あた</sup>新しい<sup>しごと</sup>仕事を<sup>しょうかい</sup>紹介してもらった<sup>うえ</sup>上、<sup>ごちそう</sup>ごちそうに<sup>まで</sup>な<sup>った</sup>った。

②この<sup>きかい</sup>機械は<sup>つか</sup>使い方が<sup>かた</sup>簡単<sup>かんたん</sup>な<sup>こがた</sup>上、<sup>はこ</sup>小型で、<sup>べんり</sup>運ぶのにも便利だ。

③彼の<sup>かれ</sup>話は<sup>ながい</sup>長い<sup>ようてん</sup>上に、<sup>ようてん</sup>要点が<sup>はつきり</sup>はっきりしないから、<sup>きこ</sup>聞いている人は<sup>つか</sup>疲れる。

④本日は<sup>ほんじつ</sup>全<sup>ぜん</sup>商<sup>しょう</sup>品<sup>ひん</sup>2割<sup>わり</sup>引きの<sup>こさま</sup>上<sup>たの</sup>に、<sup>ぶくろ</sup>お子様にはお楽しみ袋の<sup>ぷれぜん</sup>プレゼントがあります。

接続 普通形（<sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>Aな・<sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>Aである / <sup>ふ</sup>Nの・<sup>ふ</sup>Nである）+上（に）

▶ 1) 前の<sup>こと</sup>事柄<sup>おな</sup>と同じ<sup>ほうこう</sup>方向の事柄（プラスとプラス、マイナスとマイナス）を「それに」という<sup>きもち</sup>気持ちで<sup>くわ</sup>加える。

2) 後に、<sup>あと</sup>命令<sup>めいれい</sup>・<sup>きんし</sup>禁止・<sup>いらい</sup>依頼・<sup>かんゆう</sup>勧誘などの<sup>あいて</sup>相手への<sup>はたら</sup>働きかけの<sup>ぶん</sup>文は来ない。

×<sup>やす</sup>安い<sup>うえ</sup>上に、<sup>おいしい</sup>おいしいものを<sup>くは</sup>食べに行きま<sup>しょう</sup>しょう。

○<sup>あ</sup>あの店<sup>みせ</sup>は、<sup>やす</sup>安い<sup>うえ</sup>上に<sup>おいしい</sup>おいしい。

## 9 II・3 ～<sup>もちろん</sup>はもちろん ★3

【～は<sup>とうぜん</sup>当然として】

①復<sup>ふくしゅう</sup>習は<sup>もちろん</sup>もちろん<sup>よしゅう</sup>予習もしなければなりません。

②浅<sup>あさくさ</sup>草<sup>まち</sup>という<sup>にちよう</sup>町は日曜、<sup>さいじつ</sup>祭日は<sup>もちろん</sup>もちろん、<sup>ウィークデー</sup>ウィークデーも<sup>にぎやか</sup>にぎやかだ。

③この<sup>あつ</sup>ごろ、<sup>ばしよ</sup>人が<sup>しつない</sup>集まる<sup>場所</sup>場所では<sup>もちろん</sup>もちろん、<sup>室内</sup>室内でも<sup>マスク</sup>マスクを<sup>つけて</sup>つけて

いる人が増<sup>ふ</sup>えている。

- ④田中<sup>た なか</sup>さんは勉強<sup>べんきょう</sup>についてはもちろんのこと、生活<sup>せいかつ</sup>のことまで何<sup>なん</sup>でも相談<sup>そうだん</sup>できる先輩<sup>せんぱい</sup>だ。

接続 N（十助詞）十はもちろん

- ▶「～はもちろん...も（まで）」の形<sup>かたち</sup>で、「～は当然<sup>とうぜん</sup>として、程度<sup>ていど</sup>が上<sup>うへ</sup>の...も加<sup>くわ</sup>わる」という意味<sup>いみ</sup>。

## 9 II・4 ～はもとより ★2 W

【～は当然<sup>とうぜん</sup>として】

- ①日本<sup>にっぽん</sup>はもとより、多<sup>おほ</sup>くの国<sup>こく</sup>がこの大会<sup>たいかい</sup>の成果<sup>せいこ</sup>に期待<sup>きたい</sup>している。
- ②うちの父<sup>ちち</sup>はパソコンはもとより、携<sup>けい</sup>帯<sup>たい</sup>電話<sup>でんわ</sup>さえ持<sup>も</sup>とうとしない。
- ③数学<sup>すうがく</sup>は、自然<sup>しぜん</sup>科学<sup>かがく</sup>や社会<sup>しゃかい</sup>科学<sup>かがく</sup>ではもとよりどん<sup>どう</sup>な方面<sup>ほうめん</sup>に進<sup>すす</sup>むのにも重<sup>じゅう</sup>要<sup>よう</sup>だ。
- ④この大会<sup>ゆうしやう</sup>で優<sup>り</sup>勝<sup>ょう</sup>できたのは、両<sup>りやう</sup>親<sup>しん</sup>はもとより、いろい<sup>かたがた</sup>ろな方<sup>かた</sup>々の<sup>た</sup>応<sup>おう</sup>援<sup>えん</sup>があ<sup>あ</sup>ったからです。

接続 N（十助詞）十はもとより

- ▶1）「～は当然<sup>ていど</sup>として、程度<sup>かる</sup>が重<sup>こ</sup>い（軽<sup>こと</sup>い）事<sup>こと</sup>柄<sup>がら</sup>も加<sup>くわ</sup>わる」という意味。
- 2）II・3 「～はもちろん」より書<sup>こと</sup>き言<sup>ば</sup>葉<sup>てき</sup>的<sup>てき</sup>な言<sup>こと</sup>い方<sup>ば</sup>。

## 9 II・5 ～はおろか ★1

【～は普通<sup>ふつう</sup>としても】

- ①祖母<sup>そば</sup>は電<sup>でん</sup>子<sup>し</sup>レンジ<sup>レンジ</sup>はおろか、炊<sup>すい</sup>飯<sup>はん</sup>器<sup>き</sup>も使<sup>き</sup>わ<sup>き</sup>ず<sup>き</sup>に食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>を作<sup>つく</sup>る。

② 今度の災害で、家財はおろか家まで失ってしまった。

③ この地球上には、電気やガスはおろか、水道さえない生活をしている人々がまだまだたくさんいる。

④ 木村さんは会計の仕事をしているが、会計学についてはおろか、法律一般の知識もないらしい。

接続 N（＋助詞）＋はおろか

▶ 1) 「～は当然として、程度がもっと上の事柄も」という意味。

2) 「も・さえ・まで」などの強調の言葉といっしょに使って、話者の驚きや不満の気持ちを表す。

3) 相手への働きかけ（命令・禁止・依頼・勧誘など）の文には使わない。

## 9 II・6 ～もさることながら ★1 W

【～も無視できないが】

① きのうのサッカーの試合では、5対0というスコアもさることながら、新人選手の活躍も観客を喜ばせた。

② あの作家の作品は、若いころの作品もさることながら、老年期に入ってからのものも実に素晴らしい。

③ 近年は世界の政治や宗教の問題もさることながら、人権問題も多くの人の注目を集めている。

接続 N＋もさることながら

▶ 「～も無視できないが、後の事柄も」と言いたいときに使う。

## 9 II・7 ～と相まって ★1 W

【～と影響し合って】

①彼の才能は人一倍の努力と相まって、みごとに花を咲かせた。

②彼の厳しい性格は、社会的に受け入れられなかった不満と相まっ  
て、ますますその度を増していった。

③日本では高齢化が進み、悪化する経済状 況と相まって、人々の暮  
らしがますます厳しくなっている。

接続 N+と相まって

▶「ある事柄に、～という別の事柄が加わって、よりいっそうの効果を生む」  
という意味。

## A ★3・★2

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

うえ a. 上(に) b. あれば c. はもちろん d. に限らず e. もとより

1. この町まちは小さいけれど、ショッピングセンターも\_\_\_\_としょかん図書館もあるべんりので便利だ。
2. テレビの人気者にんきものが祭りのイベントに来るとか。子どもたち\_\_\_\_かた大人たちもなんとなくわくわくしている。
3. 日本では1年に1、2回かい、お世話せわになった方かたには\_\_\_\_した親しい人にも感謝かんしゃをこめて贈り物おくものをする習慣しゅうかんがある。
4. 町内会ちょうないかいの会長かいちょうさんは、人柄ひとがらもいい\_\_\_\_ねっしん熱心なので、会はよくまとまっている。
5. 兄あには数学すうがく\_\_\_\_かがく化学や生物せいぶつのような理科系りかけいの科目かもくが得意とくいらしい。

## B ★3・★2

ただ どちらが正しいですか。正しい方ほうを選びなさい。

こた 答えは [こちら](#)

1. 最近さいきんの若者わかものは女性じょせいは { a. もとより、 b. 限らず、 } かぎ男性だんせいもファッションきょうみに興味があるようだ。
2. 復習ふくしゅう { a. ばかりでなく、 b. ばかりか、 } よしゅう予習もしなさい



よ。

3. この本は内容がむずかしい { a. 上に、 b. はもちろん、 } 翻訳がよくないので読みにくい。
4. このりんご、おいしい! あまい { a. のみならず、 b. だけじゃなく、 } 酸味もちょうどいいわ。
- 

**C ★2・★1**

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. ある大企業<sup>だい き ぎょう</sup>の倒産<sup>とうさん</sup>は、同じ業界<sup>ぎょうかい</sup>にとどまらず、 { a. 日本経済全体<sup>にほん けい ぜんたい</sup>にも影響<sup>えい きやう</sup>を及ぼした。 b. 日本経済全体<sup>にほん けい ぜんたい</sup>への影響<sup>えい きやう</sup>は少なかった。 }
2. このかばん、いいでしょう。 { a. ひとり値段<sup>ね だん</sup>だけでなく、便利<sup>べん り</sup>さも気に<sup>き</sup>いっているの。 b. 値段<sup>ね だん</sup>はもちろん、便利<sup>べん り</sup>さも気に<sup>き</sup>いっているの。 }
3. この電車<sup>でん しゃ</sup>は昼の時間帯<sup>じ かんたい</sup>はもとより、 { a. ラッシュアワーの間<sup>ま</sup>もそんなに<sup>こ</sup>込まない。 b. ラッシュアワーの間<sup>ま</sup>も込む。 }
4. うちの子は親<sup>おや</sup>の手伝い<sup>て つだ</sup>はおろか、 { a. 自分の部屋<sup>へ や</sup>のそうじもするんです。 b. 自分の部屋<sup>へ や</sup>のそうじもしないんです。 }
5. そうじやせんたくに限<sup>かぎ</sup>らず、 { a. 食事作り<sup>しょく づく</sup>などの家事<sup>か じ</sup>は、みんなたいへんです。 b. 食事作り<sup>しょく づく</sup>が特に<sup>とくに</sup>たいへんです。 }
- 

**D ★2・★1**

の中の言葉<sup>こと ば</sup>を使って、次の文<sup>つぎ ぶん</sup>を完成<sup>かん せい</sup>させなさい。1つの言葉<sup>ひと</sup>は1回<sup>かい</sup>しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. もとより    b. 相<sup>あい</sup>まって    c. とどまらず    d. さることなから  
e. のみならず    f. 限<sup>かぎ</sup>らず

最近<sup>さいきん</sup>のサッカーの<sup>にんき</sup>人気はすごい。古くからのファンは（1.    ）、  
普通<sup>ふつう</sup>のスポーツファンの<sup>にんき</sup>人気も集めている。特に<sup>しあい</sup>人気のあるチームの  
試合<sup>しあい</sup>となると、ファン<sup>ねっきょう</sup>の熱狂<sup>ねっきょう</sup>はただのスポーツの試合<sup>しあい</sup>の応援<sup>おうえん</sup>に  
（2.    ）、まるでお祭り騒<sup>まつさわ</sup>ぎだ。サッカーが<sup>さか</sup>このように盛ん<sup>さか</sup>になった  
たのは、ファン<sup>ねっしん</sup>の熱心<sup>ねっしん</sup>な応援<sup>じもと</sup>も（3.    ）、地元<sup>じもと</sup>に根<sup>ね</sup>をおろしたプロ  
のチームを作ろうという関係者<sup>かんけいしゃ</sup>の努力<sup>どりよく</sup>が実<sup>み</sup>を結んだからだろう。  
先月のサッカー大会でも、主催者<sup>しゅさいしゃ</sup>の組織<sup>そしきりよく</sup>力<sup>せいてんつづ</sup>が、晴天<sup>こう</sup>続きという好  
条件<sup>じょうけん</sup>と（4.    ）、大会に大成功<sup>だいせいこう</sup>をもたらした。しかし、関係者<sup>かんけいしゃ</sup>も  
選手<sup>せんしゅ</sup>もこの人気に安心<sup>あんしん</sup>してはいけない。サッカーに（5.    ）プ  
ロのスポーツというものは、ファンがいるからこそのものである。こ  
れからも選手たちにおもしろく、見る者<sup>もの</sup>に感動<sup>かんとく</sup>を<sup>あた</sup>与えるような試合を  
見せてほしいというのが、ひとり熱狂<sup>てき</sup>的なファン（6.    ）、一般<sup>いっぱん</sup>の  
サッカーファン<sup>ねが</sup>の願<sup>ねが</sup>いだろう。

## 10

ひ か く て い ど た い ひ  
比較・程度・対比

Comparison / Degree / Contrast

比较, 程度, 对比

비교/정도/대비

ふた い じょう くら じょうたい  
2つ以上のものを比べたり、ある状態がどのくらいそうなのか、その程度を言ったり、2つ以上のものを対比させて言ったりしたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

はん いっぽう  
a. ほど b. に反して c. どころか d. 一方で e. だけまし

- おとうと き たい せ かい  
1. 弟は、父の期待\_\_\_\_スポーツの世界に入ってしまった。
- やま だ くん じ き た な て い し ゅ つ  
2. 山田君のレポートの字はいつも汚い。でも、提出した\_\_\_\_かな。
- よ る お そ な み だ  
3. 夜遅くまでのアルバイトは涙が出る\_\_\_\_つらかった。
- な つ れ い か よ ほ う き ろ く て き あ つ  
4. 今年の夏は冷夏という予報だったが、冷夏\_\_\_\_記録的な暑い夏になってしまった。
- た む ら か ち ょ う し ご と き び ぶ か め ん ど う  
5. 田村課長は仕事には厳しかった\_\_\_\_、部下の面倒はよく見た。

つか  
使えますか

ただ ほう えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 会社勤めは時間に**しばられる**反面、{ a. 生活の**安定**というよさがある。 b. 自由業には自由がある。 }
2. 駅員「横浜へ行くには1番線の特急に { a. 乗るに限りま**す**」 b. 乗るのがいちばん**早い**です」 }
3. 東京に対して { a. 京都の方がもっと古い町だ。 b. 京都は高層ビルが少ない。 }
4. これはかばんというより、{ a. スーツケースみたいです**ね**。 b. スーツケースの方がいいです。 }
5. 今度の旅行に行こうか行くまいか、{ a. 早く**決**めてくだ**さ**い。 b. 迷っています。 }

## 10

## I 比較・程度

ふた い じょう くら じょうたい  
2つ以上のものを比べたり、ある状態がどのくらいそうなの  
か、その程度を言ったりしたいとき

## ★3

- 1 ～ほど・～ほどの・～ほどだ
- 2 ～くらい・～くらいの・～くらいだ
- 3 ～ほど～はない・～くらい～はない
- 4 ～に限る

## ★2

- 5 ～くらいなら
- 6 ～だけの
- 7 ～だけまし

## ★1

- 8 ～にもまして
- 9 ～ないまでも

## 10

## I・1 ～ほど・～ほどの・～ほどだ ★3

## 【～の程度に】

- ①悩んでいたとき、友人が話を聞いてくれて、うれしくて涙が出るほどだった。
- ②1人暮らしを始めたころは、泣きたくなるほど寂しかったけど、今はもう大丈夫です。
- ③きのうは山登りに行って、もう1歩も歩けないほど疲れました。
- ④いじめは子どもにとっては死にたいほどのつらい経験なのかもしれない。

⑤ 雷<sup>かみなり</sup>が落ち<sup>お</sup>たかと思<sup>おも</sup>うほど<sup>おも</sup>大きい音<sup>おと</sup>がした。

⑥ 国家試験<sup>こっ か し けん</sup>に合格<sup>ごうかく</sup>した。大声<sup>おおごえ</sup>で叫<sup>さけ</sup>びたいくらいうれしい。

⑦ その山道<sup>やまみち</sup>は子どもでも<sup>ある</sup>歩<sup>ある</sup>けるくらいの楽<sup>らく</sup>な坂<sup>さか</sup>です。

⑧ このクイズはむずかしくない。ちょっと<sup>かんが</sup>考え<sup>しょうがくせい</sup>れば小学生<sup>しょうがくせい</sup>でもできるくらいだ。

**接続** 普通形（主にイAとVの現在形）＋ほど・くらい

▶ 1) ある状態<sup>じょうたい</sup>がどのくらい<sup>い</sup>そうなのか、その程度<sup>せいでい</sup>を強<sup>きやう</sup>調<sup>てい</sup>して言<sup>い</sup>いたいとき  
に使う。

2) 話す人<sup>い し</sup>の意志<sup>いし</sup>を表<sup>あらわ</sup>さない動詞<sup>どうし</sup>や、動詞<sup>どうし</sup>の「たい」の形<sup>かたち</sup>につくことが多<sup>おほ</sup>い。

3) ⑤は「～かと思うほど」の形で、「<sup>じっさい</sup>実際にそう<sup>じっさい</sup>なったのではないが、  
そのよう<sup>きよくたん</sup>な極<sup>かん</sup>端<sup>かん</sup>な状態<sup>かん</sup>かと思<sup>かん</sup>じられるほど<sup>かん</sup>程度<sup>ひ</sup>が大<sup>ひ</sup>きい」と比<sup>ひ</sup>喩<sup>ゆ</sup>で言<sup>い</sup>うとき<sup>ひょうげん</sup>の表<sup>ひょうげん</sup>現<sup>げん</sup>。

4) I・1「～ほど」とI・2「～くらい」は意味<sup>い</sup>・用法<sup>み</sup>がほとん<sup>ようほう</sup>ど同<sup>おな</sup>じだが、「～ほど」は程度<sup>せいでい</sup>が高<sup>たか</sup>い場合<sup>ばあい</sup>に使<sup>つか</sup>われることが多<sup>おほ</sup>い。

×<sup>いた</sup>痛いけれど、がま<sup>いた</sup>んでき<sup>いた</sup>るほどの痛<sup>いた</sup>さだ。

○がま<sup>いた</sup>んでき<sup>いた</sup>ないほどの痛<sup>いた</sup>さだ。

→ 6 課 II・1 「～ば～ほど・～なら～ほど・～ほど」

## 10 I・2 ～くらい・～くらいの・～くらいだ ★3

【～の程度に】

▶ I・1 「～ほど」と意味<sup>い</sup>・用法<sup>み</sup>がほとん<sup>ようほう</sup>ど同<sup>おな</sup>じ。

→ 16 課 II・2 「～くらい」

## 10 I・3 ～ほど～はない・～くらい～はない ★3

【～は最高に～だ】

①「暑いわねえ」

「まったく今年の夏ほど暑い夏はないね」

②困っているとき、思いやりのある友人の言葉ほどうれしいものはない。

③旅行前に、あれこれ旅行案内の本を見るほど楽しいことはない。

④彼ぐらいわがまなやつはいない。

⑤やってしまった後で後悔するくらいつまらないことはない。

接続 Vる / N+ほど～はない・くらい～はない

▶ 1) 主に名詞に続き、話す人が主観的に「そのことは最高に～だ」と感じ、  
強調して言うときに使う。

2) 客観的な事実については使わない。

×うちの課で東山さんぐらい若い人はいない。

○うちの課で東山さんが一番若い。

10

I・4 ～に限る ★3

【～が一番いい】

①1日の仕事を終えたあとは、冷えたビールに限ります。

②パソコンについてわからないことがあるときは、山田さんに聞くに限ります。

③子どもの育て方で問題を抱えているときは、1人で悩んでいない  
で、経験者の意見を聞いてみるに限る。

④太りたくなければ、とにかくカロリーの高いものを食べないに限

る。

**接続** Vる・Vない / N+に限る

- ▶ 1) 話す人が主観的に「～が一番いい」と思って、そう主張するときを使う。
- 2) 客観的な判断を言うときは使わない。
- ×医者「この病気を治すには、手術に限りますよ」

**10** I・5 ～くらいなら ★2

【～ことをがまんするなら】

- ①自由がなくなるくらいなら、一生独身でいる方がいい。
- ②あんな店長の下で働くくらいなら、転職した方がましだ。
- ③こんな面倒な道具を使うくらいなら、自分の手でやった方が早い。
- ④あんな込んだ電車に乗るくらいなら、早起きしてすいた電車に乗りたいたい。

**接続** Vる＋くらいなら

- ▶ 「～くらいなら...」の形で、話者がとてもいやだと思っている行為（～）を取り立て、「そんないやなことに比べれば、...の状態の方がいい」と言いたいときに使う。

**10** I・6 ～だけの ★2

【～に相当する】

- ①とうとう看護師の免許が取れた。この3年間努力しただけの代償はあった。
- ②この本を買いたいけど、5,000円払うだけの価値があるだろうか。



③携帯電話<sup>けいたい</sup>をかけた<sup>り</sup>かさ<sup>を</sup>をさした<sup>り</sup>しながら自転車<sup>の</sup>に乗ることを禁<sup>さん</sup>止<sup>し</sup>したそう<sup>だ</sup>。それ<sup>だけ</sup>の<sup>こう</sup>効果<sup>が</sup>が期待<sup>き</sup>できる<sup>たい</sup>のだろうか。

④またプリンター<sup>ちようし</sup>の調子<sup>が</sup>がおかしい？ 高い修理代<sup>しゅうりだい</sup>を払<sup>はら</sup>った<sup>だけ</sup>のことはやってほしいね。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋<sup>ふ ふうけい</sup>だけの

▶「～だけのN」<sup>かたち</sup>の形で、「～に相当するNがある」<sup>そうとう</sup>と言<sup>い</sup>たい<sup>とき</sup>の表現<sup>ひょうげん</sup>。

→ 3 課 3 「～だけ・～だけの」

## 10 I・7 ～だけまし ★2

【別<sup>じょうきよう</sup>のもっと悪い状 況より<sup>は</sup>いい】

①「大木君<sup>おおきくん</sup>、会議<sup>かいぎ</sup>だ<sup>って</sup>いう<sup>の</sup>に、外 出<sup>がいしゅつ</sup>しちゃいましたよ」  
「書類<sup>しよるい</sup>をそろえてくれた<sup>だけ</sup>ましだよ」

②「区民公園<sup>くみんこうえん</sup>の中に区<sup>く</sup>の事務所<sup>じむしょ</sup>が建<sup>た</sup>って、公園<sup>こうえん</sup>はだいぶ狭<sup>せま</sup>くなりましたまし  
たね」

「住 民<sup>じゅうみん</sup>が大事<sup>だいじ</sup>にしている木<sup>のこ</sup>が残<sup>のこ</sup>った<sup>だけ</sup>ましですよ」

③「せっかくの運動会<sup>うんどうかい</sup>なのに、天気予報<sup>よほう</sup>、当<sup>あ</sup>たりませんでしたね」  
「雨<sup>ふ</sup>が降<sup>ふ</sup>らない<sup>だけ</sup>ましですよ」

④今度の会 長<sup>かいちょう</sup>はいろいろ問題<sup>しん</sup>があり<sup>せ</sup>そう<sup>だい</sup>けど、新世代<sup>しんせいだい</sup>の人間<sup>にんげん</sup>である<sup>だけ</sup>ましかな。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋<sup>ふ ふうけい</sup>だけまし

▶ 1) 「もっと悪い<sup>さいていげん</sup>ことが考<sup>え</sup>えられるが、最低限<sup>え</sup>のことは得<sup>え</sup>られた」と言<sup>い</sup>って、不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>だが相<sup>あい</sup>手<sup>て</sup>や状 況<sup>じょうきよう</sup>を許<sup>ゆる</sup>す気持<sup>き</sup>ち<sup>で</sup>使<sup>え</sup>う、やや口語<sup>こうご</sup>的<sup>てき</sup>表 現<sup>ひょうげん</sup>。

2) 「まし」は「いいとは言<sup>い</sup>えないが、ほかの<sup>ほか</sup>の<sup>もっと</sup>よくない<sup>よくない</sup>状 況<sup>じょうきよう</sup>より<sup>は</sup>は

いい」という意味のナ形容詞。

10 I・8 ～にもまして ★1 W

【～以上に】

- ①組織の運営において、資金力にもまして重要なのはリーダーの指導力だ。
- ②きのう友だちが結婚するという手紙が来たが、それにもましてうれしかったのは友だちの病気がすっかり治ったということだった。
- ③家庭や施設で十分なケアが得られない子どもたちのことは何にもまして急を要する問題だ。

接続 N+にもまして

- ▶ 1) 「～もそうだが、それ以上に」と言いたいときに使う。
- 2) ③のように、「疑問詞+にもまして」の形では、「何よりも・だれよりも・どこよりも」などの意味になる。

10 I・9 ～ないまでも ★1

【～まではできないが / ～まではできなくても】

- ①ゆっくり話はできないまでも、たまには顔を見せるぐらいはしてほしい。
- ②選手になれないまでも、せめて趣味でスポーツを楽しみたい。
- ③給料は十分とは言えないまでも、これで親子4人がなんとか暮らしていけます。
- ④営業目標は100パーセント達成したとはいえないまでも、一応満足すべき結果だといえる。

## 接続 Vない＋までも

- ▶「～の<sup>ていど</sup>程度には<sup>たっ</sup>達しなくても、それより下の程度には達する」という意味。  
「せめて・<sup>こ</sup>少なくとも」という気持ちを込めて使う。

## 10

## II 対比

ふた い じょう

2つ以上のものを対比させて言うとき

★3

1 ～に対して

2 ～に反して・～に反する・～に反した

3 ～反面・～半面

4 ～というより

5 ～かわりに

6 ～にかわって

★2

7 ～一方(で)

8 ～どころか

9 ～ようか～まいか

★1

10 ～にひきかえ

## 10

## II・1 ～に対して ★3

【～と対比して考えると】

①活発な姉に対して、妹は静かなタイプです。②日本海側では、冬、雪がよく降るのに対して、太平洋側では晴れの  
日が続く。③駅の北側はビルや商店が多いのに対して、南側は静かな住宅街が  
広がっている。④今までの炊飯器は使い方が簡単だったのに対して、この新しいタイ

プはいろいろな炊き方ができる。

**接続** N / 普通形（ナAな・ナAである / Nな・Nである）十の十に対して

▶ある事柄について2つの状況を対比して言うときに使う。

## 10 II・2 ～に反して・～に反する・～に反した ★3

【～とは反対に】

①予想に反して試験はとてもやさしかったです。

②部長の期待に反して、彼女は十分力を発揮しないで会社をやめてしまった。

③今回の試合は、多くのファンの願いに反する結果に終わってしまった。

**接続** N+に反して

▶「Nに反して」の形で、Nには、予想・期待・意図などの言葉が来ることが多い。「結果はそれらとは異なる」と言いたいときに使う。

## 10 II・3 ～反面・～半面 ★3

【一面では～と考えられるが、別の面から見ると】

①彼女はいつもは明るい半面、寂しがりやでもあります。

②郊外に住むのは、通勤には不便な反面、自然に近く生活するという良さもある。

③コンピューターに頼る生活は、人間の生活を便利で豊かにする反面、素朴な人間らしさを失わせることになるのではないか。

接続 普通形（<sup>ふ ふうけい</sup>ナAな・ナAである / Nである）＋反面・半面

- ▶ 1) ある事柄<sup>ことがら</sup>について2つの反対<sup>ふた</sup>の傾向<sup>はんたい</sup>や性質<sup>けいこう</sup>を言うときの言い方<sup>せいしつ い</sup>。  
2) 漢字<sup>かんじ</sup>は、より対立的なことを言う場合は「反面」の方<sup>ほう</sup>を使うことが多<sup>た</sup>い。

## 10 II・4 ～というより ★3

【～という言い方<sup>い かた</sup>をするより、むしろ】

- ① コンピューターゲームは子どものおもちゃ<sup>おもちゃ</sup>というより、<sup>おとな む</sup>今や大人向けの娯楽商品<sup>ごらくしょうひん</sup>の代表<sup>だいひょう</sup>である。  
② 「この辺<sup>へん</sup>はにぎやかですね」  
「にぎやかというより、人通り<sup>ひとどお</sup>や車<sup>くるま</sup>の音<sup>おと</sup>でうるさいくらいなんです」  
③ 子ども「選挙<sup>せんきょ</sup>で投票<sup>とうひょう</sup>するというのは、国民<sup>こくみん</sup>の義務<sup>ぎ む</sup>なんでしょう」  
<sup>ちちおや</sup>父親 「義務<sup>ぎ む</sup>というよりむしろ権利<sup>けんり</sup>なんだよ」  
④ （試合<sup>し あい</sup>が終わって）  
「やっと勝<sup>か</sup>ったね」  
「というより、負け<sup>ま</sup>なかったというだけじゃない？」

接続 ▶ 2) 参照<sup>さんしやう</sup>

- ▶ 1) 「～というより…」の形<sup>かたち</sup>で、あることについて表現<sup>ひょうげん</sup>したり判断<sup>はんだん</sup>したりするとき、「～と言うより、（言葉<sup>ことば</sup>を変えて）…と言<sup>か</sup>った方<sup>ほう</sup>が当た<sup>あ</sup>っている」と言<sup>つか</sup>いたいときに使う。  
2) 接続は、取り上げようとする言葉<sup>せつぞく</sup>にそのまま続ける場合<sup>と</sup>が多い。

## 10 II・5 ～かわりに A ★3

【～の代理として / ～するのではなく】

①出張中の課長のかわりに、わたしが会議に出ます。

②いつものコーヒーのかわりに、安い紅茶を飲んでみたがけっこうおいしかった。

③市役所に行くのに、自分で行くかわりに、姉に行ってもらった。

④メールをするかわりに、今日はひさしぶりで長い手紙を書いた。

接続 Vる / Nの十かわりに

▶①②は「人や物の代理として、別の人や物が」という意味で、③④は「ふつうすることをしないで別のことをする」という意味。

## 10 II・5 ～かわりに B ★3

【～の代償として】

①この辺は買い物などに不便なかわりに、自然が豊かで気持ちがいい。

②現代人はさまざまな生活の快適さを手に入れたかわりに、取り返しのつかないほど自然を破壊してしまったのではないか。

③ジムさんに英語を教えてもらうかわりに、彼に日本語を教えてあげることにした。

④夫は本は読まないかわりに、新聞はすみずみまで読む。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nである）十かわりに

▶①②は「プラス（マイナス）のことがあるが、反対にマイナス（プラス）のこともある」という意味。また、③④は「あることの代償に別のことをする」という使い方。

## 10 II・6 ～にかわって ★3

【～の代理として / ～ではなく】

- ① 本日は駅工事中のためB駅行き急行電車は、4番線にかわって6番線から出ます。
- ② 本日は社長にかわり、私、中川がごあいさつを申し上げます。
- ③ 普通の電話にかわって、各家庭でテレビ電話が使われるようになる日もそう遠くないだろう。

接続 N+にかわって

- ▶ 1) 「いつものN、通常のNではなく」と言いたいときに使う。やや硬い言い方。
- 2) II・5 「～かわりに A」で言い換えられることが多い。

## 10 II・7 ～一方（で） ★2

【それから、また】

- ① いい親は厳しくしかる一方、ほめることも忘れない。
- ② 1人暮らしは気楽である一方、寂しさを感じることも多い。
- ③ この出版社は大衆向けの雑誌を発行する一方、研究書も多く出版している。
- ④ わたしの家では兄が父の会社を手伝う一方、姉がうちで母の店を手伝っている。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋一方（で）

- ▶ ①②のように、ある事柄について2つの面を対比して示したり、③④のように、あることをするのと並行して別のこともすると述べたりするときに使



われる。

**10** II・8 ～どころか **A** ★2

【～はもちろん、～も】

- ①彼は中国語<sup>かれ</sup>どころか、タイ語やベトナム語もよくできます。
- ②学校の制服<sup>せいふく</sup>のファッションは、日本の女の子<sup>だいにん き</sup>どころかフランスの女の子にも大人気らしい。
- ③うちの父はお酒<sup>さけ</sup>はまったくだめで、ウイスキーどころか<sup>の</sup>ビールも飲めない。
- ④となりの部屋<sup>へ や す</sup>に住む人<sup>へん</sup>は変な人だ。出会<sup>で あ</sup>っても話をするどころか、あいさつもしない。

接続 <sup>ふ つうけい</sup> N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋どころか

- ▶「～どころか...も（まで・さえ、など）」の形<sup>かたち</sup>で、「～はもちろん、もっと<sup>ていど おも</sup>程度の重<sup>おも</sup>い...もそうだ」または「～はもちろん、もっと程度<sup>かる</sup>の軽<sup>かる</sup>い...もそうではない」という意味<sup>い み あらわ</sup>を表す。

**10** II・8 ～どころか **B** ★2

【～なんてとんでもない、事実<sup>じじつ</sup>は～だ】

- ①タクシーで行ったら道<sup>みち</sup>がこんでいて、早く着くどころか<sup>ちこく</sup>かえって30分も遅刻<sup>ちこく</sup>してしまった。
- ②「先日お貸<sup>せんじつ か</sup>した本、どうでしたか。退屈<sup>たいくつ</sup>だったんじゃないありませんか」  
「退屈<sup>ね</sup>などころか寝<sup>ね</sup>るのも忘<sup>わす</sup>れて読んでしまいましたよ」
- ③休<sup>きゅうじつ</sup>日に子ども連<sup>づ</sup>れで遊園地<sup>ゆうえん ち</sup>に出かけるのは、楽しいどころじゃな

くほとんど<sup>くる</sup>苦しみだ。

接続 N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋どころか

- ▶ 1) 「～どころか...」の形で、～という予想や期待を完全に否定して、「<sup>じ</sup>事は<sup>じつ</sup>実はその<sup>せいはんたい</sup>正反対の...だ」と言いたいときに使う。
- 2) 「～どころか」は「～どころではなく」の言い方もある。

## 10 II・9 ～ようか～まいか ★2

【～をしようか、するのはやめようか】

- ①朝出かけるとき、かさを持っていこうかいくまいかと迷うのはいつものことだ。
- ②9月に大切な試験があるので、夏休みに国へ帰ろうか帰るまいか、考えています。
- ③今晚11時からのテレビの特別番組を見ようか見まいか、迷っています。
- ④知事は博覧会の開催を延期しようかするまいか、最後の決断を迫られていた。

接続 Vよう＋か＋Vる＋まいか（動詞II・IIIは「Vない＋まいか」もある。「する」は「すまいか」もある）

- ▶ 1) 話者がどちらがいいかと迷ったり、考えたりするときに使う。
- 2) 「Vまい」は「Vよう」の否定形で、古い言葉ではあるが、決まった言い方として現在でも使われる。

## 10 II・10 ～にひきかえ ★1

【～とは反対に / ～とは大きく変わって】

- ①ひどい米不足だった去年にひきかえ、今年は豊作のようです。

②父が節約家<sup>せつやく か</sup>なのにひきかえ、母はほんとうに浪費家<sup>ろう ひ か</sup>だ。

③前の課長<sup>か ちょう</sup>が仕事にきちょうめんだったのにひきかえ、今の課長はなにごとにもおおらかですね。

接続 N / 普通形<sup>ふ ふう けい</sup>（ナAな・ナAである / Nな・Nである）十の十にひきかえ

▶前の事柄<sup>ことがら</sup>とは「正反対<sup>せいはんたい</sup>に」とか「大きく<sup>か</sup>変わって」というような主観<sup>しゅかんてき</sup>的な気持ち<sup>きもち</sup>をこめて使う。

## A

□の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を使い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3

- a. に反して    b. くらい～はない    c. かわりに    d. 反面  
e. にかわって

1. 病気で試験が受けられなかったが、再試験を受けないで、レポートを提出すればいいということだ。
2. 両親の強い要望により、彼は自分の希望とは反対に進路を変えなければならなかった。
3. 将来、人間の代替としてロボットが家事を全部やってくれる日が来るだろうか。
4. パソコンで書いた手紙はきれいで読みやすいが、別の面から見るとあたたかみに欠けるのではないか。
5. 信頼していた友人に裏切られるのは最高につらいことだ。

## ★2・★1

- a. ようか～まいか    b. 一方で    c. だけまし    d. どころか  
e. ないまでも    f. にひきかえ    g. にもまして

6. 山川さんは忙しい記者生活を送っているが、家族との生活も大切にしている。
7. 「これ、バナナケーキなんです。お口に合わないんじゃないかと

しんぱい  
心配なんですが」

「口に合わないなんてとんでもない、実は<sup>じつ だいこうぶつ</sup>大好物なんですよ」

8. リンさんに<sup>ほんとう</sup>本当のことを言おうか言うのはやめようかと悩<sup>なや</sup>んでいる。

9. 夕<sup>ゆうしょく</sup>食はカレーだけか。でも、夫は<sup>おっと いそが</sup>忙しいのに、作<sup>つく</sup>ってくれたただけでもいいかな。

10. 看護<sup>かん ご し</sup>師になって1年。先輩<sup>せんぱい</sup>たちはみんなとてもやさしいです。でも、それ以上に<sup>かんじゃ</sup>うれしいのは患者さんの「<sup>ひとこと</sup>ありがとう」の一言です。

11. 夕<sup>ゆうしょくづく</sup>食作りを<sup>む り</sup>するのは無<sup>む</sup>理でも、<sup>しよつ き あら</sup>せめて食器洗いぐらい手<sup>て</sup>伝<sup>つだ</sup>ってください。

12. 課<sup>か ちょう</sup>長の仕事のやり方はきちんとしていますね。それに<sup>くら</sup>比べて、<sup>ぶ ちょう</sup>部長はマイペースで<sup>こま</sup>ちょっと困る……。

## B ★3・★2・★1

<sup>こと ば</sup>の中の言葉を使<sup>つか</sup>って、<sup>つぎ</sup>次の文を<sup>ぶん</sup>完成<sup>かんせい</sup>させなさい。1つの言葉は1回<sup>かい</sup>しか使<sup>つか</sup>いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. どころか   b. 半面<sup>はんめん</sup>   c. ほど   d. までも   e. にもまして  
f. 対<sup>たい</sup>して   g. というより

わたしは<sup>こう こ がく</sup>考古学（1.    ）おもしろい<sup>がくもん</sup>学問はないと思<sup>おも</sup>っている。わたしにとって考古学は学問（2.    ）<sup>しゆ み</sup>趣味に<sup>ちか</sup>近い。考古学者は<sup>がくしや</sup>図書館<sup>としょかん</sup>で古<sup>ふる</sup>い文書に<sup>ぶんしょ</sup>囲<sup>かこ</sup>まれて過<sup>す</sup>ごすことも多<sup>おほ</sup>い（3.    ）<sup>い せき</sup>遺跡などを<sup>はっくつ</sup>発掘するフィールドワークも多<sup>おほ</sup>い。そのどちらもわたしに合<sup>あ</sup>っていると思う

からだ。将<sup>しょう</sup>来<sup>らい</sup>は大学で考古学<sup>おし</sup>を教<sup>おし</sup>えたいと思うが、この仕事<sup>しごと</sup>は収<sup>しゅう</sup>入<sup>にゅう</sup>  
(4. ) 支<sup>し</sup>出<sup>しゅつ</sup>が意<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>に多<sup>おほ</sup>いと聞<sup>き</sup>いている。しかし、何<sup>なん</sup>(5. ) 心<sup>しん</sup>  
配<sup>はい</sup>なのは、果<sup>は</sup>たしてわたしが今<sup>いま</sup>の仕事をやめて、大学に入学できるか  
どうかということだ。入学できなければ、大学の先生(6. )、高  
校<sup>きょう</sup>や中学<sup>しゅう</sup>の教<sup>がう</sup>師<sup>しか</sup>にさえなれない。考古学<sup>おし</sup>科<sup>か</sup>のある有<sup>う</sup>名<sup>めい</sup>な大学<sup>だいがく</sup>とは言<sup>い</sup>  
わない(7. )、せめて史<sup>し</sup>学<sup>がく</sup>科<sup>か</sup>のある大学に入りたい。

## 11

はんだん たち ば ひょう か し てん  
判断の立場・評価の視点

Standpoint of Judgment / Viewpoint of Evaluation

判断的立場, 评价的视点

판단의 입장/평가의 시점

ものごとを判断するときの立場や評価するときの視点を言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. にとって b. として c. わりには d. だけあって e. にしては

1. わたしはクラスの委員\_\_\_\_、1年間がんばるつもりです。

2. ここは一流ホテル\_\_\_\_、雰囲気がすばらしい。

3. 水は生物\_\_\_\_なくてはならないものだ。

4. 今日は春の一日\_\_\_\_、寒かったですね。

5. あの人は年齢の\_\_\_\_若く見える。

つか  
使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. 議論に時間をかけたわりには、 b. 会議に出席したわ

りには、} いい<sup>けつろん</sup>結論が出なかった。

2. 正月<sup>しょうがつ</sup>はわたしにとって、{ a. いつも<sup>たの</sup>楽しく<sup>す</sup>過ごします。  
b. 1年中でいちばん楽しい時です。}
3. あの人は仕事<sup>しごと</sup>の上では { a. 満点<sup>まんてん</sup>をあげられる人です。 b. と  
きどきいねむりをします。}
4. ここは観光地<sup>かんこうち</sup>にしては、{ a. 訪れる人<sup>おとず</sup>が多い。 b. 訪れる人<sup>おお</sup>  
が<sup>すく</sup>少ない。}
5. 弟<sup>おとうと</sup>が仕事<sup>しごと</sup>をなくして困<sup>こま</sup>っているが、{ a. わたしにしたところ  
で何<sup>なん</sup>もしてやれない。 b. わたしにしたところで何かしてやり  
たい。}



## 11

## I 判断の立場

ものごとを判断するときの立場を言いたいとき

★3	1 ～にとって
	2 ～として
★2	3 ～の <sup>うえ</sup> で・～ <sup>じょう</sup> 上・～ <sup>じょう</sup> 上の
	4 ～からいうと・～からいえば・～からいって
	5 ～からすると・～からすれば・～からして
	6 ～にしたら・～にすれば
	7 ～にしたところで・～としたところで
★1	8 ～なりに・～なりの

## 11

## I・1 ～にとって ★3

【～の立場から考えると】

- ①今、現代人<sup>げんだいじん</sup>にとって<sup>けいたい</sup>携帯電話は生活<sup>せいかつ</sup>の一部<sup>いちぶ</sup>である。
- ②これは普通<sup>え</sup>の絵<sup>え</sup>だけれど、わたしにとって<sup>たいせつ</sup>は大切<sup>おも</sup>な思い出<sup>で</sup>のものだ。
- ③石油<sup>せきゆ</sup>は現代<sup>こうぎょう</sup>の工業<sup>げんりょう</sup>にとってなくてはならない原料である。
- ④うちの家族<sup>かぞく</sup>にとって、この犬<sup>いぬ</sup>はもう友だち<sup>いじょう</sup>以上<sup>そんざい</sup>の存在<sup>そんざい</sup>なのです。

接続 N+にとって

- ▶1) 主<sup>おも</sup>に人<sup>あらわ</sup>を表<sup>めい</sup>す名詞<sup>し</sup>につながり、いろいろな考え<sup>かんが</sup>や感じ方<sup>かん</sup>がある中で、「その人の立場<sup>い</sup>で考えるとどうであるか・その人<sup>つか</sup>にはどう感じられるか」を言いたいときに使う。

2) 後には評価・価値判断を表す文（主に形容詞文）が続くことが多い。

## 11 I・2 ～として ★3

【～の立場で / ～の資格で / ～の名目で】

- ① わたしは前に1度観光客として日本に来たことがある。
- ② 彼は趣味として家具を作っていたが、いつのまにかプロになった。
- ③ 会社側としても、この新製品には自信を持っています。
- ④ S氏は医者としてよりも小説家として有名だ。
- ⑤ ぼくは4月から社会人になります。社会人としての責任感を持ってがんばります。

接続 N+として

▶ 何かをするときや、何かを評価するときの立場・資格・名目・分類などを表す。

## 11 I・3 ～の上で・～上・～上の ★2

【～の方面では / ～を見て評価すると】

- ① 健康診断のデータの上では、わたしの体に問題はない。
- ② この会に参加するには、形式の上で面倒な手続きをとらなければならない。
- ③ お手元の決算報告書をごらんください。計算上のミスはないつもりですが。
- ④ 予算の関係上、今年の社内忘年会はできそうもありません。

接続 Nの+上<sup>うえ</sup>で N+上<sup>じょう</sup>

- ▶ 1) 「～を見て、または、～を考えて判断<sup>はんだん</sup>するとどうであるか」を言いたいときに使う。
- 2) 「～上<sup>じょう</sup>」は「～の上<sup>うへ</sup>で」と同じ意味・用法だが、少し硬<sup>かた</sup>い感<sup>かん</sup>じになる。  
ほかに、法律<sup>ほうりつ</sup>上<sup>じょう</sup>・習慣<sup>しゅうかん</sup>上<sup>じょう</sup>・都合<sup>つごう</sup>上<sup>じょう</sup>・生活<sup>せいかつ</sup>上<sup>じょう</sup>・経済<sup>けいぎ</sup>上<sup>じょう</sup>・健康<sup>けんこう</sup>上<sup>じょう</sup>などの例<sup>れい</sup>がある。

**11** I・4 ～からいうと・～からいえば・～からいって  
★2

【～の方面<sup>ほうめん</sup>から判断<sup>はんだん</sup>すると】

- ① 仕事<sup>しごと</sup>への意欲<sup>いよく</sup>からいうと、田中<sup>たなか</sup>さんより山下<sup>やました</sup>さんの方が上<sup>のう</sup>だが、能力<sup>りよく</sup>からいうと、やはり田中<sup>たなか</sup>さんの方が優<sup>すぐ</sup>れている。
- ② 小林<sup>こばやし</sup>選手<sup>せんしゅ</sup>は年齢<sup>ねんれい</sup>からいえばもうとっくに引退<sup>いんたい</sup>してもいいはずだが、意欲<sup>いよく</sup>も体力<sup>たいりよく</sup>もまだまだ十分だ。
- ③ リンさんの性格<sup>せいかく</sup>からいって、黙<sup>だま</sup>って会<sup>かい</sup>を欠席<sup>けっせき</sup>するはずがない。何かあったのではないだろうか。
- ④ 妻<sup>つま</sup>であるわたしからいっても、あの会<sup>かい</sup>での彼<sup>かれ</sup>の態度<sup>たいど</sup>は許<sup>ゆる</sup>せるものではない。

接続 N+からいうと

- ▶ 「それ<sup>してん</sup>に視点<sup>お</sup>を置いて判断<sup>はんだん</sup>するとどうであるか・その人の視点<sup>ひょうか</sup>で評価<sup>ひょうか</sup>するとどうであるか」を言いたいときに使う。5 「～からすると」と意味・用法<sup>ようほう</sup>が大体同じ。

**11** I・5 ～からすると・～からすれば・～からして ★2

【～の立場<sup>たちば</sup>で考えると】

- ①観光客<sup>かんこうきゃく</sup>からすると、歴史<sup>れきし</sup>のある町に近代的な建物<sup>きんだいてき</sup>が増えるのは残念<sup>ねんざん</sup>なことだ。
- ②安全<sup>あんぜん</sup>を守るという点<sup>まも</sup>からすれば、子どもたちの行動<sup>こうどう</sup>をある程度<sup>ていど</sup>制限<sup>せいげん</sup>するのはしかたがないことだろう。
- ③今日の社長の言い方<sup>きび</sup>からして、うちの会社は今、厳しい状<sup>じょうきよう</sup>況<sup>きよう</sup>にあるようだ。
- ④このごろリサイクルが盛ん<sup>さか</sup>に行われている。これは資源<sup>しげん</sup>の保護<sup>ほご</sup>から見て望ましいことだが、生産者<sup>せいさんしゃ</sup>の側<sup>がわ</sup>からしても有益<sup>ゆうえき</sup>なことだと思う。

#### 接続 N+からすると

- ▶判断・評価<sup>はんだん ひょうか</sup>をする立場・注目<sup>ちゅうもく</sup>する点<sup>てん</sup>を表す。「その立場<sup>ちやうば</sup>に立って、または、それに注目<sup>ちゅうもく</sup>して考えるとどうであるか」を言うときの表現<sup>ひょうげん</sup>。I・4「～からいうと」と意味・用法<sup>ようほう</sup>が大体同じ。  
→ 3 課 6 「～からして」

### 11 I・6 ～にしたら・～にすれば ★2

#### 【～の立場に立ってみれば】

- ①親<sup>おや</sup>にしたら<sup>しんぱい</sup>ぼくのが心配<sup>しんぱい</sup>でしかたがないのだろうが、ぼくはもう大人<sup>おとな</sup>なのだ。
- ②住民側<sup>じゅうみんがわ</sup>からは夜<sup>こうじ</sup>になっても工事<sup>こうじ</sup>の音がうるさいと文句<sup>もんく</sup>が出たが、建築<sup>けんちく</sup>する側<sup>がわ</sup>にしたら、少しでも早く工事<sup>かんせい</sup>を完成<sup>かんせい</sup>させたいのだろう。
- ③ピンクのドレスを着た犬<sup>めいわく</sup>を見た。かわいいと思ったが、犬<sup>いぬ</sup>にすれば迷惑<sup>めいわく</sup>なのではないだろうか。
- ④子どものことは子ども自身<sup>じしん</sup>に任せ<sup>まか</sup>ることにした。子どもに<sup>こどもに</sup>してもその方がいいだろう。

- ⑤店内の改善案をどんどん店長に言った方がいい。店長にしたってそれはありがたいことであるはずだ。

接続 N+にしたら

- ▶ 1) 話者がその人の立場に立ってその人の気持ちを代弁するときに使う。話者以外の人を表す名詞につくことが多い。
- 2) 「～にしても」は「別の人の立場に立った場合も」と言いたいときに使う。「～にしたって」はその口語的な言い方。

## 11 I・7 ～にしたところで・～としたところで ★2

【～の立場でも】

- ①会議で決まった方針に少々不満があります。もっともわたしにしたところでいい案があるわけではありませんが。
- ②こんなに駐車違反が多いのでは、警察にしたところで取り締まりの方法がないだろう。
- ③働く人の立場から仕事がきついと会社に文句を言っても、会社側としたところでどうしようもないのだろう。

接続 N+にしたところで

- ▶ 「～にしたところで...」の形で、ふつう、人を表す言葉「～」につき、「その人の立場から考えても状況は...だ」と言いたいときの表現。後の文は「どうしようもない・何も解決法がない」というようなマイナスの判断や弁解が多い。

## 11 I・8 ～なりに・～なりの ★1

【～にふさわしい程度に】

①きのう彼<sup>かれ</sup>が出した提案<sup>ていあん</sup>について、わたしなりに少し考えてみた。

②あの子ども子どもなりにいろいろ心配<sup>しんぱい</sup>しているのだ。

③社内での地位<sup>ちゐ</sup>が上がったら上がったなりに、責任<sup>せきにん</sup>も重いのです。

④収 入<sup>しゅうにゅう</sup>が少なければ少ないなりの暮<sup>く</sup>らしを楽しめばいいのだろう。

接続 N / 普通形<sup>ふつうけい</sup>（ナA）＋なりに

▶ 1) 「その人に、またはその条 件<sup>じょうけん</sup>に<sup>おう</sup>応じた程度に何かをする」と言いたいときに使う。

2) 謙遜<sup>けんそん</sup>して遠慮<sup>えんりょ</sup>がちにものごとを述<sup>の</sup>べるときに、「わたしなりに<sup>かたち</sup>」の形でよく使うが、目上<sup>め うえ</sup>の人についてはあまり使わない。

## 11 II 評価の視点

ものごとを評価するときの視点を言いたいとき

★3	1 ～わりに（は）
★2	2 ～だけあって
	3 ～にしては
★1	4 ～ともなると・～ともなれば
	5 ～ともあろう

### 11 II・1 ～わりに（は） ★3

【～こととは不釣り合いに】

- ①わたしの母は、年をとっているわりには意欲的（いよくてき）です。
- ②きのうの講演会（こうえんかい）は、思ったわりには人（あつ）が集まらなかった。
- ③このレストランの料理（りょうり）は値段（ねだん）のわりにはおいしくて量（りょう）も多い（おお）ですね。
- ④今日は風（かぜ）があるから、気温（きおん）が高いわりには暑（あつ）く感じ（かん）ないね。

接続 Nの / V・Aの普通形（ナAな・ナAである）＋わりに（は）

- ▶ 1) 「～のことから考えて当然（とうぜん）であると思われる程度（ていど）に合（あ）っていない」と言（い）いたいとき（つか）に使う。
- 2) 3 「～にしては」と意味・用法（い み ようほう）がよく似（に）ているが、「～わりに（は）」は不釣り合い（ふ っ あ）であることを問題（もんだい）にしていることが特徴（とくちょうてき）的。「～わりに（は）」の前後（あらわ ひょうげん）には程度（おお）を表（あらわ）す表現（ひょうげん）が来（こ）ることが多い（おお）。

## 11 II・2 ～だけあって ★2

【～ので、それにふさわしく】

- ①彼は小児科の医者だけあって、子どもの扱い方が上手だ。  
かれ しょうにか あつか
- ②木村さんは若いころ山のガイドをしていただけあって、山のことは何でも知っている。  
きむら わか
- ③このマンションは家賃が高いだけあって、設備が素晴らしいね。  
やちん せつび
- ④この料理、おいしいなあ。最高級の食材を使っただけあるよ。  
さいこうきゅう しょくざい
- ⑤姫路城はさすが世界遺産に指定されているだけのことはある。すばらしい建築だ。  
ひめじじょう いさん してい けんちく

接続 N / 普通形（ナAな）＋だけあって

- ▶ 1) 「～にふさわしく」と感心したり、ほめたりするときの言い方。後には高く評価する言葉が来る。「さすが」とともに使われることが多い。  
かんしん ひょうか ことば
- 2) ④⑤のように文末では「～だけある・～だけのことはある」という形になる。  
ぶんまつ かたち

## 11 II・3 ～にしては ★2

【～にふさわしくなく】

- ①あの人は新入社員にしては、客の対応がうまい。  
しんにゅうしゃいん きやく おうたい
- ②母はもと運動選手だったにしては、体が弱い。  
せんしゅ よわ
- ③この作品は文学賞をとった彼が書いたにしては、完成度が低い。  
さくひん しょう かれ かんせい ど ひく
- ④このレポートは時間をかけて調査したにしては、詳しいデータが集まっていない。  
ちようさ くわ



接続 N / 普通形（ナAである / Nである）＋にしては

- ▶「その事実から考えると、当然とは言えない状態だ」と言いたいときに使う。

## 11 II・4 ～ともなると・～ともなれば ★1

【～という程度の立場になると】

- ①300人も集まるパーティーともなると、しっかりスピーチの準備をしなければならない。
- ②首相ともなると、忙しくてゆっくり家族旅行などではいられないだろう。
- ③12月ともなれば、街はなんとなく気ぜわしくなる。
- ④大学の教授ともなれば自分の研究だけでなく、学生や後輩の指導もしなければならない。

接続 N＋ともなると

- ▶「～ともなると」の「も」は、ある幅をもった範囲のうち、程度がそこまで進んだことを表すから、より程度が進んだことを示す名詞につく。

×子どもともなると、外で遊びたがる。

○2、3歳の幼児はおとなしく家の中で遊ぶが、4、5歳の子どもともなると外で遊びたがる。

×女の子ともなると、将来のことをいろいろ考えるようになる。

○中学生ともなると、将来のことをいろいろ考えるようになる。

## 11 II・5 ～ともあろう ★1

【～のようなりっぱな】

- ①大会社の社長ともあろう人が、軽々しい発言をしてはいけない。

②あなたともあろう人がどうしてあんな簡単なうそにだまされたのですか。

③国会議員ともあろう者が脱税をすることは許せない。

接続 N＋ともあろう

▶「～ともあろうN」の形で話者が高く評価している人やもの「～」につき、「高く評価しているのに実際はそれにふさわしくない行動をした」または「高く評価しているのだからそれにふさわしい行動をしてほしい」などと、話者の感想を述べたいときに使う。

## A ★3・★2

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉を2回ずつ使います。

こた  
答えは [こちら](#)

a. わりに b. にとって c. として d. だけあって e. にしては

はな子「このくつ3,000円だったの。値段の(1. )はきやすいよ」

みち子「そう。わたしのこのくつは高かったよ。でも、一流メーカーのくつ(2. )ほんとうにはきやすいよ」

はな子「へーえ。でも、一流メーカー一品(3. )デザインが悪いね」

みち子「このメーカーはね。はじめはかばん専門のメーカー(4. )名前を知られていたのよ。確かにデザインはあまりよくないけど、ジョギングする人(5. )いろいろな点があるのよ」

はな子「いい点って何？」

みち子「まず、かかとの厚さの(6. )軽いこと。うすい布でできている(7. )丈夫なこと。軽くて丈夫な運動ぐつ(8. )人気があるんだって」

はな子「ふーん。あなたは運動選手(9. )、くつにはくわしいね」

みち子「そう。わたし(10. )、くつはいちばん大切な道具なの

よ」

**B**

中の言葉<sup>ことば</sup>を使って、次の文<sup>つぎ</sup>を完成<sup>ぶん</sup>させなさい。1つの言葉<sup>かんせい</sup>は1回<sup>ひと</sup>しか使<sup>かい</sup>いません。

答えは [こちら](#)

**★3・★2**

a. にとって    b. として    c. わりに    d. 上<sup>うえ</sup>で    e. 上<sup>じょう</sup>

わたしは私費<sup>しひりゅうがくせい</sup>留学生（1.    ）2年前に日本に来ました。今ではもう生活<sup>せいかつ</sup>の（2.    ）は何の問題<sup>もんだい</sup>ありません。けれども、日本語はわたし（3.    ）は大変難<sup>たいへんむずか</sup>しく、最初<sup>さいしよ</sup>は漢字<sup>かんじ</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えるので精<sup>せい</sup>いっぱいでした。漢字だけではなく、文法<sup>ぶんぽう</sup>（4.    ）のさまざまな規則<sup>きそく</sup>もめんどうです。でも、めんどうな（5.    ）は覚えやすいです。今は日本語を勉強<sup>べんきょう</sup>するのが楽<sup>たの</sup>しいです。

**★2・★1**

a. からすれば    b. にしては    c. ともなると    d. ともあろう  
e. なりに

ぼくの会社の社長<sup>さかい</sup>は今年80歳<sup>わかい</sup>。80歳（6.    ）気持<sup>き</sup>ちが若<sup>わか</sup>い。社長はお酒<sup>さけ</sup>を飲<sup>の</sup>むとすぐよっぱらって乱暴<sup>らんぼう</sup>なことを言う。社長（7.    ）人がこれでは困<sup>こま</sup>る。社長（8.    ）飲<sup>の</sup>む機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>が多<sup>おほい</sup>くなるのだろうが、このくせはやめてほしい。ぼく（9.    ）、あまり立派<sup>りっぱ</sup>な社長とはいえない。ぼくだって新入社員<sup>しんにゅうしゃいん</sup>（10.    ）がんばっているんだから、もっと尊敬<sup>そんけい</sup>できる社長になってほしい。

**C ★2・★1**

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 学校の先生たちは今の若者<sup>わかもの</sup>は本を読まないと言うが、生徒<sup>せいと</sup>たちにすれば、{ a. 本よりもおもしろいものがあるのだろう。 b. 先生も本を読まないのだろう。 }
2. この2枚<sup>まい え</sup>の絵<sup>ひょうめんじょう</sup>は、表面上、{ a. とてもきれいです。 b. 何<sup>ちが</sup>の違い<sup>ちが</sup>もありません。 }
3. { a. ベテラン<sup>かしゅ</sup>の歌手<sup>ちが</sup>ともなると、 b. 新人<sup>ちが</sup>の歌手<sup>ちが</sup>ともなると、 } 歌い方がやはり違うね。
4. { a. 学生<sup>がくちよう</sup>ともあろう人が b. 学長<sup>がくちよう</sup>ともあろう人が } どうしてそんな乱暴<sup>らんぼう</sup>な発言<sup>はつげん</sup>をするんですか。
5. 部屋<sup>へ や</sup>が狭<sup>せま</sup>ければ狭<sup>せま</sup>いなりに、{ a. もっと広い<sup>ひろ</sup>家に引越<sup>ひ</sup>ししたい。 b. 工夫<sup>くふう</sup>して楽し<sup>く</sup>く暮<sup>く</sup>らそう。 }

## Basis of Action

基準

기준

何かを基準にして動作が行われると言いたいときは、どんな言い方が  
ありますか。

し  
知っていますか

中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. とおりに   b. をもとにして   c. に基づいた   d. に沿っ  
て   e. のもとで

- 今日のスピーチ大会は、このプログラム\_\_\_\_行います。
- これはある伝説\_\_\_\_作られたドラマです。
- 田中先生のご指導\_\_\_\_、この論文を書きあげました。
- 法律\_\_\_\_公正な選挙が行われなければならない。
- 教科書に書いてある\_\_\_\_実験をやってみたが、うまくいかなかった。

つか  
使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

- 受験は { a. 本人が望んでいたように   b. 本人が望んでいたよ

うな<sup>けっ か</sup>} 結果にはならなかった。

2. { a. この犬<sup>いぬ</sup>は動物<sup>どうぶつ</sup>好き<sup>ず</sup>な田中<sup>た なか</sup>さん夫妻<sup>ふ さい</sup>のもとで b. 田中さん  
夫妻はかわいい犬のもとで} 毎日<sup>しあわ</sup>幸せ<sup>す</sup>そうに過ごしています。

3. ひらがなとかたかなは、漢字<sup>かん じ</sup>をもとにして { a. 使<sup>つか</sup>われた。  
b. 作<sup>つく</sup>られた。 }

4. 小説<sup>しょうせつ</sup>はかならずしも読者<sup>どくしゃ</sup>の期待<sup>き たい</sup>に沿<sup>そ</sup>って { a. 話<sup>てんかい</sup>が展開するわけ  
ではない。 b. おもしろいわけではない。 }

5. 教育<sup>きょういく</sup>は平等<sup>びやうどう</sup>の原則<sup>げんそく</sup>に基<sup>もと</sup>づいて { a. たいへん重<sup>じゅうよう</sup>要<sup>よう</sup>だ。 b. 行<sup>おこな</sup>  
われなければならない。 }

## 12

基準きじゆん

何かを基準どうさにして動作が行われると言いいたいとき

★3

1 ～ように・～ような

2 ～とおり（に）・～とおりの・～とおりだ

3 ～をもとに（して）・～をもとにする・～をもとにした

4 ～を～に（して）・～を～として・～を～にする・～を～とする・～を～にした・～を～とした

★2

5 ～に沿そって・～に沿う・～に沿った6 ～に基づもといて・～に基づく・～に基づいた

7 ～のもとで・～のもとに

★1

8 ～に即そくして・～に即した9 ～を踏ふまえて・～を踏まえた

## 12

## 1 ～ように・～ような ★3

【～とだいたい同じに】

①大けがをした後、体おのが思おもうよううごに動かなくなってしまった。

②人間にんげんに感かん情じょうがあるようい がい どうぶつに、人間以外の動物にも感情があるはずだ。

③ご存じのようぞん まち やました せい おおに、この町には「山下」という姓が多いです。

④この実験じっけんでは、わたしが期待き たいしていたようえなデータは得られなかった。



接続 Nの / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ように

- ▶一致する内容であることを表す。文書などで、「次のように・左記のように」などとはじめに書いておいて、その後で詳しく内容を書くという形式でもよく使われる。2 「～とおりに」と意味・用法がだいたい同じ。  
→ 2 課 I・1 「～ように」

## 12 2 ～とおりに（に）・～とおりの・～とおりで ★3

【～と同じに】

- ①わたしの言ったとおりにやってみてください。
- ②ものごとは自分の考えどおりにはいかないものだ。
- ③試合の結果はわたしが思っていたとおりであった。
- ④この本の作者に初めて直接会うことができた。前から想像していたとおりの人だった。
- ⑤この本に書いてあるとおりに、インターネットにはいろいろな問題点があるのです。

接続 Vる・Vた / Nの＋とおりに N＋どおり（に）

- ▶一致する内容であることを表す。1 「～ように」と意味・使い方が同じだが、「まったく同じに」という感じが強い。

## 12 3 ～をもとに（して）・～をもとにする・～をもとにした ★3

【～を素材にして / ～からヒントを得て】

- ①このドレスは、日本の着物の形をもとに新しくデザインしたものです。

②この映画は歴史的な事実をもとにして作られたものである。

③若いころ体験したことをもとにして、小説を書いてみようと思っています。

④流行歌の中には有名なクラシックの曲の一部もとにしたものがある。

接続 N+をもとに（して）

▶1) あるものが生み出されるときに素材を表す。「その素材を生かしながら何かをする」と言いたいときに使われ、後には、書く・話す・作る・創作する、などの意味を持つ文が来る。

2) 6「～に基づいて」と意味が似ているが、「～をもとにして」は、それから具体的な素材を得るだけであり、「精神的に離れずに」という気持ちは薄い。

**12** 4 ～を～に（して）・～を～として・～を～にする・  
～を～とする・～を～にした・～を～とした ★3

【～を～であると考えて】

①祖父は今日も孫のヒロシを話し相手にして散歩に出かけた。

②今回のキャンプを最後に、わたしたちのグループは解散することになった。

③卒業を1つの区切りとして、これからは自立して生きていきたい。

④この大会に参加できるのは社会奉仕を目的とする団体だけです。

⑤この研究会では環境問題を中心としたさまざまな問題を話し合いたいと思う。

接続 N十を+N十に（して）

- ▶「N1をN2にして」という形で、ある行動や場面において、N1はN2であると言いたいときの表現。

12 5 ～に沿って・～に沿う・～に沿った ★2

【～に合うように / ～に従って】

- ①この学習計画表に沿って、毎日少しずつ単語の勉強を進めていくつもりです。
- ②ただ今のご質問に対してお答えします。ご期待に沿う回答ができるかどうか自信がありませんが.....。
- ③製品の説明をするときは、マニュアルに沿ったやり方で進めれば失敗はないだろう。

接続 N十に沿って

- ▶「～から離れないで・～からずれないで」という意味を表す。期待・希望・方針・マニュアルなどの語につくことが多い。

12 6 ～に基づいて・～に基づく・～に基づいた ★2

【～を基本にして】

- ①わたしは自分の経験に基づいて、意見を述べたいと思います。
- ②この小説は歴史的事実に基づいて書かれたものです。
- ③わたしは、彼の人道主義に基づく考え方に同感した。
- ④これはただの推測ではなく、たくさんの実験データに基づいた科学的事実である。

## 接続 N十に基づいて

- ▶「～を考え方の基本にして、あることをする」と言いたいときに使う。「精<sup>せい</sup>神<sup>しんてき</sup>的に離れずに・忠<sup>はな</sup>実<sup>ちゅうじつ</sup>に」というニュアンスで使う。

## 12 7 ～のもとで・～のもとに ★2

【～を頼<sup>たよ</sup>って / ～の下で】

- ①わたしは、いい環<sup>かん</sup>境<sup>きやう</sup>、いい理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>者<sup>しゃ</sup>のもとで、恵<sup>めぐ</sup>まれた生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>を送ることができた。
- ②ぼくは今、作<sup>さつ</sup>曲<sup>きよく</sup>家<sup>か</sup>の小<sup>こ</sup>林<sup>ばやし</sup>先生<sup>せんせい</sup>のもとで作曲<sup>さく</sup>を勉<sup>べん</sup>強<sup>きやう</sup>しています。
- ③当<sup>とう</sup>社<sup>しゃ</sup>の薬<sup>やく</sup>品<sup>ひん</sup>は厳<sup>きび</sup>しい管<sup>かん</sup>理<sup>り</sup>のもとに保<sup>ほ</sup>存<sup>ぞん</sup>されています。
- ④新<sup>しん</sup>しいリ-ダーのもとに、人<sup>ひと</sup>々<sup>びと</sup>は協<sup>きやう</sup>力<sup>りよく</sup>を約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>し合<sup>あ</sup>った。

## 接続 N十のもとで

- ▶「～の影<sup>えい</sup>響<sup>きやう</sup>の下で・～の影<sup>えい</sup>響<sup>きやう</sup>を受<sup>う</sup>けながら」という意味。

## 12 8 ～に即<sup>そく</sup>して・～に即<sup>そく</sup>した ★1 W

【～に従<sup>したが</sup>って】

- ①規<sup>き</sup>則<sup>そく</sup>は、その時<sup>とき</sup>々<sup>どき</sup>の实<sup>じつ</sup>情<sup>じやう</sup>に即<sup>そく</sup>して変<sup>か</sup>えることがあってもいいのではないでしようか。
- ②現<sup>げん</sup>行<sup>こう</sup>の法<sup>ほう</sup>律<sup>りつ</sup>に即<sup>そく</sup>してものごとの可<sup>か</sup>否<sup>ひ</sup>を判<sup>はん</sup>断<sup>だん</sup>しなければならない。
- ③非<sup>ひ</sup>常<sup>じやう</sup>事<sup>じ</sup>態<sup>たい</sup>でも、人<sup>じん</sup>道<sup>どう</sup>に即<sup>そく</sup>した行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>がとれるようになりたい。

## 接続 N十に即して

- ▶そのことが基<sup>き</sup>準<sup>じゆん</sup>になるという意味。事<sup>じ</sup>実<sup>じつ</sup>・規<sup>き</sup>範<sup>はん</sup>を表<sup>あらわ</sup>す名<sup>めい</sup>詞<sup>し</sup>につく。

## 【～を土台や前提にして】

- ①本日は前回の中間報告<sup>ほんじつ ぜんかい ちゅうかんほうこく</sup>を踏まえて<sup>ふ</sup>、活発<sup>かつぱつ</sup>な討論<sup>とうろん</sup>を進めて<sup>すす</sup>いきたい  
と思います。
- ②わが社は今回の事業<sup>しゃ こんかい</sup>の失敗<sup>じ ぎょう</sup>という事実<sup>じ じつ</sup>を踏まえて<sup>ふ</sup>、次の事業計画<sup>つぎ</sup>  
を立てなければならない。
- ③子育て支援<sup>こ そだ し えん</sup>については、現実<sup>げんじつ</sup>を踏まえた柔軟<sup>じゅうなん</sup>な対応<sup>たいおう</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>だろ  
う。

## 接続 N＋を踏まえて

- ▶「あることを土台や前提にした上で、考えや行動を進める<sup>すす</sup>」と言いたいとき  
に使う。

## A ★3・★2

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉はI、IIそれぞれで、1回ずつしか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. ような    b. どおり    c. に沿って    d. に基づく    e. をもとにして    f. のもとに

## I

この作家は大病の後、親の保護（1. ）静かに暮らしていた。そして、その時、母親から聞いた話（2. ）書いたのがこの作品である。伝統的な小説作法（3. ）創作したようだ。若い人が好む（4. ）話ではないが、史実（5. ）貴重な作品である。予想（6. ）今年の賞を受けた。

## II

次の（1. ）スケジュールで工場見学を行いますので、どうぞご参加ください。見学は案内図（2. ）、順番に行います。第1工場では不用ガラスびん（3. ）新しい素材を作り出す行程を見ることができます。これはA大学の山田先生のご指導（4. ）実験を行ってきたものです。われわれの期待（5. ）の結果が得られました。今回ご覧いただくのはその実験結果（6. ）ものです。

## B ★3・★2・★1

の中の言葉を使って、例のように前の文と後の文をつなげなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

答えは [こちら](#)

a. どおりに    b. とおりに    c. ような    d. をもとにして  
e. のもとでは    f. を中心にして    g. に基づく    h. に即して  
i. を踏まえて

例 説明書 a、ケ。

1. 自然界にある物質         、        。

2. あすは関東地方         、        。

3. 前回の研 修 会の反省         、        。

4. わたしが発音する         、        。

5. 違反者は規定         、        。

6. この雑誌は最新の情 報                  。

7. 軍事体制         、        。

8. ここに書いてある                  。

ア. 全国的に雨が降ります。    イ. 新しい企画を考えてみよう。

ウ. 正しくかたかなを書きなさい。    エ. 記事が少ない。

オ. 罰する。    カ. 自由な発想は生まれれないと思う。

キ. 次々に新しい化合物が作られる。    ク. 日程で北海道へ行く。

ケ. 組み立てて、本箱を作った。

## 13

かんれん たいおう  
関連・対応

Dependency / Correspondence

关联，对应

관련/대응

ふた 2つのものごとの間に関連があると言いたいときは、どんな言い方が  
ありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. によって b. によっては c. をきっかけに d. のたび  
に e. に応じて

1. フランス旅行\_\_\_\_、わたしはフランス料理を習い始めた。
2. 人は地位\_\_\_\_、社会的責任も重くなる。
3. 場合\_\_\_\_、今夜は家に帰れないかもしれません。
4. 同じ料理でも、店\_\_\_\_、味が違う。
5. あの人は出張\_\_\_\_、書類を入れるかばんを買い替える。

つか  
使えますか

ただ どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 天気によって、{ a. ここから富士山が見えたり見えなかったり



する。 b. ここから富士山は見えない。}

2. テレビに出たことがきっかけで、{ a. うれしかった。 b.   
急に友人が増えた。}

3. 母は美容院へ行くたびに、{ a. 髪型を変える。 b. 楽しそう  
だ。}

4. この音楽を聴くにつけて、{ a. とても懐かしい。 b. 子ども  
のころのことを思い出す。}

5. { a. 解決方法があるのは、 b. どんな解決方法を選ぶか  
は、} あなたの考え方次第です。

## 13

かんれん たいおう  
関連・対応ふた 2つのものごとの間に関連があると あいだ 言いたいとき い

★3	1	～によって・～による
	2	～によっては
	3	～たび（に）
	4	～をきっかけに（して）・～をきっかけとして
★2	5	～次第で・～次第だ <small>しだい</small>
	6	～次第では
	7	～に応じて・～に応じた <small>おう</small>
	8	～につけて
★1	9	～を契機に（して）・～を契機として <small>けい き</small>
	10	～いかんで・～いかんによって・～いかんだ
	11	～いかんでは・～いかんによっては

## 13

## 1 ～によって・～による ★3

【それぞれの～に対応して】 たいおう①わたしはその日の気分によって、服を変えます。 きぶん ふく か②最近 さいきん は日によって暑 あつ かったり涼 すず かったりですね。③人 かんが により、考え方 かた はいろいろだ。④季節 きせつ による風景 ふうけい の変化 へんか は、詩 し や歌 うた の題材 だいざい になることが多い。

接続 N＋によって

▶さまざまな種類や可能性を表す名詞につき、それぞれに対応して後の事柄もそれぞれ違うことを表す。後には、「違っている・同じではない」という意味を表す文が来る。

→ 2 課 II・1 「～によって・～による」 / 19 課 I・1 「～によって・～による」

## 13 2 ～によっては ★3

【ある～の場合は】

- ①この地方は、年によっては 3～4 回も台風の被害を受けることがある。
- ②母が病気になるので、場合によっては研修旅行には参加できないかもしれません。
- ③うちの近所の人たちはみんな早起きだ。人によっては 4 時ごろ起きるようだ。

接続 N+によっては

▶「～によっては...」の形で、さまざまな種類や可能性を表す名詞「～」につき、「そのうちのある場合は...のこともある」と言いたいときに使う。  
「～によって」の用法の一部。さまざまな種類の中の 1 つだけを取り出して述べる言い方。

## 13 3 ～たび（に） ★3

【～のときはいつも】

- ①わたしは引っ越しのたびに本を整理してきた。
- ②あの人は会うたびにおもしろい話を聞かせてくれる。
- ③父は外国に行くたびに珍しいおみやげを買ってくる。

接続 V る / N の十たび (に)

- ▶「あることが起<sup>お</sup>こると、そのときはいつも同<sup>おな</sup>じことになる」と言<sup>い</sup>いたいときにつ<sup>つか</sup>に使う。

13 4 ～をきっかけに (して)・～をきっかけとして ★3

【～が、ものごとを始<sup>はじ</sup>める直接<sup>ちよくせつ</sup>の原因<sup>げんいん</sup>で】

- ①今<sup>こん</sup>度<sup>ど</sup>の選<sup>せん</sup>挙<sup>きょ</sup>を<sup>を</sup>きっ<sup>き</sup>かけ<sup>け</sup>に、わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>は政<sup>せい</sup>治<sup>じ</sup>に<sup>に</sup>関<sup>かん</sup>心<sup>しん</sup>を持<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>にな<sup>な</sup>った。
- ②テレ<sup>て</sup>ビ<sup>び</sup>で料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>番<sup>ばん</sup>組<sup>ぐみ</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>きっ<sup>き</sup>かけ<sup>け</sup>と<sup>と</sup>して、わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>も料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>を<sup>を</sup>習<sup>なら</sup>お<sup>お</sup>う<sup>う</sup>と思<sup>おも</sup>った。
- ③ある日<sup>に</sup>本<sup>に</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>じん</sup>と友<sup>りゅう</sup>だ<sup>がく</sup>ち<sup>かん</sup>にな<sup>な</sup>った<sup>が</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>きっ<sup>き</sup>かけ<sup>け</sup>で、日<sup>に</sup>本<sup>に</sup>留<sup>りゅう</sup>学<sup>がく</sup>を<sup>を</sup>考<sup>かん</sup>え<sup>え</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>にな<sup>な</sup>った。

接続 N + をきっかけに (して)

- ▶あるこ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>始<sup>はじ</sup>めた<sup>た</sup>直<sup>ちよく</sup>接<sup>せつ</sup>の<sup>の</sup>原<sup>げん</sup>因<sup>いん</sup>・動<sup>どう</sup>機<sup>き</sup>を<sup>を</sup>言<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>。③のよ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に「～が<sup>か</sup>き<sup>か</sup>け<sup>け</sup>で」の<sup>の</sup>形<sup>かたち</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る。

13 5 ～次第<sup>しだい</sup>で・～次第<sup>しだい</sup>だ ★2

【～で】

- ①言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>の使<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>方<sup>て</sup>次<sup>おこ</sup>第<sup>よろこ</sup>で<sup>で</sup>相<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>を<sup>を</sup>怒<sup>おこ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>し、喜<sup>よろこ</sup>ば<sup>ば</sup>せ<sup>せ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る。
- ②夏<sup>てんこう</sup>の天<sup>く</sup>候<sup>だもの</sup>次<sup>あま</sup>第<sup>き</sup>で<sup>で</sup>秋<sup>き</sup>の果<sup>くだもの</sup>物<sup>あま</sup>の甘<sup>あま</sup>さ<sup>き</sup>が<sup>が</sup>決<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>だ。
- ③国<sup>えんじょ</sup>の援<sup>えん</sup>助<sup>じょ</sup>を<sup>を</sup>受<sup>う</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>受<sup>う</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ない<sup>ない</sup>か<sup>か</sup>は、こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>仕<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>結<sup>けつ</sup>果<sup>か</sup>次<sup>しだい</sup>第<sup>で</sup>で<sup>で</sup>す。

接続 N + 次第で

▶主として程度や種類の違いを表す語につき、「それに対応してあることが変わる、あることを決める」と言いたいときに使う。1「～によって」、10「～いかんで」と大体同じ意味・用法だが、「～によって」より硬い言い方、「～いかんで」より一般的に使われる言い方。

→24課Ⅱ・10「～次第だ」

## 13 6 ～次第では ★2

【ある～の場合は】

①病 状の進み方次第では、手術をしなければならないだろう。

②道の込み方次第では、着くのが大幅に遅れるかもしれません。

③こちらの頼み方次第では、彼がこの仕事を引き受けてくれる可能性もある。

接続 N＋次第では

▶「～次第では…」の形で、主として程度や種類の違いを表す語「～」につき、「そのうちのある場合は…のこともある」と言いたいときに使う。  
「～次第で」の用法の一部。いろいろな可能性の中の1つを取り上げて述べる言い方である。2「～によっては」、11「～いかんでは」と大体同じ意味・用法だが、「～によっては」より硬い言い方、「～いかんでは」より一般的に使われる言い方。

## 13 7 ～に応じて・～に応じた ★2

【～に対応して】

①アルバイト料は労働時間に応じて計算される。

②緊急の場合は状況に応じて指示を出しますから、それに従ってください。

③当店でお客様のご予算に応じてお料理をご用意いたします。

④わたしは毎日その日の体調に応じた運動をするようにしています。

接続 N＋に応じて

▶「～がかわれば、それにあわせてあることを決める・あることがき変わる」という意味を表す。

## 13 8 ～につけて ★2

【～にかん連していつも】

①子どもたちの遊び方を見るにつけて、わたしは子どものころの自分を思い出す。

②ビバルディの「四季」という曲を聴くにつけ、この曲の透明な美しさに感動する。

③彼女はかのじよ何ごとにつけても、他人を非難する人だ。

④母は体の調子がいいにつけ悪いにつけ、神社に行って手をあわせている。

接続 Vる＋につけて

▶1)「たまたま同じ状況にじようきようあるとき、それにかん連していつも同じ感情が起る」という意味。後の文には話者の気持ちにかんけいがある文が来ることが多い。

2)「見る・聴く・考える」などの動詞につく例が多い。③④のような慣用表現もある。

## 13 9 ～を契機に（して）・～を契機として ★2 W

【～をちょうどいい機会きかいだと考えて】

①彼女かのじょは就職しゅうしょくを契機きかいにして、親おやから独立どくりつして1人暮らしひとりぐしを始めた。

②転居てんきょを契機きかいに、これからは何かいい趣味しゅみをもって生活せいかつを楽しもうと思った。

③今度の入院こんごを契機きかいとして、今後は定期検診ていきけんしんをきちんと受ける決心うをした。

接続 N+を契機に（して）

▶1) 「～をいい機会だと考え、または、～を新たな行動あらこうどうの発端はつたんにして」と言いたいときに使う。後あとにはプラスの意味ぶんの文が来ることが多い。

2) 意味・用法ようほうは4「～をきっかけに（して）」とほとんど同じだが、「～を契機きかいに（して）」はできごとや動作どうさを表す名詞めいしにつながるものが特徴とく的である。

## 13 10 ～いかで・～いかんによって・～いかんだ ★1 W

【～に対応たいおうして】

①選挙せんきょの結果けついかんで、今後こんごの政治せいじの方針ほうしんが決まるのだ。

②商品しょうひんの説明せつめいのしかたいいかに、売れ行きうゆに大きく差さが出てきてしまう。

③国よの予算さんの使い方いいかに、国民こくみんの暮らしくやすさが左右さゆうされると思う。

④今度の事件じけんをどう扱うあつかかは校長あつかの考え方いいかんです。

接続 N（の）+いかに

▶1) 主として程度しゆや種類ていどの違いしゆいを表す語ちがにつながり、「それに対応たいおうしてあることが変わる・あることを決める」と言いたいときに使う。

2) 5 「～次第で」<sup>し だい</sup>と意味・用法が同じだが、硬い形式的な言い方。<sup>ようほう</sup><sup>かた けいしきてき</sup>

## 13 11 ～いかんでは・～いかんによっては ★1 W

【ある～の場合は】<sup>ば あい</sup>

①選挙の結果いかんでは、政権が変わるかもしれない。<sup>せんきょ けつ か</sup><sup>せいけん か</sup>

②本の売れ行きいかんでは、すぐに増刷ということもあるでしょう。<sup>う ゆ</sup><sup>ぞうさつ</sup>

③出港は午後3時だが、天候のいかんによっては、出発が遅れることもある。<sup>しゅっこう</sup><sup>てんこう</sup><sup>おく</sup>

接続 N (の) + いかんでは

▶ 1) 主として程度や種類の違いを表す語につき、「そのうちのある場合は...  
のこともある」と言いたいときに使う。「～いかんで」<sup>ようほう いち ぶ</sup>の用法の一部。  
いろいろな可能性の中の1つを取り上げて述べる言い方。<sup>か のうせい</sup><sup>ひと と</sup><sup>の</sup>

2) 6 「～次第では」<sup>し だい</sup>と意味・用法が同じだが、硬い形式的な言い方。<sup>かた けいしきてき</sup>



## A ★3・★2

□の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を言い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. によって    b. によっては    c. たびに    d. をきっかけとして  
e. 次第だ    f. に応じた    g. につけて

1. この会では、年齢や条件にあったアルバイトを紹介します。
2. 年が違えば、1年間の総雨量が違う。
3. 同窓会での再開がチャンスになって、2人はまた親しくつき合うようになった。
4. あの人は何かの場合にいつも、自分の親のことを自慢する。
5. わたしの家は古いので、地震のときはいつも大きく揺れる。
6. わたしの電話代は2万円を超える月もある。→わたしの電話代は、月（ ）2万円を超える。
7. 客が増えるか増えないかは、営業の努力によって決まる。

## B ★2・★1

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. に応じて    b. 次第では    c. につけて    d. を契機にして  
e. いかんだ

この会社は新しい発想はっそう もとに基づいた介護サービスかいごの開発かいはつ（1. ）、急速きゅうそくに成長せいちょうした。この成長ちようせんは、新しい発想への挑戦いよくにスタッフが意欲いよく的になるのもならないのも、トップの人たちの指導しどう（2. ）ということを示しめしていると思う。今後せんもんでき、専門的サービス技術ぎじゅつの伸び方の（3. ）、この会社は業界の指導的役割しどうてきやくわりを演じることになるだろう。また、社会の必要ひつよう（4. ）、会社のサービス分野かも変わっていきと思う。わたしは高齢化社会こうれいかと介護サービスかいごについての報道ほうどうを目にする（5. ）、この会社の将来性しょうらいせいを感じるのである。

**C ★3・★2・★1**

次の文の ■ に入る最もよいものを選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. この山は ■ 変化する。

a. 位置と角度 い ち かくど   b. 見る   c. いろいろに   d. によって

2. 面接試験めんせつ し けんの合否ごう ひは、あなたの ■ だと思います。

a. 熱意 ねつ い   b. 仕事 し ごと   c. 次第 し だい   d. に対する たい

3. この高齢者施設こうれいしゃ し せつでは入居者にゆうきよしゃの ■ を計画けいかくしている。

a. 好み この   b. レクリエーション たの   c. 楽しい   d. に応じた おう

4. わたしは今まで、 ■ しなけ  
ばならなかった。

a. 仕事を   b. 手続きて つづを   c. 面倒な めんどう   d. 変えるたびに か

5. 日本に來たばかりのころは、\_\_\_\_\_ ■ \_\_\_\_\_  
のは国の家族のことだった。

a. 何を    b. につけても    c. <sup>おも</sup> <sup>だ</sup> 思い出す    d. 見る

6. わたしは \_\_\_\_\_ ■ \_\_\_\_\_ <sup>かい</sup> <sup>たいかい</sup> この会を退会する  
ことになるだろう。

a. <sup>かいちょう</sup> <sup>たいど</sup> 会長の態度    b. いかん    c. は    d. によって

## 14

む かんけい む し れいがい  
無関係・無視・例外

Unrelated Conditions / Exceptions

无关，无视，例外

무관계/무시/예외

関係ない・考えに入れない・例外だ、と言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

中の言葉を使って、文を完成させなさい。（2回使うものもあります）

こた  
答えは [こちら](#)

a. にかかわりなく    b. はともかく    c. もかまわず

1. この仕事は内容\_\_\_\_、給料の面でちょっと問題がある。
2. 値段の高い安い\_\_\_\_、いい物は売れるという傾向がある。
3. 田中さんは相手の都合\_\_\_\_仕事を頼んでくるので、本当に困る。
4. この店の料理は値段\_\_\_\_、味は最高だ。
5. 電車の中で人が見ているの\_\_\_\_泣いている女の人を見た。

つか  
使えますか

ただ                      ほう    えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. 会に参加するしないにもかかわらず、    b. 会に参加する

しないにかかわらず} アンケートにはお答えください。

2. 交通信号が赤なこうつうしんごう あかのもかまわず、{ a. あの人は道みち わたを渡ってしまった。 b. 道を渡ってしまおう。 }
3. このアパートは家賃や ちん たかの高さはさておき、{ a. 部屋へ や ひろも広くていい。 b. 環境かんきょうがとても気に入った。 }
4. { a. この仕事し ごとは経験けいけんの有無う む とを問わず、 b. この仕事わかは若い人とし よやお年寄りを問わず、 } だれでも応募おう ぼできます。
5. その車かを買うかどうかはともかくとして、{ a. やっぱり買うことにしよう。 b. まず見に行こう。 }

## 14

## 無関係・無視・例外

関係ない・考えに入れない・例外だ、と言いたいとき

## ★3

1 ～にかかわりなく

2 ～にかかわらず

3 ～を問わず・～は問わず

## ★2

4 ～もかまわず

5 ～はともかく（として）

6 ～はさておき

## ★1

7 ～いかんによらず・～いかんにかかわらず

8 ～をものともせず（に）

9 ～をよそに

10 ～はいざしらず・～ならいざしらず

## 14

## 1 ～にかかわりなく ★3

【～に関係なく】

①このデパートは曜日にかかわりなく、いつもこんでいる。

②この高校のラグビー部では、天候にかかわりなく毎日練習があります。

③今回の研修旅行に参加するしないにかかわりなく、こちらの用紙に必要事項をお書きください。

④金額の多少にかかわらず、寄付は大歓迎です。

⑤経験があるかないかにかかわらず、やる気のある人を採用します。

**接続** N+にかかわりなく・にかかわらず

- 14** 2 ～にかかわらず ★2

**14** 3 ～を問<sup>と</sup>わず・～は問<sup>と</sup>わず ★2

④近年、文化財保護の問題は、国の内外を問わず大きな関心と呼んでいる。

接続 N十を問わず・は問わず

- ▶ 1) 「～を問わず…」の形で「～がどうであっても、またどちらであっても、…が言える」という意味。
- 2) 対立関係にある言葉に続くことが多い。

- 3) 1 「～にかかわりなく」、2 「～にかかわらず」と意味・用法が大体同じ。

## 14 4 ～もかまわず ★2

【～も気にしないで】

- ①父は身なりもかまわず出かけるので、いっしょに歩くのが恥ずかしい。
- ②電車の中で人目もかまわず化粧している女の人をどう思いますか。
- ③あの高校生は、ここが駐輪禁止であるのもかまわず、自転車を置いて行ってしまった。
- ④アパートのとなりの人はいつも夜遅いのもかまわず、大きな音で音楽を聞いている。

接続 N / 普通形（ナAな・ナAである / Nな・Nである）十の十もかまわず

- ▶「普通は注意を払うことだが、それを気にしないで」という意味を表す。②の「人目もかまわず」は慣用的表現。

## 14 5 ～はともかく（として） ★2

【～は今は問題にしないで】

- ①あの子は、学校の成績はともかく、だれに対してもやさしくて友だちが多いのです。
- ②コストの問題はともかく、重要なのはこの商品が売れるかどうかだ。
- ③この計画は実行できるかどうかはともかくとして、まず実行する価値



値<sup>ち</sup>があるかどうかをもう1度よく考えてみよう。

接続 N(十助詞) 十はともかく(として)

- ▶「～はともかく...」の形で、「～は問題があっても、今はそれを考えるよりも...を優先<sup>ゆうせん</sup>させて考える」という気持ちで使う。

## 14 6 ～はさておき ★2

【～は今は考えの外に置いて<sup>お</sup>】

- ①就職<sup>しゅうしょく</sup>の問題はさておき、今の彼<sup>かれ</sup>には健康<sup>けんこう</sup>を取り戻<sup>と</sup>すことが第一<sup>だいいち</sup>だ。
- ②責任<sup>せきにん</sup>がだれにあるのかはさておき、今は今後<sup>こんご</sup>の対策<sup>たいさく</sup>を考えるべきだ。
- ③(2人の男の人が別の話をした後)
- 「それはさておき、例<sup>れい</sup>のことはどうなっているんだろう」
- 「中国進出<sup>ちゅうごくしんしゅつ</sup>の話? 聞いてないなあ」

接続 N(十助詞) 十はさておき

- ▶「～はさておき...」の形で、「今は～を考えの外に置いて、...の方<sup>かたち</sup>を考える<sup>あらわ</sup>」という意味を表す。

## 14 7 ～いかんによらず・～いかんにかかわらず ★1 W F

【～がどうであっても、それに関係なく<sup>かんけい</sup>】

- ①理由<sup>りゆう</sup>のいかんによらず、会場使用<sup>しやう</sup>のキャンセルについてはキャンセル料をいただきます。
- ②試験<sup>けつ</sup>の結果<sup>か</sup>いかんによらず、試験中<sup>ふ</sup>に不正行為<sup>せいこうい</sup>のあったこの学生の

入学は認められない。

③進行状況のいかんによらず、中間報告を提出してください。

④この奨学金は、成績のいかんにかかわらず、経済的な必要度の高い学生に与えられる。

⑤この区では、場所のいかんにかかわらず路上喫煙は禁止です。

接続 N（の）＋いかんによらず

▶「N（の）いかんによらず・いかんにかかわらず」の形で、「Nがどうであっても、それに関係なく後のことが成立する」という意味を表す。

## 14 8 ～をものともせず（に） ★1

【～に負けないで】

①山田選手はひざのけがをものともせず決勝戦に出た。

②家族の猛反対をものともせずに、石田さんは会社をやめて料理屋を開いた。

③村の人々は山で遭難した人を助けるため、風雨をものともせずに出発した。

接続 N＋をものともせず（に）

▶1）「困難に負けないで、何かに勇敢に立ち向かう」という意味を表す。

2）話者自身の行為には使わない。

## 14 9 ～をよそに ★1

【～を自分とは関係ないものとして】

①家族の期待をよそに、彼は結局大学には入らずにアルバイト生活

つづ  
を続けている。

②老人<sup>ろうじん</sup>や低所得者層<sup>ていしょとくしゃそう</sup>の不安<sup>ふあん</sup>をよそに、ふたたび増税<sup>ぞうぜい</sup>が計画されている。

③忙し<sup>いそが</sup>そうに働く人々<sup>はたら</sup>をよそに、彼は1人<sup>ひとり</sup>マイペースで自分の研究に打ち込んでいた。

④うちの父は、中高年<sup>ちゅうこうねん</sup>のパソコンブームをよそに、今でも手書き<sup>てが</sup>の手紙をていねいに書く。

接続 N十をよそに

▶「～を自分に関係のあることと、とらえるのが普通<sup>ふつう</sup>だが、この場合は自分とは関係ないものとして」という意味で使う。

## 14 10 ～はいざしらず・～ならいざしらず ★1

【～は特別だから例外だが】

①「美術館<sup>びじゅつかん</sup>はこんでいるんじゃないかしら」  
「土日<sup>どにち</sup>はいざしらず、ウィークデーだから大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>だよ」

②知らなかったのならいざしらず、知っていてこんなことをするなんて許<sup>ゆる</sup>せない。

③神様<sup>かみさま</sup>ならいざしらず、普通<sup>ふつう</sup>の人間<sup>にんげん</sup>には明日<sup>あす</sup>何<sup>お</sup>が起こるかさえわからない。まして1年<sup>さき</sup>先のことなんて……。

接続 N(十助詞)<sup>じょし</sup>十はいざしらず N(十助詞)<sup>ふつうけい</sup>/普通形(十の)  
(ナA・ナAなの / N・Nなの)十ならいざしらず

▶「その場合は別<sup>べ</sup>だが」と除外<sup>じょがい</sup>してしまうときの言い方。

## A

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★2

1. コンビニは昼夜 { a. を問わず、 b. はさておき、 } 営業している。
2. 合格するかどうか { a. はともかくとして、 b. もかまわず、 } いちおう受験してみるつもりだ。
3. 会長の責任問題 { a. を問わず、 b. はさておき、 } 今はどうやって会をまとめるかを考えよう。
4. 最近、他人がどう思うか { a. はさておき、 b. もかまわず、 } 電車の中で物を食べている人を見かける。
5. 面接の結果は、採否 { a. にかかわらず、 b. はともかく、 } 手紙で通知します。

## ★1

6. 山田さんの家庭事情 { a. にかかわらず、 b. をよそに、 } 会社は彼を異動させた。
7. 伊藤さんは経済的困難 { a. もかまわず、 b. をものともせず、 } いつも力強く生きている。
8. サッカーの試合は天候 { a. はさておき b. のいかんによらず } 行われます。
9. きちょうめんな青山さん { a. ならいざしらず、 b. はさてお

き、} あの池田<sup>いけ だ</sup>さんがあの時のメモを持っているはずがないで  
しょう。

**B ★2・★1**

<sup>こと ば</sup>の中の言葉<sup>つか</sup>を使って、次の文<sup>つぎ ぶん</sup>を完成<sup>かんせい</sup>させなさい。1つの言葉<sup>ひと</sup>  
は1回<sup>かい</sup>しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. もかまわず   b. にかかわらず   c. をものともせずに   d.  
よそに   e. ともかく   f. はいざしらず   g. はさておき

わたしの友だちはみんな、うちの家族はおもしろいと言う。おもしろ  
いかどうかは（1.    ）、ちょっと変<sup>へん</sup>なことは確<sup>たし</sup>かだ。まず、父  
だ。父はもう定年<sup>ていねん</sup>を過ぎ<sup>す</sup>たのに、仕事があるない（2.    ）、毎日ど  
こかへ出かけていく。いったいどこへ行くのかは、神様<sup>かみさま</sup>（3.    ）、  
家族のだれも知らない。次<sup>つぎ</sup>は、母。母は、「あそこの奥<sup>おく</sup>さんは……」  
という近所<sup>きんじょ</sup>の人たちの視線<sup>し せん</sup>を（4.    ）、毎日着飾<sup>き かざ</sup>ってショッピング  
だ。姉は朝、時間がないからと言って髪<sup>かみ</sup>もとかさずに家を出ていく。  
きっと、他人<sup>た にん</sup>の迷惑<sup>めいわく</sup>（5.    ）、電車の中で長い髪をとかしているに  
違<sup>ちが</sup>いない。弟はどうかというと、こんな家庭環 境<sup>か てい かん きょう</sup>（6.    ）、勉強<sup>ひと</sup>一  
筋<sup>すじ</sup>だ。こんな家族でも、夜になるとなんとなく集まって、おしゃべり  
する。さて、家族のこと（7.    ）、わたしもそろそろ25歳<sup>さい</sup>。自分探<sup>さが</sup>  
しの旅<sup>たび</sup>に出ようか。

## 15

れい じ  
例示

## Giving Examples

举例

예시

れい あ い かた  
例を挙げたいときはどんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

こと ば つか ぶん かんせい  
[ ] 中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. とか b. や c. にしても d. やら e. にしろ

- つくえ し りょう ず めん いろえんぴつ お  
1. 机の上には資料や図面\_\_\_\_色鉛筆などが置いてある。
- りょうこう  
2. ただぶらぶらしていないで、本を読むとか旅行をする\_\_\_\_、もっと  
ゆうこう つか  
と休みを有効に使ったらどうですか。
- たろう じ ろう うんどう にが て  
3. 太郎にしても次郎\_\_\_\_、うちの子はどうしてみんな運動が苦手な  
んだらう。
- かん じ みつ も じ おぼ  
4. 日本語では漢字やらひらがな\_\_\_\_、3つも文字を覚えなければな  
らない。
- てん あ や りょう り ひ か げん たい  
5. 天ぷらを揚げるにしろ、ケーキを焼く\_\_\_\_、料理は火加減が大  
せつ  
切だ。

つか  
使えますか

ただ ほう えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 決<sup>き</sup>まったら { a. メールするやらファクスするやらして b. メールするとかファクスするとかして } 知<sup>し</sup>らせてください。
2. わたしは { a. 桜<sup>さくら</sup>とか梅<sup>うめ</sup>とかいった b. 桜やら梅やらいった } 木<sup>き</sup>に咲<sup>さ</sup>く花<sup>はな</sup>が好<sup>す</sup>きだ。
3. あけみさんとかミナさんとか、 { a. クラスにはいません。 b. クラスには人<sup>にん</sup>気<sup>き</sup>者<sup>もの</sup>が多<sup>おほ</sup>い。 }
4. 大学にせよ専<sup>せん</sup>門<sup>もん</sup>学校にせよ、 { a. あなたはどちらに行くのですか。 b. 行<sup>もく</sup>くなら目的<sup>てき</sup>をはっきり持<sup>も</sup>ちなさい。 }
5. 彼<sup>かれ</sup>の部<sup>へ</sup>屋<sup>や</sup>には大<sup>おお</sup>型<sup>がた</sup>テレビやら高<sup>こう</sup>級<sup>きゅう</sup>ソファやら、 { a. 高<sup>たか</sup>そうなもの<sup>もの</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>っぱい<sup>い</sup>ある。 b. 何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>ない。 }

## 15 例示

例を挙げたいとき

★3	1    ～とか～とか
	2    ～にしても～にしても
★2	3    ～といった
	4    ～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ
	5    ～やら～やら
	6    ～というか～というか
★1	7    ～なり～なり
	8    ～といい～といい
	9    ～といわず～といわず
	10    ～であれ～であれ・～であろうと～であろうと

## 15 1    ～とか～とか    ★3

【～や～など】

- ①寒い日は、野菜とか肉とか豆腐とかをいっぱい入れたなべ物を作ります。
- ②親と話し合うとか先輩に相談するとかして、早く進路を決めなさい。
- ③わからないところは、詳しい人に聞くとかネットで調べるとかしてください。
- ④小川さんが離婚するとか家を出たとかいう話を聞きましたが、本当ですか。



⑤好きだとかきらいだとか言わないで、ちゃんと食べなさい。

接続 N / V る / 普通形 + とか

- ▶ 1) あるものごとや方法の同類の具体例をいくつか示したいときの言い方。
- 2) ②③のように方法の具体例の場合は「～とか～とかして」の形になる。また、④のように「～とか～とかいうN」の形もよく使う。
- 3) ⑤は「～とか～とか言う」の形で、対立する言葉やいろいろに変わる発言内容を並べて、言うことがいつも変わってはっきりしないことを非難する文。

15 2 ～にしても～にしても ★3

【～でも～でも】

- ①めがねにしてもバッグにしても、あの人の持ち物はみんな高そう  
だ。
- ②ハンバーガーにしてもピザにしても、わたしが好きなものはみんな  
カロリーが高い。
- ③賛成するにしても反対するにしても、ちゃんと理由を言ってくださ  
い。
- ④柔道にしろサッカーにしろ、スポーツにけがはつきものです。
- ⑤リンさんにしろカンさんにしろ、優秀な人たちはみんな時間を有  
効に使っている。
- ⑥クラス会に参加するにしろしないにしろ、返事は早く出した方がいい。  
い。
- ⑦JRにせよほかの私鉄にせよ、車内の冷暖房の省エネ化がなかなか進  
まない。

⑧アルバイトにせよ ボランティア活動にせよ、学校外での活動は、きびしいけれどもいろいろな人に出会えておもしろい。

接続 V する / N 十にしても・にしろ・にせよ

▶ 1) 「～でも～でも」と例をいくつか挙げて「その全部にあてはまる」と言いたいときに使う。

2) ③⑥のように、対立する 2 つの場合を仮定して、どちらの場合でも同じことが言えると言いたいときにも使う。

3) 4 「～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ」は「～にしても～にしても」より硬い言い方。

→ 18 課 8 「～にしても・～にしろ・～にせよ」 / 21 課 3 「～にしても・～にしろ・～にせよ」

## 15 3 ～といった ★2

【～のような】

①インド料理やタイ料理といった南の国の食べ物には辛いものが多い。

②駅とかレストランとかいったところでは、全面禁煙が望ましい。

③かぼちゃ・にんじん・ピーマンといった色の濃い野菜は体にいいらしい。

接続 N 十といった

▶ 1) 「～といった N」の形で、あるものごとの同類の具体例をいくつか示したいときの言い方。1 「～とか～とか」と意味・用法が大体同じ。

2) 「～とか～と（か）いった」の形で使うことが多い。

## 15 4 ～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ ★2

【～でも～でも】

▶ 2 「～にしても～にしても」と意味・<sup>ようほう</sup>用法が同じ。

→ <sup>か</sup>18課 8 「～にしても・～にしろ・～にせよ」 / 21課 3 「～にしても・～にしろ・～にせよ」

## 15 5 ～やら～やら ★2

【～や～など】

① <sup>しゅうまつ</sup>週末は、そうじ<sup>いそが</sup>やらせんたく<sup>かな</sup>やら家の用事がたくさんあって、  
けっこう忙しいのです。

② 机の上には紙くず<sup>つくえ</sup>やらノート<sup>かみ</sup>やら<sup>お</sup>のりやらがごちゃごちゃ置いてある。

③ びっくりするやら<sup>かな</sup>悲しむやら、ニュースを聞いた人たちの<sup>はんのう</sup>反応はさまざまだった。

④ マラソンで3位に入<sup>い</sup>賞<sup>にゅうしょう</sup>したとき、わたしはうれしいやら<sup>くや</sup>悔しいやら<sup>ふくざつ</sup>複雑な気持ちだった。

接続 Vる / イAい / N+やら

▶ 1) まだほかにもいろいろあるが、まず<sup>ひと</sup>1つ、<sup>ふた</sup>2つの例<sup>れい</sup>を挙げたいときに使う。

2) いろいろなものや気持ちがあって<sup>せいり</sup>整理できないという気持ちで使うこともある。

## 15 6 ～というか～というか ★2

【～と言ったらいいいのか～と言ったらいいいのか】

① 「山の方に別荘<sup>べっそう</sup>をお持ちなんですって」

「ええ、まあ、別荘<sup>こや</sup>というか小屋<sup>しゅうまつ</sup><sup>す</sup>というか、たまに週末を過ごしに行くだけなんですがね」

②会社の仕事は、忙しい<sup>いそが</sup>というかきびしい<sup>な</sup>というか、まだ慣れないの<sup>な</sup>で大変<sup>たいへん</sup>です。

③この店の従<sup>じゅうぎょういん</sup>業員は親切<sup>かん</sup>というかよく気がつく<sup>かん</sup>というか、とにかくみんな感じがいい。

接続 ▶ 2) 参照<sup>さんしょう</sup>

▶ 1) 話題<sup>わだい</sup>になっているものごとについて、1つの言い方<sup>ひと</sup>での断定<sup>だんてい</sup>を避<sup>さ</sup>けて、  
いろいろ言葉<sup>ことば</sup>を変<sup>か</sup>えて説明<sup>せつめい</sup>してみる言い方。

2) 接続<sup>せつぞく</sup>は、取り上げようとする言葉<sup>と</sup>にそのまま続<sup>あ</sup>ける場合<sup>ばあい</sup>が多い。

15 7 ～なり～なり ★1

【～でもいい～でもいい】

①だまってい<sup>はんたい</sup>ないで、反<sup>さんせい</sup>対する<sup>はんたい</sup>なり賛<sup>さんせい</sup>成する<sup>さんせい</sup>なり意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>を言<sup>い</sup>ってくだ<sup>さ</sup>さい。

②とな<sup>へ</sup>りの部<sup>や</sup>屋<sup>や</sup>の<sup>や</sup>人<sup>ひと</sup>がう<sup>う</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で、朝<sup>あ</sup>早<sup>は</sup>く起<sup>お</sup>き<sup>き</sup>て勉<sup>め</sup>強<sup>くわう</sup>する<sup>する</sup>なり図<sup>ず</sup>書<sup>しよ</sup>館<sup>かん</sup>で勉<sup>め</sup>強<sup>くわう</sup>する<sup>する</sup>なり、勉<sup>め</sup>強<sup>くわう</sup>の場<sup>ば</sup>所<sup>じよ</sup>を考<sup>く</sup>え<sup>え</sup>な<sup>な</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>い。

③そのこと<sup>まよ</sup>なら、迷<sup>まよ</sup>っ<sup>せんばい</sup>てい<sup>せんばい</sup>ないで先<sup>か</sup>輩<sup>ちよう</sup>に<sup>ちよう</sup>なり課<sup>そうだん</sup>長<sup>そうだん</sup>に<sup>そうだん</sup>なり相<sup>そうだん</sup>談<sup>だん</sup>し<sup>し</sup>てみ<sup>み</sup>たらいい<sup>いい</sup>じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>な<sup>な</sup>い。

④歴<sup>れき</sup>史<sup>し</sup>関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>の資<sup>しりよう</sup>料<sup>りよう</sup>なら、地<sup>しりようしつ</sup>下<sup>しりようしつ</sup>の資<sup>しりようしつ</sup>料<sup>しりようしつ</sup>室<sup>しりようしつ</sup>なり相<sup>そうだんしつ</sup>談<sup>だんしつ</sup>室<sup>だんしつ</sup>なりで聞<sup>き</sup>いてみて<sup>みて</sup>くだ<sup>さ</sup>さい。

接続 ▶ Vる / N ( + 助詞 ) + なり<sup>じょし</sup>

▶ 1) 「～でもいい～でもいい、何か<sup>れい</sup>」と考<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>る例<sup>れい</sup>を挙<sup>あ</sup>げ<sup>あ</sup>る言<sup>い</sup>い<sup>い</sup>方<sup>か</sup>。

2) 過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>のこ<sup>こ</sup>とに<sup>こ</sup>は<sup>こ</sup>使<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>ない。また、「何<sup>あ</sup>でも<sup>あ</sup>いい<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ど」とい<sup>い</sup>う意<sup>い</sup>味<sup>い</sup>合<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>含<sup>あ</sup>む<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>き<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>で、目<sup>め</sup>上<sup>う</sup>の<sup>う</sup>人<sup>え</sup>に<sup>え</sup>対<sup>たい</sup>し<sup>し</sup>て<sup>し</sup>は<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>使<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>ない。

15 8 ～といい～といい ★1

【～も～も】

- ①デザインの構成力こうせいりょくといい色の使い方といい、彼の作品が最優秀かれ さくひん さいゆうしゅうだ  
と思う。
- ②ひたいの広いところといいあごの四角し かくいところといい、この子は父ちち  
親おやにそっくりだ。
- ③彼の書くものは、言葉の使い方の鋭さするどといい表現の深さひょうげん ふかといい、  
彼独特どくとくのものだ。
- ④個人情報こじんじょうほうの流出りゅうしゅつといい無記名の個人攻撃む き めい こうげきといい、ネットに絡んだ  
事件じ けんは影 響えい しょうが大きく、簡単かんたんには解決かいけつできない。

接続 N+といい

- ▶ある事柄ことがらについて、いくつかの例を取り上げて「どの点てんから見ても～だ」と  
話者わしゃの評価ひょう かを言いたいときに使う。

15 9 ～といわず～といわず ★1

【～も～も区別なく】

- ①彼の部屋は机の上かめといわず下といわず、紙かみくずだらけです。
- ②手といわず足といわず、子どもは体中どろだらけで帰ってきた。
- ③新聞記者き しゃの山田やま ださんは国内こくないといわず海外といわずいつも取材しゅざいで飛び  
回まわっている。
- ④母はわたしのことが心配しんぱいらしく、昼よるといわず夜といわず電話して  
るので、ちょっとうるさくて困こまる。

接続 N+といわず

▶いくつか例<sup>れい</sup>を挙げ<sup>あ</sup>て、「～も～も区別なく、どこも（いつも・どれも・みんな、など）」と強<sup>きょうちよう</sup>調して言いたいときに使う。

**15 10** ～であれ～であれ・～であろうと～であろうと  
★1

【～でも～でも】

- ①食べ物<sup>にちじよう</sup>であれ日常<sup>せいかつようひん</sup>の生活用品であれ、むだな買い物はやめたいものです。
- ②ファッション<sup>こうこく</sup>であれ広告<sup>きほんてき</sup>であれ、デザインは基本的なコンセプトが重要<sup>じゅうよう</sup>だ。
- ③レポートを書くのであれ、研究発表<sup>はっぴよう</sup>をするのであれ、十分なデータ<sup>ひつよう</sup>が必要だ。
- ④学校教育<sup>きょうい</sup>であろうと家庭教育<sup>かてい</sup>であろうと、長い目で子どもの将来<sup>しょうらい</sup>を考えた方がいい。
- ⑤仕事<sup>あそ</sup>であろうと遊び<sup>かれ</sup>であろうと、彼はいつも精いっぱい楽しんでやっている。

接続 N+であれ・であろうと

- ▶1) 「～でも～でも」と例<sup>れい</sup>をいくつか挙げ<sup>あ</sup>て「その全部<sup>ぜんぶ</sup>にあてはまる」と言いたいときに使う。
- 2) 同様<sup>どうよう</sup>の意味を持つ2「～にしても～にしても」、4「～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ」よりもさらに硬<sup>かた</sup>い言い方。  
→21課<sup>か</sup>5「～であれ・～であろうと」

## 15

れいじ れんしゅう  
例示 練習

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. にしても～にしても b. やら～やら c. とか～とか

- パーティーでは、すし\_\_\_\_サンドイッチ\_\_\_\_食べきれないほどのごちそうが出た。
- この町は、住む\_\_\_\_通勤する\_\_\_\_、便利でいいですね。
- わたしはインド\_\_\_\_タイ\_\_\_\_いった暑い国が好きだ。

## ★2・★1

a. にしろ～にしろ b. や～といった c. といわず～といわず

- 東京の名所といえば、上野\_\_\_\_浅草\_\_\_\_町がすぐ頭に浮かぶ。これらの町は東京の「下町」と呼ばれ、人々に親しまれている。上野には公園や美術館や動物園があり、浅草には「浅草寺」という有名なお寺がある。また、上野\_\_\_\_浅草\_\_\_\_、古くからの店がたくさん残っていて、おもしろい。特に浅草は、休日\_\_\_\_普段の日\_\_\_\_、いつも観光客でにぎわっている。

## ★2・★1

a. なり～なり b. であろうと～であろうと c. というか～というか

- だれかの家に招待されたときは、後でカードを送る\_\_\_\_電話を

する\_\_\_\_してお礼の気持ちを表すといい。

6. 「井上さんて、おもしろい人でしょう？」

「おもしろい\_\_\_\_ちょっと変わっている\_\_\_\_、でも、なかなか魅力みりょくてき的な人ですね」

7. 自分の子\_\_\_\_他人の子\_\_\_\_、いけないことはいけないと言える大人でありたい。

★1

a. であれ～であれ    b. なり～なり    c. といい～といい

8. JR\_\_\_\_ほかの私鉄\_\_\_\_、故障や事故が多いのは困る。

9. 駅で何か事件があったらしく、駅の中\_\_\_\_周辺\_\_\_\_、人や救急車などでいっぱいだった。

10. 連休には、海\_\_\_\_山\_\_\_\_、どこか空気のきれいな所へ行きたい。



## 16

ていど きょうちょう  
程度の強調

Emphatic Expressions

对程度的强调

강조

い み つよ い かた  
意味を強くしたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

ことば つか ぶん かんせい  
[ ] 中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a.こそ b.くらい c.さえ d.など e.として

1. 早く仕事が決まらな<sup>はや しごと き</sup>いと、家賃<sup>やちん</sup>\_\_\_\_払え<sup>はら</sup>なくなる。
2. 間違い<sup>まちが</sup>を認め<sup>みと</sup>る勇気<sup>ゆうき</sup>\_\_\_\_<sup>たいせつ</sup>が大切だ。
3. 彼の意見<sup>かれ いけん</sup>に賛成<sup>さんせい</sup>する人は、1人<sup>ひとり</sup>\_\_\_\_いなかった。
4. 「納豆<sup>なっとう</sup>\_\_\_\_食べたくない」という人は日本人にもいる。
5. その人がどんな人か、ちょっとつきあった\_\_\_\_ではわからない。

つか  
使えますか

ただ ほう えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 課長<sup>かちょう</sup>は { a. 小さいミスこそ許<sup>ゆる</sup>さない b. 小さいミスさえ許  
さない } 厳<sup>きび</sup>しい人だ。
2. 目玉焼<sup>めだまや</sup>きぐらいわたしにも { a. 作<sup>つく</sup>れます。 b. 作れませ  
ん。 }

3. あの人の言うことなんか { a. 信じられない。 b. 信じられる。 }
4. 子どもじゃないんだから { a. ジュースさえ飲みたい。 b. ジュースなんか飲みたくない。 }
5. わたしの意見は会議で何1つとして { a. 取り上げられた。 b. 取り上げられなかった。 }

## 16 強調 I

意味を強くしたいとき

★3	1	～こそ
	2	～さえ・～でさえ
	3	～まで
★2	4	～てこそ
	5	～てまで・～までして
★1	6	～すら・～ですら
	7	～というもの（は）
	8	～あつての
	9	～にして
	10	～ <sup>さ</sup> 極まる・～極まりない

### 16 I・1 ～こそ ★3

- ①この本こそ、わたしが探していた本です。とうとう見つけました。
- ②「妹がいつもお世話になっております」  
「いえ、こちらこそ」
- ③困ったときにこそ明るい気持ちを持つことが大切なのだ。

接続 N（＋助詞）＋こそ

- ▶ 1) 大切なことを「ほかのことでなく、これなのだ」と区別して強調したいときに使う。
- 2) マイナスの意味を強調する使い方はしない。

まるあん き  
×丸暗記こそやりたくない。

## 16 I・2 ～さえ・～でさえ ★3

### 【～も】

- ①足が痛くて、立っていることさえできない。  
あし いた た  
②ここは寂しい町だ。朝夕でさえ、人が通らない。  
さび まち あさゆう とお  
③えり子は大学をやめることを親友のはな子にさえ知らせなかった。  
しんゆう し  
④猿でさえ親が子どもに歯磨きのやり方を教えるそうだ。  
さる おや は みが かた おし

接続 N（＋助詞）＋さえ・でさえ  
じょし

- ▶極端なものごとを取り出して「ほかのことはもちろん」という意味に使う。  
きょくたん と い み つか  
②のように名詞を副詞的に使う場合と、④のように主格につく場合には「でさえ」となることが多い。  
めいし ふくしてき つか ば あい しゅかく  
おお

## 16 I・3 ～まで ★3

### 【～も / ～そんなものも】

- ①お父さんまでわたしを疑うの。  
うたが  
②漢字の勉強をがんばったので、アメリカ人のぼくが1年で新聞まで読めるようになった。  
かんじ べんきょう しんぶん  
③家族との生活まで犠牲にして、会社のために仕事をするつもりはない。  
かぞく せいかつ ぎ せい かいしゃ しごと  
④今度の事件では、妻の両親にまで迷惑をかけてしまった。  
じけん つま めいわく

接続 N（＋助詞）＋まで  
じょし

- ▶「～まで...」の形で、極端なことを取り上げて「より低い程度のものも...」  
かたち きょくたん と あ ひく ていど

だが、こんな高い程度の～も...」<sup>い</sup>と言いたいときの言い方。<sup>かた</sup>話す人の<sup>おどろ</sup>驚きの<sup>き も</sup>気持ちが入った文が多い。<sup>ぶん</sup>

## 16 I・4 ～てこそ ★2

- ①スポーツはそのスポーツをやってみてこそ、おもしろさがわかる。
- ②野の花は自然の中<sup>の</sup>にあってこそ、美しい<sup>うつく</sup>。
- ③けんかをしてこそ、ほんとうの友だ。

接続 Vて＋こそ

- ▶「～してはじめて、...といういい結果<sup>けっ か</sup>になる。何かがわかる」と言いたいときに使う。「～するまでは、わからない」という意味になる。<sup>かた</sup>硬い言い方。

## 16 I・5 ～てまで・～までして ★2

【～もして / そんなこともして】

- ①幼い子どもたちと離れてまで、留学<sup>りゅうがく</sup>したいとは思わない。<sup>おさな</sup>
- ②話題の本だから読みたいが、高い本だから、買ってまで読みたいとは思わない。<sup>わ だい</sup>
- ③映画の仕事は彼が家出してまで、やりたかったことなのだ。<sup>かれ いえ で</sup>
- ④いつの世にも、法律違反<sup>ほうりつ いはん</sup>までして、お金をもうける人がある。<sup>よ</sup>
- ⑤車がほしいが、借金<sup>しゃっきん</sup>までして買いたいとは思わない。

接続 Vて＋まで N＋までして

- ▶1) 極端<sup>きょくたん</sup>なものごとを挙げて「こんな程度<sup>てい ど</sup>のこともして」と強調<sup>きょうちよう</sup>する言い方。「極端<sup>しゅたん</sup>な手段<sup>わ しゃ</sup>を使って」という話者の気持ちのこもった言い方。
- 2) 話者の主張<sup>しゅちよう</sup>・判断<sup>はんだん</sup>・評価<sup>ひよう か</sup>を言うことが多い。

## 16 I・6 ～すら・～ですら ★1

【～も / ～でも】

- ①佐藤先生は若いころ食費すら<sup>しよくひ けんやく</sup>節約して、研究を続けられたそう<sup>つづ</sup>だ。
- ②彼らは研究のために、電気すら<sup>でんき</sup>ない山の中で3か月間暮らした。<sup>く</sup>
- ③子どもですらわかるようなことが、なぜ大人である彼にわからないのだろうか。
- ④このところ忙しくて、週末すら<sup>しゅうまつ</sup>休めない。<sup>やす</sup>

接続 N（＋助詞）＋すら・ですら

- ▶ 1) 極端な例を取り上げて「ほかはもちろん」と言いたいときに使う。I・  
2 「～さえ」と同じように使うが「～さえ」より文語的な表現。<sup>ぶん ご てき ひょうげん</sup>
- 2) ③のように主格につく場合と、④のように名詞を副詞的に使う場合には「～ですら」となることが多い。<sup>しゅかく ば あい めい し ふくし てき</sup>

## 16 I・7 ～というもの（は） ★1

【～という長い間ずっと】

- ①夏休みになってからというもの、パソコンゲームばかりしている。
- ②子どもが行方不明になってからの10年というもの、子どものことを思わない日はない。<sup>ゆくえ ふ めい</sup>
- ③敵につかまってからの1か月というものは、生きた心地がしなかった。<sup>てき こ こ ち</sup>
- ④結婚してからというものは、彼女は生まれかわったように明るく<sup>けっこん かのじょ</sup>なって、幸せに暮らしている。<sup>しあわ ぐ</sup>

接続 期間を表す言葉 / Vてから＋というもの（は）<sup>き かん あらわ こと ば</sup>

- ▶期間を表す言葉や「Vてから」について、同じ状態がずっと続いていることを感情をこめて言う。後には継続を表す文が来る。「～というもの」に「は」がつくと、より詠嘆的になる。

## 16 I・8 ～あつての ★1

【～があるから成り立つ】

- ①読者あつての新聞なのだから、高齢者が増えた現代では活字を大きくするなどの配慮が欠かせない。
- ②山下さんがアメリカへ行くと聞いたが、山下さんあつてのわたしたちのクラスだ。彼がいなくなると寂しくなる。
- ③資料室あつての研究所だ。資料室を充実させなければ、研究所を新しく作る意味はない。

接続 N＋あつての

- ▶「～あつての…」の形で、「～があるから…もできる、…が成り立つ」「～がなければ…は成り立たない」ということを強調する言い方。

## 16 I・9 ～にして ★1

【～だから / ～でも】

- ①この子の絵は独創的え どくそうてきですばらしい。専門家せんもん かにしておもしろいと言わせたほどだ。
- ②人のこのような孤独感こどくかんはあの作家さっかにしてはじめて書けるものである。
- ③この作品は一流さくひん いちりゅうのバレリーナの彼女かのじょにして難しいむずかと言わせるほど難しいものらしい。

接続 N＋にして

- ▶「～にして...」の形で、「～まで程度が高くなって...」または「～ほど程度が進んだNだから可能・不可能」ということを言いたいときに使う。

16 I・10 ～極まる・～極まりない ★1

【この上なく～だ】

- ①あの人のわがまま極まる態度にはがまんができない。
- ②電車の優先席で大声で携帯電話で話すとは、全く不作法極まりない。
- ③自分から頼んでおいて約束の時間に遅れるとは、失礼極まりない。
- ④息子にけがをさせた子のご両親から丁重極まるわび状が届いた。

接続 ナA＋極まる

- ▶1)「～極まる・～極まりない」はどちらも「この上なく～だ・非常に～だ」という意味。
- 2)話者が感情的な言い方をするときに使われることが多い。古い言い方。



## 16 強調Ⅱ

意味を強くしたいとき

- |    |   |               |
|----|---|---------------|
| ★3 | 1 | ～など・～なんか・～なんて |
|    | 2 | ～くらい          |
| ★2 | 3 | ～として～ない       |
| ★1 | 4 | ～たりとも～ない      |
|    | 5 | ～までだ・～までのことだ  |

### 16 Ⅱ・1 ～など・～なんか・～なんて ★3

【～のようなものは】

- ①エレベーターの中で人の悪口など言うものではない。
- ②ピーマンなど好きじゃないという人は多い。
- ③こんな問題なんか簡単だよ。だれでもできるよ。
- ④わたしなんか何も上手にできません。
- ⑤ケンになんてもう会いたくない。

接続 N（＋助詞）＋など

- ▶ 1) 「～」を強く否定する気持ちや大したものではないと考える気持ちを表す。文の終わりでは否定的な言い方をすることが多い。
- 2) 「～なんか・～なんて」はくだけた会話的な言い方。

### 16 Ⅱ・2 ～くらい ★3

【～のような<sup>かる</sup>軽いことや簡単<sup>かんたん</sup>なこと】

①医者「思<sup>い</sup>ったより回<sup>かい</sup>復<sup>ふく</sup>が早<sup>はや</sup>いから、歩<sup>ある</sup>くく<sup>かる</sup>ら<sup>うんどう</sup>いの軽<sup>はじ</sup>い運動から始め  
てください」

②この本はむずかしくて、1回<sup>かい</sup>ぐ<sup>かい</sup>ら<sup>かい</sup>い読んでもわからない。

③君ももう20歳<sup>さみ</sup>になっ<sup>はたち</sup>て大人<sup>おとな</sup>なんだから、あ<sup>あ</sup>いさつぐ<sup>さみ</sup>ら<sup>はたち</sup>いちゃんとし  
なさい。

④宿<sup>しゅくだい</sup>題<sup>だい</sup>ぐ<sup>しゅくだい</sup>ら<sup>だい</sup>い自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>でしなさい。もう手<sup>て</sup>伝<sup>つた</sup>ってあ<sup>あ</sup>げないよ。

接続 N / V・Aの普通形（ナAな）＋く<sup>ふ</sup>ら<sup>つうけい</sup>い

▶①②では「～」という軽<sup>かる</sup>いこと、③④では「～」という最低限<sup>さいていげん</sup>の<sup>あらわ</sup>ことを表  
す。名詞<sup>めいし</sup>につく場合は「ぐ<sup>ば</sup>ら<sup>あい</sup>い」、活用<sup>かつよう</sup>語<sup>ご</sup>につく場合は「く<sup>つか</sup>ら<sup>つか</sup>い」を使う  
ことが多<sup>おほ</sup>い。

→10課 I・2 「～く<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>い・～く<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>いの・～く<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>いだ」

## 16 II・3 ～として～ない ★2

【～も～ない】

①火<sup>や</sup>事<sup>じ</sup>で焼<sup>や</sup>けてしまったので、祖<sup>そ</sup>父<sup>ふ</sup>母<sup>ぼ</sup>の写<sup>まい</sup>真<sup>のこ</sup>は1枚<sup>まい</sup>とし<sup>のこ</sup>て残<sup>のこ</sup>って<sup>のこ</sup>い<sup>のこ</sup>ない。

②ぼくは1日<sup>さみ</sup>とし<sup>さみ</sup>て君<sup>きみ</sup>のこ<sup>きみ</sup>を考<sup>かん</sup>え<sup>え</sup>ない日<sup>ひ</sup>はない。

③電<sup>でん</sup>車<sup>しゃ</sup>の中<sup>な</sup>で<sup>で</sup>お年<sup>とし</sup>寄<sup>よ</sup>りが立<sup>た</sup>って<sup>た</sup>いたが、だれ1人<sup>ひとり</sup>とし<sup>ひとり</sup>て席<sup>せき</sup>を譲<sup>ゆず</sup>ろうと  
しななかった。

接続 1 + 助数詞<sup>じょすうし</sup> + とし<sup>とし</sup>て～ない

▶1) 「1 + 助数詞<sup>じょすうし</sup>」という形<sup>かたち</sup>で最低<sup>さいてい</sup>の単位<sup>たんい</sup>の<sup>あ</sup>もの<sup>ぜん</sup>を<sup>ひ</sup>挙<sup>てい</sup>げて全否定<sup>ぜんひてい</sup>を強<sup>きやう</sup>く言<sup>い</sup>う  
言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>。

2) ③のよう<sup>ぎもんし</sup>に疑<sup>ぎ</sup>問<sup>もん</sup>詞<sup>し</sup>を前<sup>まへ</sup>につけて「疑<sup>ぎ</sup>問<sup>もん</sup>詞<sup>し</sup> + 1 + 助数詞<sup>じょすうし</sup> + とし<sup>とし</sup>て～な

い」の形で使うことが多い。

## 16 II・4 ～たりとも～ない ★1

### 【～も～ない】

- ①亡<sup>な</sup>くなった田中<sup>たなか</sup>君<sup>くん</sup>の思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>を書<sup>か</sup>くよう<sup>たの</sup>に頼<sup>たの</sup>まれたが、思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>すの<sup>が</sup>つらくて1行<sup>ぎょう</sup>たりとも書<sup>か</sup>く気<sup>き</sup>になれ<sup>な</sup>い。
- ②橋<sup>はし</sup>の完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>予<sup>よ</sup>定<sup>てい</sup>日<sup>び</sup>ま<sup>で</sup>の日<sup>にっ</sup>数<sup>すう</sup>を考<sup>こう</sup>え<sup>じ</sup>ると、工<sup>こう</sup>事<sup>じ</sup>を1日<sup>いち</sup>たりとも遅<sup>おく</sup>らせ<sup>る</sup>ことはでき<sup>き</sup>ない。
- ③予<sup>よ</sup>算<sup>さん</sup>が限<sup>かぎ</sup>られてい<sup>る</sup>ので、会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>に使<sup>けい</sup>う<sup>ひ</sup>経<sup>けい</sup>費<sup>ひ</sup>を1円<sup>いち</sup>たりとも無<sup>む</sup>駄<sup>だ</sup>にし<sup>ない</sup>よう<sup>に</sup>気<sup>き</sup>をつ<sup>け</sup>な<sup>け</sup>れ<sup>ば</sup>な<sup>ら</sup>な<sup>い</sup>。

### 接続 1 十助数詞<sup>じゅうすうし</sup>十<sup>じゅう</sup>たりとも～ない

- ▶「1十助数詞<sup>じゅうすうし</sup>」という最<sup>さい</sup>低<sup>てい</sup>の単<sup>たん</sup>位<sup>い</sup>の物<sup>もの</sup>を挙<sup>あ</sup>げて、「最<sup>さい</sup>低<sup>てい</sup>・最<sup>さい</sup>小<sup>しょう</sup>の物<sup>もの</sup>も～ない」という話<sup>わ</sup>者<sup>しゃ</sup>の強<sup>ひ</sup>い否<sup>ひ</sup>定<sup>てい</sup>の気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ちを表<sup>あらわ</sup>す。

## 16 II・5 ～までだ・～までのことだ ★1

### 【～しただけなのだ】

- ①「もしもし、あ、先<sup>せん</sup>輩<sup>ぱい</sup>。こんばんは。何<sup>なん</sup>かあ<sup>あ</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>す<sup>か</sup>。こ<sup>こ</sup>んな遅<sup>おそ</sup>い時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>に」  
「い<sup>い</sup>え、今<sup>いま</sup>日<sup>にち</sup>会<sup>かい</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>き元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>がな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>か<sup>か</sup>ら、気<sup>き</sup>にな<sup>な</sup>っ<sup>っ</sup>て電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>ど」
- ②「そ<sup>そ</sup>んなにた<sup>た</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>んお<sup>お</sup>せん<sup>せん</sup>べ<sup>べ</sup>い<sup>い</sup>を<sup>を</sup>買<sup>か</sup>っ<sup>っ</sup>てど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>す<sup>す</sup>る<sup>の</sup>」  
「あ<sup>あ</sup>あ、故<sup>こ</sup>郷<sup>きやう</sup>の<sup>の</sup>物<sup>もの</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>で、懐<sup>なつ</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>てつ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>買<sup>か</sup>っ<sup>っ</sup>ち<sup>ち</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>す」
- ③「あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>た<sup>た</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>いと寂<sup>さび</sup>しく<sup>く</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>」と<sup>と</sup>言<sup>こと</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>言<sup>こと</sup>ば<sup>ば</sup>に<sup>に</sup>特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>な<sup>な</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。た<sup>た</sup>だ、彼<sup>かれ</sup>を<sup>を</sup>な<sup>な</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>さ<sup>さ</sup>め<sup>め</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>言<sup>こと</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>

す。

接続 Vた＋までだ

- ▶「ただそれだけの事<sup>じじょう</sup>情<sup>りゆう</sup>や理由で、特別な意<sup>い</sup>図<sup>と</sup>はない」と言い訳<sup>わけ</sup>をしたいときの言い方。

→29課8 「～までだ・～までのことだ」

## A

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

## ★3

a. こそ b. さえ c. まで d. など e. くらい

1. 外国語の勉強は、毎日の積みかさね\_\_\_\_が大切だと思う。
2. 1度や2度先生にしかられた\_\_\_\_で、がっかりしてはだめですよ。しっかりして。
3. これについてはもう話し合う必要\_\_\_\_ない。もう決まったことだ。
4. 物語だけでなく、経済や歴史\_\_\_\_漫画になっている。
5. (音声付き電子辞書の広告)  
「外国旅行も、これ\_\_\_\_あれば大丈夫!」

## ★3・★2

a. にさえ b. まで c. こそ d. なんて e. として

6. この1か月は忙しくて、1日\_\_\_\_ゆっくり休めなかった。
7. 課長のイエスマンになって\_\_\_\_課長に気に入られようとは思わない。
8. 新聞の地方版\_\_\_\_出ないような小さい事故が毎日たくさん起っている。

9. その国のことは言葉ことばがわかるようになって\_\_\_\_ほんとう本当に理解りかいできるんじゃないか。

10. いつもいい加減かげんなことばかり言いっているあの人のこと\_\_\_\_しん信じません。

★1

a. すら    b. にして    c. というもの    d. あっての    e. までだ

11. サービス業ぎょうというものはお客様きやくさま\_\_\_\_仕事だから、そのことを忘わすれないように。

12. 東京の学校に行っている息子むすこから、「電気代はらを払うお金\_\_\_\_こまなくなった」と言ってきた。困ったものだ。

13. 単身赴任たんしん ぷ にんの夫おとから、この3週間\_\_\_\_れんらく連絡がない。どうしたのだろうか。

14. 伝統工芸でんとうこうげいというのは、経験けいけん30年という職人しよくにん\_\_\_\_か のうはじめて可能な仕事なのだろう。

15. 「そのことなら、もう聞いているよ」  
「万一まんいち、忘わすれているといけないからと思って、確認かくにんした\_\_\_\_よ」

B

中の言葉ことばを使つかって、次の文つぎ ぶんを完成かんせいさせなさい。1つの言葉は1回かいしか使いません。

答えは [こちら](#)

★2・★1

a. というもの    b. まで    c. 極きわまる    d. として    e. あっての

やま だ                      き む ら                      ひ さ  
山田「やあ、木村さん、久しぶり。元気？」

木村「うーん、課を移ってから（1.        ）、忙しくてね。1日  
（2.        ）外出しない日はないくらい」

山田「そりゃ、期待されて行ったんだからね。今や木村さん  
（3.        ）課なんだろう？」

木村「大げさねえ。でも、このごろ夜よく眠れないことがあるのよ」

山田「それはよくないよ。体を壊して（4.        ）会社のために働くっ  
ていうのは問題だよ。くれぐれも気をつけなさいよ」

木村「それは、ご親切（5.        ）お言葉、感激するわ」

Topics  
話題  
화제

あることを話題にするときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. というのは    b. にかけては    c. というと    d. というものは    e. といったら

1. 小学校\_\_\_\_、大勢のおおぜい子どもたちや広いひろ校庭が頭あたまに浮かびます。
2. 友だち\_\_\_\_ありがたいものだ。
3. 正三角形せいさんかくけい\_\_\_\_、3辺べんが同じおな長さながの三角形のことである。
4. 決勝戦けっしょうせん\_\_\_\_、悔しきくやの悔しさ\_\_\_\_、言葉ことばでは表あらわせない。
5. 彼はかれは走はしること\_\_\_\_だれにも負けまけないだろう。

つか  
使えますか

どちらがただ正しいですか。正しいほうえら方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 「うりふたつ」というのは、ふたつのものが { a. よく似に似ていることです。    b. よく似ています。 }
2. わたしは水泳すいえいにかけては、 { a. 自信じしんがあります。    b. あまり



じょうず  
上手ではないのです。}

3. 校則こうそくというと、{ a. わたしはあまり好きすではありません。  
b. まず、とてもきびしいものを想像そうぞうします。}
4. { a. 外国で1人ひとりで暮らすくというものは、 b. 外国で1人で暮らすということは、} 大変ですね。
5. この夏なつの暑さあつといたら、{ a. ほんとうにひどかった。 b. それほどでもなかった。}

## 17 わ だい 話題

あることを話題にするとき

★3	1	～というのは
	2	～にかけては
★2	3	～とは
	4	～というものは・～ということは
	5	～といえは
	6	～というと
	7	～はというと
	8	～といたら
	9	～のこととなると
★1	10	～ときたら

### 17 1 ～というのは ★3

【～は】

- ①「いたしかたがない」というのはどういう意味ですか。
- ②パソコンで「上書き保存」というのは、文書を訂正して保存するという意味です。
- ③「多年草」っていうのは、冬になっても根だけは生きていて、春にまた芽を出す植物のことだよ。
- ④ねえ、「オゾン」って何？
- ⑤赤字とは収 入より支 出が多いことです。

⑥水蒸気とは気体の状態に変わった水のことである。

⑦温室効果ガスとは、CO<sub>2</sub>・メタン・フロンなど、地球の温度を上昇させるガスのことである。

接続 N＋というのは・とは

▶ 1) ある語句の意味や定義を言うときに使う。「～というのは・ことだ・ものだ・という意味だ」という形をとることが多い。「～とは」の方が書き言葉的である。

2) くだけた会話では「～ってというのは・～って」という形になる。

## 17 2 ～にかけては ★3

【～では】

①田中さんは事務の仕事にかけては素晴らしい能力をもっています。

②父は釣りが得意だ。川釣りにかけてはこの村で父より上手な人はいないと思う。

③わたしは足の速さにかけては自信があったのですが、若い人にはもう勝てません。

接続 N＋にかけては

▶ 「～の素質や能力に関しては自信がある、ほかよりすぐれている」と言いたいときに使う。

## 17 3 ～とは ★2

【～は】

▶ 1 「～というのは」と意味・用法が大体同じ。

17 4 ～というものは・～ということは ★2

【～は】

- ①音楽というものはすばらしいものだなあ。
- ②個人競技の試合に出る前の緊張感というものは、経験しないとわからないだろう。
- ③ふるさとというものは遠く離れるといっそう懐かしくなる。
- ④体が丈夫だということはありがたいことだと思っています。
- ⑤長い間の習慣を変えるってことは大変だ。
- ⑥自由時間が十分にあるということは、いろいろなことをやるチャンスがあるということだ。
- ⑦田中さん、「明日からもう来ない」ってことは、つまり、この会社を辞めるということですか。

接続 N+というものは 普通形+ということは

- ▶ 1) 本質や普遍的な性質を感情を込めて述べるために、あることを話題として取り上げるときに使う。後の文には話者の感想・感慨などを表す文が来ることが多い。
- 2) 名詞を受ける場合には①～③のように「～というものは」、文を受けるときには④～⑦のように「～ということは」の形になる。くだけた会話では⑤⑦のように「～ってことは」になる。
- 3) 「～ということは」には⑥⑦のように、「～ということ」から考えられる推測やその結論・確認などを言いたいときに使う用法もある。

17 5 ～といえば ★2

【～を話題にすれば】

- ①今年もまた紅葉の季節になった。紅葉といえば、5年前に行ったカナダの紅葉の美しさが忘れられない。
- ②今年こそいっしょにスキーに行きましょうね。スキーといえば、今度の冬季オリンピック、楽しみです。
- ③「きのうの台風はすごかったねえ。記録的な大雨だったようだよ」  
「記録的っていえば、今年の暑さも相当でしたね」

接続 ▶ 2) 参照

- ▶ 1) その場のだれかが話題にしたこと、または自分の心に思い浮かんだことから、新しい話題を取り上げるときの言い方。くだけた会話では③のように「っていえば」になる。
- 2) 接続は、取り上げようとする言葉にそのまま続ける場合が多い。

17 6 ～という A ★2

【～という言葉を使うと】

- ①古都というとまず頭に浮かぶのは京 都や鎌倉ですよね。
- ②これは子どものための童話です。童話っていうとどんな種類の本を想像しますか。
- ③わたしは草花研究会で野草の研究をしています。研究しているというと難しいことをやっているようなイメージを持つでしょうが、野山を歩いて植物を観察しているんです。

接続 N / 普通形+という

- ▶あることを話題にしたとき、すぐ浮かぶイメージを言う言い方。くだけた会

話では②のように「～っていうと」になる。

## 17 6 ～っていうと B ★2

【あなたが今<sup>いま</sup>言った～は】

- ①「じゃ、今度の会はアマゾンでやることにしようよ」  
「アマゾン<sup>えきまえ</sup>という<sup>えきまえ</sup>と、駅前<sup>えきまえ</sup>のコーヒーショップのことですか」
- ②「リーさんは荷物<sup>に もつ</sup>を整理<sup>せいり</sup>して、もう国へ帰りましたよ」  
「帰った<sup>もど</sup>っていうと、もう日本には戻らないということでしょう  
か」
- ③「ヤンさんの家族は今3人ですよ」  
「というと、赤ちゃんが生まれたのですね」

### 接続 ▶ 2) 参照

- ▶ 1) 相手<sup>あいて</sup>の言<sup>こと</sup>った言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>を受<sup>う</sup>けて、それ<sup>それ</sup>が自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の思<sup>おも</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る内<sup>ない</sup>容<sup>よう</sup>と同<sup>どう</sup>じかどう  
か確<sup>たし</sup>かめるときに使<sup>し</sup>う。③のよう<sup>しょうりやく</sup>に「～という<sup>しやうりやく</sup>と」の「～」を省<sup>しょうりやく</sup>略<sup>りやく</sup>  
て接<sup>せつ</sup>続<sup>ぞく</sup>詞<sup>し</sup>的<sup>てき</sup>に使<sup>し</sup>う場<sup>ばい</sup>合<sup>あい</sup>もあ<sup>あ</sup>る。
- 2) 接<sup>せつ</sup>続<sup>ぞく</sup>は、取<sup>と</sup>り上<sup>あ</sup>げようとする言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>にそ<sup>そ</sup>のま<sup>ま</sup>続<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>る場<sup>ばい</sup>合<sup>あい</sup>が多<sup>おほい</sup>い。

## 17 7 ～はという<sup>と</sup>と ★2

【一方～はどうかという<sup>と</sup>と】

- ①わたしは文<sup>ぶん</sup>科<sup>か</sup>系<sup>けい</sup>の科<sup>か</sup>目<sup>もく</sup>は好<sup>す</sup>きだし得<sup>とく</sup>意<sup>い</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>です<sup>す</sup>が、理<sup>り</sup>科<sup>か</sup>系<sup>けい</sup>の科<sup>か</sup>目<sup>もく</sup>は  
という<sup>ま</sup>と、全<sup>ぜん</sup>くだめな<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>です。
- ②まわりの友<sup>とも</sup>だち<sup>だち</sup>はみ<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>な結<sup>けつ</sup>婚<sup>こん</sup>して子<sup>こ</sup>育<sup>そだ</sup>てに忙<sup>いそ</sup>しそ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>です。わたしは  
という<sup>しごと</sup>と、仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>が<sup>ひま</sup>おもしろく<sup>ひま</sup>て結<sup>けつ</sup>婚<sup>こん</sup>のこ<sup>こ</sup>とを考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>る暇<sup>ひま</sup>があ<sup>あ</sup>りませ<sup>せ</sup>ん。
- ③こ<sup>こ</sup>こ10年<sup>じゅうねん</sup>間<sup>かん</sup>で保<sup>ほ</sup>育<sup>いく</sup>所<sup>しょ</sup>の<sup>かず</sup>数<sup>かず</sup>は<sup>おおはば</sup>大<sup>おほ</sup>幅<sup>はば</sup>に<sup>ふ</sup>増<sup>ふ</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>よう<sup>よう</sup>だ。し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>し、わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>の

ち いき  
地域はというと、まったく増えていない。

接続 N（<sup>じょし</sup>＋助詞）＋はという

- ▶あることを対比的に取り上げるときの言い方。前の文と対立的なことを言いたいときに使う。

## 17 8 ～といたら ★2

【～は】

- ①この施設<sup>し せつ</sup>のスタッフたちの懸命<sup>けんめい</sup>な働きぶり<sup>はたら</sup>といたら、本当<sup>ほんとう</sup>に頭<sup>あたま</sup>が下<sup>さ</sup>がる。
- ②彼はこの犬<sup>かれ</sup>をととてもかわいがっている。そのかわいがり方<sup>かた</sup>といたら、あきれるほどだ。
- ③山の中の一軒家<sup>いっけん や</sup>にたった1人<sup>ひとり と</sup>で泊<sup>と</sup>まったんです。あのときの怖<sup>こわ</sup>さといたら、今<sup>いま</sup>思い出<sup>おも</sup>してもゾッ<sup>だ</sup>とします。

接続 N＋といたら

- ▶驚<sup>おどろ</sup>いたり、あきれたり、感動<sup>かんだう</sup>したりなどの感情<sup>かんじょう</sup>をもって、程度<sup>てい ど</sup>を話題<sup>わ だい</sup>にするときに使う。

## 17 9 ～のこととなると ★2

【～の話題<sup>わ だい</sup>になると】

- ①川上君<sup>かわかみ</sup>は仕事にはあまり熱心<sup>ねっしん</sup>ではないが、車<sup>くるま</sup>のこととなると目<sup>め</sup>が輝<sup>かがや</sup>く。
- ②自分の子ども<sup>じ こ</sup>のこととなると、自己<sup>じ こ</sup>中心<sup>ちゅうしん</sup>的<sup>てき</sup>になってしま<sup>ま</sup>う母親<sup>ははおや</sup>が多<sup>おほ</sup>い。

- ③いつもは<sup>きび</sup>厳しい<sup>やま</sup>山田<sup>かいちょう</sup>会長だが、孫<sup>まご</sup>のこととなると人<sup>か</sup>が変わったようにやさしい<sup>ひょうじょう</sup>表情になる。

接続 N十のこととなると

- ▶「～の話題・～の問題については<sup>ふつう</sup>普通とは<sup>ちが</sup>違う<sup>たいど</sup>態度を表す<sup>あらわ</sup>」と言いたいときに使う。

## 17 10 ～ときたら ★1

【～は】

- ①うちの子ときたら、朝から<sup>ばん</sup>晩までいたずらばかりしているんですよ。
- ②周りの家<sup>まわ</sup>はみんなきれいなのに、わが家<sup>や</sup>ときたら草<sup>くさ</sup>がいっぱい生えている。
- ③田中君<sup>た なかくん</sup>ときたら、毎日インスタントラーメンを食べているんだよ。体によくないよね。

接続 N十ときたら

- ▶<sup>ひ なん ふ まん</sup>非難・<sup>み ちか</sup>不満の気持ちをもって身近なものを<sup>わ だい</sup>話題にするときに使う。



## A

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉はI、IIそれぞれで、1回ずつしか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. にかけては    b. というものは    c. というとは    d. といったら  
e. はというとは    f. のこととなると

## I

時間(1. )早くたってしまうものだ。今はもう秋。あたたかいお風呂がうれしい季節だ。お風呂といえば、去年行った温泉を思い出す。温泉(2. )大きなお風呂を思い浮かべるが、そこは小さなお風呂が2つあるだけだった。しかし、そのお風呂に入ったときの気持ちのよさ(3. )今でも忘れられない。宿の主人は「料理(4. )この辺でここが一番だ」と自慢していた。彼は料理(5. )、話が止まらない。ほかの客たちはのんびり楽しんでいたが、わたし(6. )、一日中机に向かって原稿を書いていた。

## II

弟や妹たちは今、夏休みだ。サラリーマンのわたし(1. )、毎日会社勤めだ。会社(2. )、立派な建物を想像する人も多いが、わたしの会社はマンションの1室である。マンションといえば、林さんが今のマンションを売りたいと言っていた。林さんは腕のいいエン

ジニアなのだが、土地<sup>とち</sup>の売り買い（3. ）、まったく無<sup>む</sup>知<sup>ち</sup>なのだ。  
わたしはそういうこと（4. ）腕<sup>うで</sup>のいい営<sup>えい</sup>業<sup>ぎょう</sup>マンだから、林<sup>ちから</sup>さんの  
力<sup>ちから</sup>になってあげられると思<sup>おも</sup>う。営<sup>えい</sup>業<sup>ぎょう</sup>マン（5. ）、このように常<sup>つね</sup>に  
売<sup>かん</sup>り買<sup>が</sup>いを考<sup>かんが</sup>えているのだ。土<sup>ど</sup>曜<sup>よう</sup>も日<sup>に</sup>曜<sup>ちよう</sup>もない。それでもわたしはこ  
の仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>が好<sup>す</sup>きだ。契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>が成<sup>せい</sup>立<sup>りつ</sup>したときのうれしさ（6. ）何<sup>い</sup>とも言  
えない。

## B

中の言<sup>こと</sup>語<sup>ば</sup>を使<sup>つか</sup>って、下<sup>か</sup>線<sup>せん</sup>の部<sup>ぶ</sup>分<sup>ぶん</sup>を言<sup>い</sup>換<sup>か</sup>えなさい。1つの  
言<sup>かい</sup>語<sup>ご</sup>は1回しか使<sup>つか</sup>いません。

こた  
答えは [こちら](#)

★3・★2・★1

a. にかけては    b. というものは    c. とは    d. といえば  
e. といったら    f. のこととなると    g. はというと    h. とき  
たら

1. イン<sup>りやく</sup>フ<sup>さんぎよう</sup>ラはイン<sup>せい</sup>フ<sup>いかつかんれん</sup>ラストラクチャーの略<sup>りやく</sup>で、産<sup>さん</sup>業<sup>ぎよう</sup>や生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>関<sup>かん</sup>連<sup>れん</sup>の  
社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>的<sup>てき</sup>資<sup>し</sup>本<sup>ほん</sup>のことである。
2. ぼくはおいしいカ<sup>じ</sup>レーを作<sup>しん</sup>ることは自<sup>じ</sup>信<sup>しん</sup>がある。
3. となりのお<sup>こえ</sup>ば<sup>さん</sup>は毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>大<sup>だい</sup>きい声<sup>こゑ</sup>でカ<sup>れん</sup>ラ<sup>しゅう</sup>オケの練<sup>れん</sup>習<sup>しゅう</sup>をして、と  
てもうるさい。
4. あの人のイ<sup>い</sup>ラ<sup>ら</sup>ストのう<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>さは、プ<sup>ぷ</sup>ロ<sup>ろ</sup>み<sup>み</sup>たいだ。
5. 山<sup>やまぐち</sup>口<sup>ぐち</sup>さんはワ<sup>わ</sup>イ<sup>い</sup>ン<sup>ん</sup>の<sup>がく</sup>こ<sup>く</sup>とは、学<sup>がく</sup>者<sup>しゃ</sup>のよ<sup>よ</sup>うに熱<sup>ねつ</sup>心<sup>しん</sup>に語<sup>かた</sup>り出<sup>で</sup>す。
6. 命<sup>いのち</sup>は不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>なものですね。

7. わたしは旅行が好きで国内はあちこちよく行くのですが、外国は、まだ1度も行ったことがないんです。

8. 和食定食は、やはりさしみとてんぷらですかね。これがないければ和食ではないみたいだなあ。

## 18

ぎゃくせつ じょう ぽ  
逆接・譲歩

Contradiction / Concession

逆接, 让步

역접/양보

前の文の事柄<sup>ことがら</sup>から考えて当然<sup>とうぜん</sup>とはいえないことを言<sup>い</sup>いたいときは、どんな言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>がありますか。

し  
知っていますか

中の言葉<sup>こと ば</sup>を使<sup>つか</sup>って、文<sup>ぶん</sup>を完成<sup>かんせい</sup>させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

- a. といっても   b. からといって   c. くせに   d. ながら  
e. ものの

1. 入 院<sup>にゅういん</sup>\_\_\_\_、検 査<sup>けん さ</sup>のために 1 日入院するだけです。
2. この辺<sup>へん</sup>は都心<sup>としん</sup>の近く<sup>ちか</sup>にあり\_\_\_\_、緑<sup>みどり</sup>も多く、静<sup>しず</sup>かな住 宅 地<sup>じゅうたく ち</sup>です。
3. 太 郎<sup>た ろう</sup>は自 分<sup>じ ぶん</sup>では歌<sup>うた</sup>えない\_\_\_\_、ほかの人の歌<sup>うた</sup>を「下 手<sup>へ た</sup>だ、下 手<sup>た</sup>だ」と言<sup>い</sup>う。
4. 昼 間<sup>ひる ま</sup>は晴<sup>は</sup>れる\_\_\_\_、北 風<sup>きたかぜ</sup>が強<sup>つよ</sup>く気 温<sup>き おん</sup>は上<sup>あ</sup>がらないでし<sup>し</sup>ょう。(天<sup>てん</sup>気<sup>き</sup>予<sup>よ</sup>報<sup>ほう</sup>)
5. 日 本 人<sup>にっぽんじん</sup>だ\_\_\_\_、日 本<sup>にっぽん</sup>のこ<sup>こ</sup>とをよ<sup>よ</sup>く知<sup>し</sup>っているとは限<sup>かぎ</sup>らない。

つか  
使えますか

ど<sup>ただ</sup>ちらが正<sup>ただ</sup>しいですか。正<sup>ただ</sup>しい方<sup>ほう</sup>を選<sup>えら</sup>びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. 経験けいけんがあるといっても、 b. 経験がないといっても、 }  
まだこの仕事しごとを始めて3年です。
2. 彼は通勤かれ つうきんに15分ふんしかかからない所ところに住すんでいるくせに、 { a. 遅ち刻こくはしない。 b. 遅刻おおが多い。 }
3. { a. 雨あめにもかかわらず、 b. 宣伝せんでんをしたにもかかわらず、 }  
大勢おおぜいの人が集あつまった。
4. 新入社員しんにゅうしゃいんであるにしても { a. 彼は仕事しごとが遅おそすぎる。 b. 彼は仕事はやが速い。 }
5. { a. 先生せんせいが見るなと言いいつつ、 b. 自分じぶんでも悪いわると知しりつ  
つ、 } 試験しけんのときに友だちの答えこたを見てしまった。

## 18

ぎやくせつ じょう ぽ  
逆接・譲歩

まえ ぶん ことがら かんが とうぜん い  
前の文の事柄から考えて当然とはいえないことを言いたいとき

## ★3

1 ～といっても

2 ～ながら

3 ～つつ・～つつも

4 ～くせに・～くせして

## ★2

5 ～ものの・～とはいふものの

6 ～にもかかわらず

7 ～からといって

8 ～にしても・～にしろ・～にせよ

9 ～ながらも

10 ～ものを

## ★1

11 ～ところを

12 ～とはいえ

13 ～といえども

14 ～と思いきや

## 18

1 ～といっても ★3

【～というけれども、実は】

①わたしの<sup>す</sup>住んでいるマンションのとなりに<sup>こうえん</sup>公園があります。公園と  
いっても<sup>ふつう</sup>普通の<sup>にわ</sup>うちの庭のように小さなものです。

②<sup>じゅぎょうりょう</sup>授業料は高い<sup>はら</sup>といってもわたしに払えないほど高くはなかった。

③家では家族みんながよく集まっていっしょに過ごします。いっしょにといっても、テレビを見るだけなんです。

④わたしはフランス語がわかるといっても料理の言葉だけなんです。

接続 N / 普通形 + といっても

▶「～といっても、…」の形で「～から想像するものとちがって、実は…だ」と説明するときの言い方。

## 18 2 ～ながら ★2

【～のに / ～だが】

①田中さん一家はお金がありながら、とても地味に暮らしている。

②わたしは40歳のときに、小さいながら自分の家を持つことができた。

③残念ながら日本の代表チームは負けてしまった。

④太郎は子どもながらもしっかりした考えを持っている。

⑤1歳のケンはずっくりながらも、自分で歩けるようになった。

⑥彼らは貧しいながらも、互いに助け合って心豊かな生活をしている。

接続 Vます / イAい / ナA・ナAであり / N・Nであり + ながら・ながらも

▶1)「～ながら…」の形で、「～から想像されることとは違って、実際は…」と言いたいときに使う。「～」には状態性動詞・「Vている」・形容詞・名詞などが来る。⑤のように副詞につくこともある。

2)「～ながらも」は「～ながら」より硬い表現。

→23課Ⅱ・5「～ながら(に)・～ながらも」

18 3 ～つつ・～つつも ★2 W

【～ているが】

- ① マリはダイエット中だと言いつつ、<sup>あま</sup>甘いものを見ると買ってくる。
- ② 早くお金を払い込まなければと思いつつ、<sup>おそ</sup>遅くなってしまいました。
- ③ 悪いと知りつつも、<sup>ひろ</sup>拾った5,000円を<sup>けいさつ</sup>警察に<sup>とど</sup>届けずに使ってしまった。
- ④ 春子<sup>はるこ</sup>が元気がないことが<sup>いそが</sup>気になりつつも、忙しかったので、何も聞かずに帰ってきてしまった。

接続 Vます＋つつ

- ▶ 1) 「Vつつ・Vつつも」の形で、「Vているけれども」という逆接の意味を表す。話者が後悔したり告白したりする場合に使われることが多い。
- 2) 慣用表現が多い。例文の例のほかに「感じつつ・理解しつつ」などがよく使われる。
- 7 課 2 「～つつ」

18 4 ～くせに・～くせして ★2

【～のに】

- ① 彼は<sup>かれ</sup>本当の<sup>ほんとう</sup>ことを知っているくせに、わたしに教えてくれない。
- ② 今度この会に入<sup>い</sup>った人は、新人<sup>しんじん</sup>のくせに先輩<sup>せんぱい</sup>にあいさつもしない。
- ③ あの人はお金もないくせに、ブランドものを<sup>はなし</sup>買う話ばかりする。
- ④ ほかの人のことをバカにするもんじゃないよ。自分は何もできないくせして。

接続 普通形（<sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>な・<sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>である / <sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>の・<sup>ふ</sup>ナ<sup>つうけい</sup>である）＋くせに



- ▶ 1) 人の悪い点を非難したり軽蔑したりする気持ち、意外な気持ちや不満を表すときに使う。「～くせに」の前後の文は主語が同じ。

2) ④の「～くせして」にはくだけた会話の感じがある。

## 18 5 ～ものの・～とはいいうものの ★2

### 【～だが、しかし】

- ①祖父は元気ではあるものの、居眠りをしている時間が多くなってきた。
- ②えりに毛皮のついたコートを買ったものの、暖冬なので着ていく機会がほとんどない。
- ③彼は「やります」とは言ったものの、実際にはできないのではないか。
- ④暦の上では春とはいいうものの、まだまだ寒い日が続く。
- ⑤20歳をこえているとはいいうものの、彼女は考え方もすることもまだ幼い。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ものの N / 普通形  
＋とはいいうものの

- ▶ 「～の事柄は一応認めるが、実際はそのことから想像される通りにはいかない」という意味に使う。

## 18 6 ～にもかかわらず ★2

### 【～のに】

- ①家族が反対したにもかかわらず、彼は家族をおいてフランスへ料理の修業に行ってしまった。

②本日は悪天候ほんじつ あくてんこうにもかかわらず、このように大勢おおぜい かたがたの方々がお集まりくださいます。

③忙しい日程いそが にっていであるにもかかわらず、大臣だいじんは人々ひとびととの直接対話ちよくせつたい わを強く望んだ。

接続 N / 普通形（ナAである / Nである）十にもかかわらず

▶「～にもかかわらず、…」の形で「～の事態かたちから予想じたいされることとは違っよそうた...という結果ちがになる」と言いたいときの表現。話者の驚き・意外・不満・非難などの気持ちを表す文が多い。

## 18 7 ～からといって ★2

【～ということから当然とうぜん考えられることとは違ってちがて】

①大学を出たからといって、教養きょうようがあるとは限らない。かぎ

②田中さんがフランスに3年いたからといって、フランスのことに詳しいわけではない。くわ

③おいしいからといって、きりがなく食べたらおなかをこわしますよ。

④好きだからって、肉ばかり食べちゃだめだよ。野菜も食べなきゃ。や さい

⑤「先生に聞いてみたら」  
「先生だからって、わかるとは限らないよ」かぎ

接続 普通形十からといって

▶1) 「～という理由り ゆうから考えられることとは違って」という意味を表す。話者の判断・批判を言うときによく使う。しゃ はんだん ひ はん

2) 文末には「～とは限らない・～わけではない・～というわけではない」などの部分否定の言い方が来ることが多い。ぶんまつ かぎ ぶん ひ てい

3) くだけた会話では④⑤のように「～からって」を使う。

## 18 8 ～にしても・～にしろ・～にせよ ★2

【～のはわかるが、しかし】

- ①いくら忙<sup>いそが</sup>しかったにしても、携<sup>けいたい</sup>帯にメールをするくらいできただろう。どうして彼は外国へ行くことをわたしに知らせてくれなかったのだろうか。
- ②電車<sup>じこ</sup>の事故があつたにしろ、約<sup>やくそく</sup>束の時間<sup>おく</sup>に遅れたのだから、ひとこと謝<sup>あやま</sup>った方がいい。
- ③今度の爆<sup>ばく</sup>発<sup>はつ</sup>事件<sup>じけん</sup>とは関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>なかつたにしろ、あの人<sup>あぶ</sup>たちが危<sup>あぶ</sup>ないことをしているのは確<sup>たし</sup>かだ。
- ④田中<sup>たなか</sup>さんほどでないにせよ、山本<sup>やまもと</sup>さんだつてよく遅<sup>おく</sup>れてくる。
- ⑤いくら無<sup>む</sup>料<sup>りょう</sup>にしたって、あんなつまらないものを見せるとはひどい。見るだけ時間<sup>むだ</sup>の無<sup>む</sup>駄<sup>だ</sup>だ。

接続 N / 普通形 (ナAである / Nである) + にしても

- ▶ 1) 「～にしても…」の形で「～はわかるが、しかし…」と言う譲<sup>じょう</sup>歩<sup>ほ</sup>の言い方<sup>かたち</sup>。「…」には話<sup>わ</sup>者<sup>しゃ</sup>の意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>・不<sup>ふ</sup>審<sup>しん</sup>や納<sup>な</sup>得<sup>とく</sup>できない気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ち・非<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>・判<sup>はん</sup>断<sup>だん</sup>・評<sup>ひょう</sup>価<sup>か</sup>の言<sup>こと</sup>ばが来<sup>く</sup>ることが多い。
- 2) ①のように「いくら・どんなに」などの疑<sup>ぎ</sup>問<sup>もん</sup>詞<sup>し</sup>とともに使<sup>つか</sup>われることもある。
- 3) 「～にしろ・～にせよ」は「～にしても」より硬<sup>かた</sup>い表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>。
- 4) くだけた話<sup>はな</sup>し言<sup>こと</sup>ばでは⑤のように「～にしたって」となる。
- 15課2 「～にしても～にしても」 / 15課4 「～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ」 / 21課3 「～にしても・～にしろ・～にせよ」

## 18 9 ～ながらも ★1

【～のに / ～だが】

▶ 2 「～ながら」と意味・用法が大体同じ。

## 18 10 ～ものを ★1

【～のに】

- ① 電車に<sup>の</sup>乗れば早く着いたものを、タクシーに乗ったから<sup>じゅうたい</sup>渋滞に<sup>ま</sup>巻き込まれ、かえって<sup>おそ</sup>遅くなってしまった。
- ② 寒い日に<sup>さむ</sup>ジョギングなんかしなければいいものを、<sup>むり</sup>無理をするから<sup>かぜ</sup>かぜをひいたんです。
- ③ 夏休みの<sup>しゅくだい</sup>はじめに宿題をやっておけばよかったものを。今になっ<sup>こうかい</sup>て後悔しても<sup>おそ</sup>遅い。
- ④ 今ならいい<sup>くすり</sup>薬もある。兄もあと10年生きていれば、<sup>いのち</sup>命を<sup>お</sup>落とすこともなかったものを。

接続 普通形（ナAな）＋ものを（Nにつく形はない）

- ▶ 1) 期待とは違ってしまった<sup>きたい</sup>現実を<sup>ちが</sup>悔やんだり、<sup>げんじつ</sup>不満に<sup>く</sup>思ったりしたときに<sup>ふまん</sup>使う。
- 2) 不審・不満・恨み・非難・後悔などの<sup>ふしん</sup>気持ちを<sup>うら</sup>込めて<sup>ひなん</sup>言うことが<sup>こうかい</sup>多い。
- 3) ③④のように、<sup>あと</sup>後の文が<sup>ぶん</sup>省略<sup>しょうりやく</sup>される<sup>ばあい</sup>場合もある。

## 18 11 ～ところを ★1

【～のに / ～だったのに】

- ① お忙しいところを<sup>いそが</sup>わざわざ<sup>で</sup>お出かけくださり、ありがとうございます。

②知らん顔<sup>し かお</sup>をしていてもいいところを、田中<sup>た なか</sup>さんは「わたしがやりま  
した」と自分<sup>し じょうじき</sup>から正直<sup>い</sup>に言った。

③お休みのところを、おじゃまいたしました。

接続 <sup>ふ つうけい</sup> 普通形（ナAな / Nの）＋ところを

▶「～という状 況<sup>じょうきょう</sup>なのに...した」と言<sup>あ</sup>いたいとき、相手<sup>あいて</sup>の状 況<sup>はいりょ</sup>を配慮<sup>はいりょ</sup>して言  
うときによく使う表 現<sup>ひょうげん</sup>。①③のように慣用的な表 現<sup>かんようてき</sup>が多い。ほかに「ご多  
忙<sup>ぼう</sup>のところを・お楽 しみ<sup>れい</sup>のところを」などの例がある。

## 18 12 ～とはいえ ★1

【～けれども / ～といっても】

①景気<sup>けい き</sup>が悪いとはいえ、歳末<sup>さいまつ</sup>だからか人の集まるところはきれいに飾<sup>かざ</sup>  
られている。

②親しい友<sup>した</sup>とはいえ、ある程度<sup>てい ど</sup>の礼儀<sup>れい ぎ</sup>と遠慮<sup>えんりょ</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>だ。

③教授<sup>きょうじゆ</sup>のおっしゃることとはいえ、わたしには本当<sup>ほんとう</sup>のこととは思え  
ない。

④秋<sup>あき</sup>になったとはいえ、日中<sup>にっちゅう</sup>はまだ暑<sup>あつ</sup>い。

接続 <sup>ふ つうけい</sup> N / 普通形＋とはいえ

▶「～」から受ける印 象<sup>う いんしょう</sup>や特 徴<sup>とくちょう</sup>の一部<sup>いちぶ</sup>を否定<sup>ひ てい</sup>して実 際<sup>じっさい</sup>のこ 事<sup>こと</sup>を説 明<sup>せつめい</sup>する表 現<sup>ひょうげん</sup>  
。ふつう、後<sup>あと</sup>の文<sup>ぶん</sup>には話者<sup>わしゃ</sup>の意 見<sup>いけん</sup>・判断<sup>はんだん</sup>などが来ることが多い。

## 18 13 ～といえども ★1 W

【～であっても / ～といっても】

①面会<sup>めんかい</sup>謝絶<sup>しゃぜつ</sup>であるから、親友<sup>しんゆう</sup>といえども会<sup>あ</sup>うことはできない。

②副主任といえども、監督者なら事故の責任は逃れられない。

③大臣といえども、法を犯した場合は裁きを受けなければならない。

接続 N / 普通形＋といえども

▶ 極端な立場の人やものや場合を取り上げ、「～であっても・～といっても」  
と言って、「～」から受ける特徴や印象に反することを述べるときの表現。  
硬い言葉。

## 18 14 ～と思いきや ★1

【～かと思ったが、そうではなく】

①実力から言って、日本チームは負けると思いきや、なんと勝ってしまった。

②成績から見て、弟はA大学には合格できると思いきや、落ちてしまった。

③彼は医者の子だから医者になると思いきや、漫画家になった。

接続 ▶ 2) 参照

▶ 1) 「普通に予想すると～だが、この場合は～ではなかった」と意外な気持ちを表す。

2) 引用の「と」で受けるので、前にはさまざまな形が来る。

3) やや古い感じの表現だが、軽妙に言い表す場合に使用されることが多く、公式の文や論文などの硬い文章には使われない。

## A

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. といっても b. くせに c. からといって d. ながら

- 知らない\_\_\_\_、よく知っているようなことを言っ**て**はいけない。
- わたしの書いた文章が雑誌に出るんですよ。雑誌\_\_\_\_学校の雑誌なんですが.....。
- お年寄りだ\_\_\_\_古い歌が好きだとは限らない。新しいポップスが好きな人もいる。
- この車は小型であり\_\_\_\_、とても強い力がある。

## ★2

a. ものの b. つつ c. にもかかわらず d. にしても

- 積雪が1メートルを越える大雪\_\_\_\_彼は出かけていった。
- いけないと知り\_\_\_\_また大酒を飲んでしまった。
- 自分ではわかっている\_\_\_\_、人にわかるように説明するのは難しい。
- 無料\_\_\_\_要らない物はもらいたくない。ごみが増えるのは困る。

## ★1

a. ところを    b. といえども    c. ながらも    d. と思いきや

9. 人にはメモの大切さを力説し<sup>りきせつ</sup>\_\_\_\_、自分ではときどき忘れてしま<sup>わす</sup>う。
10. お疲れの<sup>つか</sup>\_\_\_\_わざわざ荷物を届けてくださり、ありがとうございます<sup>に もつ とど</sup>ました。
11. 今回の市民マラソン大会では、わたしはコンディションが悪<sup>たいかい</sup>かったので、完走もできないだろう\_\_\_\_、なんと3位に入<sup>い にゅうしょう</sup>賞してしま<sup>かんそう</sup>った。
12. 緑の少ない大都会<sup>みどり すく だい と かい</sup>\_\_\_\_、春が近いことを感じさせる場所<sup>かん</sup>は至<sup>ば しょ</sup>るところ<sup>いた</sup>にある。

## B

(        )の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分<sup>ぶ ぶん</sup>を言い換<sup>い</sup>えなさい。<sup>か</sup>

こた  
答えは [こちら](#)

## ★2

1. 祖母はデジタルカメラを買ったけれども、使いこなすのはむずかしいようだ。(ものの)<sup>そ ば</sup>
2. 日本人会の皆様<sup>みなさま</sup>にたいへんお世話にな<sup>かわ だ</sup>ったのに、川田さんはあいさつもしないで帰国<sup>き こく</sup>してしまった。(にもかかわらず)
3. 寒いけれども、室内<sup>しつない</sup>にはばかりいると健康<sup>けんこう</sup>によくない。外に出て運動しなさい。(からといって)<sup>さむ</sup>
4. せっかく行ったのに、残念<sup>ざんねん</sup>ですが、セール<sup>しな</sup>の品は完売<sup>かんばい</sup>していました。(ながら)
5. わたしが失恋<sup>しつれん</sup>したのを知<sup>し</sup>っているのに、姉はわたしにやさしくしてくれない。(ながら)



6. 「子どもなのに大人の話に首をつっこむんじゃない」と、子どものころよく言われた。（くせに）

★1

7. 体調がよくないのに、人数不足のため、ぼくは試合に出場しなければならなかった。（ながらも）
8. 田中氏は大学の教授だが、研究が主な仕事で、学生を指導することはほとんどないそうだ。（とはいえ）
9. もっと早く来ればよかったのに！ もう、おいしいものは残っていないよ。（ものを）
10. 社長であっても、会社のルールは守ってほしい。（といえども）

C

中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

答えは [こちら](#)

★3・★2・★1

- a. といっても   b. くせに   c. からといって   d. ながら  
e. ものの   f. ものを   g. と思いきや   h. つつも

ぼくは、母が音楽家であり（1.    ）、今まで特に音楽に興味なかった。「音楽家の親がいる（2.    ）何も楽器が弾けないのか」と友だちに言われて、最近、ギターでも弾けるようになりたいと思うようになった。友だちが「一口にギター（3.    ）いろいろあるから、1度見に行ってみたら」と言うので、ある日、楽器店へ行ってみた。ギターはさぞかし高いだろう（4.    ）、ぼくにも買えそうな安いもの

のもあった。ぼくが安いギターばかり見ていたら、店員が「初心者だ  
(5. ) 安い楽器でいいというわけじゃありませんよ」と言う。ぼ  
くは「なるほど」とは思った(6. )、やはり経済状 況を<sup>けいざいじょうきょう</sup>かんが  
安めのを買った。さて、練習は<sup>れんしゅう</sup>.....せっかく楽器を<sup>て</sup>手に入れたのだ  
から、早く上<sup>はや</sup>手<sup>じょうず</sup>になりたいと思い(7. )、なかなか練習の時間が  
とれない。その上、母に「このギター、あまり音<sup>おと</sup>がよくないわね」と  
言われてしまった。あの店員のアドバイスを聞いていればよかった  
(8. )と、ちょっと後悔<sup>こうかい</sup>している。

## 19

## 原因・理由

Causes / Reasons

原因, 理由

원인/이유

ものがそ<sup>い</sup>うな<sup>かん</sup>った<sup>かんが</sup>わけや、そ<sup>い</sup>のよ<sup>かた</sup>うに<sup>はん</sup>感<sup>だん</sup>じたり<sup>はん</sup>考<sup>だん</sup>えたり<sup>はん</sup>判<sup>だん</sup>断した<sup>はん</sup>り<sup>だん</sup>する<sup>だん</sup>わけを<sup>だん</sup>言<sup>だん</sup>う<sup>だん</sup>とき<sup>だん</sup>は、ど<sup>だん</sup>んな<sup>だん</sup>言<sup>だん</sup>い<sup>だん</sup>方<sup>だん</sup>が<sup>だん</sup>あ<sup>だん</sup>り<sup>だん</sup>ま<sup>だん</sup>す<sup>だん</sup>か。

し  
知<sup>し</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>ま</sup>す<sup>か</sup>

の中<sup>こと</sup>の<sup>ば</sup>言<sup>つか</sup>葉<sup>ぶん</sup>を<sup>かん</sup>使<sup>せい</sup>っ<sup>て</sup>、文<sup>ぶん</sup>を<sup>かん</sup>完<sup>せい</sup>成<sup>せい</sup>さ<sup>せい</sup>せ<sup>せい</sup>な<sup>せい</sup>さ<sup>せい</sup>い。

こた  
答<sup>こた</sup>え<sup>は</sup> [こ<sup>ち</sup>ら](#)

- a. お<sup>い</sup>か<sup>じょう</sup>げ<sup>じょう</sup>で    b. に<sup>い</sup>よ<sup>じょう</sup>る    c. 以<sup>い</sup>上<sup>じょう</sup>は    d. の<sup>い</sup>こ<sup>じょう</sup>と<sup>じょう</sup>だ<sup>じょう</sup>か<sup>じょう</sup>ら  
e. に<sup>い</sup>つ<sup>じょう</sup>き<sup>じょう</sup>

1. 全<sup>ぜん</sup>国<sup>こく</sup>の<sup>しょう</sup>小<sup>がっ</sup>学<sup>こう</sup>校<sup>こう</sup>で、イン<sup>きゅう</sup>フル<sup>こう</sup>エン<sup>ふ</sup>ザ<sup>ふ</sup> \_\_\_\_ 休<sup>きゅう</sup>校<sup>こう</sup>が<sup>ふ</sup>増<sup>ふ</sup>え<sup>ふ</sup>て<sup>ふ</sup>い<sup>ふ</sup>る。
2. 先<sup>せん</sup>輩<sup>ばい</sup>が<sup>しん</sup>親<sup>せつ</sup>切<sup>お</sup>に<sup>お</sup>教<sup>しん</sup>え<sup>に</sup>て<sup>に</sup>く<sup>に</sup>れ<sup>に</sup>た<sup>に</sup> \_\_\_\_、新<sup>しん</sup>入<sup>にゅう</sup>社<sup>しゃ</sup>員<sup>いん</sup>の<sup>かい</sup>わ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>し<sup>し</sup>も<sup>し</sup>会<sup>かい</sup>社<sup>しゃ</sup>に<sup>はや</sup>早<sup>はや</sup>く<sup>はや</sup>慣<sup>な</sup>れ<sup>な</sup>る<sup>な</sup>こ<sup>な</sup>と<sup>な</sup>が<sup>な</sup>で<sup>な</sup>き<sup>な</sup>た。
3. あ<sup>はや</sup>の<sup>はや</sup>ま<sup>やく</sup>じ<sup>そく</sup>め<sup>ま</sup>な<sup>ま</sup>林<sup>ま</sup>さん<sup>ま</sup> \_\_\_\_、約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>を<sup>ま</sup>守<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ない<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>こ<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ない<sup>ま</sup>だ<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>う。
4. み<sup>まえ</sup>ん<sup>まえ</sup>な<sup>まえ</sup>の<sup>まえ</sup>前<sup>まえ</sup>で<sup>まえ</sup>わ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>し<sup>い</sup>が<sup>い</sup>「<sup>い</sup>や<sup>い</sup>る<sup>い</sup>」<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>た<sup>い</sup> \_\_\_\_、何<sup>なに</sup>が<sup>なに</sup>あ<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>も<sup>い</sup>最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>ま<sup>さい</sup>で<sup>さい</sup>や<sup>さい</sup>り<sup>さい</sup>ま<sup>さい</sup>す。
5. 録<sup>ろく</sup>音<sup>おん</sup>中<sup>ちゅう</sup> \_\_\_\_ ノ<sup>ろく</sup>ッ<sup>おん</sup>ク<sup>ちゅう</sup>を<sup>ろく</sup>し<sup>おん</sup>ない<sup>ちゅう</sup>で<sup>ろく</sup>く<sup>おん</sup>だ<sup>ちゅう</sup>さ<sup>ろく</sup>い。

つか  
使<sup>つか</sup>え<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>す<sup>つか</sup>か

ど<sup>ただ</sup>ち<sup>ただ</sup>ら<sup>ただ</sup>が<sup>ただ</sup>正<sup>ただ</sup>し<sup>ただ</sup>い<sup>ただ</sup>で<sup>ただ</sup>す<sup>ただ</sup>か。正<sup>ほう</sup>し<sup>ほう</sup>い<sup>ほう</sup>な<sup>ほう</sup>方<sup>えら</sup>を<sup>えら</sup>選<sup>えら</sup>び<sup>えら</sup>な<sup>えら</sup>さ<sup>えら</sup>い。

こた  
答えは [こちら](#)

1. これだけのお金かねを使つかったからには、{ a. 失敗しっぱいは許ゆるされない。  
b. 失敗するだろう。 }
2. 子どものころに重おもい病びょう気きをしたせいで、{ a. 今からでもがん  
ばろう。 b. わたしは今でも体からだが弱よわい。 }
3. リンさんは漫まん画が家かだけあって、{ a. 人ひょうじょうの表ひょうじょう情じょうをかくのがうま  
い。 b. 不規則ふきそくな生活せいかつをしている。 }
4. 部屋へやの電でん気きが消きえているところを見ると、{ a. 田中たなかさんは留守るす  
なのだった。 b. 田中さんは留守なのだろう。 }
5. はじめに水くわを 1 cc加くわえなかったばかりに、{ a. 実験じっけんは失敗しっぱいして  
しまった。 b. 実験は失敗するだろう。 }

## 19

## 原因・理由 I

そうなったわけやそう思うわけを言いたいとき

★3

1 ～によって・～による

2 ～から・～ことから・～ところから

3 ～おかげで・～おかげか・～おかげだ

4 ～せいで・～せいか・～せいだ

★2

5 ～ものだから・～もので・～もの

6 ～ばかりに

7 ～につき

## 19

## I・1 ～によって・～による ★3

【～が原因で】

①この地方は津波によって、大きな被害が出た。

②ABC店は売り上げが落ちたことによって、ついに店を閉めることとなった。

③酒を飲んで運転をしてはいけないのだが、実際には、飲酒運転による事故が多い。

接続 N+によって

▶「～によって、…」の形で「～が原因で、…の結果になった」と言うときに用いる。

→ 2 課 II・1 「～によって・～による」 / 13 課 1 「～によって・～による」

【～が理由<sup>りゆう</sup>で】

- ①栄養<sup>えいよう</sup>の不足<sup>ふそく</sup>から、病<sup>びよう</sup>気<sup>き</sup>になる子ども<sup>こ</sup>がいる。
- ②子どもの火遊び<sup>ひあそ</sup>から、火事<sup>かじ</sup>になった。
- ③この辺<sup>へん</sup>は富士山<sup>ふじさん</sup>がよく見えること<sup>み</sup>から、富士見町<sup>ふじみちょう</sup>と呼ばれるようになった。
- ④彼女<sup>かのじょ</sup>はスペイン語<sup>りようだん</sup>ができるということ<sup>つうやく</sup>から、旅行団<sup>えら</sup>の通訳<sup>えら</sup>に選ばれた。
- ⑤犯人<sup>はんにん</sup>たちの食べ残<sup>た</sup>した食<sup>のこ</sup>事<sup>しょくじ</sup>がまだ温かいところ<sup>あた</sup>から、犯人<sup>はんにん</sup>はまだ遠くへは行<sup>とお</sup>っていないと思<sup>おも</sup>われた。

接続 N+から 普通形（ナAな・ナAである / Nである）+こと  
から・ところから

- ▶ 1) 「～から...」の形<sup>かたち</sup>で「～が原因<sup>げんいん</sup>・理由<sup>りゆう</sup>で、...になる」と言うとき<sup>い</sup>に用<sup>もち</sup>いる。
- 2) 「～ことから・～ところから」はもの<sup>もの</sup>の名前<sup>なまえ</sup>の由来<sup>ゆらい</sup>・判断<sup>はんだん</sup>の根拠<sup>こんきょ</sup>を言うとき<sup>い</sup>に用<sup>もち</sup>いる。

【～の助け<sup>たす</sup>があったので】

- ①田中<sup>たなか</sup>さんが紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>してくださったおかげ<sup>みせ</sup>で、店<sup>みせ</sup>にいい人<sup>いい</sup>が来<sup>き</sup>てくれ  
ることになりました。
- ②あなたがこの手紙<sup>てがみ</sup>を訳<sup>やく</sup>してくださったおかげ<sup>みせ</sup>で、この手紙<sup>てがみ</sup>の意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>が  
わかりました。
- ③道路工<sup>どうろこうじ</sup>事<sup>お</sup>が終<sup>しず</sup>わって静<sup>さく</sup>かにな<sup>や</sup>ったおかげ<sup>ねむ</sup>か、昨夜<sup>さくや</sup>はよく眠<sup>ねむ</sup>れた。

④<sup>たの</sup>しく<sup>りょこう</sup>旅行ができたのは、<sup>しみず</sup>清水さんといういいガイドさんのおかげだ。

⑤「<sup>そつぎょう</sup>ご卒業おめでとうございます」  
「先生、おかげさまで。ありがとうございます」

**接続** <sup>ふ ふうけい</sup>普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋おかげで

- ▶ 1) 「～おかげで、…」の形で「～の<sup>かたち</sup>助けがあったので、…という<sup>けっ か</sup>結果になった」と<sup>かんしゃ</sup>感謝の<sup>きもち</sup>気持ちで言うときに使う。③の「おかげか」は、<sup>げんいん</sup>それだけが<sup>い み</sup>原因かどうかわからないが、という意味がある。
- 2) 「～おかげだ」は④のように「～のは～おかげだ」の形でよく使う。
- ⑤の「おかげさまで」は<sup>ことば</sup>あいさつの言葉。

## 19 I・4 ～せいで・～せいか・～せいだ ★3

【～が<sup>げんいん</sup>原因で】

- ①きのうまで<sup>やす</sup>休みが3日<sup>つづ</sup>続いたせいで、今日は<sup>みち</sup>道が<sup>こ</sup>とても<sup>こ</sup>込んでい
- る。
- ②<sup>そ ふ とし</sup>祖父は<sup>わす</sup>年のせいで、もの<sup>わす</sup>忘れがひどくなった。
- ③<sup>さく や おそ</sup>昨夜、<sup>の</sup>遅くまで<sup>あたま</sup>飲みすぎたせいか、<sup>いた</sup>頭が痛い。
- ④<sup>あに ふと</sup>兄が<sup>うんどう</sup>太りすぎているのは、<sup>おも</sup>運動をしないせいだと思う。

**接続** <sup>ふ ふうけい</sup>普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋せいで

- ▶ 1) 「～せいで、…」の形で「～が<sup>かたち</sup>原因で、…という<sup>わる</sup>悪い<sup>けっ か</sup>結果となった」と<sup>い</sup>言いたいときに<sup>つか</sup>使う。③「～せいか」は、<sup>かん</sup>それだけが原因かどうかわからないが、<sup>かん</sup>という<sup>かん</sup>感じがある。
- 2) 「～せいだ」は④のように「～のは～せいだ」の形でよく使う。

## 19 I・5 ～ものだから・～もので・～もの ★2 S

## 【～ので】

- ①「昨夜の地震、気がつかなかったんですか」  
「ええ、よく寝ていたものですから」
- ②先週は忙しかったものだから、お返事するのが遅くなりました。
- ③明日の夜は友だちが泊まりに来るもので、飲み会には出られません。
- ④「今日の授業にいなかったね」  
「うん、あの授業おもしろくないも」
- ⑤「え、そんなにたくさん食べるの」  
「だって、これおいしいんだもん」

**接続** 普通形（ナAな / Nな）＋ものだから      普通形＋もの

- ▶個人的な言いわけをするときによく使われる話し言葉で、後の文には、命令や意志のある文はほとんど来ない。

## 19 I・6 ～ばかりに ★2

### 【～だけが原因で】

- ①本当のことを言ったばかりに、みんなから仲間はずれにされてしまった。
- ②わたしが部屋の番号を間違えて書いたばかりに、大切な郵便物が相手に届かなかった。
- ③外国に行きたいばかりに、荷物の中に隠れて船に乗る人がいるそうだ。
- ④身長が162cmないばかりに、航空会社の客室乗務員になれなかった。



た。

接続 ふ、つうけい 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ばかりに

- ▶ 1) 「～だけが原因で、...というよくない結果となった」と言いたいときに  
使う。わしゃ こうかい げっ か ざんねん あらわ 話者の後悔の気持ち・残念な気持ちを表すことが多い。
- 2) ③のように「～たいばかりに」を使う場合は、そのためにしたくない  
こともやったという意味の文ば あい ぶんが来る。

**19** I・7 ～につき ★2 **W**

【～のため】

- ① かいそうちゅう 改装中につき、10月31日まで休ませていただきます。（店はの張り紙）
- ② 11月3日は祭日さいじつにつき、休業きゅうぎょうします。（事務所じむしょの張り紙）
- ③ 会議中かいぎちゅうにつき、103号室ごうしつは4時しようまで使用できません。（注 意書ちゅうい がき）

接続 N＋につき

- ▶ お知らせ・掲示・張り紙などの通知や改まった手紙文し けいじ は がみ つうち て がみぶん き い かたの決まった言い方。

## 19

## 原因・理由 II

そうなったわけやそう思うわけを言いたいとき

★3

1 ～からには・～からは

2 ～からこそ

★2

3 ～ことだし

4 ～以上いじょう（は）5 ～上うえは

6 ～のことだから・～のことだ

7 ～ところをみると

8 ～だけに

9 ～あまり（に）・あまりの～に

★1

10 ～とあって

11 ～ではあるまいし

12 ～ばかり

13 ～手前てまえ

## 19

## II・1 ～からには・～からは ★3

【のなら / のだから】

① 県の代表けん だいひょうになって全国大会ぜんこくたいかいに出るからには、勝かってメダルもを持っ  
て帰かえりたい。

② タイに住すむからには、タイ語すこが少はなし話ほうせた方がいいだろう。

③ 子どもがいじめられているのを見たからには、だまって見ているこ  
とはできない。

- ④こちらからお願ねがいするからは、わたしたちもできるだけのことをいたします。

**接続** 普通形（ナAである / Nである）＋からには

- ▶ 1) 「～のだから、当然...」と、話す人の理由や判断・決意などを言いたい  
ときの表現。  
2) 「...」では「～べきだ・～つもりだ・～はずだ・～にちがいない・～てはいけない」など、話す人の意志を表す言い方や相手への働きかけの言い方がよく使われる。このことはⅡ・4「～以上（は）」、Ⅱ・5「～上は」も同じ。

## 19 Ⅱ・2 ～からこそ ★3

### 【～から】

- ①ジムはほかの人の2倍も勉強したからこそ、大学に合格できたのです。  
②佐藤先生に診ていただいたからこそ、この病気が見つかったのです。  
③教師「みなさんのことが好きだからこそ、こんな小さいことも注意するんです」  
④暑い時だからこそ、熱いシャワーを浴びたい。

**接続** 普通形＋からこそ

- ▶ 1) 「～からこそ、...」の形で、「～」がその理由だと強めて言いたいときに使う。①②③のように「～からこそ...のだ」の形で使うことが多い。  
マイナスの意味を強める使い方はほとんどしない。  
2) ③④はちょっと見ると常識に反するように思えるが、そうではない、とその理由を特に言いたいときの使い方である。

## 19 II・3 ～ことだし ★2

### 【から / ので】

- ①雪も降ってきたことだし、今日の山登りはやめにしよう。
- ②12月30日の新幹線の切符も買ったことだし、あとは故郷へ帰るだけだ。友人たちに会うのが楽しみだ。
- ③夏のことだし、パーティーは庭でやりますから気楽にカジュアルな服装で来てください。

**接続** 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋ことだし

- ▶軽い理由を表す言い方。ほかにも理由があるという感じがある。「し」だけの言い方と似ているが、ややていねいで、少し理由を強調した言い方。

## 19 II・4 ～以上（は） ★2

### 【～のだから】

- ①オリンピックに出場する以上、メダルを取りたい。
- ②この学校の生徒である以上は、学校の規則は守らなければならない。
- ③お金を払ってこの博物館に入場した以上、閉館の時間まで見ていたい。

**接続** 普通形（ナAである / Nである）＋以上（は）

- ▶「～のだから、当然...」と話者の判断・決意・勧めなどを言うときの表現。「...」には、「～べきだ・～つもりだ・～はずだ・～にちがいない・～てはいけない」などの話者の判断や気持ちを表した言い方、または相手へ働きかける言い方、勧め・禁止などがよく使われる。

## 19 II・5 ～上は ★2

### 【～のだから】

- ①大学に進学すると決めた上は、しっかり勉強しなければならない。
- ②マラソン大会を開く上は、十分な準備が必要だ。
- ③会議でやると決まった上は、この企画をやりたくなくてもやるしかない。

### 接続 Vる・Vた＋上は

- ▶「～のだから、当然...」という言い方。「...」には、責任・判断・覚悟・決意を伴う行為を表す言葉を使う。II・1「～からには」、II・4「～以上(は)」などと近い表現。

## 19 II・6 ～のことだから・～のことだ ★2

### 【～なのだから】

- ①あのまじめな佐藤さんのことだから、言ったことはきちんとやりますよ。
- ②「よし子、遅いですね」  
「買い物好きなよし子のことだ。また、閉店まで買い物をしているんだろう」
- ③「ケンタから聞いたんですが、イチローがまり子と結婚するんだって」  
「ケンタのことだ。また、じょうだんで言っているんだろう」

### 接続 N＋のことだから

- ▶1)「～のことだから、...」の形で、互いにわかっている「～」から判断して、「...」と推量したことを言う。「～」には多くの場合人を表す名

し  
詞が来る。

- 2) ③のように互いにわかっていること（この場合はケンタの性格）は省略されることが多い。

## 19 II・7 ～ところをみると ★2

はんだん  
【～から判断すると】

- ①兄が急に掃除を始めたところをみると、友だちが遊びに来るんだと思う。
- ②雨なのに朝から大勢の若い人が集まっているところをみると、あの歌手はよほど人気があるのだろう。
- ③発売前からインターネットによる注文が多くて話題になっているところをみると、あの本はベストセラーになるかもしれない。

ふ、つうけい  
接続 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋ところをみると

- ▶「～という様子を見ると、...ということが推測される」と言いたいときに使う。

## 19 II・8 ～だけに A ★2

【～ので、それにふさわしく】

- ①伊藤さんは実力があるだけに、彼女の発言は人をひきつける。
- ②年末だけに、飛行機も列車も帰省客や旅行客で込んでいる。
- ③桜井さんは若いだけに、理解が早く、仕事も手早い。
- ④今日は37度以上あるそうだ。暑さが暑さだけに、ちょっと歩くと大汗をかく。

- ⑤デザインのいいセーターがあったが、2万円という値段が値段だけに買わなかった。

**接続** N / 普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋だけに

- ▶ 1) 「～だけに、…」の形で、「～」で理由となることや状況などを言い、それにふさわしい結果として発生することや推量されることを「…」で言う。評価や判断を言うことも多い。
- 2) ④⑤のように「NがNだけに」の形で、同じ名詞をくりかえして、Nが特別だから、と言いたいときに使う言い方もある。

## 19 II・8 ～だけに B ★2

【～ので、反対に…】

- ①勝てると思っていただけに、負けたときのショックは大きかった。
- ②ケンタは家が近いだけに、かえって遅刻が多い。
- ③今村さんは若いだけに、地味なセーターがかえって彼女の美しさを引き立てている。

**接続** 普通形（ナAな・ナAである / N・Nである）＋だけに

- ▶ 「～なので、普通以上にもっと…」 「～なので、予想されることとは反対に」という意味。②③のように「かえって」とよくいっしょに使われる。

## 19 II・9 ～あまり（に）・あまりの～に ★2

【非常に～ので】

- ①質問は簡単だったのに緊張したあまり答えられなかった。
- ②事故の後、その人は息子が無事だったという知らせを聞いて、喜びのあまり泣き出したということだ。

③合格発表で自分の番号を見つけたとき、うれしさのあまり飛び上がった。

④ストリートダンスを見に行ったが、あまりのにぎやかさに驚いた。

⑤彼女の夫が文学賞を受けた。彼女はあまりのうれしさにしばらく話ができなかった。

接続 Nの / V・Aの普通形（肯定形だけ）（+Aな）+あまり  
（に）          あまりの+Nに

▶「～の程度が極端なので、普通でない状態やよくない結果になる」と言いたいときの表現。「～あまり」の「～」には感情を表す言葉が来ることが多い。

## 19 II・10 ～とあって ★1

【～という状況なので/～ので】

①2人が会うのは3年ぶり（だ）とあって、お互いに話したいことがたくさんある様子だった。

②歳末の大売り出しが始まった。しかし、不景気とあって、デパートの人出はよくない。

③桜が満開の晴天の休日とあって、公園はどこも花見の人でにぎわっていた。

④I選手が出場するとあって、ゴルフ場は彼を見ようという人々でいっぱいだった。

接続 N / 普通形+とあって

▶「～とあって…」の形で「～」では特別な様子や状況について述べ、「…」ではそれが理由となって起こることについて言う。話者の観察・感想



などを言うことが多い。ニュースなどでもよく使われる。

## 19 II・11 ～ではあるまいし ★1 S

【～ではないのだから】

- ①子どもではあるまいし、あまりバカなことを言うもんじゃない。
- ②「おじいちゃん、デフレって何」  
「学校の先生じゃあるまいし、そんなこと、じょうずに説明できないよ」
- ③親子の縁を切ったわけじゃあるまいし、携帯で「元気だよ」とだけでも知らせてほしい。

接続 N+ではあるまいし

- ▶ 1) 「Nではないのだから、当然...」と言いたいときの表現。後の文には、  
相手に対する話者の判断・主張・話し相手への忠告などが来る。
- 2) 古い言葉であるが、会話的な表現である。公式の文章には使わない。

## 19 II・12 ～ばこそ ★1

【～から】

- ①あなたの将来を思えばこそ、こうして注意しているんです。
- ②見舞いに来てくれる人のやさしさがあればこそ、病氣と闘う勇気がわいてくる。
- ③わたしが今日あるのも、わたしを支えてくださった方々がいればこそだ。
- ④このボランティア団体が20年以上続いているのは、地味な活動をする会員がいればこそです。

接続 Vば / イAければ / ナAであれば / Nであれば+こそ

- ▶「～ばこそ、…」の形で、「～だから、…。ほかの理由ではない」と話者の気持ちを強く言う言い方。「～」は状態の表現が多い。硬い言い方である。

## 19 II・13 ～手前 ★1

【～した自分の体面や面子があるから】

- ①みんなの前で「わたしがやります」と言ってしまった手前、もう引き下がれない。
- ②T社にはいつも世話になっている手前、今回もまた無理をお願いすることはできない。
- ③田中さんは子どもにディズニーランドへ連れていくと約束した手前、今年はどうしても行かなければならないそうだ。

接続 Vる・Vた・Nの＋手前

- ▶何か言ったり、したりしてしまった後「ほかの人の前で自分の体面を保つため」という場面で使う。

## A

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

答えは [こちら](#)

## ★3

a. による b. ところから c. からこそ d. からには

- この山は形が富士山に似ている\_\_\_\_「信濃富士」と呼ばれている。
- 事故\_\_\_\_電車の遅れは10分ぐらいだった。
- この本が好きだ\_\_\_\_あげるのですよ。要らないからじゃありません。
- 新しいバイオリンを買ってもらった\_\_\_\_一生懸命に練習して上手にならずには。

## ★3・★2

a. おかげで b. もん c. から d. せいか

- きのうはコンピューターシステムの故障\_\_\_\_飛行機に乗れなくなった人が大勢いたそう。
- 小学校の先生の教え方が上手だった\_\_\_\_、理科が好きになった。
- 昨夜は寝る前に濃いお茶を飲んだ\_\_\_\_、なかなか寝られなかった。

8. 母「また、新しいTシャツを買ったの。たくさんあるじゃないの」  
娘「だって、こんな色のがほしかったんだ\_\_\_\_\_」

★2

a. あまりの    b. 以上    c. につき    d. ばかりに

9. 妹はフルートを1年ほど習っていたが、\_\_\_\_\_難しさにとうとうやめてしまった。
10. 無理をして車を買った\_\_\_\_\_、お金がなくて旅行に行けなくなってしまった。
11. 自分からやってみたいと言った\_\_\_\_\_、この仕事は難しくても最後までやります。
12. 「工事中\_\_\_\_\_足もとにご注意ください」（立て札）

★2

a. のことだ    b. ところをみると    c. だけに    d. 上は

13. このように方針を決めた\_\_\_\_\_、もう迷わずにやるだけだ。
14. 足をひきずるようにして歩いている\_\_\_\_\_、明子さんはさっき転んだときにけがをしたんじゃないだろうか。
15. 鈴木さんは若い\_\_\_\_\_、外国語を習っても上手になるのが早い。
16. 「田中、遅いなあ。もう12時だぞ」  
「あいつ\_\_\_\_\_。またどこかで飲んでいるんだろう」

★1

a. 手前    b. こそ    c. ではあるまいし    d. とあって

17. 今日は「成人の日」\_\_\_\_\_、着物やスーツでおしゃれをした若者が

多い。

18. 夏休みには沖縄の海にいっしょに行こうとわたしから友だちを誘った\_\_\_\_、いまさら忙しくて行けないとは言えない。
19. あなたのことを心配すれば\_\_\_\_、わたしは今、厳しいことを言うのです。
20. 神様\_\_\_\_、わたしは将来のことはわかりません。
- 

## B

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

### ★3

1. 道路工事が多い { a. せいで、 b. おかげで、 } うるさくて困る。
2. 王さんが翻訳してくださった { a. おかげで、 b. ことから、 } よくわかりました。
3. この電車は強風 { a. による、 b. によって、 } 運転が止まることが多い。

### ★2

4. すてきな彼のことをいろいろと考える { a. 以上、 b. あまり、 } 昨夜は眠れなかった。
5. 彼は才能がある { a. だけに、 b. ところをみると、 } 今後の活躍が期待される。
6. 彼は郵便物の配達を早く終わりにしたい { a. 以上、 b. ばかりに、 } 郵便物を捨ててしまったのだそう。

### ★1

7. のどかな春の日 { a. とあって、 b. のあまり、 } 公園では  
ゆったりと休日<sup>きゅうじつ</sup>を過ごす人々<sup>ひとびと</sup>が見られた。

8. 心をなぐさめるピアノが { a. ある手前<sup>てまえ</sup>、 b. あればこそ、 }  
彼は<sup>かれ</sup>つらい仕事<sup>した</sup>にも耐えていけるのだろう。

## C

中の言葉<sup>ことば</sup>を使って、 部分<sup>ぶぶん</sup>を言い換え<sup>い</sup>なさい。1つの  
言葉<sup>かい</sup>は1回しか使いません。

答えは [こちら](#)

### ★3

a. による b. からは c. せいで d. のおかげで e. こ  
とから

1. 日本では梅雨<sup>つゆ</sup>があるから、秋<sup>あき</sup>には豊か<sup>ゆた</sup>に米<sup>こめ</sup>が実<sup>みの</sup>る。

2. 雪<sup>ゆき</sup>が降<sup>ふ</sup>ったから、試合<sup>しあい</sup>が中止<sup>ちゅうし</sup>になってしまった。

3. 今年<sup>ことし</sup>は不景気<sup>ふけいき</sup>が原因<sup>げんいん</sup>で起<sup>お</sup>こった倒産<sup>とうさん</sup>が多<sup>おほ</sup>かった。

4. 兄<sup>あに</sup>は部屋<sup>へ</sup>の中<sup>なか</sup>をぐるぐる歩<sup>ある</sup>きまわるので、友だち<sup>ともだち</sup>から「くま」と  
呼<sup>よ</sup>ばれている。

5. 外国<sup>がいこく</sup>へ行<sup>い</sup>く<sup>すこ</sup>のだから、その国の言葉<sup>ことば</sup>が少しはわからないと困<sup>こま</sup>るだ  
ろう。

### ★2・★1

a. ばかりに b. 手前<sup>てまえ</sup> c. につき d. とあって e. じゃあ  
るまいし

6. 大声<sup>おおごえ</sup>を出したので、子どもが起きてしまった。

7. 改装中なので、しばらく休ませていただきます。
8. 大金持ちではないんだから、そんな高い指輪は買えません。
9. 「期日までに間に合います」と言った面子があるから、もし間に合わなかつたら恥ずかしい。
10. ゴールデンウィークだから観光地はどこも人がいっぱいだ。

Hypothetical Conditions / Definite Conditions

假定条件, 确定条件

가정조건/확정조건

もしある状 <sup>じょうきょう</sup>況になったら、または、ある状況のもとでは、そうする・  
そうなる、と言いたいときは、どんな言 <sup>い</sup>い方 <sup>かた</sup>がありますか。

し  
知っていますか

の中 <sup>こと</sup>の言 <sup>ば</sup>言葉 <sup>つか</sup>を使って、文 <sup>ぶん</sup>を完 <sup>かん</sup>成 <sup>せい</sup>させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. さえあれば b. としたら c. ないことには d. をぬきに  
しては e. ようものなら

1. 結 <sup>けっ</sup>婚 <sup>こん</sup>するかどうかわからないが、もし、する \_\_\_\_ 30 歳 <sup>さい</sup>になる前 <sup>まえ</sup>が  
いい。
2. みんなの協 <sup>きょう</sup>力 <sup>りょく</sup> \_\_\_\_ この仕 <sup>し</sup>事 <sup>ごと</sup>は成 <sup>せい</sup>功 <sup>こう</sup>しなかつただろう。
3. 家 <sup>か</sup>族 <sup>ぞく</sup>が病 <sup>びょう</sup>気 <sup>き</sup>になると、健 <sup>けん</sup>康 <sup>こう</sup>で \_\_\_\_ ほかに何 <sup>い</sup>も要 <sup>おも</sup>らないと思う。
4. 佐 <sup>さ</sup>藤 <sup>とう</sup>さんという人 <sup>ひと</sup>がう <sup>うち</sup>の仕 <sup>し</sup>事 <sup>ごと</sup>に合 <sup>あ</sup>うかどう <sup>か</sup>か、会 <sup>あ</sup>って <sup>み</sup> \_\_\_\_ わ  
からない。
5. 兄 <sup>あに</sup>はカメ <sup>カメラ</sup>を <sup>を</sup>と <sup>と</sup>て <sup>も</sup>大 <sup>たい</sup>切 <sup>せつ</sup>に <sup>に</sup>し <sup>て</sup>い <sup>る</sup>。だ <sup>だ</sup>ま <sup>ま</sup>っ <sup>て</sup>借 <sup>か</sup>り \_\_\_\_ 後 <sup>あと</sup>で大 <sup>たい</sup>変 <sup>へん</sup>  
な <sup>な</sup>こ <sup>こ</sup>と <sup>と</sup>に <sup>に</sup>な <sup>る</sup>。

つか  
使えますか

ただ <sup>ただ</sup>どちら <sup>どちら</sup>が正 <sup>ただ</sup>しい <sup>ほう</sup>で <sup>えら</sup>す <sup>えら</sup>か <sup>か</sup>い <sup>い</sup>です <sup>は</sup>か。正 <sup>ただ</sup>しい <sup>ほう</sup>方 <sup>えら</sup>を <sup>えら</sup>選 <sup>えら</sup>び <sup>えら</sup>な <sup>えら</sup>さ <sup>えら</sup>い <sup>えら</sup>。



こた  
答えは [こちら](#)

1. この仕事<sup>しごと</sup>は時間さえ { a. なければできない。 b. あればできる。 }
2. お金で解決<sup>かいけつ</sup>できるものなら、 { a. そうしたい。 b. お金<sup>ひつ</sup>が必  
要<sup>よう</sup>だ。 }
3. 宝くじでも当た<sup>あ</sup>らないかぎり、 { a. 何か<sup>べつ</sup>別<sup>ほうほう</sup>の方法<sup>かんが</sup>を考えよ  
う。 b. 家<sup>いえ</sup>は買<sup>か</sup>えない。 }
4. ミキさんをぬきにしては、 { a. パーティーは楽<sup>たの</sup>しいだろう。  
b. パーティーは楽しくないだろう。 }
5. 夜<sup>よる</sup>、遅<sup>おそ</sup>く帰<sup>かえ</sup>ろうものなら、 { a. 父<sup>ちち</sup>にどなられる。 b. 父<sup>ちち</sup>が駅<sup>えき</sup>  
に迎<sup>むか</sup>えに来てくれてうれしい。 }

## 20

## 仮定条件・確定条件

もしある状況じょうきょうになったら、またはある状況のもとでは、そうする・そうなりいと言いたいとき

## ★3

1 ～さえ～ば

2 ～としたら・～とすれば・～とすると

3 ～ば～（のに）

## ★2

4 ～ないことには

5 ～ものなら

6 ～をぬきにしては

7 ～ようものなら

8 ～ないかぎり

9 ～となると

## ★1

10 ～たら最後さいご・～が最後

11 ～なくして（は）

12 ～とあれば

## 20

## 1 ～さえ～ば ★3

①うちの子こは暇ひまさえあれば、本を読んでいます。

②湿度しつどさえ低ひくければ、東京の夏なつは暮くらしやすいのではないか。

③これは薬くすりを飲のみさえすれば治なおるとい病びょう気きではありません。

④課長かちょうにさことわえちゃんと断ことわっておけば、今日けいの会かい議ぎに欠席けっせきしても大丈だいじょう夫ぶだよ。

⑤この机、もう1サイズ小さくさえあれば、わたしの部屋にちょうどいいのですが。

⑥子どもたちの体さえ健康なら、親はそれだけで満足だ。

接続 V~~ます~~+さえすれば N(+助詞)+さえ+Vば / イAければ / ナAなら / Nなら イAく / ナAで+さえあれば

▶「～さえ～ば…」の形で、「…」が可能になるのに必要な「～」というただ1つの条件を仮定するときに使う。

## 20 2 ～としたら・～とすれば・～とすると ★3

【～と仮定したら】

①もし、ここに100万円あったとしたら、何に使用しますか。

②この参加者名簿が正しいとしたら、まだ来ていない人が2人いる。

③わたしの言葉が彼の気分を悪くしたのだとしたら、本当に申し訳ないことをしたと思う。

④時給800円で1日4時間、1週間に5日働くとすれば、1週間で1万6,000円になる。

⑤報告書の数字が間違っているとすれば、結論はまったく違うものになるだろう。

⑥運転免許証を取るのに30万円以上もかかるとすると、今のわたしには無理だ。

⑦車を持っている彼が来ないとすると、だれが荷物を運んでくれるのだろうか。

接続 普通形+としたら

- ▶ 1) 「～としたら・～とすれば・～とすると」の3つの形は、「あることを仮定したら」という基本的な意味は同じである。
- 2) 「～としたら」は、「今はそのような状況にはないが、もしその状況を仮定したら」「不明なことを、そうだと仮定したら」という意味で使う。
- 3) 「～とすれば」は、「そのように仮定すれば、ある論理的な結果になる」という意味で使うことが多い。
- 4) 「～とすると」は、「そのように仮定すると、どういうことになるか」というニュアンスで使う。

## 20 3 ～ば～（のに） ★3

- ①きのうのミーティングに君も来ればよかったのに。とても大切なことを話したよ。
- ②もう少し暇なら、お手伝いできたのに。すみません。
- ③店できれいなセーターを見たの。もっと安ければ買ったんだけれど.....。
- ④若いうちにもっと外国語を勉強していたら、好きな旅行の仕事ができただろう。

**接続** Vば / イAければ / ナAなら（ば） / Nなら（ば）＋～（のに）

- ▶ 1) 「～ば」で事実とは違うことを仮定して考え、あとに実現しなかったことなどについて述べる。残念な気持ちを表す場合が多い。
- 2) 「のに」以外に、「～ば...けれど・～ば...だろう・～ば...だろうに」の形もある。
- 3) ④のように、「たら」で言うこともできる。

## 20 4 ～ないことには ★2

【～しなければ】

①ある商品しょうひんが売うれるかどうかは、市場調査しじょうちようさをしてみないことに  
は、わからない。

②山田さんやまだが資料しりょうを持っているんだから、彼かれが来ないことには会議かいぎ  
が始まりません。

③体が健康けんこうでないことには、いい仕事はできないだろう。

④まことに申し訳もうありませんが、ご本人様ほんにんさまであることを証明しょうめいするも  
のがないことには、お支払いしはらすることができません。

接続 Vない / イAくない / ナAでない / Nでない + ことには

▶「～なければ、後の事柄あと ことがら じつげんは実現ひていしない」と言いたいときに使う。後には否定  
の意味ぶんの文が来る。話者の否定的・消極わしゃ てき しょうきよくてき的な気持ちあらわ ば あいを表す場合が多い。

## 20 5 ～ものなら ★2

【もしできるなら】

①できるものなら鳥になって国へ帰りたい。

②この仕事、やめられるものなら、今すぐにでもやめたい。でも家族  
がいるからなあ。

③スケジュールが自由じゆうになるものなら、広島ひろしまに1泊いっぱくしたいのだが、そ  
うもいかない。

④治なおるものなら、どんな手術しゅじゆつでも受うけます。

接続 Vる（可能の意味の動詞）+ ものなら

▶「～ものなら」の前には可能の意味を含む動詞ふくが来る。そして実現が難しじつげん むずか  
うなことを、「もしできるなら・そうなるなら」と仮定かていして、後の文で希望あと きぼう  
など話者の意志わしゃ い し あらわを表す。

## 20 6 ～をぬきにしては ★2

【～を考えに入れずには】

- ①料理のじょうずな山田さん<sup>やま だ</sup>をぬきにしては、パーティーは開けません。
- ②悪条件<sup>あくじょうけん</sup>の中の登山<sup>と ざん</sup>は、隊長<sup>たいちょう</sup>の強いリーダーシップ<sup>せいりーだーしふ</sup>をぬきにしては成功<sup>せいこう</sup>しない。
- ③この国の将来<sup>しょうらい</sup>は、観光事業<sup>かんこう じぎょう</sup>の発展<sup>はってん</sup>をぬきにしてはあり得<sup>え</sup>ない。

接続 N+をぬきにしては

- ▶ 1) 「ある事柄<sup>ことがら</sup>は、～を考えに入れないと実現<sup>じつげん</sup>が難しい」と言うときに使う。
- 2) 「～」には話者<sup>わしゃ</sup>が高く評価<sup>ひょうか</sup>する事柄<sup>ことわ</sup>が来る。後<sup>あと</sup>には「することができない・難しい」という否定的な意味<sup>ひていてき</sup>の文<sup>ぶん</sup>が来る。

## 20 7 ～ようものなら ★2

【もし～のようなことをしたら / もし～のようなことになったら】

- ①この学校は規則<sup>きそく</sup>が厳<sup>きび</sup>しいから、断<sup>ことわ</sup>らずに休<sup>たいへん</sup>もうものなら、大変だ。
- ②彼<sup>かれ</sup>のような責任感<sup>せきにんかん</sup>のない人<sup>い</sup>が委員<sup>いいんちょう</sup>長<sup>ちやう</sup>になろうものなら、この委員会<sup>かい</sup>の活動<sup>かつどう</sup>はめっちゃくちゃになる。わたしは反対<sup>はんたい</sup>だ。
- ③彼女<sup>かのじょ</sup>はこの仕事<sup>しごと</sup>にすべてをかけている。もし失敗<sup>しっぱい</sup>しようものなら、2度<sup>ど</sup>と立ち直<sup>ただ</sup>れないのではないか。

接続 Vようものなら

- ▶ 「万一<sup>まんいち</sup>そんなことになったら大変<sup>たいへん</sup>な事態<sup>じたい</sup>になる」という意味<sup>こ</sup>のいづらか誇張<sup>こ</sup>した言い方<sup>ちやう</sup>。

## 20 8 ～ないかぎり ★2

【～しなければ】

- ①この建物は許可がないかぎり、見学できません。
- ②責任者の田中さんが賛成しないかぎり、この企画書を通すわけにはいかない。
- ③参加各国の協力が得られないかぎり、この大会を今年中に開くことは不可能だ。
- ④化学の実験で水といえば、特に断らないかぎり、（普通の水ではなく）蒸留水のことを指す。

接続 Vない＋かぎり

- ▶1) 「～ないかぎり…」の形で「～の条件が満たされない間は、…の事柄が実現しない」という意味。また、「その条件が満たされれば、後の状況も変わる」という意味合いを含む。
- 2) 後の文には、否定や困難の意味を表す文が来る。ただし、④のように、「普通の水ではなく」という否定の部分が省略されることもある。

## 20 9 ～となると ★2

【もしそうなった場合は / もしそうなったのなら】

- ①夫「太郎が大阪へ行くことになるかもしれないよ」  
妻「そう。太郎が大阪転勤となると、これからメールや電話のやりとりで忙しくなるね」
- ②「試験の成績が悪い場合は、レポートを書かされるらしいよ」  
「そうか。夏休み前にレポートを書くとなると、ちょっと大変だな

あ」

③管理人「こちらの駐 車 場は工 事 中なので、しばらく使えません」

A 「え、この駐 車 場が使えないとなると、ちょっと不便ふべんだなあ」

④「川田 教 授は、今回の学 長 選 挙に立候補しなかったらしいですよ」

「そうですか。川田教授が出ないとなると、次期学長は石井教授にき決まりだな」

接続 N / 普通形＋ふつうけいとなると

▶ 1) 「もしそういうことになった場合は、別の新しいことが発生する」と言いたいときに使う。

2) ③④は、「そういうことにき決まったのなら」と事実となったことについて言う場合である。

## 20 10 ～たら最後・～が最後 ★1

【もし～のようなことをしたら / もし～のようなことになったら】

①まさおは遊あそびに出かけたら最後、暗くなるまで戻もどってきません。

②あの人にお金を貸したら最後、ぜったいに返かえしてくれない。だからわたしはあの人にはお金を貸さないんです。

③人は1度信用を失ったが最後、再び信用を取り戻すのは簡単ではない。

④この作家の推理 小 説は構成が非 常に複雑なので、話の筋道を失すじみち うしなったが最後、推理のおもしろさが半減する。

接続 Vたら・Vたが＋最後

▶ 1) 「最後」という言葉の示ことば しめすとおり、「～のようなことをしたら、もうす



べてがだめになる、最後だ」という気持ちで使う。

2) 「～たら最後」のほうが口語的。

## 20 11 ～なくして（は） ★1 W

【～がなければ】

①努力<sup>どりょく</sup>なくしては成功<sup>せいこう</sup>などあり得<sup>え</sup>ない。

②事実<sup>じじつ</sup>の究明<sup>きゅうめい</sup>なくしては、有罪<sup>ゆうざい</sup>か無罪<sup>むざい</sup>かの正しい判断<sup>はんだん</sup>などできるはずがない。

③愛<sup>あい</sup>なくして何の人生<sup>じんせい</sup>だろうか。

接続 N+なくして（は）

▶ 1) 「～なくして（は）…」の形で、「～がなければ、…の実現<sup>じつげん</sup>は難<sup>むずか</sup>しいだろう」と言いたいときに使う。いくら古めかしい表現<sup>ひょうげん</sup>。

2) 「～」には望ましい意味<sup>のぞ</sup>の名詞<sup>めいし</sup>が来る。「…」には否定的な意味<sup>ひていてき</sup>の文が来る。

## 20 12 ～とあれば ★1

【～なら】

①子ども<sup>こども</sup>の教育費<sup>きょういくひ</sup>とあれば、多少<sup>しゅつび</sup>の出費<sup>しゅつひ</sup>もしかたがない。

②彼<sup>かれ</sup>は人柄<sup>ひとがら</sup>がいいから、彼のため<sup>かたがた</sup>とあれば協力<sup>きょうりよく</sup>を惜<sup>お</sup>しまない人が多いだろう。

接続 N+とあれば

▶ 1) 「～のためなら、または、～のためだからそのことは必要<sup>ひつよう</sup>だ、受け入れられる」と言いたいときに使う。

2) ②のように、慣用的に「～ためとあれば」の形で使われることが多い。後<sup>あと</sup>には依頼<sup>いらい</sup>や誘い<sup>さそ</sup>の文<sup>ぶん</sup>は来ない。

## A

□の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を使い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
 答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. さえ～ば b. をぬきにしては c. ものなら d. としたら  
 e. ないことには

- もし世界一周旅行に行くと仮定したら、飛行機と船旅とどちらがいいだろうか。
- この会是一般会員の人の協力を考えに入れずには運営できない。
- 設備も人材もそろっている。ただ、もう少し十分な研究費があれば、もっとよい仕事ができるのだが。
- だれの人生にも、会えるならぜひもう1度会いたいという人が何人もいるだろう。
- そのクラスがどんなクラスか、入ってみなければわからない。1度見学してみよう。

## ★2・★1

a. とあれば b. たら最後 c. ないかぎり d. ようものなら  
 e. なくしては f. となると

- 父は、子どもが弱い者いじめのようなことをしたら、絶対に許さないという人でした。

7. 彼が誠意を<sup>かれ せい い しめ</sup>示さなければ、わたしは<sup>ど</sup>2度と彼と仕事をするつもりはない。
8. 君との<sup>きみ ゆうじょう</sup>友情がなければ、ぼくは今日まで生きてはこれなかった。
9. あの人の<sup>わた</sup>金を渡したらもう<sup>さけ</sup>終わり、なくなるまでお酒を飲んでしまう。
10. <sup>こうりゅうかい</sup>交流会に<sup>さん か</sup>参加することになったら、アルバイトを休まなければならない。休みをもらえるかなあ。
11. お世話になった<sup>き むら</sup>木村さんのためなら、<sup>そうとう えんじょ お</sup>相当の援助を惜しまないつもりだ。

## B

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

★3・★2・★1

- a. ものなら    b. さえ    c. をぬきにしては    d. とすると  
e. となると    f. が<sup>さい ご</sup>最後    g. ないかぎり

マキ「<sup>ひさ</sup>久しぶりで<sup>か ぶ き</sup>歌舞伎を見に行こうと思うんだけど、あなたも行ってみない？」

ゆり「<sup>いっかい</sup>歌舞伎？ 学生のころ、1回見ただけだけど」

マキ「<sup>だいじょう ぶ</sup>大丈夫よ。ストーリー（1.    ）読んでおけば、<sup>たの</sup>楽しめるよ」

ゆり「それなら、行ってみようか。行く（2.    ）、いつ？ わたしは、<sup>にちよう び</sup>日曜日じゃ（3.    ）いつでもいいよ」

マキ「じゃ、土曜日<sup>どようび</sup>の晩<sup>ばん</sup>にしよう。一郎<sup>いちろう</sup>さん<sup>さそ</sup>も誘<sup>さそ</sup>ったら？」

ゆり「彼<sup>かれ</sup>は、コンサートや芝居<sup>しばい</sup>が始<sup>はじ</sup>まるとすぐ眠<sup>ねむ</sup>くなって、居眠<sup>いねむ</sup>りを始<sup>はじ</sup>めた（4.     ）、絶<sup>ぜったい</sup>対<sup>たい</sup>に起<sup>お</sup>きないからねえ。でも、誘<sup>さそ</sup>ってみるわ。ひろし<sup>くん</sup>君<sup>くん</sup>は？」

マキ「彼はわたしとどこへでも行<sup>い</sup>きたがるから、誘<sup>さそ</sup>わ<sup>さそ</sup>ず<sup>さそ</sup>に行<sup>い</sup>こう（5.     ）、大<sup>お</sup>変<sup>へん</sup>よ。それ<sup>かれ</sup>に、彼<sup>かれ</sup>は歌<sup>うた</sup>舞<sup>ま</sup>伎<sup>ぎ</sup>に特<sup>とく</sup>に詳<sup>くわ</sup>しいから、彼<sup>かれ</sup>（6.     ）歌<sup>うた</sup>舞<sup>ま</sup>伎<sup>ぎ</sup>観<sup>かん</sup>賞<sup>しょう</sup>は無<sup>む</sup>理<sup>り</sup>ね」

ゆり「へえ、そうなの」

マキ「さて、4人<sup>よにん</sup>で行<sup>い</sup>く（7.     ）、早<sup>せき</sup>め<sup>よやく</sup>に席<sup>せき</sup>を予<sup>よ</sup>約<sup>やく</sup>しないとね」

ゆり「じゃあ、お願<sup>ねが</sup>いします」

## Adversative Hypothetical Conditions

## 逆接仮定条件

## 역접의 가정조건

ある状 況<sup>じょうきょう</sup>になっても、そうする・そうなると言<sup>い</sup>いたいときは、どんな言<sup>い</sup>方<sup>かた</sup>がありますか。

し  
知っていますか

ただ<sup>ただ</sup>が正しいですか。正しいものを選<sup>えら</sup>びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. たとえ大きい地震<sup>じ しん</sup>が（a. 起<sup>お</sup>きたら b. 起<sup>お</sup>きても c. 起<sup>お</sup>きる  
と）、このビルは大丈<sup>だいじょうぶ</sup>夫<sup>ぶ</sup>だろう。
2. どんな会社<sup>はじ</sup>を始<sup>はじ</sup>める（a. とした<sup>した</sup>ら b. とし<sup>し</sup>ても c. とす<sup>す</sup>れ  
ば）、お金<sup>ひつよう</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>だ。
3. あなたがどちらの進路<sup>しん ろ</sup>を選<sup>えら</sup>ぶ（a. とし<sup>し</sup>て b. とし<sup>し</sup>ろ c. に  
せよ）、わたしはあなたを応援<sup>おうえん</sup>し続<sup>つづ</sup>けます。
4. 結<sup>けっ</sup>婚<sup>こん</sup>するにしろ、しな<sup>い</sup>い（a. とせ<sup>せ</sup>よ b. にし<sup>し</sup>ろ c. にせ  
よ）早<sup>はや</sup>く自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の家<sup>いえ</sup>を持<sup>も</sup>ちたい。
5. 今<sup>いま</sup>からど<sup>ど</sup>んなに（a. がんば<sup>ば</sup>ったとし<sup>し</sup>ても b. がんば<sup>ば</sup>った<sup>ら</sup>  
c. がんば<sup>ば</sup>れば）、も<sup>も</sup>うど<sup>ど</sup>うにもな<sup>な</sup>らない。

つか  
使えますか

ただ<sup>ただ</sup>が正しいですか。正しい方<sup>ほう</sup>を選<sup>えら</sup>びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. たとえ1日が24時間でも、 b. たとえ1日が30時間でも、 } わたしはやっぱり忙しい。
2. どんなに急いだとしても、 { a. 8時の新幹線に乗れるだろう。 b. 8時の新幹線には乗れないだろう。 }
3. { a. だれか訪ねてくるとしても、 b. だれも訪ねてこないとしても、 } いつも部屋をきれいにしておきなさい。
4. どんなに高い本であるにせよ、 { a. 彼なら買えるだろう。 b. わたしには買えないだろう。 }
5. { a. どこへ行くにしろ、 b. わたしの妹は5歳にしろ、 } 妹はわたしといっしょに行きたがる。

## 21 逆接仮定条件

ある状況になっても、そうする・そうなりと言いたいとき

★3	1 たとえ～ても
	2 ～としても
★2	3 ～にしても・～にしろ・～にせよ
★1	4 ～たところで
	5 ～であれ・～であろうと
	6 ～ようが・～ようと（も）
	7 ～ようが～まいが・～ようと～まいと

### 21 1 たとえ～ても ★3

【もし～ということになっても】

- ① たとえ大雪が降っても、仕事は休めません。
- ② たとえお金がなくても、幸せに暮らせる方法はあるだろう。
- ③ たとえ彼の友人たちがどんなに反対しても、彼はこの町を出ていくだろう。
- ④ たとえ夫の病気がどんなに心配でも、子どもたちに話すことはできない。

接続 たとえ＋Vても / イAくても / ナAでも / Nでも

- ▶ 「たとえ～ても、…」の形で、「もし～ても、それに関係なく、…」と言いたいときの表現。

### 21 2 ～としても ★3

【～と仮定しても】

- ①新しい仕事を探すとしても、この町を離れたくない。
- ②オーストラリアに行くとしても、予定がいっぱいなので今年は無理です。
- ③もし、あの時彼が求婚しなかったとしても、わたしの方から結婚の話をしていただろう。
- ④マンションをかうとしたって、駅の近くは無理だね。

接続 普通形＋としても

- ▶ 1) 「たとえ～と仮定しても」という意味。後の文には、それから予想されることとは合わないことを言う。話す人の主張・意見などを言うことが多い。
- 2) 3 「～にしても」と意味・使い方は大体同じだが、より仮定の意味が強い。「可能性があるかどうかはわからないが・たとえ～と仮定しても」と言いたいときに使う。
- 3) 「もし・たとえ・仮に」などとともによく使う。
- 4) ③のように、事実とは違うことを想像して言う場合もある。
- 5) ④のように、くだけた会話では「～としたって」になる。

21 3 ～にしても・～にしろ・～にせよ ★2

【～と仮定しても】

- ①もしこの仕事をするにしても、あまり長くは続けたくない。
- ②どんな会社の試験を受けるにしろ、面接に行くときには身なりだけはきちんとしなさい。
- ③いつ出発するにしろ、準備だけはしておいた方がいい。



④た<sup>がく</sup>とえ<sup>よ</sup>わ<sup>さん</sup>ず<sup>ば</sup>かな<sup>あい</sup>額<sup>い</sup>に<sup>いん</sup>せ<sup>しょう</sup>よ、<sup>え</sup>予算<sup>え</sup>を使う場合は委員会の承認を得なければならない。

⑤もし<sup>しょうねん</sup>少年が<sup>いえ</sup>家出をしたに<sup>とお</sup>せよ、まだそんなに遠くへは行っていないだろう。

接続 N / 普通形（ナAである / Nである）＋にしても・にしろ・にせよ

▶ 1) 「た<sup>か</sup>とえ<sup>てい</sup>～と<sup>あ</sup>仮定<sup>あ</sup>しても」という意味。後<sup>あと</sup>の文<sup>ぶん</sup>には、それから<sup>よ</sup>予想<sup>そう</sup>されることとは<sup>あ</sup>合わないことを言う。話者の主<sup>わ</sup>張<sup>しゃ</sup>・意<sup>し</sup>見<sup>ゆ</sup>などを言うことが多い。

2) 「もし・た<sup>かり</sup>とえ<sup>ぎ</sup>・仮<sup>もん</sup>に・疑<sup>し</sup>問<sup>し</sup>詞」とともに使うことが多い。

3) 「～に<sup>か</sup>せよ」は硬<sup>かた</sup>い言<sup>か</sup>い方<sup>か</sup>である。

→ 15課 2 「～にしても～にしても」 4 「～にしろ～にしろ・～にせよ～にせよ」 / 18課 8 「～にしても・～にしろ・～にせよ」

## 21 4 ～たところで ★1

【～ても】

①今から車<sup>と</sup>を飛<sup>ま</sup>ばして<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>った<sup>あ</sup>ところ<sup>あ</sup>で、間<sup>ま</sup>に合<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>ない。

②まわりの人<sup>かの</sup>がど<sup>じょ</sup>んなに止<sup>や</sup>め<sup>や</sup>た<sup>や</sup>ところ<sup>や</sup>で、彼女<sup>かの</sup>は<sup>じょ</sup>この会<sup>や</sup>を辞<sup>や</sup>める<sup>や</sup>だ<sup>や</sup>ら<sup>や</sup>う。

③10時<sup>はな</sup>間<sup>あ</sup>話<sup>あ</sup>し合<sup>あ</sup>った<sup>あ</sup>ところ<sup>あ</sup>で、い<sup>かい</sup>い<sup>け</sup>解<sup>つ</sup>決<sup>さく</sup>策<sup>さく</sup>は<sup>さく</sup>ない<sup>さく</sup>だ<sup>さく</sup>ら<sup>さく</sup>う。

④わ<sup>れん</sup>た<sup>し</sup>は<sup>し</sup>い<sup>し</sup>く<sup>し</sup>ら<sup>し</sup>練<sup>し</sup>習<sup>し</sup>した<sup>し</sup>ところ<sup>し</sup>で、選<sup>せん</sup>手<sup>しゅ</sup>に<sup>しゅ</sup>な<sup>しゅ</sup>れ<sup>しゅ</sup>ない<sup>しゅ</sup>こ<sup>しゅ</sup>とは<sup>しゅ</sup>わ<sup>しゅ</sup>か<sup>しゅ</sup>っ<sup>しゅ</sup>て<sup>しゅ</sup>い<sup>しゅ</sup>る。

接続 Vた＋ところで

▶ 1) 「仮<sup>かり</sup>に～が<sup>せい</sup>成<sup>り</sup>立<sup>つ</sup>しても、結<sup>けつ</sup>果<sup>か</sup>は<sup>よ</sup>予<sup>き</sup>期<sup>はん</sup>に<sup>はん</sup>反<sup>はん</sup>して<sup>はん</sup>む<sup>はん</sup>だ<sup>はん</sup>な<sup>はん</sup>こ<sup>はん</sup>に<sup>はん</sup>な<sup>はん</sup>って<sup>はん</sup>しま<sup>はん</sup>う。程<sup>てい</sup>度<sup>ど</sup>が<sup>ひく</sup>低<sup>けつ</sup>い<sup>か</sup>結<sup>か</sup>果<sup>か</sup>に<sup>か</sup>し<sup>か</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>ない」という話者の判<sup>わ</sup>断<sup>しゃ</sup>を<sup>はん</sup>言<sup>だん</sup>う<sup>だん</sup>こ<sup>だん</sup>に<sup>だん</sup>使<sup>し</sup>う<sup>し</sup>こ<sup>し</sup>が<sup>し</sup>多<sup>し</sup>い。

2) 後<sup>あと</sup>の文<sup>ぶん</sup>は話者の主<sup>しゅ</sup>観<sup>かん</sup>的<sup>てき</sup>断<sup>だん</sup>定<sup>てい</sup>・推<sup>すい</sup>量<sup>りょう</sup>などが多い。文<sup>ぶん</sup>末<sup>まつ</sup>に過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>形<sup>けい</sup>は使<sup>し</sup>わ<sup>し</sup>な<sup>し</sup>

い。

- 3) 「どんなに・いくら・疑問詞・数量を表す言葉」とともに使うことが多い。

## 21 5 ～であれ・～であろうと ★1 W

【～であっても】

- ①たとえ命令されたことが何であれ、上司の言葉には逆らえない。
- ②相手が教授であれ、上級生であれ、自分の意見をはっきり言うべきだ。
- ③転勤する先がどんなところであれ、わたしは一生懸命に勤めるつもりだ。
- ④いかなる国であろうと、若い人を大切にしない国に将来はない。

接続 N+であれ

- ▶ 1) 「～に関係なく」という意味で、後の文には話者の主観的判断や推量を表す文が来ることが多い。
- 2) ②のように「N1であれN2であれ」の形もある。「たとえ・疑問詞」とともに使うことが多い。
- 15課10「～であれ～であれ・～であろうと～であろうと」

## 21 6 ～ようが・～ようと（も） ★1

【もし～ても】

- ①ほかの人からどんなに悪く言われようが、あの人は平気だ。
- ②雨が降ろうがやりが降ろうが、彼は行くだろう。
- ③たとえ、だれが何と言おうとも、彼は決心を曲げないだろう。
- ④たとえ相手が世界チャンピオンだろうと、おれは闘うぞ。

⑤ロシアがどんなに寒<sup>さむ</sup>かろうとも、このコートと帽子<sup>ぼうし</sup>があれば大<sup>だい</sup>丈<sup>じょう</sup>夫<sup>ぶ</sup>だ。

⑥嵐<sup>あらし</sup>だろうと地震<sup>じしん</sup>だろうと、この建物<sup>あんぜん</sup>にいれば安全だ。

**接続** Vよう / イA~~い~~かろう / ナAだろう / Nだろう＋が

▶ 1) 「もし～してもそれに関係<sup>かんけい</sup>なく」という意味で、後<sup>あと</sup>には「影<sup>えい</sup>響<sup>きょう</sup>されな  
い・自由<sup>じゆう</sup>だ・平気<sup>へいき</sup>だ」という意味の文が続く。②は慣用<sup>かんようひょうげん</sup>表現。

2) 「たとえ・疑問<sup>ぎもん</sup>詞」とともに使うことが多い。

## 21 7 ～ようが～まいが・～ようと～まいと ★1

【～ても～なくても】

①夏<sup>き</sup>休<sup>こく</sup>みに帰<sup>き</sup>国<sup>こく</sup>しようがするまいが、論<sup>ろん</sup>文<sup>ぶん</sup>は8月<sup>がつ</sup>末<sup>まつ</sup>までに完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>させなければならぬ。

②会<sup>しゅっせき</sup>に出<sup>しゅっせき</sup>席<sup>せき</sup>しようが出<sup>しゅっせき</sup>席<sup>せき</sup>するまいが、年<sup>ねん</sup>会<sup>かい</sup>費<sup>ひ</sup>は払<sup>はら</sup>わなければならぬ。

③雨<sup>ふ</sup>が降<sup>ふ</sup>ろうと降<sup>ふ</sup>るまいと、この行<sup>ぎやう</sup>事<sup>じ</sup>は毎<sup>まい</sup>年<sup>ねん</sup>かならず同<sup>どう</sup>日<sup>じ</sup>に行<sup>い</sup>われ  
ま<sup>す</sup>。

④あの人<sup>ひと</sup>が来<sup>き</sup>ようと来<sup>き</sup>るまいと、わたくしには関<sup>かん</sup>係<sup>けい</sup>がな<sup>い</sup>こ<sup>と</sup>だ。

**接続** Vよう＋が＋Vる＋まいが（動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>Ⅱ・Ⅲは「V~~ない~~＋まいが」も  
ある。「する」は「すまい」もある）

▶ 「たとえ～しても～しなくても」と仮<sup>か</sup>定<sup>てい</sup>して、ど<sup>ど</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>ば</sup>場<sup>あい</sup>合<sup>せ</sup>に<sup>い</sup>も<sup>せ</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>り</sup>文<sup>ぶん</sup>が<sup>つ</sup>成<sup>せい</sup>  
立<sup>りつ</sup>する<sup>りつ</sup>と言<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と<sup>い</sup>き<sup>い</sup>に<sup>い</sup>使<sup>い</sup>う<sup>い</sup>。「～ようと～まいと」もほ<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>同<sup>どう</sup>じ<sup>じ</sup>よう  
に<sup>に</sup>使<sup>い</sup>う<sup>い</sup>。

## A

( ) の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を使い換えなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

1. 病氣になっても、彼はたばこをやめないだろう。(たとえ～でも)
2. 1人暮らしをすると仮定しても、親元からあまり離れたくない。(としても)
3. 山の中の暮らしがたとえ不便であっても、わたしはやはり都会を離れて山に住みたい。(～にしろ)
4. この計画を実行するかしないか、今検討中です。どちらになる場合でも、今月末までに結論を出します。(～にせよ)

## ★1

5. どんなに忠告しても、あの人は聞き入れないだろう。(～たところで)
6. たとえアルバイトでも仕事には責任を持たなければいけない。(～であろうと)
7. 相手がだれでも、川田さんはていねいに話す人です。(～であれ)
8. 人になんと言われても、わたしは決心を変えるつもりはない。(～ようと)
9. 雨が降っても、雪が降っても、走る練習をしなければなら  
ない。(～ようが)

10. 試合に<sup>し あい</sup>勝<sup>か</sup>っても勝たなくても、この大会に<sup>さん か</sup>参加することに意味がある。(～ようが～まいが)
- 

**B**

次の文の      に入る最もよいものを選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

**★3・★2・★1**

1. 今の態度を                     同じ結果に終わるだろう。
- a. 会社を <sup>かいしゃ</sup>    b. 改めなければ <sup>あらた</sup>    c. にせよ    d. 移った <sup>うつ</sup>
2. 人に                     変えるつもりはないらしい。
- a. あの人は    b. 非難されようと <sup>ひ なん</sup>    c. なんと    d. 自分の生き方 <sup>い かた</sup> を
3.                     今の段階 <sup>だんかい</sup> では、出ないだろう。
- a. 考えた <sup>かんが</sup>    b. 結論は <sup>けつろん</sup>    c. ところで    d. いくら
4. どんなに                     よさそうなものだ。
- a. メールぐらい    b. くれても    c. 仕事で    d. 忙しくても
5. 「旅行 <sup>りょこう</sup> に行けそう？」
- 「そうね、                                        の方が <sup>ほう</sup> いいんじゃない？」
- a. 連休 <sup>れんきゅう</sup> が    b. にしたって    c. 終わって <sup>お</sup> から    d. 行く
6.                                         、政府は <sup>せい ふ</sup> 約束 <sup>やくそく</sup> を <sup>まも</sup> 守ってほしい。

a. 上がるまいが    b. 支持率が    c. 上がろうが    d. 国民の

Impossibility / Possibility / Difficulty / Easiness

不可能，可能，困难，容易

불가능/가능/곤란/용이

ある事情によりそのことができない・できる・むずかしい・やさしいと言いたいときは、どんな言い方がありますか。

知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた 答えは [こちら](#)

a. ようがない    b. わけにはいかない    c. かねる    d. 得ない    e. がたい

1. テレビの修理屋が今日来ると言っていたから、留守にする\_\_\_\_\_。
2. 彼はその晩わたしの家にいたのだから、事件の場所にいたなどということはあり\_\_\_\_\_。
3. 彼が最近言ったり書いたりしていることは、理解し\_\_\_\_\_。
4. 彼からは国を出てから何の連絡もないので、手紙の出し\_\_\_\_\_。
5. 入ったばかりの会社をやめてしまったなどとは、両親には言い出し\_\_\_\_\_。

つか 使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. { a. 材料ざいりょうが何もないのだから、おいしい料理りょうりなど作りようがない。 b. 今日けふは疲つかれているから、食事しょくじなど作りようがない。 }
2. { a. ここから富士山ふじさんが見え得みえますか。 b. 考え得かんがえる方法うほうほうは、もうみんな試ためしてみたのだが.....。 }
3. { a. 法律ほうりつでは未成年者みせいねんしゃはたばこを吸すうわけにはいかないことになっている。 b. 彼女かのじょからのせっかくのプレゼントだから、大きすぎるなどと言うわけにはいかない。 }
4. { a. わたしの仕事しごとは夜よるの仕事なので、朝早くあさはやは起おきがたい。 b. 労働条件ろうどうじょうけんについての会社側かいしゃがわのこの提案ていあんは受け入れがたい。 }
5. { a. それについてはすぐにはお答えこたしかねます。 b. 新しいあたらしいパソコンを買たいたかったのだが、お金が足りなくて買いかねた。 }



22

不可能・可能・困難・容易

ある事情によりそのことができない・できる・むずかしい・やさしいと言いたいとき

★3

1 ～わけにはいかない

2 ～ようがない・～ようもない

★2

3 ～がたい

4 ～かねる

5 ～得る・～得ない

★1

6 ～ようにも～ない

7 ～に足る

8 ～にたえる・～にたえない

22

1 ～わけにはいかない ★3

【～できない】

①あしたは試験があるから、今日は遊んでいるわけにはいかない。

②これは亡くなった友人がくれた大切なもので、あげるわけにはいかないんです。

③「そろそろ帰りませんか」  
「大事な話があって課長を待っているので、帰るわけにはいかないんですよ」

④明日は会社の面接試験だ。ぜったいに遅刻するわけにはいかない。

接続 Vる＋わけにはいかない

- ▶「<sup>き も</sup>したい<sup>しゃかいてき</sup>気持ち<sup>つうねん</sup>はあるが、<sup>じょうしき</sup>社会的な<sup>かんが</sup>通念や常識<sup>しん り てき</sup>から<sup>しん り てき</sup>考えて、また、<sup>り ゆう</sup>心理的<sup>い</sup>な理由<sup>つか</sup>があ<sup>のうりよくてき</sup>って<sup>き</sup>できない」と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いたい<sup>い</sup>ときに<sup>い</sup>使う。「<sup>そく</sup>能力的に、または<sup>い</sup>規則<sup>い</sup>で<sup>い</sup>できない」という<sup>い</sup>意味<sup>い</sup>では<sup>い</sup>使<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>ない。

×<sup>かかり</sup>係<sup>た</sup>の人「<sup>い</sup>ここは<sup>い</sup>立ち<sup>い</sup>入り<sup>さんし</sup>禁止<sup>さんし</sup>ですから、入<sup>さんし</sup>る<sup>さんし</sup>わけ<sup>さんし</sup>には<sup>さんし</sup>い<sup>さんし</sup>き<sup>さんし</sup>ま<sup>さんし</sup>せ<sup>さんし</sup>ん」

○<sup>つうこうにん</sup>通行人「<sup>い</sup>立ち<sup>い</sup>入り<sup>さんし</sup>禁止<sup>さんし</sup>か。じゃ、入<sup>さんし</sup>る<sup>さんし</sup>わけ<sup>さんし</sup>には<sup>さんし</sup>い<sup>さんし</sup>か<sup>さんし</sup>ない<sup>さんし</sup>な」

## 22 2 ～ようがない・～ようもない ★3

### 【～できない】

- ①<sup>じゅうしょ</sup>あの<sup>でん わ ばんごう</sup>人の<sup>でん</sup>住<sup>ばん</sup>所<sup>ごう</sup>も<sup>でん</sup>電話<sup>ばんごう</sup>番<sup>でん</sup>号<sup>ばんごう</sup>も<sup>でん</sup>わ<sup>ばんごう</sup>か<sup>ばんごう</sup>ら<sup>ばんごう</sup>な<sup>ばんごう</sup>い<sup>ばんごう</sup>の<sup>ばんごう</sup>で<sup>ばんごう</sup>す<sup>ばんごう</sup>か<sup>ばんごう</sup>ら、<sup>れんらく</sup>連<sup>れん</sup>絡<sup>らく</sup>の<sup>れん</sup>し<sup>らく</sup>ょう<sup>れん</sup>が<sup>れん</sup>あ<sup>れん</sup>り<sup>らく</sup>ま<sup>らく</sup>せ<sup>らく</sup>ん。
- ②この<sup>と けい</sup>時<sup>ふる</sup>計<sup>ふ</sup>は<sup>ふ</sup>古<sup>ひん</sup>く<sup>ひん</sup>て<sup>ひん</sup>も<sup>ひん</sup>う<sup>ひん</sup>部<sup>ひん</sup>品<sup>ひん</sup>が<sup>ひん</sup>な<sup>ひん</sup>い<sup>ひん</sup>か<sup>ひん</sup>ら、<sup>なお</sup>直<sup>なお</sup>し<sup>なお</sup>し<sup>なお</sup>ょう<sup>なお</sup>が<sup>なお</sup>な<sup>なお</sup>い<sup>なお</sup>。
- ③<sup>もり た</sup>森<sup>いえ</sup>田<sup>いえ</sup>さ<sup>いえ</sup>ん<sup>いえ</sup>の<sup>いえ</sup>山<sup>いえ</sup>の<sup>いえ</sup>家<sup>いえ</sup>は、<sup>とお</sup>バ<sup>とお</sup>ス<sup>とお</sup>も<sup>とお</sup>通<sup>とお</sup>っ<sup>とお</sup>て<sup>とお</sup>い<sup>とお</sup>な<sup>とお</sup>い<sup>とお</sup>か<sup>とお</sup>ら、<sup>い</sup>車<sup>い</sup>が<sup>い</sup>な<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と<sup>い</sup>行<sup>い</sup>き<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ょう<sup>い</sup>が<sup>い</sup>な<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>し<sup>い</sup>い。
- ④<sup>しゃいん</sup>社<sup>かいしゃ</sup>員<sup>かい</sup>は<sup>かい</sup>や<sup>かい</sup>る<sup>かい</sup>気<sup>かい</sup>が<sup>かい</sup>あ<sup>かい</sup>る<sup>かい</sup>の<sup>かい</sup>だ<sup>かい</sup>が、<sup>ほうしん</sup>会<sup>ほう</sup>社<sup>しん</sup>の<sup>か</sup>方<sup>か</sup>針<sup>か</sup>が<sup>か</sup>変<sup>か</sup>わ<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>な<sup>か</sup>い<sup>か</sup>の<sup>か</sup>だ<sup>か</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>か</sup>ど<sup>か</sup>う<sup>か</sup>し<sup>か</sup>ょう<sup>か</sup>も<sup>か</sup>な<sup>か</sup>い<sup>か</sup>。

### 接続 Vます＋ようがない

- ▶「<sup>しゅだん</sup>そう<sup>ほうほう</sup>したい<sup>ほうほう</sup>が、その<sup>ほうほう</sup>手<sup>ほうほう</sup>段<sup>ほうほう</sup>・<sup>ほうほう</sup>方<sup>ほうほう</sup>法<sup>ほうほう</sup>が<sup>ほうほう</sup>な<sup>ほうほう</sup>く<sup>ほうほう</sup>て<sup>ほうほう</sup>で<sup>ほうほう</sup>き<sup>ほうほう</sup>な<sup>ほうほう</sup>い<sup>ほうほう</sup>」、また<sup>ほうほう</sup>は「<sup>ほうほう</sup>ど<sup>ほうほう</sup>ん<sup>ほうほう</sup>な<sup>ほうほう</sup>方<sup>ほうほう</sup>法<sup>ほうほう</sup>で<sup>ほうほう</sup>も<sup>ほうほう</sup>無<sup>ほうほう</sup>理<sup>ほうほう</sup>だ<sup>ほうほう</sup>」と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いたい<sup>い</sup>ときに<sup>い</sup>使<sup>い</sup>う。「<sup>よう</sup>よう」は「<sup>よう</sup>様<sup>よう</sup>」で、「<sup>い</sup>方<sup>い</sup>法<sup>い</sup>」の<sup>い</sup>意<sup>い</sup>味<sup>い</sup>で<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る。

## 22 3 ～がたい ★2

### 【～するのは難しい】

- ①あの<sup>しん</sup>元<sup>しん</sup>気<sup>しん</sup>な<sup>しん</sup>ひ<sup>しん</sup>ろ<sup>しん</sup>し<sup>しん</sup>が<sup>しん</sup>病<sup>しん</sup>気<sup>しん</sup>に<sup>しん</sup>な<sup>しん</sup>る<sup>しん</sup>な<sup>しん</sup>ん<sup>しん</sup>て<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>じ<sup>しん</sup>が<sup>しん</sup>た<sup>しん</sup>い<sup>しん</sup>こ<sup>しん</sup>と<sup>しん</sup>す<sup>しん</sup>。
- ②<sup>よわ</sup>弱<sup>ゆる</sup>い<sup>ゆる</sup>者<sup>ゆる</sup>を<sup>ゆる</sup>い<sup>ゆる</sup>じ<sup>ゆる</sup>め<sup>ゆる</sup>ると<sup>ゆる</sup>は<sup>ゆる</sup>許<sup>ゆる</sup>し<sup>ゆる</sup>が<sup>ゆる</sup>た<sup>ゆる</sup>い<sup>ゆる</sup>行<sup>ゆる</sup>為<sup>ゆる</sup>だ<sup>ゆる</sup>。

③南の国から来たポンさんは、初めての日本の冬が耐えがたかったらしく、国へ帰ってしまった。

接続 ~~V-ます~~ + がたい

- ▶ 1) 「そうすることは難しい・不可能だ」という意味。やや古い言い方。
- 2) 「信じる・許す・理解する・想像する・受け入れる」などの動詞とともによく使われる。
- 3) 「能力的にできない」という意味では使わない。
- ×わたしにはパソコンは難しくて、使いがたいです。
- ×まだけがが治っていないので、長い時間は歩きがたい。

## 22 4 ～かねる ★2

【～できない】

- ①課長に残業を頼まれて、断りかねて10時まで働いた。
- ②そろそろ就職活動を始めるんですが、IT関係の会社にするか、マスコミ関係の会社にするか、決めかねています。
- ③客「ホンコン行きの飛行機は何時に出ますか」  
係「ここではわかりかねますので、あちらのカウンターでお聞きください」
- ④ただいまのご説明では、私どもとしては納得しかねます。

接続 ~~V-ます~~ + かねる

- ▶ 1) 「気持ちの上で抵抗があって、そうすることはできない・難しい」という意味を表す。
- 2) サービス業などで客の希望に応じられないことを婉曲に言う場合や、ビジネスなどの改まった場面で使われることが多い。

## 22 5 ～得る・～得ない ★2

【できる / ～の可能性がある / できない / ～の可能性がない】

- ①これは仕事を成功させるために考え得る最上の方法です。
- ②この事故はいつでも起こり得ることとして十分注意が必要だ。
- ③この事故はまったく予測し得ぬことであった。
- ④親友を失った悲しみは言葉では表し得ない。
- ⑤「彼は1人でロンドンへ行くんですか」  
「そんなことは、彼の場合、あり得ませんよ。家族第一だから」

### 接続 V-ます+得る

- ▶ 1) 「～得る」は、「そうすることができる・そうなる可能性がある」  
(①②)の意味で、「～得ない」は、「できない・可能性がない」  
(③④⑤)の意味である。いくらか硬い言い方。
- 2) 辞書形は「える・うる」の2つの読み方があり、ない形などそのほかの形では「えない」などと読む。この使い方では「Vうる・Vえない」と読む。
- 3) 「能力的にできる・できない」の意味では使わない。  
×わたしは難しい漢字は書き得ません。

## 22 6 ～ようにも～ない ★1

【～しようと思ってもできない】

- ①大切な電話が来ることになっているので、出かけようにも出かけられません。
- ②言葉がまったく通じないので、道を聞こうにも聞けなくて困った。

③お金に困っている後輩から借金を頼まれて、断ろうにも断れなかった。

④うっかり携帯電話を充電するのを忘れていたので、すぐ連絡しようにもできなかったんです。

接続 Vよう＋にも＋Vない

- ▶ 1) 「～しようと思っても、それを妨げる事情があってできない」という意味。
- 2) 「にも」の前後は同じ動詞を使い、前は意志動詞の意志形、後はその可能動詞である。
- 3) どちらかというと言い訳のような、消極的な気持ちを表すことが多い。

## 22 7 ～に足る ★1 W

【～できる / ～するだけの価値がある】

①彼は今度の数学オリンピックで十分満足に足る成績がとれるだろう。

②これはわざわざ議論するに足る問題だろうか。

③田中君は大学の代表として推薦するに足る有望な学生だ。

接続 Vる / する動詞のN＋に足る

▶ 1) 「～に足る＋N」の形で、「～できる・～するだけの価値がある人やものごと」を言いたいときに使う。

2) 「～」にはこのほか、「尊敬する・信頼する」などの動詞もよく使われる。

## 22 8 ～にたえる・～にたえない ★1

【～するだけの価値がある / ～することに耐えられない】

①あの映画は子ども向けですが、大人の鑑賞にも十分たえます。

②彼の小説はまだ、小説好きの読者が読むにたえる本ではない。

③事故現場はまったく見るにたえないありさまだった。

④あの人の話はいつも人の悪口ばかりで、聞くにたえない。

接続 Vる / する動詞のN+にたえる

▶ 1) 「～にたえる」は「そうするだけの価値がある」という意味。「そうするだけの価値がない」と否定したいときは、②のように「～にたえるNではない」の形を使う。

2) 「～にたえない」は「不快感があって、見たり聞いたりすることに耐えられない」という意味を表す。「見る・聞く」などの限られた動詞にしかつかない。

## A

□の中の言葉と、(      )の中の言葉をいっしょに使って、文  
を完成させなさい。必要なら、a. ～c. の形を変えなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. わけにはいかない    b. かねる    c. ようがない

1. 「このCDプレーヤー、もう少し安くなりませんか」  
「申し訳ございませんが、これ以上お安くは(いたす)」
2. 申し訳ありません。このそうじ機は型が古いため部品がなく、  
(なお直す) なんです。
3. わたしの仕事の遅れで同僚には何回も迷惑をかけているので、  
今回の仕事では(遅れる) なんです。
4. 田中課長は今、休暇を取って旅行中なので、この2日間は連絡  
の(取る) ということです。
5. 先週もバイトを休んだから、今週は(休む) だろうな。
6. 友人にお金を借りに行ったのですが、やはり(言い出す)、  
そのまま帰ってきてしまいました。

## B

□の中の言葉と、(      )の中の言葉をいっしょに使って、文  
を完成させなさい。必要なら、a. ～e. の形を変えなさい。1つの

言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

★2・★1

a. にたえない    b. に<sup>た</sup>足る    c. がたい    d. <sup>え</sup>得ない    e. ようにも～ない

やました  
山下さんが会社のお金を不正<sup>ふ せい</sup>に使ってしまったんですって。山下さんという人をよく知っているわたしとしてはとても1. (<sup>しん</sup>信じる) ことです。そんなことは絶対<sup>ぜったい</sup>に2. (ある) と思います。だって彼<sup>かれ</sup>ほど3. (<sup>しんらい</sup>信頼) 人はいないといつも思っていたんですもの。もし<sup>じ じつ</sup>事実だとしたら、今ごろは後悔<sup>こうかい</sup>して、どんなに苦し<sup>くる</sup>んでいるか……。  
うえ だ  
上田さんなんか、4. (聞く) ひどいことを言っているんですよ。もし、このことが原因<sup>げんいん</sup>で会社をやめることにでもなったら、わたしは5. (なぐさめる) 。わたしに何かしてあげられることはないかしら。<sup>じ じつ</sup>早く事実を知らなければ……。



Tendency / Condition / Appearance

傾向, 状態, 情况

경향/상태/모습

ものごとがどんな状態・状況か、または、動作がどんな様子かを言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. がち   b. だらけ   c. ようにして   d. っぽい   e. かのよう

1. 忙しくて何日もそうじしなかったから、部屋がほこり\_\_\_\_だ。
2. 山の上で見る星は今にも降ってくる\_\_\_\_近く感じられる。
3. 外食ばかりしていると、カルシウムが不足\_\_\_\_になる。
4. こんな子ども\_\_\_\_服はもう着られないよ。
5. かばんの中に押し込む\_\_\_\_、たくさんの書類を入れた。

つか  
使えますか

ただ   ほう   えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 週末は { a. くもりがちの天気になるそう。   b. 晴れがちの天気になるそう。 }

2. わあ、{ a. 花<sup>はな</sup>だらけの庭<sup>にわ</sup>ですね。きれいですね。 b. ごみ<sup>ごみ</sup>だらけの庭<sup>にわ</sup>だなあ。そうじした方<sup>ほう</sup>がいいよ。}
3. 最近<sup>さいきん</sup>、山田<sup>やま だ</sup>さんは { a. 会社<sup>かいしゃ</sup>を休み<sup>やす</sup>っぽい。疲<sup>つか</sup>れているのだろう  
か。 b. 忘れ<sup>わす</sup>っぽく<sup>こま</sup>なって困<sup>こま</sup>ったと<sup>い</sup>言<sup>い</sup>っている。}
4. { a. このごろ成<sup>せい</sup>績<sup>せき</sup>が下<sup>さ</sup>がり気<sup>き</sup>味<sup>み</sup>で、 b. このごろあ<sup>あ</sup>の夫<sup>ふう</sup>婦<sup>ふ</sup>は  
離<sup>り</sup>婚<sup>こん</sup>気<sup>き</sup>味<sup>み</sup>で、} 心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>している。
5. あの子<sup>こ</sup>はけ<sup>あ</sup>が<sup>る</sup>をしたのか、{ a. 歩<sup>ある</sup>くよう<sup>あ</sup>に<sup>し</sup>て足<sup>あし</sup>を引<sup>ひ</sup>きず<sup>ひ</sup>って  
います。 b. 足<sup>あし</sup>を引<sup>ひ</sup>きず<sup>ひ</sup>るよう<sup>あ</sup>に<sup>し</sup>て歩<sup>ある</sup>いています。}

## 23

## I 傾向・状態

ものごとがどんな状態かを言いたいとき

★3

1 ～がち

2 ～だらけ

★2

3 ～っぽい

4 ～<sup>ぎみ</sup>気味

★1

5 ～きらいがある

6 ～まみれ

7 ～ずくめ

## 23

## I・1 ～がち ★3

【よく～になる / ～の<sup>じょうたい</sup>状態になることが多い】

①わたしは田中さんに「手<sup>て</sup>伝<sup>つた</sup>ってもらえませんか」と、えんりょ<sup>たの</sup>がちに頼<sup>たの</sup>んでみた。

②昨年<sup>さくねん</sup>は病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>がちの1年間<sup>ねんかん</sup>でしたが、今年<sup>けんし</sup>はとても元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>に過<sup>す</sup>ぎして  
います。

③彼<sup>かれ</sup>はものごとを甘<sup>あま</sup>く考<sup>かん</sup>えがちだ。も<sup>げんじつ</sup>っと現<sup>げん</sup>実<sup>じつ</sup>をしっ<sup>ほう</sup>かり見<sup>み</sup>た方<sup>かた</sup>が  
い<sup>おも</sup>いと思う。

接続 V~~ます~~ / N+がち

▶1) 「～の<sup>じょうたい</sup>状態になりやすい傾向<sup>けいこう</sup>がある、または、～の割<sup>わり</sup>合<sup>あい</sup>・～の回<sup>かい</sup>数<sup>すう</sup>が多<sup>おほ</sup>  
い<sup>い</sup>」と言<sup>い</sup>いたいときに使<sup>つか</sup>う。主<sup>おも</sup>によくない傾向<sup>けいこう</sup>に使<sup>つか</sup>う。

2) 「とかく～<sup>かたち</sup>がち」の形<sup>かたち</sup>でよく使<sup>つか</sup>う。ほかに「留<sup>る</sup>守<sup>す</sup>がち・忘<sup>わす</sup>れがち・休<sup>やす</sup>み

が<sup>おく</sup>ち・<sup>れい</sup>遅れがち」などの例がある。

## 23 I・2 ～だらけ ★3

【見たところ～がたくさんある / よくない～がたくさんついている】

- ①子どもたちは泥<sup>どろ</sup>だらけになって遊<sup>あそ</sup>んでいる。
- ②わたしが英語<sup>えいご</sup>で書いた間<sup>ま</sup>違<sup>ちが</sup>いだらけの手紙<sup>てがみ</sup>をジムに直<sup>なお</sup>してもらった。
- ③この古<sup>ふる</sup>い机<sup>つくえ</sup>はもう傷<sup>きず</sup>だらけだ。でも、大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>な思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>のものだから捨<sup>す</sup>てたくない。

接続 N＋だらけ

- ▶「よくないものがたくさん見<sup>い</sup>える・たくさんついでいる」という意味。ほかに「ほこり<sup>ち</sup>だらけ・ごみ<sup>あな</sup>だらけ・血<sup>ち</sup>だらけ・しわ<sup>あな</sup>だらけ・穴<sup>あな</sup>だらけ」などがある。

## 23 I・3 ～っぽい ★2

【～の感<sup>かん</sup>じがする / ～の傾<sup>けい</sup>向<sup>こう</sup>がある】

- ①あの黒<sup>くろ</sup>っぽいセーターを着<sup>た</sup>ている人<sup>なか</sup>が田中さんです。
- ②花子<sup>あ</sup>は飽<sup>あ</sup>きっぽい。何をやってもすぐやめてしまう。
- ③父<sup>おこ</sup>は怒<sup>おこ</sup>りっぽくて、小<sup>こ</sup>さいことでもすぐ怒<sup>おこ</sup>る。
- ④あの子はこのごろ大<sup>お</sup>人<sup>じん</sup>っぽくなったね。

接続 V~~ます~~ / N＋っぽい

- ▶ 1) ものの性<sup>せい</sup>質<sup>しつ</sup>について、「～の感<sup>かん</sup>じがする・～の傾<sup>けい</sup>向<sup>こう</sup>がある」と言<sup>い</sup>いたいときに使う。よくないことに使うことが多い。
- 2) ほかに「男<sup>おとこ</sup>っぽい・女<sup>め</sup>っぽい・白<sup>しろ</sup>っぽい・湿<sup>しめ</sup>っぽい・汚<sup>よご</sup>れっぽい」などの

れい  
例がある。

## 23 I・4 ～気味 ★2

かん  
【少し～の感じがする】

- ①今日はちょっとかぜ気味なので、早め<sup>はや</sup>に帰らせてください。
- ②最近<sup>さいきん</sup>、忙しい仕事<sup>いそが</sup>が続いた<sup>つづ</sup>ので少し疲れ気味です。
- ③長雨<sup>ながあめ</sup>のため、このところ工事<sup>こうじ</sup>はかなり遅れ気味だ。
- ④きのうのサッカーの試合<sup>しあい</sup>でうちのチームは終始<sup>しゅうし</sup>相手チーム<sup>あいて</sup>に押され気味だったが、最後<sup>さいご</sup>にゴール<sup>き</sup>を決めた。

接続 Vます / N＋気味

- ▶ 1) 「程度<sup>ていど</sup>はあまり強くないが、～の傾向<sup>けいこう</sup>がある」と言いたいときの表現<sup>ひょうげん</sup>。  
よくない場合<sup>ばあい</sup>に使うことが多い。
- 2) ほかに、「太り気味<sup>ふと</sup>・不足気味<sup>ふそく</sup>・緊張気味<sup>きんちょう</sup>・物価<sup>ぶつ か</sup>が上がり気味」などの例<sup>れい</sup>がある。

## 23 I・5 ～きらいがある ★1

けいこう  
【～の傾向がある】

- ①あの人の話はいつも大げさになるきらいがある。
- ②田中課長<sup>たなか かちょう</sup>は大切な文書<sup>ちゅう いぶか</sup>を注意深く読まないきらいがある。
- ③われわれは厳<sup>きび</sup>しい現実<sup>げんじつ</sup>から目をそらすというきらいがあるのではないか。
- ④メールが普及<sup>ふ きゅう</sup>した今<sup>げんだいじん</sup>、現代人<sup>てい か</sup>にはコミュニケーション力低下<sup>てい か</sup>のきらいがあると思う。

接続 Vる・Vない / Nの十きらいがある

- ▶ 1) 自然<sup>しぜん</sup>にそうなりやすい、よくない傾向<sup>ひはんてき</sup>について批判的に言うときに使う。その時の外見<sup>がいけん</sup>ではなく、本質<sup>ほんしつてき</sup>的な性質<sup>せいしつ</sup>に使われる。
- 2) 「どうも～きらいがある」の形<sup>かたち</sup>でよく使われる。

23 I・6 ～まみれ ★1

【～がたくさんついている】

- ① 吉田<sup>よしだ</sup>さんは工事現場<sup>こうじげんば</sup>で毎日ほこりまみれ<sup>はたら</sup>になって働いている。
- ② 足跡<sup>あしあと</sup>から、犯人<sup>はんんにん</sup>は泥まみれ<sup>どろ</sup>の靴<sup>くつ</sup>をはいていたと思われる。
- ③ 今日は朝<sup>あさ</sup>から農作<sup>のうさぎょう</sup>業<sup>ぎょう</sup>で、全身汗まみれ<sup>ぜんしんあせ</sup>です。

接続 N＋まみれ

- ▶ 不快<sup>ふかい</sup>な液体<sup>えきたい</sup>や細かい<sup>こま</sup>ものが体<sup>てんたい</sup>など全体<sup>よご</sup>について汚<sup>よご</sup>れている様子<sup>ようす</sup>を言う。体<sup>てんたい</sup>そのものの变化<sup>へんか</sup>や、ある場所<sup>ばしょ</sup>にたくさんあるもの、散<sup>ち</sup>らかっているものなどには使わない。
- ×傷<sup>きず</sup>まみれ    ×しわまみれ    ×間違<sup>まちが</sup>いまみれ

23 I・7 ～ずくめ ★1

【～が多い / ～が身の周りに続いて起こる】

- ① 山田<sup>やまだ</sup>さんのうちは、長男<sup>ちやうなん</sup>の結婚<sup>けっこん</sup>や長女<sup>ちやうじよ</sup>の出産<sup>しゅっさん</sup>など、最近<sup>さいきん</sup>、おめでたいことずくめだ。
- ② きこのうのパーティーは和食<sup>わしょく</sup>・洋食<sup>ようしょく</sup>・中華料理<sup>ちゅうわりょうり</sup>など、ごちそうずくめだった。
- ③ 就職<sup>しゅうしょく</sup>が内定<sup>ないてい</sup>したり彼<sup>かれ</sup>からプレゼント<sup>とど</sup>が届<sup>とど</sup>いたり、今日は朝からいいことずくめだ。

## 接続 N＋ずくめ

- ▶「～で満<sup>み</sup>たされている・～が次々<sup>つぎつぎ</sup>起こる」という意味。物・色・できごとなどにも使う。身<sup>み</sup>の周<sup>まわ</sup>りの生活<sup>せいかつじょう</sup>上<sup>じょう</sup>のことでいいこと<sup>れい</sup>の例が多い

## 23

## II 様子

ものごとがどんな状 況か、または動作がどんな様子かを言いた  
いとき

★2

1 ～かのように・～かのような・～かのようだ

2 ～ようにして

3 ～げ

★1

4 ～ともなく・～ともなしに

5 ～ながら（に）・～ながらの

6 ～んばかりに・～んばかりの・～んばかりだ

## 23

## II・1 ～かのように・～かのような・～かのようだ

★2

## 【～ように】

- ①彼女は事故の後も、何もなかったかのように明るくふるまっていた。
- ②リンさんはその写真をまるで宝ものか何かのように大切にしている。
- ③山口さんは事情をよく知っていたはずだが、何も知らないかのような顔をしていた。
- ④結婚式の日、まるで夢の中にいるかのようにだった。

接続 普通形（ナAである / N・Nである）＋かのように

- ▶ 1) 実際にはそうではないが、「まるで～ように」と何かにたとえて言うときの表現。



- 2) ②の「～か何か」は「～か、またはそれに類<sup>るい</sup>するようなもの」という意味で慣<sup>かん</sup>用的<sup>ようてき</sup>に使われる。

## 23 II・2 ～ようにして ★2

【少し～ような動作<sup>どうさ</sup>をして】

- ①玄関<sup>げんかん</sup>のドアを開けると、犬が転<sup>ころ</sup>がるようにして飛<sup>と</sup>び出<sup>だ</sup>してきた。
- ②今日はうれしいプレゼントが届<sup>とど</sup>く日だった。ぼくは飛<sup>と</sup>ぶようにして家に帰った。
- ③この汚<sup>よご</sup>れはたたくようにして洗<sup>あら</sup>うとよく落<sup>お</sup>ちます。

接続 Vる＋ようにして

- ▶「実<sup>じっさい</sup>際にそうするのではないが、そのような気持<sup>きもち</sup>で」、または「ちょっとそのような動作<sup>どうさ</sup>をしながら本来<sup>ほんらい</sup>の動作をする」と言<sup>い</sup>いたいときの表<sup>ひょうげん</sup>現。

## 23 II・3 ～げ ★2

【～そう】

- ①「この絵<sup>え</sup>、よく描<sup>か</sup>けたね」と言うと、子どもはさも満<sup>まん</sup>足<sup>ぞく</sup>げにうなずいた。
- ②今日のマリはなんとなく寂<sup>さび</sup>しげな表<sup>ひょうじょう</sup>情<sup>じょう</sup>をしている。
- ③会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>の後<sup>あと</sup>、彼<sup>かれ</sup>はいかにも不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>ありげだった。

接続 イA<sup>い</sup> / ナA<sup>な</sup>＋げ（Nありま~~す~~＋げ<sup>かたち</sup>の形もある）

- ▶ 1) 人の気持<sup>きもち</sup>を表<sup>あらわ</sup>す言<sup>こと</sup>ばにつき、「そのような様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>である」と言<sup>い</sup>いたいときに使<sup>め</sup>われる。やや古<sup>め</sup>い言<sup>う</sup>い方<sup>え</sup>。目上<sup>めうえ</sup>の人の様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>を言<sup>い</sup>うときにはあまり使<sup>め</sup>わな<sup>い</sup>い。
- 2) 「いかにも・さも」などの言<sup>こと</sup>ばといっしよに使<sup>め</sup>うことが多<sup>おほい</sup>い。ほかに「

い み                      くる                      ふ あん                      なつ                      れい  
意味ありげ・苦しげ・はずかしげ・不安げ・懐かしげ」などの例がある。

## 23 II・4 ～ともなく・～ともなしに ★1

とく  
【特にそうしようというつもりでなく】

- ①祖父は何を見るときともなく窓の外を眺めている。  
そ ふ                      まど                      なが
- ②カーラジオを聞くとともになしに聞いていたら、とつぜん飛行機墜落の  
ひ こう き ついらく  
ニュースが耳に入ってきた。  
みみ
- ③夜、考えるともなしに会社でのことを考えていたら、課長に大切  
か ちょう  
な伝言があったことを思い出した。  
でんごん
- ④彼はいつからともなく、みんなに帝王と呼ばれるようになった。  
かれ                      ていおう                      よ
- ⑤彼は置き手紙をすると、どこへともなく去っていった。  
お                      さ

接続 Vる＋ともなく

- ▶「特に目的や意図がなく、ある行為をする」と言いたいときに使う。「～ともなく」の前後には同じ意味の動作性の動詞（見る・言う・聴く・考える、など）が来る。「なんとなく～していたら、こんな意外なことが起こった」と言いたいときによく使われる。④⑤のように疑問詞とともに使った慣用的な使い方もある。  
もくてき                      い と                      こう い                      ざん ご                      どう さ                      どう し                      い がい                      お                      ぎ もん し                      かんよう

## 23 II・5 ～ながら（に）・～ながらの ★1

じょうたい  
【～の状態のまま】

- ①戦火を逃れてきた人々は涙ながらそれぞれの恐ろしい体験を語った。  
せん か                      のが                     ひとひと                      なみだ                      おそ
- ②彼には生まれながらに備わっている品格があった。  
かれ                      う                      そな                      ひんかく

③20年ぶりに昔<sup>むかし</sup>ながらの校舎<sup>こうしゃ</sup>や校庭<sup>こうてい</sup>を見て懐<sup>なつ</sup>かしかった。

④モーツァルトは生まれ<sup>てんさい</sup>ながらにして音楽の天才であった。

接続 N＋ながら（に）

▶～のまま変化<sup>へん か</sup>しない状態<sup>じょうたい</sup>を表<sup>あらわ</sup>す。慣用<sup>かんようてきひょうげん</sup>的表現が多い。

→18課2「～ながら」

## 23 II・6 ～んばかりに・～んばかりの・～んばかりだ

★1

【ほとんど～しそうな様子<sup>ようす</sup>で】

①彼女<sup>かのじょ</sup>に泣<sup>な</sup>かんばかりに頼<sup>たの</sup>まれたので、仕事を代わってあげることにした。

②あの男<sup>おとこ</sup>は今にも殴<sup>なぐ</sup>りかからんばかりに警官<sup>けいがん</sup>に文句<sup>もんく</sup>を言っている。何があったのだろう。

③演奏<sup>えんそう</sup>が終わると、会場<sup>かいじやう</sup>の人たちから割<sup>わ</sup>れんばかりの拍手<sup>はくしゅ</sup>が起こった。

④彼<sup>かれ</sup>の言い方は、まるで**ぼくの方が悪い**と言わ**んばかりだ**。

接続 Vない＋んばかりに（「する」は「せんばかりに」）

▶ある行為<sup>こうい</sup>の様子が「ほとんど～しそうだ」というときの言い方。

## A ★3・★2

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

1. 最近、{ a. わたしはテレビを見がちだ。 b. 仕事が忙しくて、疲れ気味だ。 }
2. 彼の話がとても愉快なので、{ a. みんなおなかが痛くなるくらい笑った。 b. みんなおなかが痛いかにように笑った。 }
3. { a. だれでも困っている人を見ると、助けたくなるきらいがある。 b. だれでも面倒な仕事は後回しにするきらいがある。 }
4. タンカーの事故で油が流れ出して、{ a. 海が油まみれになってしまった。 b. 海の鳥たちが油まみれになってしまった。 }
5. { a. 見るともなくテレビを見ていたら、懐かしい歌が流れてきた。 b. スーパーで野菜を買うともなく買っていたら、昔の友だちに声をかけられた。 }
6. 子どもが { a. 泣き出さんばかりの顔で帰ってきた。 b. 泣き出すようにして帰ってきた。 }

## B ★3・★2

中の言葉を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

- a. かのよう b. っぽい c. がち d. だらけ e. 気味

かいしゃ  
(会社で)

よう子「あら、どうしたの。気分が悪そうね」

ひろし「うん、ちょっと熱(1. )んだ。きのうからちょっとかぜ  
(2. )でね。のども痛いし.....」

よう子「そう。きのうは何事もない(3. )な顔して会議に出ていたから、気がつかなかったわ」

ひろし「ちょっと無理していたんだ。仕事が遅れると、どうしても無理をし(4. )になるね」

よう子「そうね.....なあに、何か探しているの」

ひろし「うん、机の上が紙くず(5. )だから、ちょっと片づけるんだ.....。あ! あった。昨日探してたかぜ薬がこんなところにあった」

---

**C ★2・★1**

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. かのよう<sup>ぎ</sup>に b. ように<sup>み</sup>して c. っぽい d. 気味 e. ともなく f. ながら g. ずくめ h. きらいがある i. まみれ

わたしは飽<sup>あ</sup>き(1. )ので、勉強を始めても長くは続けられ<sup>つづ</sup>ない。成績は下がり(2. )だ。姉はわたしをばかにする

(3. )、「あなたって生まれ(4. )の遊び人間ね」と言う。

姉はどうも妹に厳<sup>きび</sup>しすぎる(5. )。確かに子どものころは毎日汗<sup>あせ</sup>

（6.     ）になって外で遊んだ。毎日楽しいこと（7.     ）だった。  
が、今は学校が終わると飛ぶ（8.     ）家に帰り、勉強を始めるの  
だ。そんなことを考える（9.     ）考えていたら、また眠く<sup>ねむ</sup>なってし  
まった。

## Process / Conclusion

经过，结果

경과/결말

どのような過程か てい とおを通してそうなったか、どのような結果けつ かになったかを  
言いいたいときは、どんな言い方かたがありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉こと ばを使つかって、文ぶんを完成かんせいさせなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. ということだ b. ことになる c. きり d. あげく e.  
ところだった

1. 会社かいしゃをやめるかどうか、いろいろ迷まよった\_\_\_\_、やはりやめることにした。
2. 先週せんしゅうの火曜かようから外食いっしゅうかんしているから、今日けふでもう1週間も外食いっしゅうかんしている\_\_\_\_。
3. 「高校こうこうのサッカーの決勝戦けっしょうせんは引き分けひ わらしいよ」  
「ということは、つまり両校優勝りょうこうゆうしょう\_\_\_\_ね」
4. 前のバスが行った\_\_\_\_、30分もたつのにまだ次つぎのバスが来ない。
5. 駐車ちゅうしゃするとき、あわてていたので、もう少しすこでとなりの車にぶつける\_\_\_\_。

つか  
使えますか

どちらがただ正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 就 職について両 親に相談したところ、{ a. 大阪の会社に決めた。 b. 自分で決めろと言われた。 }
2. わたしたちは { a. 3時に出発したいことになっている。 b. 3時に出発することになっている。 }
3. { a. なんでも最後までやりぬくことが大切だ。 b. このくつははきぬいたから、新しいのを買おう。 }
4. { a. 一生懸命がんばったので、後で満足するところでした。 b. 一生懸命がんばらなければ、かならず後で後悔することになりますよ。 }
5. { a. 何度も教員試験を受けた末に、ついに合格した。 b. 今年の教員試験を受けた末に、幸運にも合格した。 }



## 24

## I

## 経過

どのような過程かてい とおを通して、そうなったかを言いいたいとき

## ★3

1 ～たところ

2 ～あげく（に）・～あげくの

## ★2

3 ～末すえ（に）・～末の

4 ～きり・～きりだ

## ★1

5 ～に至いたって（は）

## 24

## I・1

## ～たところ

## ★3

【～したら / ～した結果けっ か】

①レポートのテーマについて先輩せんばいに相談そうだんしてみたところ、先輩はいろいろアドバイスをくれた。

②久しぶりに先生のお宅たくをお訪ねたずしたところ、先生はお留守るすだった。

③明日はハイキングなので、天気はどうかと思おもってパソコンで調べてみたところ、一日中いちにちじゅう晴れはのようだった。

④田中さんならわかるだろうと思おもって聞いてみたところが、彼にもわからなかれいということだった。

接続 Vた＋ところ

▶ 1) 「～したら、こんな状じょうきょう 況けいだった」「～した結果、こんなことがわかつた」などと説明せつめいするときに使う。

2) ④の「～たところが」は、「～したが、しかし…」という気持きもちが加くわわる。

3) 後の文にはたまたまそうなった結果を言うので、話す人いしの意志いしを表あらわす

ぶん  
文は来ない。

りょうしん そうだん  
×両親と相談したところ、オーストラリアへの留学を決めた。

○両親と相談したところ、オーストラリアへの留学に賛成してくれた。

## 24 I・2 ～あげく（に）・～あげくの ★2

【いろいろ～した後、とうとう最後に】

①人気バンドのCDを買おうと3時間も並んだあげく、結局買えなかった。

②太郎はお金のことや友人の問題でさんざん親に心配をかけたあげく、とうとう家を出てしまった。

③この問題については、長時間にわたる議論のあげく、とうとう結論は出なかった。

④あのときは山でさんざん道に迷ったあげくの果てに大雨にも降られて、本当にこわかった。

接続 Vた / する動詞のNの＋あげく（に）

▶ 1) 「いろいろ～した後で、とうとう残念な結果になった」と言いたいときに使う。

2) 1回だけのことや軽いことには使わず、「いろいろ・さんざん・長い時間」など、強調する言葉とよくいっしょに使う。

×あの時、社長とけんかしたあげくに、会社をやめた。

3) ④の「あげくの果てに」は慣用表現。

## 24 I・3 ～末（に）・～末の ★2

【～いろいろした後、最後に】

①帰国するというのは、さんざん迷った末に決めたことです。

②家族が父の任地の大阪へ移らないというのは、家族でよく話し合った末の結論です。

③試合はAチームとBチームの激しい戦いの末、Aチームが勝った。

④委員会は5時間に及ぶ討議の末に、来年度の主な活動計画を取り決めた。

#### 接続 Vた / Nの十末（に）

▶ 1) 「いろいろ～した後で、こういう結果になった」と言いたいときに使う。

2) 「いろいろ・さんざん・長い時間」など、強調する言葉とよくいっしょに使う。

3) I・2「～あげく（に）」と違って、プラスのこと、マイナスのことのどちらにも使う。

### 24 I・4 ～きり・～きりだ ★2

#### 【～して、そのままずっと】

①子どもが昼、出かけたきり、夜の8時になっても帰ってこないので心配です。

②佐藤さんは10年前にスイスへ行ったきり、そのままスイスに定住してしまったらしい。

③「課長は？」

「具合がよくないから病院へ行くと言って出たきりなんです。心配ですね」

#### 接続 Vた＋きり

▶ 多くの場合、「Vたきり、～ない」の形で、後には次に予想されることが起

こらない状態が続いているという文が来る。

24 I・5 ～に至って（は） ★1 W

【～という重大な事態になって】

①39度の熱が3日も続くという事態に至って、彼はやっと医者へ行く気になった。

②関係者は子どもが自殺するに至ってはじめて事の重大さを知った。

③学校へほとんど行かずにアルバイトばかりしていた彼だが、いよいよ留年という状況に至っては親に本当のことを言わざるを得なかった。

接続 Vる / N+に至って（は）

▶「～という重大な事態になって」という意味を表す。後の文で「やっと・ようやく・はじめて」などの言葉といっしょに使って「どうなったか」を言う。

## 24

## II

けつまつ  
結末

どのよう<sup>けっ か</sup>な結果になったかを言いたいとき

★3	1	～わけだ
	2	～きる・～きれる
	3	～ことになる
	4	～ということだ
	5	～ことになっている・～こととなっている
★2	6	～ぬく
	7	～ところだった
	8	～っぱなし
	9	～ずじまい
	10	～次第 <sup>し だい</sup> だ
★1	11	～に至 <sup>いた</sup> る
	12	～しまつだ

## 24

## II・1

## ～わけだ ★3

- ①30ページの宿題<sup>しゅく だい</sup>だから、1日に3ページずつやれば10日<sup>お</sup>で終わるわけです。
- ②夜型<sup>よるがた</sup>の人間<sup>にんげん</sup>が増えてきたために、コンビニエンスストアがこれほど<sup>ひろ</sup>広がったわけです。
- ③このスケジュール表<sup>ひょう</sup>を見ると、東京<sup>とうきょう</sup>に帰<sup>かえ</sup>って来るのは水曜日<sup>すいよう び</sup>の午前中のわけだ。

④「きのうの<sup>かい</sup>会、来<sup>し</sup>なかつたんですね」

「会があると知ら<sup>し</sup>なかつたから行<sup>し</sup>かなかつたわけで、知<sup>し</sup>っていたら  
もちろん行<sup>し</sup>きましたよ」

**接続** 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋わけだ

▶ある<sup>じじつ</sup>事実や状<sup>じょうきょう</sup>況<sup>けい</sup>から、「当然<sup>とうぜん</sup>～の<sup>けつろん</sup>結論<sup>けつろん</sup>になる」と言<sup>い</sup>いたい<sup>つか</sup>とき<sup>つか</sup>に<sup>つか</sup>使う<sup>つか</sup>。

「<sup>い</sup>こ<sup>り</sup>う<sup>ゆう</sup>こ<sup>う</sup>の<sup>じじつ</sup>事<sup>じ</sup>実<sup>じつ</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>」と<sup>い</sup>か<sup>か</sup>「<sup>い</sup>こ<sup>り</sup>う<sup>ゆう</sup>こ<sup>う</sup>の<sup>じょうきょう</sup>状<sup>じょう</sup>況<sup>けい</sup>だ<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>」と、<sup>り</sup>ゆ<sup>う</sup>に<sup>り</sup>理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>の<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ひ<sup>か</sup>方<sup>かた</sup>が<sup>あ</sup>る<sup>こ</sup>と<sup>が</sup>多<sup>お</sup>い<sup>い</sup>。

## 24 II・2 ～きる・～きれる ★3

**ぜんぶ** 【全部～する / 全部～できる】

① 5 巻<sup>かん</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>長<sup>しょう</sup>い<sup>い</sup>小<sup>しょう</sup>説<sup>せつ</sup>を<sup>を</sup>夏<sup>なつ</sup>休<sup>やす</sup>み<sup>み</sup>中<sup>ちゅう</sup>に<sup>に</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>読<sup>よ</sup>み<sup>み</sup>き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>た。

② 慎<sup>しん</sup>重<sup>ちょう</sup>な<sup>な</sup>彼<sup>かれ</sup>が<sup>が</sup>「絶<sup>ぜ</sup>対<sup>たい</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>」と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>、相<sup>そう</sup>当<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>自<sup>じ</sup>信<sup>しん</sup>  
が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>ら<sup>ら</sup>う。

③ 井<sup>い</sup>上<sup>じょう</sup>さ<sup>さん</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>年<sup>ねん</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>両<sup>りょう</sup>親<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>入<sup>にゅう</sup>院<sup>いん</sup>中<sup>ちゅう</sup>の<sup>の</sup>奥<sup>おく</sup>さん<sup>さん</sup>を<sup>を</sup>抱<sup>かか</sup>え<sup>え</sup>、困<sup>こま</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>  
い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ら<sup>ら</sup>しい。

④ あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>商<sup>しょう</sup>品<sup>ひん</sup>は<sup>は</sup>人<sup>にん</sup>気<sup>き</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>、発<sup>はつ</sup>売<sup>ばい</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>時<sup>じ</sup>に<sup>に</sup>売<sup>う</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>た。

⑤ わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>が<sup>が</sup>休<sup>うち</sup>み<sup>み</sup>に<sup>に</sup>家<sup>かえ</sup>へ<sup>へ</sup>帰<sup>かえ</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>、母<sup>はは</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>も<sup>も</sup>食<sup>く</sup>べ<sup>べ</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>ほ<sup>ほ</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>ち<sup>ち</sup>そ<sup>そ</sup>  
う<sup>う</sup>を<sup>を</sup>作<sup>つく</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>る。

⑥ あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>複<sup>ふく</sup>雑<sup>ざつ</sup>な<sup>な</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>、き<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>親<sup>おや</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>し<sup>し</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>だ<sup>だ</sup>ら<sup>ら</sup>う。

**接続** V~~ます~~＋きる

▶ 1) 「V<sup>かた</sup>きる<sup>どうし</sup>」の<sup>さいご</sup>形<sup>ぎ</sup>で、動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>に「全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>～<sup>する</sup>する / 最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>ま<sup>まで</sup>で～<sup>する</sup>する」（①）、「<sup>つよ</sup>強<sup>ひじょう</sup>く～<sup>する</sup>する」（②）、「非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>に～<sup>する</sup>する」（③）な<sup>い</sup>ど<sup>み</sup>の<sup>くわ</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>を<sup>を</sup>加<sup>く</sup>え<sup>え</sup>る。

2) 「V<sup>どうし</sup>きれ<sup>る</sup>・V<sup>どうし</sup>きれ<sup>ない</sup>」の<sup>どうし</sup>形<sup>ぎ</sup>で、動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>に「全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>～<sup>できる</sup>できる / でき<sup>ない</sup>ない」

(④⑤)、<sup>かんぜん</sup>「完全に～できる / できない」(⑥)などの意味を加える。

## 24 II・3 ～ことになる ★3

【つまり、そうなる】

- ①この事故<sup>じ こ</sup>による負傷者<sup>ふ しょうしゃ</sup>は、女性<sup>じょせい</sup>3人、男性<sup>だんせい</sup>4人の合<sup>あ</sup>わせて7人<sup>にん</sup>と  
いうことになる。
- ②11時<sup>しんかんせん</sup>の新幹線だと、13時<sup>おおさか</sup>からの大阪<sup>かい ぎ</sup>の会議<sup>ま</sup>に間<sup>あ</sup>に合<sup>あ</sup>わないことになる  
る。ここから大阪まで、3時間<sup>ま</sup>はかかるから。
- ③今<sup>あそ</sup>、遊<sup>あそ</sup>んでばかりいると、試験<sup>し けん</sup>の前<sup>まえ</sup>になっ<sup>く</sup>て悔<sup>く</sup>やむことになるよ。
- ④あの人<sup>か</sup>にお金<sup>けっきよくかえ</sup>を貸<sup>か</sup>すと、結局<sup>けっきよくかえ</sup>返<sup>か</sup>してもらえないことになるので貸<sup>か</sup>  
したくない。

接続 <sup>ふ ふうけい</sup>Vの普通形+ことになる

- ▶1)「ある事情<sup>じ じょう</sup>や状<sup>じょうきょう</sup>況<sup>かんが</sup>から考<sup>こう</sup>えて、当然<sup>とうぜん</sup>そうなる」と言<sup>い</sup>いたいとき<sup>つか</sup>に使<sup>つか</sup>  
う。
- 2) ①②は1「～わけだ」とほとんど同<sup>おな</sup>じ意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>。③④は、好<sup>この</sup>ましくな<sup>けっ</sup>い結<sup>けっ</sup>  
果<sup>か</sup>になる<sup>か</sup>ことを警<sup>けいこく</sup>告<sup>こく</sup>したりする使<sup>つか</sup>い方<sup>かた</sup>。

## 24 II・4 ～ということだ ★3

【つまり～だ】

- ①山田<sup>やま だ</sup>さんはまだ来<sup>き</sup>ていませんか。つまり、また遅<sup>ち</sup>刻<sup>こく</sup>ということです  
ね。
- ②チケッ<sup>とうじつけん</sup>トはすべ<sup>はや</sup>て当<sup>はや</sup>日<sup>ほう</sup>券<sup>ほう</sup>です。つまり早<sup>はや</sup>め<sup>ほう</sup>に來<sup>は</sup>てい<sup>は</sup>た<sup>は</sup>だ<sup>は</sup>い<sup>は</sup>た<sup>は</sup>方<sup>は</sup>が<sup>は</sup>い<sup>は</sup>  
いということです。
- ③係<sup>かかり</sup>の人<sup>あす</sup>「明<sup>とくべつ</sup>日<sup>ぎょう じ</sup>は特<sup>ちゅうしゃじょう</sup>別<sup>りん じ</sup>の行<sup>ちゅうしゃきん し</sup>事<sup>し</sup>のた<sup>し</sup>め、この駐<sup>ちゅうしゃじょう</sup>車<sup>りん じ</sup>場<sup>ちゅうしゃきん し</sup>は臨<sup>ちゅうしゃきん し</sup>時<sup>し</sup>に駐<sup>ちゅうしゃきん し</sup>車<sup>し</sup>禁<sup>し</sup>止<sup>し</sup>  
に<sup>し</sup>な<sup>し</sup>り<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>す」

客 「ということは、つまり車では来るなということですね」

接続 ▶ 2) 参照

▶ 1) ある事実を受けて、そこから「つまり～だ」と結論を引き出したり、それについてどう考えるかを述べたりする言い方。③は相手の言ったことを受けて相手に確かめたりする言い方。

2) 接続は基本的には普通形につくが、話す人がたまたま述べることにするので、さまざまな形に続く。

→ 26課 I・1 「～ということだ・～とのことだ」

24 II・5 ～ことになっている・～こととなっている ★3

【～という決まり（予定・習慣など）になっている】

①会社では社員は1年に1回健康診断を受けることになっています。

②うちの子の小学校では、親の住所録を学校外に出さないことになっている。

③午後の分科会は2時からということとなっておりますので、1時50分までにお集まりください。

④うちの会社ではお客様に会うとき以外は、スーツを着なくてもいいことになっている。

接続 Vる・Vない+ことになっている

▶ 1) 「さまざまな規則・習慣・予定などにより、そうすること、またはそうしないことが決まりになっている」という意味。改まった言い方として「こととなっている」とも言う。

2) 規則を述べる言い方として、「～してもいい・～しなくてもいい・～してはいけない・～しなければならない」などとよくいっしょに使う。



## 24 II・6 ～ぬく ★2

【最後まで～する】

- ① マラソンの<sup>せいしん</sup>精神というのは、優勝<sup>ゆうしょう</sup>できなくても最後まで走りぬくことだ。
- ② 彼は10年間も続いた内戦<sup>ないせん</sup>の時代をなんとか生きぬいて、今幸<sup>しあわ</sup>せに暮<sup>く</sup>らしている。
- ③ わたしは親<sup>おや</sup>としてあの子の長所<sup>ちようしょ</sup>も欠点<sup>けってん</sup>も知りぬいているつもりです。
- ④ いなかでの1人暮らし<sup>ひとりぐらし</sup>を望<sup>のぞ</sup>む祖母<sup>そば</sup>を残<sup>のこ</sup>して東京に来たのは、家族で考えぬいて出した結論<sup>けつろん</sup>です。

接続 V-~~ます~~＋ぬく

- ▶ 「Vぬく」の形で、その動詞に「困難<sup>こんなん</sup>なことを乗り越<sup>のこ</sup>えて最後まで完全<sup>かんぜん</sup>に～し終<sup>おえ</sup>える」（①②）、「完全<sup>かんぜん</sup>に～する」（③）、「徹<sup>てつ</sup>底的<sup>ていてき</sup>に～する」（④）などの意味を加える。

## 24 II・7 ～ところだった ★2

【もう少しで～のような結果<sup>けっか</sup>になりそうだった】

- ① 考え<sup>かんが</sup>ごとをしながら歩<sup>あゆ</sup>いていたので、横道<sup>よこみち</sup>から出て来た自転車<sup>あぶ</sup>に危<sup>あぶ</sup>なくぶつかるところだった。
- ② 切符<sup>きっぷ</sup>売り場に来るのがもう少し遅<sup>おそ</sup>かったら、映画<sup>えいが</sup>の予約券<sup>よやくけん</sup>が買<sup>か</sup>えないところだった。
- ③ 200mの平泳<sup>ひらおよ</sup>ぎの競泳<sup>きやうえい</sup>でもう少しで1位<sup>い</sup>になるところだったのに、タッチの差<sup>さ</sup>で2位だった。

接続 Vる・Vない＋ところだった

- ▶「～のような結果になりそうだったが、<sup>じっさい</sup>実際にはならずにすんだ、またはならなくて<sup>ざんねん</sup>残念だ」などと言いたいときに使う。悪い結果になる直前<sup>ちよくぜん</sup>だったことを強<sup>きょうちよう</sup>調<sup>し</sup>したいときは、「もう少しで」「危<sup>あぶ</sup>なく（危<sup>あや</sup>うく）」などの副<sup>ふく</sup>詞とよくいっしょに使う。

## 24 II・8 ～っぱなし ★2 S

### 【～したままだ】

- ①道具<sup>どうぐ</sup>が出しっぱなしだよ。使<sup>かた</sup>ったら片づけなさい。
- ②あのメーカーは売<sup>う</sup>りっぱなしではなく、アフターケアがしっかりしている。
- ③この仕事は立<sup>た</sup>ちっぱなしのことが多いので、疲<sup>つか</sup>れる。
- ④「また負<sup>ま</sup>けたね」  
「あのチームはシーズンが始まってから負<sup>ま</sup>けっぱなしだね」

### 接続 Vます+っぱなし

- ▶1) 「～したままで、<sup>あと</sup>後の<sup>とうぜん</sup>当然しなければならぬことをしないでいる」という意味である。
- 2) ③④は、「その状<sup>じょうたい</sup>態<sup>たい</sup>がず<sup>つづ</sup>っと続<sup>つづ</sup>いている」ことにポイントがある。
- 3) マイナスの評<sup>ひょう</sup>価<sup>か</sup>に使<sup>つか</sup>われることが多い。

## 24 II・9 ～ずじまい ★2

### 【～しないで終わる】

- ①あの本はいろいろな友だちにすす<sup>すす</sup>められたんですが、なんとなく気<sup>け</sup>が進<sup>すす</sup>まず結<sup>け</sup>局<sup>きよく</sup>ずじまいでした。
- ②そろそろ昼<sup>ちゆうしよく</sup>食<sup>しよく</sup>を、と思<sup>おも</sup>っていたら来<sup>らい</sup>客<sup>きやく</sup>があり、そのうちにミーティングが始<sup>はじ</sup>まり、結<sup>け</sup>局<sup>きよく</sup>昼<sup>ちゆうしよく</sup>食<sup>しよく</sup>は取<sup>と</sup>らずじまいだった。

③その件<sup>けん</sup>については、いろいろな人に聞いて回<sup>まわ</sup>ったが、結局真相<sup>しんそう</sup>はわからずじまいだった。

④あの映画も終わってしまいました。見たいと思っても、忙<sup>いそが</sup>しくて見ずじまいのことが多いんですよ。

接続 Vない＋ず＋じまい 例外 し<sup>れいがい</sup>ない→せずじまい

- ▶ 1) 「心理<sup>しんり</sup>的・時間<sup>とき</sup>的・物理<sup>ぶつり</sup>的などの理由<sup>りゆう</sup>で、行為<sup>こうい</sup>や状<sup>じょうきょう</sup>況<sup>じつげん</sup>が実現<sup>じつげん</sup>しないで終わってしまった」という意味。やや口語<sup>こうご</sup>的表現<sup>てきひょうげん</sup>。
- 2) 「結局<sup>けっきょく</sup>・とうとう」などの言葉<sup>ことば</sup>とよくいっしょに使う。

## 24 II・10 ～次第<sup>しだい</sup>だ ★2 F

### 【～わけだ】

①次回<sup>じかい</sup>の会<sup>かい</sup>へのご出<sup>しゅっけつ</sup>欠<sup>けつ</sup>につきご都合<sup>つごう</sup>をうかがいたく、ご連絡<sup>れんらく</sup>を差し上げました次第<sup>さ</sup>です。

②客<sup>きやく</sup> 「品物<sup>しんぶつ</sup>が届<sup>とど</sup>かなかったのはそちらの手違<sup>てちが</sup>いだというんですね」  
店員<sup>てんいん</sup> 「はい、まことに申し訳<sup>もうわけ</sup>ございませんが、そういう次第<sup>さ</sup>でございます」

③以上<sup>いじょう</sup>のような次第<sup>さ</sup>で、来週<sup>けんがく</sup>の工場見学<sup>くわんがく</sup>は中止<sup>ちゅうし</sup>とさせていただきます。

接続 普通形<sup>ふつうけい</sup> (ナAである / Nである) + 次第<sup>さ</sup>だ

- ▶ 理由<sup>りゆう</sup>や事<sup>じ</sup>情<sup>じょう</sup>を説明<sup>せつめい</sup>して、「それで～という結果<sup>けっか</sup>になった」と言<sup>い</sup>いたいとき  
に使う。II・1 「～わけだ」より改<sup>あらた</sup>まった言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>。  
→ 13課 5 「～次第<sup>さ</sup>で・～次第<sup>さ</sup>だ」

## 24 II・11 ～に至<sup>いた</sup>る ★1 W

【～までになる】

- ①被害は次第に<sup>ひ がい し だい こうはん い ひろ</sup>広範囲に広がり、ついに<sup>し しゃ</sup>死者30人を出すに至った。
- ②社長以下5人で始めたその<sup>ぶ ひん</sup>部品会社は、10年のうちに日本一の部品メーカーにまで<sup>せいちょう</sup>成長するに至った。
- ③工場閉鎖に至ったその<sup>せきにん</sup>責任は、だれにあるのか。

接続 Vる / N+に至る

- ▶ 1) 「いろいろなことが続いた後、ついにこうなった」と言いたいときに使う。
- 2) 後の文では「ついに・とうとう」などの<sup>ことば</sup>言葉とよくいっしょに使う。

24 II・12 ～しまつだ ★1

【～という悪い結末だ】

- ①あの子は乱暴で本当に<sup>らんぼう ほんとう こま</sup>困る。学校のガラスを<sup>わ</sup>割ったり、いすを<sup>こわ</sup>壊したり、とうとうきのうは友だちとけんかして、けがをさせてしまうしまつだ。
- ②きのうはいやな日だった。会社では社長に注意されるし、夜は友人<sup>ゆうじん</sup>とけんかしてしまうし、最後は帰りの電車の中にかばんをわすれてきてしまうしまつだだった。
- ③君は<sup>きみ</sup>きのうもまた<sup>う あ</sup>打ち合わせの時間<sup>おく</sup>に遅れたそうじゃないか。そんな<sup>しんよう</sup>しまつじゃ人に信用されないよ。

接続 Vる+しまつだ

- ▶ 1) 「悪いことを<sup>へ</sup>経て、とうとう<sup>さいご</sup>最後にもっと悪い<sup>けっか</sup>結果になった」とその<sup>けい</sup>経緯を言うときに使う。
- 2) 「とうとう・最後は」などの<sup>ことば</sup>言葉とよくいっしょに使う。

## A ★3

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. きって b. ことになっています c. わけです d. ところ  
e. ことになります f. ということです

1. 売り場に問い合わせしてみた\_\_\_\_、その切符はもう売り切れということだった。
2. よう子は職場の人間関係の難しさに困り\_\_\_\_、先輩に相談した。
3. 今日中に資料を提出しないと、来週の国際会議までに印刷が間に合わない\_\_\_\_。
4. 新入社員は入社後、4週間の研修を受ける\_\_\_\_。
5. 父が古典文学、兄が英文学の研究者なので、わたしも文学に興味をもった\_\_\_\_。
6. 出版社の人「この本は秋の初めごろには出版したいのです」  
著者 「つまり原稿を6月には出してほしい\_\_\_\_ね」

## B ★3・★2

□の中の言葉と、( )の中の言葉をいっしょに\_\_\_\_を使って、文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. きれない b. っぱなし c. 末<sup>すえ</sup>に d. ずじまい e. ところ  
f. ことになっている g. わけです

やまもと 山本「えー、実は南<sup>じつ みなみくん</sup>君が横浜<sup>よこはま</sup>事務所<sup>じ むしよ うつ</sup>に移<sup>うつ</sup>りたいという希望<sup>きぼう</sup>を会社<sup>かいしゃ</sup>に1.  
(出す)<sup>みと</sup>、認め<sup>みと</sup>られましたので、今日<sup>けふ</sup>は送別会<sup>そうべつかい</sup>というか、  
いっしょに食<sup>しょく</sup>事をしよう<sup>じ</sup>と2. (いう)

おおた 大田「南君<sup>し</sup>がここをやめるなんて知ら<sup>し</sup>なかったなあ」

なん 「ええ、さんざん3. (かんが) 出<sup>けつろん</sup>した結論<sup>けつろん</sup>なんです」

おおた 大田「でも、せっかく慣<sup>な</sup>れたのに、どうして？」

なん 「家<sup>いえ</sup>が横浜<sup>よこはま</sup>だし、子どもも小<sup>こ</sup>さいので、4. (かよ) 通<sup>かよ</sup>うんですよ」

やまもと 山本「担当<sup>たんとう</sup>の仕事<sup>しごと</sup>の引<sup>ひ</sup>き継<sup>つ</sup>ぎはうまくいっているの？」

なん 「大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>ですよ。仕事<sup>しごと</sup>を5. (やる) でやめるなんていうこと  
はしませんから」

おおた 大田「いっしょに山<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>こうって言<sup>い</sup>っていたのに、とうとう6. (行く) 行<sup>い</sup>く  
く) だったなあ」

なん 「横浜<sup>よこはま</sup>にいるんですよ。いつでも行<sup>い</sup>けますよ」

まえかわ 前川「実は、わたしも来年<sup>らいねん</sup>には横浜<sup>よこはま</sup>に7. (うつ) 移<sup>うつ</sup>るんですよ」

なん 「そうですか。それはよろしく願<sup>ねが</sup>いします」

## C ★2・★1

□の中の言葉<sup>ことば</sup>を使<sup>つか</sup>って、文<sup>ぶん</sup>を完<sup>かん</sup>成<sup>せい</sup>させなさい。1つの言葉<sup>ことば</sup>は1  
回<sup>かい</sup>しか使<sup>つか</sup>いません。

こた 答えは [こちら](#)

a. ところだった b. きり c. っぱなし d. 至<sup>いた</sup>って e.

あげく f. しまつだ

1. 彼は夏<sup>かれ</sup>ごろ 1 度<sup>ど</sup>手紙をくれた\_\_\_\_、その後<sup>ご</sup>何も言って来ません。
2. 友だちに教<sup>か</sup>えてもら<sup>し</sup>ったお菓子<sup>さが</sup>の店を探<sup>さが</sup>して、さんざん<sup>あさくさ</sup>浅草の町を歩<sup>まわ</sup>き回<sup>まわ</sup>った\_\_\_\_、とうとう見<sup>み</sup>つけられずに帰<sup>かえ</sup>ってきた。
3. 入り口<sup>いりぐち</sup>にずっと置<sup>お</sup>き\_\_\_\_のかさは、だれなのでしょうね。
4. けさ、人<sup>ひと</sup>に押<sup>お</sup>されてももう少し<sup>すこ</sup>で電車とホームの間に落<sup>お</sup>ちる\_\_\_\_。
5. 子どもたちが授<sup>じゅ</sup>業<sup>ぎょう</sup>をボイコッ<sup>ボイコッ</sup>トする\_\_\_\_、先生<sup>せんせい</sup>たちはようやく子どもたちの言<sup>い</sup>い分<sup>ぶん</sup>に耳<sup>みみ</sup>を傾<sup>かたむ</sup>けるようになった。
6. A選<sup>せん</sup>手<sup>しゅ</sup>は今日<sup>けふ</sup>の試<sup>し</sup>合<sup>あい</sup>で、自分<sup>じぶん</sup>のミ<sup>てん</sup>スで点<sup>てん</sup>を入<sup>い</sup>れられるし、動<sup>う</sup>きも悪<sup>あく</sup>いし、最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>には反<sup>はん</sup>則<sup>そく</sup>で退<sup>たい</sup>場<sup>じょう</sup>させられる\_\_\_\_。彼<sup>かれ</sup>は本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に調<sup>ちょう</sup>子<sup>し</sup>が悪い。

## Negatives / Partial Negatives

否定，部分否定

부정/부분부정

ものごとを打ち消したいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. はずがない    b. とは限らない    c. ことなく    d. こともない  
e. どころじゃない

1. こんな不正確な仕事のやり方では、課長のOKが出る\_\_\_\_\_。
2. 今週はカラオケに行く約束だけど、忙しくてカラオケ\_\_\_\_\_。
3. 彼らは途中で休む\_\_\_\_\_、目的地まで歩き続けた。
4. 希望者が多いので、申し込んでもみんな参加できる\_\_\_\_\_。
5. 「先日の仕事の話、無理をすればやれない\_\_\_\_\_んですが.....」  
「そうですか。それではお願いします」

つか  
使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 大阪から3時間はかかるから、{ a. 2時に着くわけがない。  
b. 2時に着くところじゃない。 }



2. 昼食<sup>ちゅうしょく</sup>を食べることは食べましたが、{ a. サンドイッチ<sup>ひと</sup>1つだけなんです。 b. まだおなかがいっぱいです。 }
3. 品物<sup>しなもの</sup>は、安<sup>やす</sup>ければならず { a. 売<sup>う</sup>れるはずがない。 b. 売<sup>う</sup>れるというものではない。 }
4. 大学院<sup>だいがくいん</sup>に行くことを決<sup>き</sup>めたことは決<sup>き</sup>めたんだけど、{ a. 自信<sup>じしん</sup>がない。 b. 自信<sup>じしん</sup>がある。 }
5. あんな映<sup>えい</sup>画<sup>が</sup>がおもしろいものか。ぼくは { a. 3回<sup>かい</sup>も見た。 b. 途<sup>と</sup>中<sup>ちゅう</sup>で見<sup>み</sup>るのをやめた。 }

25

## I 否定

ものごとを打ち消すとき

★3

1 ～はずがない

2 ～わけがない

★2

3 ～ことなく

4 ～もしない

5 ～どころではなく・～どころではない

6 ～ものか

★1

7 ～なしに・～ことなしに

8 ～までもなく・～までもない

25

## I・1 ～はずがない ★3

【～という可能性がない】

①「王さん、遅いですね。どうしたんでしょう」

「王さんは来られるはずがないよ。今日は大切な会議があると言っていたから」

②「けさ、品川駅で佐藤さんを見ましたよ」

「そんなはずはありません。佐藤さんは今アイルランドを旅行していますよ」

③チンさんは生の魚は食べないから、さしみが好きだと言うはずがありません。

④「え、さっき見た写真がない？ そんなはずない。机の上に返しておいたよ」

「あ、あった、あった、ごめんなさい」

ふ、つうけい  
**接続** 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋はずがない

- ▶ 1) ある事実をもとに「その可能性がない」と言うときに使う。話す人の主観的な判断を表す。話し言葉では④のように「～はずない」とも言う。  
2) I・2 「～わけがない」で言うこともできる。

## 25 I・2 ～わけがない ★3

とうぜん  
【当然～ない】

- ① 昔の日本のことを聞いても、外国人の彼が知っているわけがないじゃないか。  
② こんな小説をあの人が読むわけがない。あの人は雑誌やマンガしか読まないんだから。  
③ こんなに気温が低くて雨が多い夏だから、秋においしい果物がとれるわけがない。  
④ 「大山さん、暇かな。テニスに誘ってみようかな」  
「彼女は今、就職活動中だから、暇なわけがないよ」

ふ、つうけい  
**接続** 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋わけがない

- ▶ 1) ある事実をもとに、そのことが成立する理由・可能性がないと強く言うときに使う。話す人の主張や主観的な判断を表す。話し言葉では④のように、「～わけない」とも言う。  
2) I・1 「～はずがない」に置きかえることができる。

## 25 I・3 ～ことなく ★2 W

【～ないで】

- ① 花子さんの部屋から芝居の練習をする声が、夕方まで途切れるこ

となく、聞こえていた。

②彼は夏休みも帰国することなく、研究を続けた。

③林さんはだれにも相談することなく、学校をやめてしまった。

④犯人は人に怪しまれることなく、その家の庭に入ることができた。

### 接続 Vる＋ことなく

▶ 1) 「普通は～する、または～してしまうが、この場合は～しないで」という意味を表す。

2) 硬い言葉なので、日常的事物にはあまり使わない。  
×今日は、さとうを入れることなくコーヒーを飲みたい。

## 25 I・4 ～もしない ★2

### 【全然～しない】

①わたしが出した手紙を、彼は開きもしないで捨ててしまったそうだ。

②わたしが作った音楽のCDを聞きもしないで、いろいろ言わないでください。

③食事の時間だと声をかけたが、兄は立ち上がりもしない。疲れているのだろう。

④よく調べもしないで、簡単に結論を出さないでください。

### 接続 Vます＋もしない

▶ 「最低の～さえしない・全く～しない」と不満の気持ちを持って言うときの言い方。

## 25 I・5 ～どころではなく・～どころではない ★2

### 【～はとてもできない】

①はじめて九<sup>きゅうしゅう</sup>州へ来たのに、見物どころではなく夜遅く<sup>よるおそ</sup>まで会議<sup>かいぎ</sup>だ。

②「高橋<sup>たかはし</sup>さん、来週の金曜日、サッカーの試合<sup>しあい</sup>のチケットがあるんだけど、行きませんか」

「すみません。わたし、今忙しくてサッカーを見に行くどころではないんです」

③結婚<sup>けっこん</sup>したころはお金<sup>い</sup>がなくて、お祝<sup>いわ</sup>いをするどころじゃなかった。

接続 Vる / N+どころではなく

▶「～のようなことをする余裕<sup>よゆう</sup>はない」と強く否定<sup>ひてい</sup>する言い方。

## 25 I・6 ～ものか ★2 S

【決して～ない】

①「展覧会<sup>てんらんかい</sup>、どうだった」

「あんな人の多いところへ2度<sup>ど</sup>と行くものか。作品<sup>さくひん</sup>はぜんぜん見えなくて、人の頭<sup>あたま</sup>ばかりだったよ」

②寮<sup>りょう</sup>の食事<sup>なつとう</sup>ではじめて納豆<sup>なつとう</sup>が出たときには「こんなものが食べられるものか」と思った。

③「田中<sup>たなか</sup>さんって、正直<sup>しょうじき</sup>な人ですね」

「田中さんが正直なもんか。田中さんの言うことはうそばかりだ」

接続 普通形（ナAな / Nな）+ものか

▶1) 話者の強い否定の気持ちを表す言い方で、反語<sup>はんご</sup>を使った少し感情的な言い方。

2) 「ぜったいに・けっして」などとともに使うことが多い。③の「～もんか」はくだけた言い方。

**25****I・7 ～なしに・～ことなしに ★1****【～ないで / ～なく】**

- ① 2時から4時までは取材ですから、事前の断りなしに、呼び出しをしないでください。
- ② わたしたちは3時間、休憩することなしに会議を続けた。
- ③ 厚い本なのにあまりにおもしろくて、中断することなしに終わりまで読んでしまった。

**接続 N+なしに Vる+ことなしに**

- ▶ 「～なしに…」の形で、動作を表す言葉について「普通は～するが、この場合は～しないで」という意味を表す。

**25****I・8 ～までもなく・～までもない ★1****【～しなくてもいい】**

- ① 簡単な計算だから、電卓を使うまでもない。
- ② 詳しい説明がここに書いてあるから、わざわざ店員さんの話を聞くまでもなく、読めばわかる。
- ③ 中村さんはアメリカへ転勤になったそう。林さんが本人から直接聞いたのだから、確かめるまでもないだろう。
- ④ 熱もないんだから、わざわざ病院に行くまでのこともない。1日休めば治るだろう。

**接続 Vる+までもなく**

- ▶ 「それほどのことをする必要はない」という判断を言いたいときの表現。
- ④のような慣用的表現もある。

## 25

## II 部分否定

部分的に打ち消したり、消極的に肯定したりしたいとき

★3

1 ～ことは～が

2 ～とは限らない

3 ～わけではない

★2

4 ～ないことはない・～ないこともない

5 ～というものではない

★1

6 ～ないものでもない・～ないでもない・～なくもない

## 25

## II・1 ～ことは～が ★3

【一応～だが、しかし】

①この漢字は意味がわかることはわかるんですが、使い方がよくわからないんです。

②きのう林さんのうちへ行くことは行ったが、留守で会えなかった。

③今の部屋は便利なことは便利だが、狭い。

④西さんと同じ部屋だと、楽しいことは楽しいけど、勉強ができません。

接続 普通形（ナAな / Nな）＋ことは～が

▶1) 「～ことは～が」の形で、「ことは」の前後に同じ「～」を繰り返して使い、「～はいちおう事実なのだが、そのことにあまり意味はない・不満がある」と言いたいときの表現。

2) 過去のことを言う場合には②のように前後の形が違うこともある（行

く・行った)。

## 25 II・2 ～とは限らない ★3

【～ということがいつも本当だとは言えない】

- ①テレビの天気予報がいつも当たるとは限らない。
- ②話題になっているからといって、その本がおもしろいとは限らない。
- ③テレビで報道されることがいつも真実(だ)とは限らない。
- ④事故が起きないとは限らないから、高い山に登るときはしっかり準備をした方がいい。

接続 普通形十とはかぎらない

- ▶ 1) 「～がかならず本当であるとは言えない、例外もある」という意味。
- 2) 「いつも・全部・だれでも・かならずしも」などの副詞とともによく使われる。また、②のように、「～からといって」(18課7)とともに使われることも多い。

## 25 II・3 ～わけではない ★3

【全部が～とは言えない / かならず～とは言えない】

- ①鈴木さんは高校生時代に勉強ばかりしていたわけではない。よくクラブ活動もしていた。
- ②離婚をしたいという、あなたの今の気持ちがわからないわけではありません。
- ③新聞によると、インフルエンザの予防接種をみんなが受けられる



けではないようだ。

- ④今日の会に出<sup>かい</sup>席<sup>しゅっせき</sup>したいわけではないんだけど、頼<sup>たの</sup>まれたから行くんです。

接続 普通形（ナAな・ナAである / Nの・Nである）＋わけではない

- ▶ 1) 「～」の事柄<sup>ことがら</sup>を部分的<sup>ぶぶんてき</sup>に否定<sup>ひてい</sup>する言い方<sup>い かた</sup>。  
2) ②の「～ないわけではない」は部分的<sup>こうてい</sup>に肯定<sup>こうてい</sup>する言い方。④のように「特<sup>とく</sup>に～のではないが」と説明<sup>せつめい</sup>するときにも使う<sup>つか</sup>。

## 25 II・4 ～ないことはない・～ないこともない ★2

【～と言える】

- ①「だれかあしたテニスをし<sup>はやし</sup>ないかなあ」  
「うーん、林<sup>はやし</sup>さんならテニスが好<sup>す</sup>きだから、しないこともないんじゃない」  
②今から走<sup>あ</sup>って行けば9時20分の電車に間に合<sup>あ</sup>わないこともない。  
③「課長<sup>かちょう</sup>、今<sup>いそが</sup>、お忙しいですか」  
「忙<sup>いそが</sup>しくないこともないけど、どんな用事<sup>ようじ</sup>ですか」  
④祖父<sup>そふ</sup>は携<sup>け</sup>帯<sup>たい</sup>電話<sup>でんわ</sup>がきらいだと言<sup>い</sup>っていた。しかし、最近<sup>さいきん</sup>は「便利<sup>べんり</sup>でないこともないな」と言うようになった。

接続 Vない / イAくない / ナAでない / Nでない＋ことはない

- ▶ 「～という可能<sup>かのうせい</sup>性<sup>せい</sup>がある」または「～のよう<sup>めん</sup>に言<sup>い</sup>える面<sup>めん</sup>もある」という意味<sup>いみ</sup>を表<sup>あらわ</sup>す。二重<sup>ひてい</sup>否定<sup>ふてい</sup>を使<sup>しょうきょく</sup>って消<sup>こうてい</sup>極<sup>きよく</sup>的<sup>てき</sup>に肯定<sup>こうてい</sup>する言い方、または、断<sup>だんてい</sup>定<sup>てい</sup>を避<sup>さ</sup>ける言い方である。

## 25 II・5 ～というものではない ★2

【～とは言えない】

- ①スポーツはただ練習<sup>れんしゅう</sup>すればできるようになるというものではない  
 　　い。効果的<sup>こうかてき</sup>な練習のやり方が大切だ。
- ②会議<sup>かいぎ</sup>では何を言うかが大切だ。ただ出席<sup>しゅっせき</sup>していれば済む<sup>す</sup>というものではない。
- ③車はスピードが出ればいいというものではない。何より安全<sup>あんぜん</sup>が大切だ。
- ④お客様<sup>きやくさま</sup>に対する話しかたはていねいであればいいというものでもありません。

接続 普通形<sup>ふつうけい</sup>＋というものではない

- ▶1) 「いつも・かならず～とは言えない」と言いたいときの表現<sup>ひょうげん</sup>。「ある主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちやう</sup>や考え<sup>かんが</sup>がいつも・かならず正しい<sup>しょうきよくてき</sup>とは言えない」という意味<sup>あらわ</sup>を表す。  
 　　消極<sup>しょうきよくてき</sup>的にある主張<sup>しやうしやう</sup>や考え<sup>かんが</sup>を否定<sup>ひてい</sup>するときに使う。
- 2) ③のように「～ばいいというものではない」という形<sup>かたち</sup>でよく使う。

## 25 II・6 ～ないものでもない・～ないでもない・～なくもない ★1

【全く<sup>まった</sup>～ないのではない】

- ①「高橋<sup>たかはし</sup>先生、お酒はお飲みにならない<sup>さけ</sup>んですか」  
 　　「いいえ、飲ま<sup>の</sup>ないでもない<sup>よわ</sup>んですが、とても弱い<sup>よわ</sup>んです」
- ②今度の仕事、うまくいきそうな気がし<sup>し</sup>ないでもない。
- ③引退<sup>いんたい</sup>する選手<sup>せんしゅ</sup>「正直<sup>しょうじき</sup>に言うと、今やめるのは残念<sup>ざんねん</sup>だ、という気持ち<sup>きもち</sup>が<sup>ち</sup>なくもない<sup>ない</sup>んです」

接続 Vない＋ものでもない      Vなく / イAなく / ナAでなく / Nでなく＋もない

- ▶1) 「～という可能性<sup>かのうせい</sup>がある」または「～のよう<sup>めん</sup>に言える面もある」という

意味を表す。二重否定を使って消極的に肯定したり、断定を避けたりする言い方である。

- 2) II・4 「～ないことはない」と同じように使うが、「～ないものでもない・～ないでもない・～なくもない」は個人的な判断・推量・好き嫌いなどについて使われることが多い。

## A

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた 答えは [こちら](#)

## ★3

a. わけがない b. ことは c. わけではない d. とは限らない

おっと しょうせつ 夫「この小説、読んだ（1. ）読んだんだけど、よく理解できなかったよ。あい子、この主人公の気持ち、わかる？」

つま ろうじん 妻「わたしにわかる（2. ）でしょ。主人公は老人よ」

夫「でも、あい子はこの作家がすきなんだろう？ よく読んでいるよね」

とく かなら 妻「特にすきな（3. ）のよ。それに、すきだからって、必ずしも主人公の心理がわかる（4. ）でしょう」

## ★3

a. ことなく b. どころではない c. ものか d. ことはない  
e. というものではない f. までもない g. ものでもない

せんばい 先輩「あれ、今年は花見には行かないのか」

こうはい じつ うんそうがいしゃ 後輩「ええ、実は今、花見（5. ）んです。運送会社でアルバイトをしているんです」

先輩「へえー。仕事、きついだろう」

後輩「ええ、きつくない（6. ）んですが、まあ、アルバイト料は

高いですから。1日も休む（7.      ）2週間がんばれば、かなり  
の額になるんですよ」

先輩「去年、重い荷物を山に運ぶアルバイトをしたんだけど、もう2  
度とあんなきつい仕事はやる（8.      ）と思ったよ。でも、この  
仕事ならぼくにもやれない（9.      ）なあ」

後輩「でも、言う（10.      ）ことですけど、ただ運べばいい  
（11.      ）んですよ。決まった時間までに確実に届けることが  
大切なんです」

## B ★3・★2

□の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を使い換えなさい。1つの  
言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. はずがない    b. ところではない    c. 限らない    d. わけで  
はない    e. までもない    f. ないものでもない

1. リーさんがマラソン大会で入賞する可能性はない。

2. タムさんとリーさん、どちらが速いかわざわざ時間を計る必要はない。はっきりわかっている。

3. といっても、タムさんが特に速いのではない。

4. 体調がいつもいいとは言えないからである。

5. ぼくは今、忙しいのでマラソンの余裕はないが、いつか2人に強  
く誘われれば、マラソン大会に絶対出ないとは言えない。

## Conveying Information / Expressing Certainty and Uncertainty

伝聞，推測

전문/추량

聞いたり読んだりしたことを伝えるときや、確かでないことについて  
 自分がどう考えているかを言いたいときは、どんな言い方があります  
 か。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. ということだ   b. とみえる   c. ではあるまいか   d. かね  
ない   e. まい

1. 準備体操をせずにはげしいスポーツをしたら、けがをし\_\_\_\_\_。
2. これ以上森林の木を切り続けると、地球上から多くの動物が  
いなくなってしまうの\_\_\_\_\_。
3. 石井君は最近、元気だね。今回の成功でだいぶ自信をつけ  
た\_\_\_\_\_。
4. テレビの長期予報によると、今年の冬は平年より暖かい\_\_\_\_\_。
5. 選手の強化を図らないと、オリンピック出場などとても期待で  
き\_\_\_\_\_。

つか  
使えますか

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. そちらでは地震の被害は { a. ほとんどなかったとのこと、よかったですね。 b. ほとんどなかったそうです。よかったですね。 }
2. { a. 今日は水曜日に違いがないから、 b. 今日は水曜日だから、 } ごみを出そう。
3. { a. 彼はニコニコしているとみえて、何かいいことがあったらしい。 b. 彼は何かいいことがあったとみえて、ニコニコしている。 }
4. 娘「この不景気だから、 { a. お姉さんの就職はむずかしいのではあるまいか」 b. お姉さんの就職はむずかしいんじゃないかしら」 }  
母「そうねえ。むずかしいかもしれないわねえ」
5. この薬を飲むと、 { a. 運転中に眠くなりかねない。 b. 病気が治りかねない。 }

## 26

I 伝聞<sup>でんぶん</sup>

聞いたり読んだりしたことを伝えるとき<sup>つた</sup>

★3 1 ～ということだ・～とのことだ

★2 2 ～とか

## 26 I・1 ～ということだ・～とのことだ ★3

【～そうだ / ～と聞いている】

①うちの近く<sup>ちか</sup>の空き地<sup>あ</sup>に何ができるのか<sup>ち</sup>と<sup>おも</sup>思っていたら、大きなスポーツセンターができるということだ。

②新聞<sup>しんぶん</sup>によると、インフルエンザ<sup>かんじゃ</sup>の患者<sup>ふ</sup>はこれからも増えるだろうとのことです。

③大統領<sup>だいてうりょう</sup>の来日<sup>らいにち</sup>は来月10日とのことだが、夫人<sup>ふじん</sup>は来日されないそう  
だ。

④お手紙<sup>てがみ</sup>によると、太郎君<sup>たろうくん</sup>も来年<sup>しやかいじん</sup>はいよいよ社会人<sup>しゃかいじん</sup>になれるとのこと  
と、ご活躍<sup>かつやく</sup>を心<sup>こころ</sup>から祈<sup>いの</sup>っています。(手紙<sup>てがみ</sup>)

⑤妹<sup>いもうと</sup>「お母さん<sup>お母</sup>が、荷物<sup>にもつ</sup>が多い<sup>おお</sup>から駅<sup>えき</sup>まで迎え<sup>むか</sup>に来てくれって」  
兄<sup>あに</sup>「うん、わかった」

⑥あらあら、「本日<sup>ほんじつ</sup>の事務<sup>じ</sup>取り扱い<sup>むと</sup>は終<sup>あつか</sup>了<sup>しゅうりょう</sup>しました」だって。5分  
遅<sup>おそ</sup>かったね。

接続 ▶ 2) 参照<sup>さんしやう</sup>

▶ 1) 伝聞<sup>でんぶん</sup>の言い方<sup>い かた</sup>。

2) 伝聞<sup>でんぶん</sup>の「～そうだ」は普通形<sup>ふつうけい</sup>だけに続くが、「～ということだ」は直<sup>ちよく</sup>



接<sup>せつ</sup>的<sup>てき</sup>な引<sup>いん</sup>用<sup>よう</sup>とい<sup>かん</sup>う感<sup>つよ</sup>じが強<sup>すいりよう</sup>いので、普<sup>めい</sup>通<sup>れい</sup>形<sup>い</sup>のほかに推<sup>か</sup>量<sup>こ</sup>(②)や命<sup>い</sup>令<sup>れい</sup>の形<sup>かた</sup>(⑤)なども来<sup>き</sup>る。また、「～とい<sup>い</sup>うこ<sup>こ</sup>とだ<sup>だ</sup>った」とい<sup>い</sup>う過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>の形<sup>かた</sup>もある。

3) ④のよう<sup>とく</sup>に、「～と<sup>て</sup>のこ<sup>がみぶん</sup>と」は特<sup>い</sup>に手<sup>て</sup>紙<sup>がみぶん</sup>文<sup>い</sup>で「～だ<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>です<sup>い</sup>が」の意<sup>い</sup>味<sup>い</sup>で使<sup>い</sup>う。

4) ⑤⑥の「～<sup>いんよう</sup>って」は、引<sup>いんよう</sup>用<sup>よう</sup>の「と」が変<sup>へん</sup>形<sup>けい</sup>したも<sup>も</sup>の。「～と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る」「～と<sup>い</sup>書<sup>い</sup>いて<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る」な<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>の動<sup>い</sup>詞<sup>い</sup>部<sup>い</sup>分<sup>い</sup>が省<sup>い</sup>略<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る<sup>い</sup>と考<sup>い</sup>え<sup>い</sup>る<sup>い</sup>。

く<sup>か</sup>だ<sup>か</sup>け<sup>か</sup>た<sup>か</sup>言<sup>か</sup>い<sup>か</sup>方<sup>か</sup>。  
→24課Ⅱ・4「～とい<sup>い</sup>うこ<sup>こ</sup>とだ<sup>だ</sup>」

## 26 I・2 ～とか ★2

【～<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>が / ～と<sup>い</sup>聞<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>が】

①「<sup>ほっかいどう</sup>テレビで<sup>おおゆき</sup>見た<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ど<sup>い</sup>北<sup>い</sup>海<sup>い</sup>道<sup>い</sup>は<sup>い</sup>き<sup>い</sup>の<sup>い</sup>う<sup>い</sup>大<sup>い</sup>雪<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>った<sup>い</sup>と<sup>い</sup>か<sup>い</sup>」  
「<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>です<sup>い</sup>か<sup>い</sup>。<sup>い</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>冬<sup>い</sup>です<sup>い</sup>ね<sup>い</sup>え<sup>い</sup>」

②課<sup>か</sup>長<sup>ちよう</sup>の<sup>い</sup>話<sup>わ</sup>で<sup>い</sup>は、打<sup>う</sup>ち<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>わ<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>の資<sup>し</sup>料<sup>りよう</sup>を2時<sup>い</sup>前<sup>ぜん</sup>に<sup>い</sup>は<sup>い</sup>用<sup>い</sup>意<sup>い</sup>し<sup>い</sup>て<sup>い</sup>く<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>か<sup>い</sup>。<sup>い</sup>間<sup>あ</sup>に<sup>い</sup>合<sup>あ</sup>う<sup>い</sup>か<sup>い</sup>な<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>。

③来<sup>り</sup>年<sup>ゆうがく</sup>は妹<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>が日<sup>に</sup>本<sup>てい</sup>へ留<sup>い</sup>学<sup>がく</sup>の<sup>い</sup>ご<sup>い</sup>予<sup>い</sup>定<sup>てい</sup>だ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>か<sup>い</sup>。<sup>い</sup>楽<sup>い</sup>し<sup>い</sup>み<sup>い</sup>に<sup>い</sup>待<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す<sup>い</sup>。<sup>い</sup>手<sup>い</sup>紙<sup>し</sup>)

接<sup>さんしよう</sup>続<sup>し</sup> ▶ 2) 参<sup>い</sup>照<sup>さう</sup>

▶ 1) 伝<sup>でん</sup>聞<sup>ぶん</sup>の<sup>い</sup>言<sup>い</sup>い<sup>い</sup>方<sup>ふ</sup>。<sup>い</sup>同<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>伝<sup>い</sup>聞<sup>ぶん</sup>の「～<sup>い</sup>そう<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>」やI・1「～<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>う<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>」  
よ<sup>い</sup>り<sup>い</sup>不<sup>い</sup>確<sup>ふ</sup>か<sup>たし</sup>な<sup>い</sup>気<sup>い</sup>持<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>が<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>り<sup>い</sup>、は<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>り<sup>い</sup>言<sup>い</sup>う<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>を<sup>い</sup>避<sup>い</sup>け<sup>い</sup>た<sup>い</sup>り<sup>い</sup>す<sup>い</sup>と<sup>い</sup>き<sup>い</sup>に<sup>い</sup>使<sup>い</sup>う<sup>い</sup>。<sup>い</sup>や<sup>い</sup>く<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>た<sup>い</sup>言<sup>い</sup>い<sup>い</sup>方<sup>ふ</sup>。

2) 多<sup>ば</sup>く<sup>あい</sup>の<sup>い</sup>場<sup>い</sup>合<sup>ふ</sup>は普<sup>いんよう</sup>通<sup>ぶ</sup>形<sup>ぶん</sup>に<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>が、引<sup>いんよう</sup>用<sup>ぶ</sup>す<sup>い</sup>る<sup>い</sup>部<sup>い</sup>分<sup>ぶん</sup>の<sup>い</sup>文<sup>いんよう</sup>末<sup>ぶ</sup>に<sup>い</sup>よ<sup>いんよう</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>そ<sup>いんよう</sup>の<sup>い</sup>ほ<sup>いんよう</sup>か<sup>い</sup>の<sup>い</sup>形<sup>かた</sup>に<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>く<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>も<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>る<sup>い</sup>。

26

II

すいりょう  
推量

★3

1 ～おそれがある

2 ～に<sup>ちが</sup>違いない

3 ～とみえて・～とみえる

★2

4 ～まい

5 ～ではあるまいか

6 ～かねない

7 ～に<sup>そう い</sup>相違ない

26

II・1

～おそれがある ★3

【～という<sup>しんぱい</sup>心配がある】①この薬は副作用の<sup>くすり ふくさよう</sup>おそれがあるので、<sup>いしゃ し じ したが の</sup>医者の指示に従って飲んでください。②昼ごろ、<sup>ひる ふう う つよ</sup>風雨が強まるおそれがありますので、<sup>がいしゅつ</sup>外出するときはお気をつけください。③この地震による津波の<sup>じしん つ なみ</sup>おそれはありません。④喫煙は、<sup>きつえん しんぞう びょう き き けんせい たか</sup>心臓の病気の危険性を高めるおそれがあります。接続 <sup>げんざいけい</sup>Vの現在形 / Nの＋おそれがある▶1) 「～という<sup>わる お か のうせい い</sup>悪いことが起こる可能性がある」と言いたいときに使う。2) ニュースや通知などでよく使われる<sup>つう ち つか かた ひょうげん</sup>硬い表現。

26

II・2

<sup>ちが</sup>～に違いない ★3

【きつと～と思う<sup>おも</sup>】

- ①何度<sup>なんど</sup>電話してもいない。リンさんは旅行<sup>りょこう</sup>にでも行っているに違いない。
- ②駅<sup>えき</sup>の前<sup>まえ</sup>にあんなに人<sup>ひと</sup>が集<sup>あつ</sup>まっているよ。何か事件<sup>じけん</sup>があつたに違いない。
- ③課<sup>か</sup>のみんなが知<sup>し</sup>らないということは、田中<sup>たなか</sup>さんがちゃんと報告<sup>ほうこく</sup>しなかったに違いない。
- ④あそこに止<sup>と</sup>まっているのは青山<sup>あおやま</sup>さんの車<sup>くるま</sup>に違いない。青い新車<sup>しんしゃ</sup>だって言っていたから。

接続 普通形（ナA・ナAである / N・Nである）＋に違いない

- ▶ 1) 「きつと～と思う<sup>おも</sup>」という話<sup>かた</sup>す人<sup>ひと</sup>の確信<sup>かくしん</sup>を述<sup>の</sup>べる推量<sup>すいりょう</sup>の表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>。「たぶん～だろう」より確信<sup>ていど</sup>の程<sup>つよ</sup>度<sup>ど</sup>が強い。
- 2) II・7 「～に相違<sup>そうい</sup>ない」より口語<sup>こうご</sup>的<sup>てき</sup>。

26 II・3 ～とみえて・～とみえる ★3

【～らしく / ～らしい】

- ①夜遅<sup>よるおそ</sup>く雨<sup>ふ</sup>が降<sup>ふ</sup>ったとみえて、庭<sup>にわ</sup>がぬれている。
- ②伊藤<sup>いとう</sup>君<sup>くん</sup>は社<sup>しゃ</sup>長<sup>ちょう</sup>に話<sup>わ</sup>があるとみえて、さっきから社<sup>しゃ</sup>長<sup>ちょう</sup>室<sup>しつ</sup>の前<sup>まえ</sup>を行<sup>い</sup>ったり来<sup>き</sup>たりしている。
- ③この子<sup>こ</sup>は絵<sup>え</sup>が好<sup>す</sup>きだとみえて、暇<sup>ひま</sup>さえあれば絵<sup>え</sup>をかいている。
- ④彼<sup>かれ</sup>の話<sup>わ</sup>を聞<sup>き</sup>いたところでは、彼<sup>かれ</sup>はこの計<sup>けい</sup>画<sup>かく</sup>に相<sup>そう</sup>当<sup>とう</sup>意<sup>い</sup>欲<sup>よく</sup>をもっているとみえる。

接続 普通形＋とみえて

- ▶ 1) 「～とみえて」の「～」で推量<sup>い</sup>することを言<sup>い</sup>い、後<sup>あと</sup>にその根拠<sup>こんきょ</sup>を述<sup>の</sup>べる

い かた  
言い方。

- 2) ④は、<sup>はじ</sup>初めに<sup>こんぎょ</sup>根拠を<sup>あと</sup>言い、<sup>かたち</sup>後にそこから<sup>かたち</sup>推量したことを述べる形である。

## 26 II・4 ～まい ★2 W

### 【～ないだろう】

- ①この事件は<sup>じ けん ふくざつ</sup>複雑だから、<sup>かんたん かいけつ</sup>そう簡単には解決するまい。
- ②この不<sup>ふ</sup>況<sup>きょう</sup>は<sup>しんこく</sup>深刻だから、<sup>あん い たいさく</sup>安易な<sup>けい き</sup>対策では<sup>そう き かいふく のぞ</sup>景気の早期回復は望めまい。
- ③それが<sup>ゆいいつ</sup>唯一の<sup>かいけつさく</sup>解決策ではあるまい。もっと別の<sup>かんてん</sup>観点から見たらどうか。
- ④この様子では<sup>よう す</sup>雨は<sup>ふ</sup>降るまいと思うけれど、<sup>いちおう</sup>一応かさを<sup>い</sup>持っていったらどうですか。

接続 Vる＋まい（動詞Ⅱ・Ⅲは「Vない＋まい」もある。「する」は「すまい」もある） イAく / ナAでは / Nでは＋あるまい

- ▶ 1) 話者の<sup>わしゃ</sup>「ある事柄が<sup>ことがら</sup>そうはならないだろう」という<sup>すいりょう</sup>推量<sup>あらわ</sup>を表す。現代でも使われる古い<sup>げんだい</sup>言い方。
- 2) 硬い<sup>かた</sup>書き<sup>こと</sup>言葉<sup>ば</sup>的<sup>てき</sup>な表<sup>ひょう</sup>現<sup>げん</sup>なので、話し言葉で文末に<sup>ぶんまつ</sup>使われることはあまりない。ただし、話し言葉でも、④のように文中の引用部分には<sup>ぶんちゅう いんよう ぶ ぶん</sup>現れることがある。
- 29課3「～まい」

## 26 II・5 ～ではあるまいか ★2 W

### 【～ではないだろうか】

- ①田中<sup>た なか</sup>さんはそう言うけれども、<sup>かなら</sup>必ずしもそうとは言いきれないのではあるまいか。

②水不足が続くと、今年も米の生産に影響が出るのではあるまいか  
と心配だ。

③不況、不況というが、これが普通の状態なのではあるまいか。

④部長が会社をやめたのは、重要な点で社長と意見が合わなかった  
ためではあるまいか。

接続 普通形の（ナA・ナAなの / N・Nなの）＋ではあるまいか

▶主に「～のではあるまいか」の形で文末に使い、話者が「～だろう」という  
推量を婉曲に言ったり、③④のように、聞き手や読み手に問いかける形で  
話者の主張を述べたりする言い方。現代でも使われる硬い表現。

## 26 II・6 ～かねない ★2

【～かもしれない】

①そんな乱暴な運転をしたら事故を起こしかねないよ。

②食事と睡眠だけはきちんととらないと、体を壊しかねません。

③最近のマスコミの過剰な報道は、無関係な人を傷つけることにも  
なりかねない。

④インフルエンザという病気はわからないことが多いので、政府が対  
策を誤ると大流行しかねない。

接続 V-ます＋かねない

▶話者が結果や成り行きを心配して、「～という悪い結果になる可能性や危険  
性がある」と言いたいときに使う。

## 26 II・7 ～に相違ない ★2 W

【間違いなく～と思う】

①不合格品ふ ごうかくひんがそれほど出たとは、製品せいひんの検査けんさがそうとう厳しいきびに相違ない。

②彼の言ったことは事実じじつに相違ないだろうとは思いますが、一応調べてみる必要ひつようがある。

③反対はんたいされてすぐ自分の意見いけんを引っ込めたところを見ると、彼女かのじょは初めから自分の意見に自信じしんがなかったに相違ない。

接続 普通形（ナA・ナAである / N・Nである）＋に相違ない

▶ 1) 「間違いなく～と思う」という話者わしゃの確信かくしんを述べる推量のの表現すいりょう ひょうげん。「たぶん～だろう」より確信ていどの程度が強い。

2) II・2 「～に違いない」より硬い言い方ちが かた。

## A

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3

1. 「リンさんは今週末には帰国したい { a. ということでした  
が、 b. そうでしたが、 } 切符が取れず、帰国を延期したそう  
ですよ」
2. 最近お体の調子<sup>さいきん からだ ちょうし</sup>があまりよくない { a. とのこと、 b. そう  
で、 } どうぞご自愛<sup>じあい</sup>ください。
3. 社長<sup>しゃちょう</sup>、お電話によると、井上<sup>いのうえ</sup>さんは3時には見える { a. に違<sup>ちが</sup>  
いありません。 b. とのことです。 }
4. お母さん、あしたは10cmぐらい雪<sup>ゆき</sup>が { a. 積<sup>つ</sup>もるそうだっ  
て。 b. 積もりそうだって。 } うれしいな、友だちと雪で遊<sup>あそ</sup>べ  
るね。
5. あしたもいい天気だ { a. とみえて、 b. とのことで、 } 西<sup>あそ</sup>の  
空<sup>そら</sup>が赤<sup>あか</sup>い。

## ★2

6. 最近の木村<sup>さいきん きむら</sup>さんの暗<sup>くら</sup>い顔<sup>かお</sup>を見ると、何か大きな問題<sup>かか</sup>を抱えている  
のでは { a. あるまい b. あるまいか } と気になる。
7. けさ、また電車の信号機<sup>しんごう き</sup>のトラブルが { a. あったとか。 b.  
ありかねない。 } 最近、多いね。
8. 「佐々木君<sup>さ さ き くん</sup>、このところ練習<sup>れんしゅう</sup>に来ないね」  
「佐々木? 彼<sup>かれ</sup>はもうこのチームには { a. 戻<sup>もど</sup>らないんじゃない

い?」 b. 戻らないのではあるまいか」}

9. 「店長、店員にそんな厳しいことを言ったら、すぐ { a. やめかねますよ」 b. やめかねませんよ」 }  
「だめなことはだめだよ」

## B ★3・★2

中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

答えは [こちら](#)

- a. とみえて b. とのこと c. かねない d. に違いがない  
e. というところ

4月は新しいことが始まる月だ。部長の話では、わが社も20人の新入社員を迎える(1. )、しばらくは落ち着かない日が続くだろう。古い社員たちも、それなりに緊張している(2. )、いつもとは違った表情だ。だれもが新しい年度がスタートする緊張感と新鮮さを感じている(3. )。話によると、会社も近々、新しいシステムを入れる(4. )だ。ぼくものんびりしていると、若いパワーに追い越され(5. )から、がんばろう。



## Emphasizing Feelings / Compulsion

强调某种感情，不得不做的事情或那时的感情

감정의 강조/피할 수 없는 심정과 행동

その感じが強い、自然にそう感じる、または、心理的にそうしないことは避けられないということを言いたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. たまらない b. ないわけにはいかない c. ならない d. ずにはいられない e. ざるをえない

1. 会には出席できないが、出席の返事をしてしまったので会費を払わ\_\_\_\_\_。
2. 電車の中で荷物を持ったお年寄りを見ると、祖母のことを思い出して席を立た\_\_\_\_\_。
3. この歌を聞くと、この歌をよく歌っていた友のことが思い出されて\_\_\_\_\_。
4. 今日は朝から歯が痛くて\_\_\_\_\_。ぜんぜん勉強ができない。
5. 保証人の海外転勤が決まったので、これからはほかの方をお願いせ\_\_\_\_\_。

つか

## 使えますか

---

どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. このゲームは { a. 楽しくてたまらない。 b. 高くてたまらない。 }
2. タノムさんの冗談には、田中さんも { a. 笑わないではいられない。 b. 笑わないではいられないようだ。 }
3. 大切な会議だから { a. 出席しないわけにはいかない。 b. 出席するわけにはいかない。 }
4. 田中さんの表情を見ていると、 { a. うそをついているように思えてならない。 b. うそをついているように思えてたまらない。 }
5. { a. ハナ子は朝から寒気がしてならない。 b. 寒気がしてならない。 } 風邪をひきそうだ。

27

## しんじょう きょうちょう さ 心情の強 調・こうどう 避けられない心情や行動

かん つよ し ぜん い  
 そのような感じが強い、自然にそう感じるということを言いたい  
 とき

そと ちから しん り てき  
 外からの強い力があって、心理的にそうしないことは避けられな  
 いと言いたいとき

★3

1 ～てしかたがない・～てしょうがない

2 ～てたまらない

3 ～ないわけにはいかない

★2

4 ～てならない

5 ～ないではいられない・～ずにはいられない

6 ～ざるをえない

★1

7 ～てやまない

8 ～かぎりだ

9 ～といたらない・～といたらありはしない

10 ～ないではすまない・～ずにはすまない

11 ～ないではおかない・～ずにはおかない

12 ～をよ ぎ余儀なくされる・～を余儀なくさせる

27

1 ～てしかたがない・～てしょうがない ★3

ひ じょう  
 【非 常に～だ】

けっこん め  
 ①結婚10年目でやっと子どもが生まれたので、うれしくてしかたがあ  
りません。

め か  
 ②めがねをか変えたからか、このごろ目がつか疲れててしかたがない。

③どうして大川<sup>おおかわ</sup>さんがとつぜんテニス部<sup>ぶ</sup>をやめたのか、わたしは気になってしかたがない。

④姉<sup>あね</sup>はいつも「かわいそうな小<sup>しょう</sup>説<sup>せつ</sup>を<sup>な</sup>読むと泣<sup>な</sup>けてしょうがない」と言<sup>い</sup>っている。

⑤あき子<sup>こ</sup>は「数学<sup>すうがく</sup>の勉<sup>べん</sup>強<sup>きょう</sup>がいやでしょうがない」と言<sup>い</sup>っている。

**接続** Vて / イAくて / ナAで＋しかたがない

▶ 1) ある感情<sup>かんじょう</sup>や体<sup>からだ</sup>の感覚<sup>かんかく</sup>が起<sup>お</sup>こってその状<sup>じょう</sup>態<sup>たい</sup>が強<sup>つよ</sup>くて抑<sup>おさ</sup>えられないという  
とき<sup>つか</sup>に使う。④のように「思<sup>おも</sup>える・泣<sup>な</sup>ける」などの自<sup>じ</sup>発<sup>はつ</sup>を表<sup>あらわ</sup>す動<sup>どう</sup>詞<sup>し</sup>とと  
もに使うことが多い。

2) 話<sup>よつきゅう</sup>す人<sup>あらわ</sup>の感情<sup>い</sup>・体<sup>かた</sup>の感覚<sup>にんしょう</sup>・欲<sup>ぶんまつ</sup>求<sup>ひつよう</sup>などを表<sup>あらわ</sup>す言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>であるから、3人<sup>にん</sup>称<sup>しょう</sup>に  
使うときは文<sup>ぶん</sup>末<sup>まつ</sup>に「～よう<sup>よう</sup>だ・～らし<sup>らし</sup>い・～の<sup>の</sup>だ」などをつける必要<sup>ひつよう</sup>があ  
る。小<sup>しょう</sup>説<sup>がい</sup>などは例<sup>れい</sup>外<sup>がい</sup>である。

3) 「～てしょうがない」は話<sup>ことば</sup>し言<sup>い</sup>葉<sup>は</sup>。

## 27 2 ～てたまらない ★3

【非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>に～ / がま<sup>ま</sup>んでき<sup>き</sup>ないほ<sup>ほ</sup>ど～】

①このごろよく寝<sup>ね</sup>ていないので、昼<sup>ひる</sup>間<sup>ま</sup>でも眠<sup>ねむ</sup>くてたまらない。

②今<sup>いま</sup>、妹<sup>いもうと</sup>はク<sup>かつ</sup>ラ<sup>どう</sup>ブ活<sup>たの</sup>動<sup>の</sup>が楽<sup>たの</sup>しくてたまらないよう<sup>よう</sup>だ。

③高<sup>こう</sup>等<sup>とう</sup>学<sup>がっこう</sup>校<sup>こう</sup>を卒<sup>そつ</sup>業<sup>ぎょう</sup>したとき<sup>とき</sup>には、大<sup>と</sup>きな都<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>の学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>に行<sup>い</sup>きたくてたま  
らなかつた。

④昼<sup>ひる</sup>ご飯<sup>はん</sup>にからいもの<sup>もの</sup>を食<sup>く</sup>べたので、のど<sup>のど</sup>が渴<sup>かわ</sup>いてたま  
らず、水<sup>みづ</sup>ばかり飲<sup>の</sup>んでい<sup>い</sup>る。

**接続** Vて / イAくて / ナAで＋たまらない

▶ 1) ある感情<sup>かんじょう</sup>や体<sup>からだ</sup>の感覚<sup>かんかく</sup>が起<sup>お</sup>こってその状<sup>じょう</sup>態<sup>たい</sup>が強<sup>つよ</sup>くて抑<sup>おさ</sup>えられないという

つか  
ときに使う。

2) 1 「～てしかたがない」の▶2)を参照。<sup>さんしょう</sup>

3) 自発を表す言葉「<sup>じ はつ あらわ こと ば おも な</sup>思える・泣ける」などといっしょには使えない。

~~×~~<sup>びょう き</sup>病気の母のことを思うと泣けてたまらない。

○病気の母のことを思うと泣けてならない。

○病気の母のことを思うと泣けてしょうがない。

## 27 3 ～ないわけにはいかない ★3

【～しないことは避けられない / どうしても～する必要がある】<sup>さ ひつよう</sup>

①<sup>た なか さくねん なん ど たの りゅうがくせいかい やくいん</sup>田中さんに昨年から何度も頼まれているから、留学生会の役員を  
<sup>ひ う</sup>引き受けないわけにはいかない。

②<sup>あす はっぴょう こん や さそ ことわ</sup>明日はわたしが発表をする。今夜は友だちに誘われたが、断って  
<sup>じゅん び</sup>明日の準備をしないわけにはいかない。

③<sup>かいしゃ く び</sup>父にはわたしが会社を首になったことを話さないわけにはいかな  
かった。

接続 Vない＋わけにはいかない

▶<sup>しん り て き しゃかいてき にんげんかんけい じ じょう さ</sup>心理的・社会的・人間関係などの事情で「それをしないことは避けられな  
<sup>い</sup>い」または「～しなければならない」と言いたいときに使う。<sup>つか じ じょう せつめい</sup>事情を説明  
<sup>ば あい</sup>する場合によく使う。

## 27 4 ～てならない ★2

<sup>おさ</sup>【抑えられないほど～】

①<sup>いっしょうけんめい れんしゅう けんたいかい し あい こうとうがっ</sup>夏休みの間一生懸命に練習したのに、県大会の試合で、A高等学  
<sup>こう ま く や</sup>校に負けてしまい、悔しくてなりません。

②役所が税金のむだ遣いをしている話を聞くと、腹が立ってならない。

③長男が勉強もしないでぶらぶらしているので、心配でならない。

④学校でいじめられて自殺した子どものことをテレビで聞くと、かわいそうで泣けてならない。

**接続** Vて / イAくて / ナAで＋ならない

▶ 1) 自然にある感情や体の感覚が起こってきて抑えられないというときに使う。

2) 1「～てしかたがない」の▶ 2) を参照。

3) ④のように自発を表す言葉「思える・思い出される・泣ける」などともに使って、気持ちを表すことが多い。

## 27 5 ～ないではいけない・～ずにはいけない ★2

【どうしても～しないでいることはできない】

①この店のカレーはとてもからい。ちょっと食べたら、水を飲まないではいけない。

②虫に刺されたところがかゆくて、かかないではいけない。

③中学生がだまされているところを見たので、何か言わないではいられなかった。

④津波の被災者のニュースを見ると、早く復興が進むようにと願わずにはいられません。

⑤うちの子は保育園に行くと、家であったことをなんでも話さずにはいられないようだ。

**接続** Vない＋ではいけない      V~~ない~~＋ずにはいけない（例外  
しない→せずにはいけない）

- ▶ 1) 身体的に<sup>しんたいてき</sup>がまんができない<sup>ばあい</sup>場合や、ものごとの様子<sup>ようす</sup>や事情<sup>じじょう</sup>を見て、話者<sup>わ</sup>の心<sup>しん</sup>の中で「～したい」という気持ち<sup>お</sup>が起こって意志<sup>いし</sup>の力<sup>ちから</sup>では抑えられない<sup>おさ</sup>というときに使う。
- 2) 1「～てしかたがない」の▶ 2) を参照。

## 27 6 ～ざるをえない ★2

【どうしても～しないことは避け<sup>さ</sup>られない / どうしても～する<sup>ひつよう</sup>必要がある / ～しなければならない】

- ①物理<sup>ぶつり</sup>は好き<sup>す</sup>ではないが、必修<sup>ひっしゅう</sup>だから取ら<sup>と</sup>ざるをえない。
- ②仕事<sup>とちゅう</sup>を途<sup>と</sup>中でやめるのは無責任<sup>むせきにん</sup>だと言わ<sup>い</sup>ざるをえない。
- ③京<sup>きょう</sup>都<sup>と</sup>でとてもいい茶<sup>ちや</sup>わんを見つけたが、値段<sup>ねだん</sup>が高かったのであきらめ<sup>あきら</sup>ざるをえなかった。
- ④富士山<sup>ふじさん</sup>の途<sup>と</sup>中<sup>ちゅう</sup>まで登<sup>のぼ</sup>った。しかし、強い<sup>つうう</sup>風雨<sup>ふうう</sup>のため<sup>ため</sup>に引き返<sup>ひ</sup>さ<sup>かえ</sup>ざるをえなかった。

接続 Vない+ざるをえない (例外 <sup>れいがい</sup> しない→せざるをえない)

- ▶ 「～したくはないが、避け<sup>さ</sup>られない事情<sup>じじょう</sup>があるのでしかたなく～する」と言うときに使う。やや古い、硬い<sup>かた</sup>言い方<sup>い</sup>。「～ないわけにはいかない」に近いが、「しかたなく」という<sup>かん</sup>感じがもっと強い。

## 27 7 ～てやまない ★1 W

【心<sup>こころ</sup>から～ている】

- ①お大事<sup>だいじ</sup>に。1日も早く元氣<sup>げんき</sup>になることを祈<sup>いの</sup>ってやみません。(手紙)
- ②世界<sup>せかい</sup>から核兵器<sup>かくへいき</sup>がなくなることを願<sup>ねが</sup>ってやみません。

③わたしが尊敬してやまない山川先生が賞を受けられた。

接続 Vて＋やまない

▶ 1) 「祈る・願う・愛する・尊敬する」などの感情を表す動詞について、「その感情が強く続いている」と言いたいときに使う。

2) 1 「～てしかたがない」の▶ 2) を参照。

## 27 8 ～かぎりだ ★1

【最高に～だと感じる】

①A氏は頭脳明晰で才能もあり、その上体力にも恵まれている。うらやましいかぎりだ。

②メールの添付をまた忘れてしまいました。お恥ずかしいかぎりです。

③彼が問題の解決に向かって自ら1歩踏み出したことは、喜ばしいかぎりである。

④アフリカまで出かけて行ったが、目的が達成できずに帰国しなければならなかったことは残念なかぎりだ。

接続 イAい / ナAな＋かぎりだ

▶ 1) 「現在、自分が非常にそう感じている」という心の状態を表す。感情を表す言葉に接続することが多い。

2) 1 「～てしかたがない」の▶ 2) を参照。

## 27 9 ～といたらない・～といたらありはしない ★1

【口では表現できないほど～と思う / 非常に～だ】

①工場での作業は毎日同じことの繰り返しだ。その退屈さといたら



ない。

②外国の町を初めて歩いたときの興奮といったらなかった。自分が映画の中の1人になったような気がした。

③ドリアンという果物ののにおいといったらない。好きな人にもきらいな人にもたまらない。

④となりの人は1日中大きな声で歌っている。うるさいといったらありはしない。

⑤この食堂のラーメンのまずさったらない。

接続 イAい / N+といたらない

▶1) 「～といたらない」の形で、「～」の程度が極端だと言いたいときに使う。プラス評価でもマイナス評価でも使える。

2) 例文④⑤の「～といたらありはしない」と「～ったらない」はほとんど同じ意味だが、マイナス評価にだけ使う。またどちらもくだけた話し言葉である。

## 27 10 ～ないではすまない・～ずにはすまない ★1 W

【必ず～しなければならない】

①よそのうちの高価なものを壊してしまったのだ。弁償しないではすまない。

②今回のA大臣の失言の影響は大きい。辞職せずにはすまないだろう。

③宮沢先生にはあんなにお世話になったのだから、1度お礼に行かないではすまない。

接続 Vない+ではすまない Vない+ずにはすまない (例外 し  
ない→せずにはすまない)

▶その時の状 況・社会的ルールを考えると「<sup>ゆる</sup>そうしないことは許されない・<sup>かた ひょう</sup>そうしなければすまない・自分の気持ちからそうする」という言い方。硬い表 現。

**27 11** ～ないではおかない・～ずにはおかない **A**

★1 **W**

【<sup>かなら</sup>必ずそのようなことが<sup>ひ</sup>引き起こされる】

- ①この女性<sup>じょせい</sup>の一生<sup>えが</sup>を描いた映画は、見る人の心を動かさないではおかない。
- ②この実話<sup>じつ わ</sup>にもとづいた小 説<sup>しょうせつ</sup>は読む人に感動<sup>かんだう</sup>を<sup>あた</sup>与えずにはおかない。
- ③この不衛生<sup>ふ えいせい</sup>な環 境<sup>かんきょう</sup>は子どもたちの健康<sup>けんこう</sup>に悪い影 響<sup>えいきょう</sup>を<sup>およ</sup>及ぼさずにはおかないだろう。

接続 Vない+ではおかない Vない+ずにはおかない（例外 <sup>れいがい</sup>し  
ない→せずにはおかない）

▶「必ずそのようなことが引き起こされる」という意味。気持ちを表す言葉と<sup>あらわ</sup>ともに使って、自然<sup>しぜん</sup>にそのような気持ちになると言うことが多い。

**27 11** ～ないではおかない・～ずにはおかない **B ★1**

【<sup>かならず</sup>～する】

- ①試合中相手チームに少しのすきでもあれば、わがチームはそこを攻<sup>せ</sup>めずにはおかない。
- ②警察<sup>けいさつ</sup>は機内<sup>きない</sup>に危険物<sup>きけんぶつ</sup>を持ち込む人は逮捕<sup>たいほ</sup>しないではおかないと、決<sup>けつ</sup>意<sup>い</sup>を語った。
- ③本校<sup>ほんこう</sup>においては、試験<sup>さい</sup>の際に不正<sup>ばっ</sup>をする学生は罰<sup>ばつ</sup>さないではおかない。

い。

接続 Aと同じ

- ▶「～しないでおくということは許さない・かならず～する」という話者の強い気持ち・意欲・方針があるときの言い方。

**27 12** ～を余儀なくされる・～を余儀なくさせる ★1 W

【しかたなく～される・させる】

- ①地震で被災した人々は余震の危険があるので家にもどることはできず、狭い車の中での生活を余儀なくされた。
- ②この国では高福祉を支えるために、人々は高い税金の負担を余儀なくされている。
- ③一郎は歌手志望だったが、父の死が彼に家業の店を継ぐことを余儀なくさせた。

接続 N＋を余儀なくされる

- ▶1) 本人の力ではどうすることもできない強制力のため「しかたなくそうしなければならない」と言う言い方。行為を表す名詞につく。
- 2) 「～余儀なくされる」と「～余儀なくさせる」とは立場が反対になる。

## 27

しんじょう きょうちょう さ

こうどう

れんしゅう  
練習

## 心情の強調・避けられない心情や行動

## A

□の中の言葉を使って、\_\_\_\_の部分を使い換えなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. てたまりません b. てなりません c. ざるをえません

1. 彼が何か悩んでいるような気がとても強くします。
2. まだ体調がよくないのですが、人手が足りないので今日からどうしても出勤しなければなりません。
3. このごろ国のことが思い出されてとても寂しいです。

## ★2・★1

a. ないわけにはいきません b. ないではいられない c. てやみません d. ないではおかしい

4. わたしは細かいことをどうしても確かめないでいることはできない性格なのです。
5. これは高い本ですが、仕事にどうしても必要だから買わなければなりません。
6. 今度あいつに会ったら、ひとこと必ず謝らせるぞ。
7. 1日も早く被災地が復興することを心から願っています。

## ★1

a. かぎりだ    b. を余儀なくされた    c. といっただらない    d. ないではすまない

8. 失礼なことを言ってしまったのだから、おわびしないですませることはできないと思う。
9. クラスのヤンさんのスピーチのうまさは本当にすごい。ほんとうにうらやましい。
10. 父は働きすぎて体を壊し、しかたなく退職した。


**B ★3・★2・★1**

の中の文の  に入る最もよいものを選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 早く    帰宅した。
- a. たまらなかった    b. ビデオが    c. 急いで    d. 見たくて
2. あの人は    ならない。
- a. どうも    b. うそをついている    c. という    d. 気がして
3. ひとこと    気持ちがおさまるかな。
- a. どうすれば    b. いられない    c. 言わないでは    d. ときは
4. 大統領が撃たれたと    なかった。
- a. いったら    b. 聞いた    c. 驚きと    d. ときの
5. 今日はこの書類を    んです。
- a. どうしても    b. わけには    c. 書き上げない    d. いかない
6. 一人暮らしの高齢者に    ではいけないと思う。

a. 政治<sup>せいじ</sup>    b. 生活<sup>せいかつ</sup>を    c. 余儀<sup>よぎ</sup>なくさせる    d. 不自由<sup>ふじゆう</sup>な

7. 彼<sup>かれ</sup>は    \_\_\_\_\_    \_\_\_\_\_        \_\_\_\_\_    名手だ。

a. 人を    b. 演説<sup>えんぜつ</sup>の    c. おかない    d. 感動<sup>かんどう</sup>させないでは

Invitations / Advice / Warnings / Prohibitions

邀请, 建议, 提醒, 禁止

권유/추천/주의/금지

あいて　　ようきゅう  
相手を誘ったり、勧めたり、要求などをしたりしたいときは、どんな言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. こと　b. ことはない　c. べきだ　d. ものではない　e. ことだ

1. 集 合時間: 午前 8 時30分。遅れない\_\_\_\_。(お知らせ)
2. 電車の中で騒いでいる子どもがいたら、ちょっと注意する\_\_\_\_  
と思う。
3. ほかの人が何を言っても気にしない\_\_\_\_よ。
4. ほかの人のいる前で携帯で大きな声で話す\_\_\_\_。
5. このプリントは 1 部あれば十分だ。コピーを取る\_\_\_\_。

つか  
使えますか

ただ　　ほう　　えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 先生、この言葉<sup>ことば</sup>について { a. もう1度説明<sup>ど せつめい</sup>していただきたいのですが。 b. もう1度説明することですよ。 }
2. 年上の人にはていねいな言葉を { a. 使<sup>つか</sup>わないものではない。 b. 使うものだ。 }
3. 大型バイク<sup>おおがた</sup>に乗<sup>の</sup>るには、 { a. 免許<sup>めんきょ</sup>を取<sup>と</sup>るべきだ。 b. 免許を取らなければならない。 }
4. 何もそんな小<sup>な</sup>さいことで { a. 泣<sup>な</sup>くことはないでしょう。 b. 泣くことではないでしょう。 }
5. さあみんな、この案<sup>あん</sup>をすぐに { a. 実行<sup>じっこう</sup>しようではないか。 b. 実行するのではないか。 }



28

さそ すす ちゅう い きん し  
誘い・勧め・注意・禁止あいて ようきゅう  
相手を誘ったり、勧めたり、要求などをしたりしたいとき

★3

1 ～こと

2 ～ことはない

3 ～べき・～べきだ・～べきではない

★2

4 ～ものだ・～ものではない

5 ～ようではないか

6 ～てもさしつかえない

7 ～ことだ

★1

8 ～べからず・～べからざる

28

1 ～こと

★3

W

【～しなさい】

しゅくだい さくぶん き むら  
①宿題の作文は5日までに木村先生に出すこと。としょつ かえ  
②図書室の本はかならず返すこと。し けん け わす  
③試験の日は消しゴムを忘れないこと。た まちえき かいさつぐち しゅうごう  
④11月17日（火）12時にJR田町駅の改札口前に集 合のこと。どうし  
接続 Vる・Vない / する動詞のNの＋ことだんたい し じ きそく  
▶1) 学校、団体などで「～しなさい・～してはいけない」と指示や規則など  
つた ひょうげん  
を書いて伝えるときの表現。こくばん はい ふ よう  
2) 黒板や配布用プリントなどに書いたり、口で伝えたりすることもある。

## 28 2 ～ことはない ★3

【～する<sup>ひつよう</sup>必要はない / ～しない<sup>ほう</sup>方がいい】

- ①天気予報<sup>よ ほう</sup>は晴<sup>は</sup>れだから、今日<sup>けふ</sup>はか<sup>も</sup>さを持<sup>も</sup>っていくことはないな。
- ②試験<sup>し けん</sup>は簡<sup>かん</sup>単<sup>たん</sup>な質<sup>しつ</sup>問<sup>もん</sup>だけだから、心<sup>しん</sup>配<sup>ぱい</sup>することはありません。
- ③た<sup>た</sup>った1回<sup>かい し</sup>試<sup>あい</sup>合<sup>ま</sup>に負<sup>ま</sup>けただけで、な<sup>な</sup>にもテニ<sup>ぶ</sup>ス部<sup>ぶ</sup>をやめ<sup>や</sup>めることはあ  
りませんよ。
- ④イン<sup>ち</sup>ター<sup>ず</sup>ネッ<sup>し</sup>トでレ<sup>し</sup>ス<sup>ら</sup>トランの地<sup>ち</sup>図<sup>ず</sup>や行<sup>し</sup>き方<sup>ら</sup>を調<sup>しら</sup>べることもできる  
んだから、わ<sup>ち</sup>ざ<sup>ず</sup>わ<sup>ず</sup>ざ地<sup>ち</sup>図<sup>ず</sup>を郵<sup>ゆう</sup>便<sup>びん</sup>で送<sup>おく</sup>ることはないよ。

接続 Vる＋ことはない

- ▶そう<sup>ほう</sup>しな<sup>じょげん</sup>くてもい<sup>ちゅうこく</sup>い・そ<sup>い</sup>んなこ<sup>かた</sup>とはし<sup>い</sup>ない方<sup>かた</sup>が<sup>い</sup>い<sup>い</sup>と助<sup>じょ</sup>言<sup>げん</sup>をし<sup>し</sup>たり、忠<sup>ちゅう</sup>告<sup>こく</sup>を  
し<sup>し</sup>たりする言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>である。「な<sup>な</sup>にも～こ<sup>こ</sup>とはない・わ<sup>わ</sup>ざ<sup>ざ</sup>わ<sup>ざ</sup>～こ<sup>こ</sup>とはない」  
の形<sup>かたち</sup>でよく使<sup>つか</sup>う。

## 28 3 ～べき・～べきだ・～べきではない ★3

【～した<sup>ほう</sup>方がいい / ～しない<sup>ほう</sup>方がいい】

- ①わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>しは彼<sup>かの</sup>女<sup>じょ</sup>に言<sup>い</sup>うべきこ<sup>こ</sup>を全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>言<sup>い</sup>った。
- ②み<sup>き</sup>ん<sup>き</sup>なで決<sup>き</sup>めた約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>はみ<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>なで守<sup>まも</sup>るべきだ。
- ③だ<sup>だ</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>れてお金<sup>と</sup>を取<sup>と</sup>られ<sup>ら</sup>れたん<sup>ん</sup>です<sup>す</sup>か？ そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>は、す<sup>す</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>に警<sup>けい</sup>察<sup>さつ</sup>に届<sup>とど</sup>けるべきですよ。
- ④お<sup>お</sup>年<sup>とし</sup>寄<sup>よ</sup>りに対<sup>たい</sup>して子<sup>こ</sup>どもに話<sup>わ</sup>すよ<sup>う</sup>な言<sup>こと</sup>葉<sup>ば</sup>で話<sup>わ</sup>すべきではない。

接続 Vる＋べきだ（「する」は「すべきだ」もある）

- ▶1) 話<sup>にんげん</sup>す人<sup>が</sup>が「～する<sup>ぎ</sup>のが、また<sup>む</sup>は～し<sup>しゅ</sup>ない<sup>しゅ</sup>のが人<sup>にんげん</sup>間<sup>が</sup>としての義<sup>ぎ</sup>務<sup>む</sup>だ」と主<sup>しゅ</sup>

ちょう ちゅうこく ひょうげん  
張したり、忠告したりしたいときの表現。

2) 規則や法律で決まっている場合は「～べきだ」は使わず「～なければ  
ならない」を使う。

× <sup>かいがいりょこう</sup>海外旅行に行くときはパスポートを持って行くべきだ。

## 28 4 ～ものだ・～ものではない ★2

【～するのが当然だ / ～しないのが当然だ】

①会社や会への手紙のあて名には「様」でなく「御中」と書くもの  
だ。

②良識ある人は通勤電車の中で化粧などしないものだ。

③もう9時だ。早く起きなさい。休みの日でも9時までには起きるも  
んだ。

④エレベーターの中で人の悪口など言うものではない。

⑤年下の人や弱い人のことをからかうもんじゃないよ。

接続 Vる・Vない＋ものだ Vる＋ものではない

▶ 1) 個人の意見ではなく、<sup>どうとくてき</sup>道徳的・<sup>じょうしき</sup>社会的な常識について「～するのが常識  
ですよ・～しないのが常識ですよ」と説教するときの表現。

2) 話し言葉では③⑤のように「～もんだ・～もんじゃない」となることが  
多い。

→ 30課3 「～もんだ」 / 30課4 「～もんだ」

## 28 5 ～ようではないか ★2

【～しよう】

①成功するかどうかわからないが、とにかくやってみようではない  
か。

②携帯に使う時間を減らして、もっと本を読もうではないか。

③おやつ代をみんなで出し合うというのはいいい考えですね。早速、今月から始めようではありませんか。

④新しい車を買う前に、まずうちには車が本当に必要かどうか話し合おうじゃないか。

接続 Vよう十ではないか

▶「いっしょにしよう」と誘いかける言い方。主として男性が使うやや硬い言葉。女性が使う場合は③のように「～ようではありませんか」という形が多い。

## 28 6 ～てもさしつかえない ★2

【～ても問題ない】

①「明日の朝、用があるんですが、9時までに来なくてもさしつかえないでしょうか」  
「ええ、いいですよ」

②看護師（予防注射をした後）「今晚、お風呂に入ってもさしつかえないですよ」

③推薦書は入学願書の締め切り日より2、3日遅れてもさしつかえありません。

④履歴書はコピーでもさしつかえありません。

接続 Vても / イAくても / ナAでも / Nでも十さしつかえない

▶1) 「～ても・～でも」で表される条件でもかまわない、と言いたいときに使う。

2) 「～てもいい・～てもかまわまい」とだいたい同じ意味だが「～てもさしつかえない」の方が消極的な許可・消極的な譲歩、または遠慮した言い方である。

## 28 7 ～ことだ ★2

### 【～しなさい】

- ①なに<sup>しつぱい</sup>ごとも失敗<sup>おそ</sup>を恐れずにやってみることだ。
- ②車を運転するときは、絶対<sup>ぜったい</sup>にお酒<sup>さけ</sup>を飲んではいけません。誘<sup>さそ</sup>われても飲まないことです。
- ③書く力<sup>にっ き</sup>をつけたいのなら、毎日、日記<sup>にっ き</sup>をつけることだ。

### 接続 Vる・Vない＋ことだ

- ▶上の人が下の人に「～した方がいい・～しない方がいい」と、個人<sup>こじん</sup>の意見や判断<sup>はんだん</sup>を忠告<sup>ちゅうこう</sup>として言う言い方<sup>め うえ</sup>。目上<sup>め うえ</sup>の人に対しては使わない。  
→30課6「～ことだ」

## 28 8 ～べからず・～べからざる ★1 W

### 【～してはいけない】

- ①昔<sup>むかし</sup>はここに「ここで泳ぐべからず」と書いた立て札<sup>た ふだ</sup>があった。
- ②「用のない者、この部屋<sup>へ や</sup>に入るべからず」（張り紙<sup>は がみ</sup>）
- ③前田<sup>まえ だ</sup>さんのようなバランス感覚<sup>かんかく</sup>のある人はこの会<sup>かい</sup>にとって欠くべからざる存在だ。

### 接続 Vる＋べからず Vる＋べからざる＋N

- ▶「～してはいけない・～ことはできない」という意味の古い書き言葉<sup>ことば</sup>である。現在<sup>げんざい</sup>ではあまり見<sup>み</sup>かけないが、掲示板<sup>けいじばん</sup>・立て札<sup>た ふだ</sup>などに書<sup>か</sup>かれていることがある。③の「欠くべからざる」は「欠くことができない」つまり「大切な」という意味になる。

## A ★3・★2

( ) の中の動詞を適当な形にして\_\_\_\_に入れなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 君、人生の先輩の言うことにはもう少し耳を\_\_\_\_ものだよ。(きみ　せんぱい　い　すこ　みみ　かたむ　傾ける)
2. 国民のみなさん、今こそわが国を\_\_\_\_ではありませんか。(こくみん　た　た　なお　直す)
3. 薬の飲み忘れをすることがあります。1日ぐらい\_\_\_\_さしつかえありませんよね。(飲む) (くすり　の　わす)
4. 命が惜しかったら決してスピードを\_\_\_\_ことですね。(出す) (いのち　お　けっ)
5. (立て札) ここで釣りを\_\_\_\_べからず。(する) (た　ふだ　つ)

## B

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

- a. ことはない　b. ものではない　c. べきではない　d. こと　e. べきだ

1. 「このごろ忙しくて、なかなか家族といっしょに食事ができないんですよ」  
「そうですか。わたしも同じなんですよ。でも、こういう仕事(しごと)が第一(だいいち)という生活(せいかつ)を見直す(みなお) (1. ) と思っています。仕事(しごと)のため

に自分の大切なものを捨てる（2. ）と思います」

2. （図書室でおしゃべりをしている子どもたちに）

「図書室では静かにする（3. ）」って書いてあるだろう。おしゃべりする（4. ）よ」

3. 「A駅へ行きたいんですが、B駅で急行に乗り換えた方がいいでしょうか」

「お急ぎでなければ、乗り換える（5. ）ですよ。たった2分の違いですから」

★2・★1

f. ことです g. さしつかえない h. べからず i. じゃありませんか j. ものではない

4. 「すみません。代金は明日でも（6. ）ですか」

「はい。申し込みは今日までですが、代金は今日でなくてもいいですよ」

5. 「最近、みんな自分の仕事が忙しくてお互いに連絡が不十分なことがよくありますね」

「そうですね。朝、仕事を始める前に簡単なミーティングの時間があるといいんじゃないでしょうか」

「それはいい。課長に提案してみよう（7. ）」

6. 「先生、わたし、大学に入ったのに、新しい友だちができなくて……」

「友だちを増やすには、専攻の同じ人とだけ付き合うのではなく、部やサークルに入って違う学部の人とも話してみる（8. ）よ」

7. 「おじさん、これ、何という意味」

「『ここに駐車する（9. ）』か。車を止めてはいけないって

いう意味だよ」

8. 自分が悪いと思ったらまず謝<sup>あやま</sup>るべきだ。言<sup>い</sup>訳<sup>わけ</sup>をいろいろと並<sup>なら</sup>べる（**10.**     ）。



Assertion / Assertive Evaluation

主张，判断性的评价

주장/단정적 평가

き も こ  
気持ちを込めて主張するときや断定的に評価するときは、どんな言  
かた  
い  
方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. にきまっている b. しかない c. にほかならない d. に  
すぎない e. にこしたことはない

1. こんなに無理をしたら病気になる\_\_\_\_。

2. 試験の当日は早めに家を出る\_\_\_\_。

3. わたしの論文は、論文というよりレポートという程度のも  
の\_\_\_\_。

4. あした手術をする。今はもう神に祈る\_\_\_\_。

5. 彼がふるさとの方言を話し続けるのは、ふるさとへの深い愛着  
\_\_\_\_。

つか  
使えますか

ただ ほう えら  
どちらが正しいですか。正しい方を選びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. あの時は病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>だったのだから、{ a. 仕事<sup>しごと</sup>を減<sup>へ</sup>らすしかなかった。 b. 仕事をしないしかなかった。 }
2. { a. もうたばこはやめるまいと決<sup>けっ</sup>心<sup>しん</sup>したが、 b. もうたばこは吸<sup>す</sup>うまいと決<sup>けっ</sup>心<sup>しん</sup>したが、 } やっぱり吸<sup>す</sup>ってしまう。
3. 大人になるということは、{ a. 親<sup>おや</sup>からの独<sup>ど</sup>立<sup>くりつ</sup>にほかならない。 b. 親<sup>おや</sup>から独<sup>ど</sup>立<sup>くりつ</sup>するにほかならない。 }
4. この文の本<sup>ぶん</sup>当<sup>ほん</sup>の意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>がわかった人は、{ a. ほんの数<sup>すう</sup>人<sup>にん</sup>にすぎなかった。 b. 10人中8、9人にすぎなかった。 }
5. たくさん働<sup>はたら</sup>いた人の方が給<sup>ほう</sup>料<sup>きゅうりょう</sup>が少<sup>すく</sup>ない。{ a. これでは不<sup>ふ</sup>公<sup>こう</sup>平<sup>へい</sup>ということだ。 b. これでは不<sup>ふ</sup>公<sup>こう</sup>平<sup>へい</sup>というものだ。 }

## 29

しゅちょう だんていてきひょう か

## 主張・断定的 評価

きもちを込めて主張するとき・断定的に評価するとき

★3

1 ～にきまっている

2 ～しかない・～（より）ほか（は）ない・～ほか（しかたが）ない

★2

3 ～まい

4 ～にほかならない

5 ～にすぎない

6 ～というものだ

7 ～にこしたことはない

★1

8 ～までだ・～までのことだ

9 ～ばそれまでだ

10 ～に（は）<sup>あ</sup>当たらない

## 29

## 1 ～にきまっている ★3

【きっと～だ / 必ず～だ】

①妻「夕飯はゆり子<sup>こ</sup>が作<sup>つく</sup>ってくれるそうよ。大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>かな」

夫「料理<sup>りょうり</sup>好き<sup>ず</sup>なゆり子<sup>こ</sup>が作るんだからおいしいにきまっているよ。楽しみだね」

②試合<sup>しあい</sup>ではAチームが勝<sup>か</sup>つにきまっていますよ。日ごろの練習<sup>れんしゅうりょう</sup>量がすごいんですから。

③そんな暗<sup>くら</sup>いところで本を読<sup>よ</sup>んだら目に悪<sup>わる</sup>いにきまっている。

④今週中に30枚のレポートを書くな<sup>まい</sup>んて無理<sup>むり</sup>にきまっています。

**接続** 普通形（ナA・ナAである / N・Nである）＋にきまっている

▶話す人が断定したいほど確信<sup>かくしん</sup>をもっている推量<sup>すいりょう</sup>、または話す人の主張<sup>しゅちょう</sup>を表す。

**29** 2 ～しかない・～（より）ほか（は）ない・～ほか（しかたが）ない ★3

【～以外に方法はない】

①1度決心したら最後までやるしかない。

②この事故の責任はこちら側にあるのだから、謝るしかないと思う。

③わたしの場合、生活費を抑えるには、電話代の節約しかないんですよ。

④当時わたしは生活に困っていたので、学校をやめて働くほかなかった。

⑤この病気を治す方法は手術しかないそうです。すぐに入院するよりほかはありません。

⑥これ以上赤字が続いたら営業をやめるほかしかたがないでしょう。

**接続** Vる / する動詞のN＋しかない Vる＋（より）ほか（は）ない

▶「ほかに方法がない・しかたがないからそうする」とあきらめの気持ちで言うときの表現。

**29** 3 ～まい ★2 W

【～ようとは思わない / ～のはやめよう】

- ①わたしの部屋<sup>へや</sup>には使わないものが多い。もうむだな買い物はするまい。
- ②1度危ない経験<sup>ど あぶ けいけん</sup>をしたのでもう決して冬山<sup>けっ ふゆやま のぼ</sup>には登るまいと決心<sup>けっしん</sup>したが、やはりまた登りたくなる。
- ③考えまい、考えまいとするけれど、やっぱりあしたのことが気<sup>ねむ</sup>になって眠れない。

接続 Vる＋まい（動詞Ⅱ・Ⅲは「Vない＋まい」もある。するは「すまい」もある）  
<sup>どうし</sup>

- ▶強い否定<sup>ひてい</sup>の意志<sup>いし</sup>を表す。意志を表すのだから、主語<sup>あらわ</sup>は第1人称である。古<sup>しゅご だい にんしょう</sup>い硬<sup>かた</sup>い言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>。

→26課Ⅱ・4 「～まい」

## 29 4 ～にほかならない ★2 W

【～だ / ～以外のものではない】

- ①文化<sup>ぶんか</sup>とは人々<sup>ひとびと</sup>の日々<sup>ひびく</sup>の暮らし方<sup>く</sup>にほかならない。
- ②あまり利用<sup>りよう</sup>されない公 共<sup>こうきょう</sup>の建物<sup>けんちく</sup>を建築<sup>けんちく</sup>するのは税金<sup>ぜいきん</sup>のむだづかいにほかならない。
- ③彼<sup>かれ</sup>が子ども<sup>こども</sup>に厳<sup>きび</sup>しいのは、子ども<sup>こども</sup>の将来<sup>しょうらい</sup>のことを心配<sup>しんぱい</sup>するからにほかならない。

接続 N＋にほかならない

- ▶「絶対<sup>ぜったい</sup>に～だ・～以外のものではない」と断定<sup>だんてい</sup>したいときの言<sup>い</sup>い方<sup>かた</sup>。論説文<sup>ろんせつぶん</sup>などに使<sup>ことば</sup>われる書<sup>ことば</sup>き言葉<sup>ことば</sup>。

## 29 5 ～にすぎない ★2

【ただ～だけだ】

- ①「あなたはギリシャ語ができるそうですね」  
「いいえ、ただちょっとギリシャ文字が読めるにすぎません」
- ②当時のわたしの有給休暇は1年にわずか4日にすぎなかった。
- ③わたしは無名の一市民にすぎませんが、この事件について政府に強く抗議します。
- ④彼はただ父親が有名であるにすぎない。彼に実力があるのではない。

接続 N / 普通形（ナAである / Nである）＋にすぎない

- ▶「それ以上のものではない・ただその程度のものだ」と言って、程度の低さを強調するときの表現。「ただ～にすぎない・ほんの～にすぎない」の形で使うことが多い。

29 6 ～というものだ ★2

【本当に～だと思う】

- ①親が子どもの遊びにまでうるさく口を出す.....あれでは子どもがかわいそうというものだ。
- ②料理をたくさん注文して結局食べきれなくて残す。そして捨てる。本当にもったいないというものだ。
- ③つらいこともあればうれしいこともある。それが人生というものだ。
- ④長い間の研究がようやく認められた。努力のかいがあったというものだ。

接続 普通形（ナA / N）＋というものだ

わしゃ　じじつ　かんそう　ひ　はん　だんていてき　か　こ　けい　ひ  
▶話者がある事実について感想・批判を断定的に言うときに使う。過去形や否定形はない。いつも「～というものだ」の形で使う。

## 29 7 ～にこしたことはない ★2

【～方がいい / ～方が安心だ】

- ①この山道は安全だけれど、用心するにこしたことはないでしょう。
- ②けんかなどはしないにこしたことはないが、がまんできない場合もあるだろう。
- ③年をとってからも足は丈夫であるにこしたことはない。今日から何か運動を始めよう。
- ④収入は多いにこしたことはないが、働きすぎて体を壊したらだめだ。

接続 普通形（現在形だけ）（ナAである / Nである）＋にこしたことはない

▶「そうでなければいけないというほどではないが、常識的に考えて、その方がいい、その方が安全だ」と言いたいときの表現。

## 29 8 ～までだ・～までのことだ ★1

【ほかに方法がないから～する覚悟がある】

- ①台風で家までの交通機関が止まってしまったら、歩いて帰るまでだ。
- ②この仕事、手伝ってくれる人がいないなら、わたし1人でやるまでだ。
- ③彼女がどうしてもお金を返さないと言うのなら、しかたがない。法

うった  
に訴えるまでのことだ。

接続 V る＋までだ

- ▶「ほかに適切な方法がないから、最後の手段として～する」という話者の覚悟・決意を表す。

→16課II・5「～までだ・～までのことだ」

29 9 ～ばそれまでだ ★1

【そのようなことになればすべて終わりだ】

- ①高い車を買っても、事故を起こせばそれまでだ。  
②一生懸命働いても、病気になればそれまでだ。無理をしない方がいい。  
③飛行機は怖い。落ちたらそれまでだ。新幹線で行こう。

接続 V ば＋それまでだ

- ▶1)「そうになったら、すべてが終わりになってしまう」と言いたいときの表現。「～ても、～ばそれまでだ」のように、前文は「～ても」の形をとることが多い。  
2)③のように「～たらそれまでだ」という形で言うこともできる。

29 10 ～に（は）当たらない ★1

【～のは適当ではない】

- ①彼はいい結果を出せなかったが、一生懸命やったのだから非難するに当たらない。  
②ふだん目立たない子どもがおもしろい文を書いたからといって、驚くには当たらない。子どもはみんな何か隠れた力を持っているのだから。



③山田<sup>やま だ</sup>さんの成功<sup>せいこう</sup>の裏<sup>うら</sup>には親<sup>えんじょ</sup>の援助<sup>えんじょ</sup>があるのです。称 賛<sup>しょうさん</sup>には当たり  
ません。

接続 V る / する動詞<sup>どうし</sup>のN+に（は）<sup>あ</sup>当たらない

▶「<sup>てきとう</sup>そうするのは適當<sup>てきとう</sup>ではない・<sup>わ しゃ</sup>そうするほどのことではない」という話者<sup>わ しゃ</sup>の  
<sup>ひょう か</sup>評価<sup>あらわ い</sup>を表す<sup>い</sup>言<sup>かた</sup>い方。

## A ★3・★2

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. にきまっている b. しかない c. まい d. にほかならない  
e. にすぎなかった f. というものだ g. それまでだ

息子むすこの太郎たろうはバイクうでの腕うでがいい。しかし、1度大けがをしてからは、もうバイクには乗るの（1. ）と決心けっしんしたようだった。でも、それは一時的な決心いちじてき（2. ）。夫おとはあの事故じこの後あと、彼かれからバイクをとりあげてしまった。「いいバイクを持もっていても、命いのちをなくしたら（3. ）」と夫いは言う。もちろん太郎しんぱいのことを心配するから（4. ）。しかし、あれでは太郎がかわいそう（5. ）。太郎もまもなく20歳はたち。バイクが危険きけんなことはわかっている（6. ）。わかっていて乗るのだ。わたしは、今はもうあの子この好きすなようにさせる（7. ）と思っている。

## B ★2・★1

□の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

a. まい b. にほかならない c. にすぎない d. というものだ  
e. にこしたことはない f. にはあたらない g. までのこ

とだ h. それまでだ

1. 親<sup>おや</sup>がわたしの気持ちをわかってくれないのなら、家を出る\_\_\_\_\_。
2. この論文<sup>ろんぶん</sup>は大作<sup>たいさく</sup>ではあるけれど、データが少し古いですね。優<sup>ゆう</sup>秀<sup>しゅう</sup>作<sup>さく</sup>として掲載<sup>けいさい</sup>する\_\_\_\_\_と思います。
3. 日本<sup>にほん</sup>が資源問題<sup>しげん</sup>に関心<sup>かんしん</sup>を持ってきた理由<sup>りゆう</sup>は、日本<sup>にほん</sup>が資源<sup>しげん</sup>に乏<sup>とほ</sup>しい国<sup>くに</sup>だから\_\_\_\_\_。
4. 自由<sup>じゆう</sup>をあきらめるくらいなら、わたしは一生<sup>いっしょう</sup>結婚<sup>けっこん</sup>する\_\_\_\_\_。
5. この質問<sup>しつもん</sup>の意味<sup>いみ</sup>が理解<sup>りかい</sup>できる人は、ごく少数<sup>しょうすう</sup>\_\_\_\_\_。
6. やりたくないからやらないなんて、君<sup>きみ</sup>、それはわがまま\_\_\_\_\_。
7. ふだんは健康<sup>けんこう</sup>でも、無理<sup>むり</sup>をしない生活<sup>せいかつ</sup>を心がける\_\_\_\_\_。
8. どんなに練習<sup>れんしゅう</sup>しても、けがをして試合<sup>しあい</sup>に出られなくなった  
ら\_\_\_\_\_。

## Exclamatory Expressions / Expressing Wishes

感嘆，願望

감탄/희망

かんげき い かんじょう ねが つよ  
感激して言ったり、感情や願いを強く言ったりするときは、どんな  
い かた  
言い方がありますか。

し  
知っていますか

の中の言葉を使って、文を完成させなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

a. ほしい b. だろう c. ことだ d. ものだ e. たいもの  
だ

1. 鈴木さんに赤ちゃんが生まれたそうだ。ほんとうにおめでた  
い\_\_\_\_\_。
2. 父は時間があると、よくわたしを魚つりに連れて行ってくれ  
た\_\_\_\_\_。
3. 5年ぶりに友だちと会った。昔の友だちと話すのはなんと楽しい  
ん\_\_\_\_\_。
4. ビンさんは、年をとる前になんとかして1度故郷に帰り\_\_\_\_\_と  
いつも言っている。
5. 雑誌の記事の締め切りが近づいてくると、1日でも締め切りを延  
ばして\_\_\_\_\_と思う。

つか  
使えますか

どちらが<sup>ただ</sup>正しいですか。正しい方<sup>ほう</sup>を選<sup>えら</sup>びなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. 悔<sup>くや</sup>しいことに、{ a. わたしはこの会社<sup>かいしゃ</sup>をやめさせられたので  
す。 b. わたしはこの会社をやめます。 }
2. 大学時代<sup>じ だい</sup>クラブ活動<sup>かつどう</sup>の<sup>あと</sup>後に、{ a. 何回<sup>なんかい</sup>この喫茶店<sup>きっ さ てん</sup>に入ったもの  
だ。 b. 何回この喫茶店に入ったことか。 }
3. この子がこんな料理<sup>りょう り</sup>が<sup>つく</sup>作れるようになったのか。{ a. 大きく  
なったことに。 b. 大きくなったものだ。 }
4. なんとかして今日中<sup>し ごと</sup>にこの仕事<sup>し ごと</sup>を { a. 終わ<sup>お</sup>らせたいものだ。  
b. 終わらせないことか。 }
5. 駅<sup>えき</sup>でさいふを<sup>わす</sup>忘れて<sup>こま</sup>困っているときに、友だち<sup>あ</sup>に会った。{ a.  
なんとうれしかったことか。 b. とてもうれしかったもの  
だ。 }

30

かんたん がんばる  
感嘆・願望かんげき い かんじょう ねが つよ  
感激して言ったり、感情や願いを強く言ったりするとき

★3

1 ～だろう

2 ～てほしい

3 ～ものだ

4 ～ものだ

5 ～ことだろう・～ことか

6 ～ことだ

★2

7 ～ことに（は）

8 ～ものがある

9 ～なんて

10 ～たいものだ・～てほしいものだ

11 ～ないものか

★1

12 ～とは

30

1 ～だろう ★3

ひ じょう  
【非常に～だ】①（月を見て）ああ、なんときれいな月だろう。②（みかんを食べながら）なんておいしいんだろう。③あの子が生きていとわかっただけでも、どんなにうれしいことだ  
ろう。④今ではインターネットで本が注文できる。なんと便利なことだ  
う。

⑤朝起きるのが遅いイチローに、試験のときには遅れないように何度注意したことか。

⑥小鳥が死んだとき、ケンがどんなに悲しんだことか。

**接続** 普通形（イAい・イAいの / ナA・ナAなの / N・Nなの）＋だろう  
普通形（ナAな・ナAである / Nである）＋ことだろう・ことか

▶ 1) 心に強く感じたことや感激したことを感情を込めて言うときの表現である。

2) ③～⑥は①②より少し硬い言い方。

3) 「～だろう・～ことだろう・～ことか」はどれも「なんと・どんなに・どれほど」などとともに使うことが多い。

## 30 2 ～てほしい ★3

【～てもらいたい】

①毎日、暑い日が続いています。早く涼しくなってほしいですね。（  
手紙）

②子どもには、他人の気持ちを考えないような人になってほしい。

③「また、酒飲んだな」  
「兄さんだって、飲んでるのに。そんなこと言わないでほしい」

④親は生まれた子に元気に育ってほしいと願う。

**接続** Vて・Vないで＋ほしい

▶ 話す人が相手やほかの人やものごとに対して要望や希望がある場合に使う。  
否定には②「Vてほしくない」と③「Vないでほしい」の2つの形がある。

### 30 3 ～ものだ ★2

【よく～したなあ】

- ①子どものころ、寝る前に母がよく絵本を読んでくれたものだ。  
②小学校のころ、兄とけんかをしてよく父にしかられたものだ。  
③学生のころクラブ活動で、夜遅くまで歌を歌い、語り合ったものだ。

接続 Vた＋ものだ

▶昔よくしたことを思い出して、なつかしんで感情を込めて言うときの表現。  
。「よく～ものだ」の形でよく使う。

→28課4「～ものだ・ものではない」 / 30課4「～ものだ」

### 30 4 ～ものだ ★2

【ほんとうに～だなあ】

- ①小さな子どもがよくこんな難しい体操をするものだ。大したもん  
だ。  
②タンさんは10歳のときに両親を亡くしたそうだ。今日まで1人で  
よく生きてきたものだ。  
③月日のたつのは早いもんで、日本に来たのはもう10年も前のこと  
だ。  
④外国に住んでその国のことを知るのは楽しいものだ。

接続 普通形（ナAな）＋ものだ（Nにつく例はない）

▶心に強く感じたことや、驚いたり感心したりしたことを感情を込めて言う。  
。「～もんだ」はくだけた会話の言い方。

→28課4「～ものだ・ものではない」 / 30課3「～ものだ」



30 5 ～ことだろう・～ことか ★2 W

ひ じょう  
【非 常に～だ】

▶ 1 「～だろう」と意味・用法が大体同じ。

30 6 ～ことだ ★2

ひ じょう  
【非 常に～だ】

①弟の就 職しゅうしょくがき決まった。ほんとうにうれしいことだ。

②10年前この図書館でよく本を借りて読んだ。なつかしいことだ。

③昨夜のテニスの試合では、A選手は最後に負けてしまった。残念なことだ。

接続 イAい / ナAな＋ことだ

▶話者が、ある事実について感じた驚きや感動などについて感情を込めて言うときの表現。感情を表す形容詞につくことが多い。

→28課7「～ことだ」

30 7 ～ことに（は） ★2

ひ じょう  
【非 常に～ことだが】

①うれしいことに、彼女が「イエス」という返事をくれた。

②不思議なことに、空から魚が降ってきたそう。

③悔しいことに、1点差でA校との野球の試合に負けてしまった。

接続 Vた / イAい / ナAな＋ことに（は）

▶ 1) 話者が感じたことを「～ことに」の前で言う。初めに言うことによっ

て、その感じを強調する言い方。やや書き言葉的な言い方。

2) 「～ことに」の前には感情を表す言葉が入り、後にはその具体的内容が来る。話者の意志を表す文は来ない。

×うれしいことに、来年カナダに留学するつもりだ。

## 30 8 ～ものがある ★2

【とても～だ / なんとなく～感じる】

①半年前にいなくなったねこが帰ってきた。わたしにとって特別うれしいものがある。

②長年通学に使っていた電車が廃止されることになった。なんとなく寂しいものがある。

③20年続けてきた日本語教室が、建物の都合で閉じられることになった。わたしには残念なものがある。

接続 普通形の現在形（ナAな）＋ものがある（Nにつく例はない）

▶「～ものがある」の形で、話者がある事実から感じたことや物事の特徴を表現するときに感情をもって言う表現。「～」には話者の感情を表す言葉が来ることが多い。

## 30 9 ～なんて ★2

【～という事実は / ～ということとは】

①信じられないなあ。弟がプロ野球の選手になれたなんて。

②え、トムがアナウンサーだったなんて。知らなかった。

③夜帰宅したとき話し相手がロボットだとは。寂しい世の中になったなあ。

④あの2人がご夫婦だったとは。ぜんぜん知りませんでした。

⑤山全体が燃えるような赤に染まるとは。ほんとうにみごとな紅葉だ。

接続 普通形+なんて・とは

▶1) 予想していなかった「～」という事実を見たり聞いたりしたときの驚きや感慨を言うときの表現。

2) 「～なんて」も「～とは」も話し言葉で使うことが多いが、「～なんて」は「～とは」よりくだけた言い方。①は倒置の言い方。

## 30 10 ～たいものだ・～てほしいものだ ★2

【～たいなあ / ～てほしいなあ】

①わたしは中学生のころからなんとかして外国で仕事をしたいものだと思っていた。

②今年こそちゃんと計画を立ててシルクロードの旅行を始めたいものだ。

③なんとか早く日本語の新聞が読めるようになりたいものだ。

④医者「健康のために、毎日30分ぐらい歩くことを習慣にしてほしいものです」

⑤となりがうるさくて勉強ができない。静かにしてほしいもんだ。

接続 V~~ます~~+たい+ものだ V+て+ほしい+ものだ

▶1) 「～たいものだ」は強く願ったり、望んだりする言い方。話し言葉では「～たいもんだ」となる。実現が容易な、日常生活のことにはほとんど使わない。

2) 「～てほしいものだ」は他者への強い願いを表す表現。くだけた言い方では「～てほしいもんだ」となる。「なんとか・なんとかして」とよくいっしょに使う。

## 30 11 ～ないものか ★2

【～ないだろうか】

- ①人々は昔からなんとかして空を飛べないものかと願っていた。  
ひとびと むかし と ねが
- ②なんとかして地球の温暖化を止めることはできないものか。  
ち きゅう おんだん か
- ③なんとか兄の病気が少しでもよくならないものかと、家族はみんな願っている。  
ねが

接続 Vない+ものか

- ▶実現が難しい状況で、強い願いを何かの方法で実現させたいという気持ちを表す。可能の動詞とともに使うことが多い。「なんとかして・なんとか」  
じつげん むずか じょうきょう ねが ほうほう じつげん  
あらわ か のう どうし  
とともに使うことが多い。

## 30 12 ～とは ★1

【～という事実は / ～ということとは】

- ▶9 「～なんて」と意味・用法が大体同じ。  
ようほう  
→17課3「～とは」  
か

## A

の中の言葉を使って、次の文を完成させなさい。1つの言葉は1回しか使いません。

こた  
答えは [こちら](#)

## ★3・★2

a. たいものだ b. ことか c. ものだ d. だろう

1. いつもはばらばらな家族が1年に1回故郷に帰って、皆が集まるのはなんとうれしい\_\_\_\_\_。
2. 昔は年上の子も小さい子も近所の子どもたちがいっしょになってよく外で遊んだ\_\_\_\_\_。
3. ABC社の受付の人はなんと感じのいい人\_\_\_\_\_。
4. 今年こそジョギングを生活の習慣にし\_\_\_\_\_。

## ★2・★1

e. ものがあある f. ことに g. とは h. ものか

5. 子どもの時に無口だった健ちゃんが、今しゃべるのが仕事の司会者になっている\_\_\_\_\_。びっくりしたなあ。
6. なんとかしてこの商談を成立させることができない\_\_\_\_\_と、毎日、交渉を重ねている。
7. 会社に入って半年もしないうちに新人が新人らしい新鮮さを失ってしまうのを見るのは、ちょっと残念な\_\_\_\_\_。

8. 幸運な\_\_\_\_、妹は事故があった電車には乗っていなかった。いつもなら乗っていた時間なのだが。
- 

**B ★2**

\_\_\_\_に「もの・こと」のどちらかを入れなさい。

こた  
答えは [こちら](#)

1. おめでたい\_\_\_\_に、あの夫婦は2人合わせて190歳だそうですよ。
2. わたしが結婚したとき、祖母がどんなに喜んだ\_\_\_\_か。
3. 母のことを思い出すと、懐かしいというよりは寂しい\_\_\_\_がある。
4. つらい練習をして、しかも逆転優勝したA選手はどんなにうれしかった\_\_\_\_だろう。
5. 何とかして時間を取り戻せない\_\_\_\_かといつも思う。
6. え？ 小学6年生が1人で海外旅行？ よくもまあ、親が許した\_\_\_\_だ。
7. 昔はわたしもよく1人で山へ行った\_\_\_\_だが、今は1人で行くより数人で行く方が楽しい。
8. ああ、いろいろな国の言葉が話せるようになりたい\_\_\_\_だなあ。

## 索引（50音順）

あ

～あげく（に）	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～あげくの	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～あつての	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～あまり（に）	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">9</a>
あまりの～に	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">9</a>
～いかんだ	<a href="#">13-</a> <a href="#">10</a> ★1
～いかんで（選挙の結果いかんで）	<a href="#">13-</a> <a href="#">10</a> ★1
～いかんでは（選挙の結果いかんでは）	<a href="#">13-</a> <a href="#">11</a> ★1
～いかににかかわらず（成績のいかににかかわらず）	<a href="#">14-</a> <a href="#">7</a> ★1
～いかにによって（予算の使い方いかにによって）	<a href="#">13-</a> <a href="#">10</a> ★1
～いかにによっては（天候のいかにによっては）	<a href="#">13-</a> <a href="#">11</a> ★1
～いかにによらず（理由のいかにによらず）	<a href="#">14-</a> <a href="#">7</a> ★1

～ <sup>い じょう</sup> 以上（は）（オリンピックに出場する以上）	19 <u>II-</u> ★2 4
～ <sup>い っ ぽ う</sup> 一方（で）（厳しくしかる一方で）	10 <u>II-</u> ★2 7
～一方だ（最近、わたしは太る一方です）	6 <u>I-</u> ★3 1
～ <sup>う え</sup> 上（に）（仕事を紹介してもらった上）	9 <u>II-</u> ★3 2
～上で（企画を成功させる上で）	2 <u>I-</u> ★2 2
～上で（お目にかかった上で）	5 <u>II-</u> ★2 5
～上は（進学すると決めた上は）	19 <u>II-</u> ★2 5
～うちに（練習を重ねるうちに）	4- 4 ★3 5
～うちに（独身のうちに）	5 <u>II-</u> ★3 4
～ <sup>う</sup> 得る	22- 5 ★2
～ <sup>え</sup> 得ない	22- 5 ★2
～おかげか	19 <u>I-</u> ★3 3 19



～おかげだ I- ★3  
3

～おかげで 19  
I- ★3  
3

～おそれがある 26  
II- ★3  
1

～<sup>おり</sup>折（に） 4-  
7 ★2

～折の 4-  
7 ★2

か

---

～かぎり（できるかぎり） 3-  
7 ★2

～かぎり（は）（体が丈夫なかぎり） 8-  
3 ★2

～かぎりだ（うらやましいかぎりだ） 27-  
8 ★1

～かぎりでは（覚えているかぎりでは） 8-  
4 ★2

～かぎりの（知っているかぎりのこと） 3-  
7 ★2

～かける 4-  
3 ★3

～<sup>さいご</sup>が最後 20-  
10 ★1

～がたい 22-  
3 ★2

～かたがた 7-  
7 ★1

～かたわら 7-  
★1

	<a href="#">6</a>
	<a href="#">23</a>
～がち	<a href="#">I-</a> ★3
	<a href="#">1</a>
～がてら	<a href="#">7-</a> ★1
	<a href="#">5</a>
～か～ないかのうちに	<a href="#">5</a>
	<a href="#">I-</a> ★2
	<a href="#">4</a>
～かねない	<a href="#">26</a>
	<a href="#">II-</a> ★2
	<a href="#">6</a>
～かねる	<a href="#">22-</a> ★2
	<a href="#">4</a>
～かのようだ	<a href="#">23</a>
	<a href="#">II-</a> ★2
	<a href="#">1</a>
～かのような	<a href="#">23</a>
	<a href="#">II-</a> ★2
	<a href="#">1</a>
～かのように	<a href="#">23</a>
	<a href="#">II-</a> ★2
	<a href="#">1</a>
～が早いか	<a href="#">5</a>
	<a href="#">I-</a> ★1
	<a href="#">6</a>
～から（栄養の不足から）	<a href="#">19</a>
	<a href="#">I-</a> ★3
	<a href="#">2</a>
～からいうと	<a href="#">11</a>
	<a href="#">I-</a> ★2
	<a href="#">4</a>
～からいえば	<a href="#">11</a>
	<a href="#">I-</a> ★2

	<a href="#">4</a>
～からって	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～からこそ	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～からして（所長からしてよく遅刻する）	<a href="#">3-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～からして（社長の言い方からして）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～からすると	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～からすれば	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～からといって	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">7</a>
～から～にかけて	<a href="#">3-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～からには（全国大会に出るからには）	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～からは（こちらから願うからは）	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～かわりに	<a href="#">10</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">5</a>
～ <sup>ぎみ</sup> 気味	<a href="#">23</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">4</a>

～きらいがある	<a href="#">23</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">5</a>
～きり	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～きりだ	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～きる	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～きれる	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～ <sup>きわ</sup> 極まりない	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～極まる	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～くせして	<a href="#">18-</a> <a href="#">4</a> ★2
～くせに	<a href="#">18-</a> <a href="#">4</a> ★2
～くらい	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～くらい（歩くくらいの軽い運動）	<a href="#">16</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～くらいだ	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a>

～くらいなら（自由がなくなるくらいなら）	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～くらいの	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～くらい～はない	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">3</a>
～げ	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～こそ	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～こと（木村先生に出すこと）	<a href="#">28-</a> <a href="#">1</a> ★3
～ことか（どんなに悲しんだことか）	<a href="#">30-</a> <a href="#">5</a> ★2
～ことから	<a href="#">19</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～ことだ（失敗を恐れずにやってみることだ）	<a href="#">28-</a> <a href="#">7</a> ★2
～ことだ（ほんとうにうれしいことだ）	<a href="#">30-</a> <a href="#">6</a> ★2
～ことだし	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～ことだろう（どんなにうれしいことだろう）	<a href="#">30-</a> <a href="#">5</a> ★2
～こととなっている	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">5</a>

～ことなく（途切れることなく）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～ことなしに（事前の断りなしに）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">7</a>
～ことに（は）	<a href="#">30-</a> ★2 <a href="#">7</a>
～ことにっている	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">5</a>
～ことになる	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">3</a>
～ことは～が	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ことはない	<a href="#">28-</a> ★3 <a href="#">2</a>

## さ

---

～際（に）	<a href="#">4-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ <sup>さいちゅう</sup> 最中（に）	<a href="#">4-</a> ★3 <a href="#">5</a>
～最中だ	<a href="#">4-</a> ★3 <a href="#">5</a>
～際の	<a href="#">4-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～さえ	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a> <a href="#">20-</a>

～さえ～ば（暇さえあれば）	<a href="#">1</a> ★3
～ざるをえない	<a href="#">27-6</a> ★2
～しかない	<a href="#">29-2</a> ★3
～ <sup>しだい</sup> 次第（スケジュールが決まり次第）	<a href="#">5</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～次第だ（この仕事の結果次第です）	<a href="#">13-5</a> ★2
～次第だ（差し上げました次第です）	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">10</a>
～次第で（言葉の使い方次第で）	<a href="#">13-5</a> ★2
～次第では（病状の進み方次第では）	<a href="#">13-6</a> ★2
～しまつだ	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">12</a>
～ <sup>じょう</sup> 上（予算の関係上）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～上の（計算上のミス）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～ <sup>すえ</sup> 末（に）	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～末の	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a> <a href="#">23</a>

～ずくめ	<a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">7</a> <a href="#">24</a>
～ずじまい	<a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">9</a>
～ずにはいられない	<a href="#">27-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～ずにはおかない	<a href="#">27-</a> ★1 <a href="#">11</a>
～ずにはすまない	<a href="#">27-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～すら	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">6</a> <a href="#">19</a>
～せいか	<a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">4</a> <a href="#">19</a>
～せいだ	<a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～せいで	<a href="#">19</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">4</a> <a href="#">5</a>
～そばから	<a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">9</a>

た

---

～たいものだ	<a href="#">30-</a> ★2 <a href="#">10</a>
～だけ（持てるだけ持って）	<a href="#">3-</a> ★3 <a href="#">3</a> <a href="#">11</a>



～だけあって（医者だけあって）	<a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～だけでなく	<a href="#">9</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a> <a href="#">19</a>
～だけに（実力があるだけに）	<a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～だけの（言いたいだけのことを全部）	<a href="#">3-</a> ★3 <a href="#">3</a>
～だけの（努力しただけのかいはあった）	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～だけまし	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">7</a>
ただ～のみ	<a href="#">8-</a> ★1 <a href="#">5</a>
たとえ～ても	<a href="#">21-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～たところ（先輩に相談してみたところ）	<a href="#">24</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～たところで（車を飛ばしていったところで）	<a href="#">21-</a> ★1 <a href="#">4</a>
～たとたん（に）	<a href="#">5</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～たび（に）	<a href="#">13-</a> ★3 <a href="#">3</a>
～だらけ	<a href="#">23</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">2</a> <a href="#">20-</a>

～たら最後 <sup>さいご</sup>	<a href="#">10</a> ★1
～たりとも～ない	<a href="#">16</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">4</a>
～だろう	<a href="#">30-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ついでに	<a href="#">7-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～つつ（バスに揺られつつ）	<a href="#">7-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～つつ（ダイエット中だと言いつつ）	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～つつある（台風が近づきつつある）	<a href="#">6</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～つつも（悪いと知りつつも）	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～っぱなし（道具が出しっぱなし）	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～っぽい（黒っぽいセーター）	<a href="#">23</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～であれ（命令されたことが何であれ）	<a href="#">21-</a> ★1 <a href="#">5</a>
～であれ～であれ（食べ物であれ生活用品であれ）	<a href="#">15-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～であろうと（いかなる国であろうと）	<a href="#">21-</a> ★1 <a href="#">5</a>
～であろうと～であろうと	<a href="#">15-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～て以来 <sup>いらい</sup>	<a href="#">5</a> <a href="#">II-</a> ★2

～てからでないと

6  
5  
II- ★3  
3

～てからでなければ

5  
II- ★3  
3

～てからというもの（は）

5  
II- ★1  
8

～てからは

5  
II- ★3  
2

～てこそ

16  
I- ★2  
4

～でさえ

16  
I- ★3  
2

～てしかたがない

27-  
1 ★3

～てしょうがない

27-  
1 ★3

～ですら

16  
I- ★3  
6

～てたまらない

27-  
2 ★3

～てならない

27-  
4 ★2

～ではあるまいか

26  
II- ★2  
5  
19

～ではあるまいし	<a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">11</a>
～てはじめて	<a href="#">5</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～てほしい	<a href="#">30-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～てほしいものだ	<a href="#">30-</a> ★2 <a href="#">10</a>
～ <sup>てまえ</sup> 手前	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">13</a>
～てまで	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～てもさしつかえない	<a href="#">28-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～てやまない	<a href="#">27-</a> ★1 <a href="#">7</a>
～と <sup>あい</sup> 相まって	<a href="#">9</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">7</a>
～とあって	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">10</a>
～とあれば	<a href="#">20-</a> ★1 <a href="#">12</a>
～といい～といい	<a href="#">15-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～というか～というか	<a href="#">15-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～ということだ（また遅刻ということですね）	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">4</a>

～ということだ（スポーツセンターができるということだ）	<a href="#">26</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ということは（体が丈夫だということは）	<a href="#">17-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～というと	<a href="#">17-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～というところだ	<a href="#">3-</a> ★1 <a href="#">12</a>
～というのは（「いたしかたがない」というのは）	<a href="#">17-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～というもの（は）（夏休みになってからというもの）	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">7</a>
～というものだ（かわいそうというものだ）	<a href="#">29-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～というものではない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～というものは	<a href="#">17-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～というより	<a href="#">10</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～といえども（親友といえども）	<a href="#">18-</a> ★1 <a href="#">13</a>
～といえは	<a href="#">17-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～といった	<a href="#">15-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～といったところだ	<a href="#">3-</a> ★1 <a href="#">12</a>
	<a href="#">17-</a> ★2

～といったら（懸命な働きぶりといったら）	8
～といったらありはしない	$\frac{27-}{9}$ ★1
～といったらない（その退屈さといったらない）	$\frac{27-}{9}$ ★1
～といっても	$\frac{18-}{1}$ ★3
～といわず～といわず	$\frac{15-}{9}$ ★1
～と思いきや	$\frac{18-}{14}$ ★1
～（か）と思うと	$\frac{5}{1-}$ ★2 3
～（か）と思ったら	$\frac{5}{1-}$ ★2 3
～とおри（に）	$\frac{12-}{2}$ ★3
～とおりだ	$\frac{12-}{2}$ ★3
～とおりの	$\frac{12-}{2}$ ★3
～とか（きのう大雪だったとか）	$\frac{26}{1-}$ ★2 2
～とか～とか（野菜とか肉とか豆腐とか）	$\frac{15-}{1}$ ★3
～ときたら	$\frac{17-}{10}$ ★1
～ところ（ごちそうを食べるところで）	$\frac{4-}{2}$ ★3

～どころか（中国語どころか、ベトナム語も）	<a href="#">10</a> ★2 <a href="#">II-</a> <a href="#">8</a>
～ところから（まだ温かいところから）	<a href="#">19</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">2</a>
～ところだった（危なくぶつかるところだった）	<a href="#">24</a> ★2 <a href="#">II-</a> <a href="#">7</a>
～ところではない（サッカーを見に行くところではない）	<a href="#">25</a> ★2 <a href="#">I-</a> <a href="#">5</a>
～ところではなく（見物ところではなく）	<a href="#">25</a> ★2 <a href="#">I-</a> <a href="#">5</a>
～ところを（お忙しいところを）	<a href="#">18-</a> ★1 <a href="#">11</a>
～ところをみると（急に掃除を始めたところをみると）	<a href="#">19</a> ★2 <a href="#">II-</a> <a href="#">7</a>
～としたところで	<a href="#">11</a> ★2 <a href="#">I-</a> <a href="#">7</a>
～としたら	<a href="#">20-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～として（観光客として）	<a href="#">11</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">2</a>
～として～ない	<a href="#">16</a> ★2 <a href="#">II-</a> <a href="#">3</a>
～としても（新しい仕事を探すとしても）	<a href="#">21-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～とすると（30万円以上もかかるとすると）	<a href="#">20-</a>

	<u>2</u> ★3
～とすれば（1週間に5日働くとすれば）	<u>20-</u> <u>2</u> ★3
～とともに（ベルが鳴るとともに）	<u>5</u> <u>I-</u> ★2 <u>2</u>
～とともに（冷え込みが厳しくなるとともに）	<u>6</u> <u>II-</u> ★2 <u>4</u>
～となると	<u>20-</u> <u>9</u> ★2
～とのことだ	<u>26</u> <u>I-</u> ★3 <u>1</u>
～とは（赤字とは）	<u>17-</u> <u>3</u> ★2
～とは（話し相手がロボットだとは）	<u>30-</u> <u>12</u> ★1
～とはいうものの	<u>18-</u> <u>5</u> ★2
～とはいえ	<u>18-</u> <u>12</u> ★1
～とは <sup>かぎ</sup> 限らない	<u>25</u> <u>II-</u> ★3 <u>2</u>
～とみえて	<u>26</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～とみえる	<u>26</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～ともあろう	<u>11</u> <u>II-</u> ★1



	<a href="#">5</a>
～ともなく	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">4</a>
～ともなしに	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">4</a>
～ともなると	<a href="#">11</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">4</a>
～ともなれば	<a href="#">11</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">4</a>

## な

---

～ないうちに（気がつかないうちに）	<a href="#">4-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～ないうちに（沸騰しないうちに）	<a href="#">5</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～ないかぎり	<a href="#">20-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～ないことには	<a href="#">20-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～ないことはない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～ないこともない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～ないではいけない	<a href="#">27-</a> ★2 <a href="#">5</a> <a href="#">27-</a> ★1

～ないではおかない	<a href="#">11</a>
～ないではすまない	<a href="#">27-10</a> ★1
～ないでもない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">6</a>
～ないまでも	<a href="#">10</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">9</a>
～ないものか	<a href="#">30-11</a> ★2
～ないものでもない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">6</a>
～ないわけにはいかない	<a href="#">27-3</a> ★3
～ながら（お金がありながら）	<a href="#">18-2</a> ★2
～ながら（に）（涙ながら恐ろしい体験を語った）	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">5</a>
～ながらの（昔ながらの校舎）	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">5</a>
～ながらも（子どもながらも）	<a href="#">18-9</a> ★1
～なくして（は）	<a href="#">20-11</a> ★1
～なくもない	<a href="#">25</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">6</a>
～なしに（事前の断りなしに）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★1

	<a href="#">7</a>
～など	<a href="#">16</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ならいざしらず	<a href="#">14-</a> <a href="#">10</a> ★1
～ならでは	<a href="#">8-</a> <a href="#">6</a> ★1
～なら～ほど	<a href="#">6</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～なり（とつぜん受話器を置くなり）	<a href="#">5</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～なり～なり（反対するなり賛成するなり）	<a href="#">15-</a> <a href="#">7</a> ★1
～なりに（わたしなりに少し考えてみた）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～なりの（収入が少なければ少ないなりの暮らし）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～なんか	<a href="#">16</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～なんて（ケンになんてもう会いたくない）	<a href="#">16</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～なんて（プロ野球の選手になれたなんて）	<a href="#">30-</a> <a href="#">9</a> ★2
～にあたって	<a href="#">4-</a> <a href="#">9</a> ★2
～に（は） <sup>あ</sup> 当たらない	<a href="#">29-</a> <a href="#">10</a> ★1

～にあって	<u><u>4-</u></u> <u>10</u> ★1
～に <sup>いた</sup> 至って（は）（39度の熱が3日も続くという事態に至って）	<u>24</u> <u>I-</u> ★1 <u>5</u>
～に至る（死者30人を出すに至った）	<u>24</u> <u>II-</u> ★1 <u>11</u>
～に至るまで（指の先に至るまで）	<u>3-</u> <u>9</u> ★1
～において	<u>4-</u> <u>6</u> ★3
～に <sup>おう</sup> 応じた	<u>13-</u> <u>7</u> ★2
～に應じて	<u>13-</u> <u>7</u> ★2
～における	<u>4-</u> <u>6</u> ★3
～にかかわらず	<u>14-</u> <u>2</u> ★2
～にかかわりなく	<u>14-</u> <u>1</u> ★3
～にかかわる	<u>1-</u> <u>8</u> ★1
～に <sup>かぎ</sup> 限って（急いでいるときに限って）	<u>8-</u> <u>2</u> ★2
～に限らず（日曜日に限らず）	<u>9</u> <u>I-</u> ★2 <u>4</u>
～に限り（朝10時までにご来店の方に限り）	<u>8-</u> <u>1</u> ★2 <u>10</u> <u>I-</u>
～に限る（仕事を終えたあとは、冷えたビールに限りです）	★3

～にかけては

4  
17-  
2 ★3

～にかわって

10  
II- ★3  
6

～に<sup>かん</sup>関して

1-  
5 ★2

～に関する

1-  
5 ★2

～にきまっている

29-  
1 ★3

～にこしたことはない

29-  
7 ★2

～にこたえて

1-  
6 ★2

～にこたえる

1-  
6 ★2

～に<sup>さい</sup>際して

4-  
8 ★2

～に<sup>さき だ</sup>先立つ

5  
II- ★2  
7

～に先立って

5  
II- ★2  
7

～にしたがって

6  
II- ★3  
3

～にしたところで

11  
I- ★2  
7  
11

～にしたら	<a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～にして	<a href="#">16</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">9</a>
～にしては（新入社員にしては）	<a href="#">11</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～にしても（いくら忙しかったにしても）	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～にしても（もしこの仕事をするにしても）	<a href="#">21-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～にしても～にしても（めがねにしてもバッグにしても）	<a href="#">15-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～にしろ（事故があったにしろ）	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～にしろ（どんな会社の試験を受けるにしろ）	<a href="#">21-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～にしろ～にしろ（柔道にしろサッカーにしろ）	<a href="#">15-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～にすぎない	<a href="#">29-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～にすれば	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～にせよ（田中さんほどでないにせよ）	<a href="#">18-</a> ★2 <a href="#">8</a>
～にせよ（たとえわずかな額にせよ）	<a href="#">21-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～にせよ～にせよ（JRにせよほかの私鉄にせよ）	<a href="#">15-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～に <sup>そ</sup> 沿う	<a href="#">12-</a> ★2 <a href="#">5</a>

～に <sup>そう い</sup> 相違ない	<a href="#">26</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">7</a>
～に <sup>そく</sup> 即した	<a href="#">12-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～に即して	<a href="#">12-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～に沿った	<a href="#">12-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～に沿って	<a href="#">12-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～に <sup>たい</sup> 対して（お年寄りに対して）	<a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～に対して（活発な姉に対して、妹は）	<a href="#">10</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～に対する（先生に対するわたしの気持ち）	<a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～にたえない	<a href="#">22-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～にたえる	<a href="#">22-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～に <sup>た</sup> 足る	<a href="#">22-</a> ★1 <a href="#">7</a>
～に <sup>ちが</sup> 違いはない	<a href="#">26</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～について（この町の歴史について）	<a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～につき（改装中につき）	<a href="#">19</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">7</a> <a href="#">13-</a> ★2

～につけて（遊び方を見るにつけて）

8

～につれて

6  
II- ★3  
2

～にとって

11  
I- ★3  
1

～にとどまらず

9  
I- ★1  
6

～に<sup>ともな</sup>伴って

6  
II- ★2  
5

～に<sup>はん</sup>反した

10  
II- ★3  
2

～に反して

10  
II- ★3  
2

～に反する

10  
II- ★3  
2

～にひきかえ

10  
II- ★1  
10

～にほかならない

29-  
4 ★2

～にもかかわらず

18-  
6 ★2

～に<sup>もと</sup>基づいた

12-  
6 ★2

～に基づいて

12-  
6 ★2



～に基づく	<a href="#">12-</a> <a href="#">6</a> ★2
～にもまして	<a href="#">10</a> <a href="#">1-</a> ★1 <a href="#">8</a> <a href="#">2</a>
～によって（話し合いによって解決できる）	<a href="#">11-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～によって（気分によって、服を変えます）	<a href="#">13-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～によって（津波によって、大きな被害が出た）	<a href="#">19</a> <a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～によっては（年によっては）	<a href="#">13-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～による（携帯電話によるコミュニケーション）	<a href="#">2</a> <a href="#">11-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～による（季節による風景の変化）	<a href="#">13-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～による（飲酒運転による事故）	<a href="#">19</a> <a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">1</a> <a href="#">2</a>
～によると（テレビの長期予報によると）	<a href="#">11-</a> ★3 <a href="#">2</a> <a href="#">2</a>
～によれば（専門家の予想によれば）	<a href="#">11-</a> ★3 <a href="#">2</a>
～にわたって	<a href="#">3-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～にわたる	<a href="#">3-</a> ★3 <a href="#">4</a> <a href="#">7-</a> ★2

～ぬきで	<a href="#">3</a>
～ぬきに	<a href="#">7-</a> <a href="#">3</a> ★2
～ぬきの	<a href="#">7-</a> <a href="#">3</a> ★2
～ぬく	<a href="#">24</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～の <sup>うえ</sup> 上で（形式の上で）	<a href="#">11</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～のことだ	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～のことだから	<a href="#">19</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～のこととなると	<a href="#">17-</a> <a href="#">9</a> ★2
～のみならず	<a href="#">9</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～のもとで	<a href="#">12-</a> <a href="#">7</a> ★2
～のもとに	<a href="#">12-</a> <a href="#">7</a> ★2

は

---

～ば～（のに）	<a href="#">20-</a> <a href="#">3</a> ★3
～はいざしらず	<a href="#">14-</a> <a href="#">10</a> ★1 <a href="#">9</a>

～はおろか	<u>II-</u> ★1 5
～ばかりか（かぜが治らないばかりか）	<u>9</u> <u>I-</u> ★2 3
～ばかりだ（不安は増すばかりだ）	<u>6</u> <u>I-</u> ★2 4
～ばかりでなく（頭が痛いばかりでなく、吐き気もする）	<u>9</u> <u>I-</u> ★3 2
～ばかりに（本当のことを言ったばかりに）	<u>19</u> <u>I-</u> ★2 6
～ばかり	<u>19</u> <u>II-</u> ★1 12
～はさておき	<u>14-</u> 6 ★2
～はずがない	<u>25</u> <u>I-</u> ★3 1
～はそれまでだ	<u>29-</u> 9 ★1
～はというと	<u>17-</u> 7 ★2
～はともかく（として）	<u>14-</u> 5 ★2
～は <sup>と</sup> 問わず	<u>14-</u> 3 ★2
～はぬきにして	<u>7-</u> 4 ★2
～ば～ほど	<u>6</u> <u>II-</u> ★3

	<u>1</u>
～はもちろん	<u>9</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～はもとより	<u>9</u> <u>II-</u> ★2 <u>4</u>
～ <sup>はんめん</sup> 半面	<u>10</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～ <sup>はんめん</sup> 反面	<u>10</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～べからざる	<u>28-</u> <u>8</u> ★1
～べからず	<u>28-</u> <u>8</u> ★1
～べき	<u>28-</u> <u>3</u> ★3
～べきだ	<u>28-</u> <u>3</u> ★3
～べきではない	<u>28-</u> <u>3</u> ★3
～べく	<u>2</u> <u>I-</u> ★1 <u>3</u>
～（より）ほか（は）ない	<u>29-</u> <u>2</u> ★3
～ほか（しかたが）ない	<u>29-</u> <u>2</u> ★3
～ほど（勉強するほど難しくなる）	<u>6</u> <u>II-</u> ★3 <u>1</u>

～ほど（泣きたくなるほど寂しかった）	<a href="#">10</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">1</a>
～ほどだ（うれしくて涙が出るほどだった）	<a href="#">10</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">1</a>
～ほどの（死にたいほどのつらい経験）	<a href="#">10</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">1</a>
～ほど～はない（今年の夏ほど暑い夏はない）	<a href="#">10</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">3</a>

## ま

---

～まい（簡単には解決するまい）	<a href="#">26</a> ★2 <a href="#">II-</a> <a href="#">4</a>
～まい（むだな買い物はするまい）	<a href="#">29-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～まで（お父さんまでわたしを疑うの）	<a href="#">16</a> ★3 <a href="#">I-</a> <a href="#">3</a>
～までして（法律違反までして）	<a href="#">16</a> ★2 <a href="#">I-</a> <a href="#">5</a>
～までだ（気になって電話したまで）	<a href="#">16</a> ★1 <a href="#">II-</a> <a href="#">5</a>
～までだ（歩いて帰るまでだ）	<a href="#">29-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～までのことだ（つい買っちゃったまでのことなんです）	<a href="#">16</a> ★1 <a href="#">II-</a> <a href="#">5</a>

～までのことだ（法に訴えるまでのことだ）	<a href="#">29-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～までもない（電卓を使うまでもない）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～までもなく（話を聞くまでもなく）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">8</a>
～まみれ	<a href="#">23</a> <a href="#">I-</a> ★1 <a href="#">6</a>
～ <sup>む</sup> 向き（10代の女性向きに作った）	<a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">4</a>
～向け（幼児向けに書かれた本）	<a href="#">1-</a> ★3 <a href="#">3</a>
～もかまわず	<a href="#">14-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～もさることながら	<a href="#">9</a> <a href="#">II-</a> ★1 <a href="#">6</a>
～もしない	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">4</a>
～も～なら～も	<a href="#">9</a> <a href="#">II-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～もの（あの授業おもしろくないもの）	<a href="#">19</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">5</a>
～ものか（2度と行くものか）	<a href="#">25</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">6</a>
～ものがある（残念なものがある）	<a href="#">30-</a> ★2 <a href="#">8</a>

～ものだ（「様」でなく「御中」と書くものだ）	<u>28-</u> <u>4</u> ★2
～ものだ（よく絵本を読んできたものだ）	<u>30-</u> <u>3</u> ★2
～ものだ（大したもんだ）	<u>30-</u> <u>4</u> ★2
～ものだから（先週は忙しかったものだから）	<u>19</u> <u>I-</u> ★2 <u>5</u>
～もので（友だちが泊まりに来るもので）	<u>19</u> <u>I-</u> ★2 <u>5</u>
～ものではない（悪口など言うものではない）	<u>28-</u> <u>4</u> ★2
～ものなら（できるものなら）	<u>20-</u> <u>5</u> ★2
～ものの（元気ではあるものの）	<u>18-</u> <u>5</u> ★2
～ものを（電車に乗れば早く着いたものを）	<u>18-</u> <u>10</u> ★1
～も～ば～も	<u>9</u> <u>II-</u> ★3 <u>1</u>

## や

---

～や（部屋に入ってきて来るや）	<u>5</u> <u>I-</u> ★1 <u>7</u>
～や <sup>いな</sup> 否や（ニュースが伝わるや否や）	<u>5</u> <u>I-</u> ★1 <u>7</u>
～やら～やら	<u>15-</u> <u>5</u> ★2

～ようが	<a href="#">21-</a> <a href="#">6</a> ★1
～ようがない	<a href="#">22-</a> <a href="#">2</a> ★3
～ようか～まいか	<a href="#">10</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">9</a>
～ようが～まいが	<a href="#">21-</a> <a href="#">7</a> ★1
～ようではないか	<a href="#">28-</a> <a href="#">5</a> ★2
～ようと（も）	<a href="#">21-</a> <a href="#">6</a> ★1
～ようと～まいと	<a href="#">21-</a> <a href="#">7</a> ★1
～ようとしている	<a href="#">6</a> <a href="#">I-</a> ★2 <a href="#">3</a>
～ような（期待していたようなデータ）	<a href="#">12-</a> <a href="#">1</a> ★3
～ように（子どもでも読めるように）	<a href="#">2</a> <a href="#">I-</a> ★3 <a href="#">1</a>
～ように（体が思うように動かない）	<a href="#">12-</a> <a href="#">1</a> ★3
～ようにして	<a href="#">23</a> <a href="#">II-</a> ★2 <a href="#">2</a>
～ようにも～ない	<a href="#">22-</a> <a href="#">6</a> ★1
～ようもない	<a href="#">22-</a> <a href="#">2</a> ★3
	<a href="#">20-</a> ★2



～ようものなら

[7](#)

わ

---

～わけがない（彼が知っているわけがない）

[25](#)  
[I-](#) ★3  
[2](#)

～わけだ（10日で終わるわけです）

[24](#)  
[II-](#) ★3  
[1](#)

～わけではない（勉強ばかりしていたわけではない）

[25](#)  
[II-](#) ★3  
[3](#)

～わけにはいかない

[22-](#) ★3  
[1](#)

～わりに（は）

[11](#)  
[II-](#) ★3  
[1](#)

を

---

～をおいて

[8-](#) ★1  
[7](#)

～を<sup>かぎ</sup>限りに

[3-](#) ★1  
[10](#)

～を<sup>かわ き</sup>皮切りとして

[3-](#) ★1  
[8](#)

～を皮切りに（して）

[3-](#) ★1  
[8](#)

～をきっかけとして

[13-](#) ★3  
[4](#)

～をきっかけに（して）

[13-](#) ★3  
[4](#)  
[13-](#)

～を契機 <sup>けい き</sup> として	9 ★2
～を契機に（して）	<u>13-</u> <u>9</u> ★2
～を通 <sup>つう</sup> じて（この会での活動を通じて）	<u>2</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～を通じて（年間を通じて）	<u>3-</u> <u>2</u> ★3
～を通 <sup>とお</sup> して（事務所を通して）	<u>2</u> <u>II-</u> ★3 <u>3</u>
～を通して（一生を通して）	<u>3-</u> <u>2</u> ★3
～を～とした	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～を～として	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～を～とする	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～を問 <sup>と</sup> わず	<u>14-</u> <u>3</u> ★2
～を～に（して）	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～を～にした	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～を～にする	<u>12-</u> <u>4</u> ★3
～をぬきにして（硬い話をぬきにして）	<u>7-</u> <u>4</u> ★2
～をぬきにしては（山田さんをぬきにしては）	<u>20-</u> <u>6</u> ★2
～をはじめ（として）	<u>3-</u> <u>5</u> ★2

～をはじめとする	<u><u>3-</u></u> <u>5</u> ★2
～を <sup>ふ</sup> 踏まえた	<u><u>12-</u></u> <u>9</u> ★1
～を踏まえて	<u><u>12-</u></u> <u>9</u> ★1
～をめぐって	<u><u>1-</u></u> <u>7</u> ★2
～をめぐる	<u><u>1-</u></u> <u>7</u> ★2
～をもって（非常な努力をもって）	<u><u>2</u></u> <u>II-</u> ★1 <u>4</u>
～をもって（本日をもって）	<u><u>3-</u></u> <u>11</u> ★1
～をもとに（して）	<u><u>12-</u></u> <u>3</u> ★3
～をもとにした	<u><u>12-</u></u> <u>3</u> ★3
～をもとにする	<u><u>12-</u></u> <u>3</u> ★3
～をものともせず（に）	<u><u>14-</u></u> <u>8</u> ★1
～を <sup>よぎ</sup> 余儀なくさせる	<u><u>27-</u></u> <u>12</u> ★1
～を余儀なくされる	<u><u>27-</u></u> <u>12</u> ★1
～をよそに	<u><u>14-</u></u> <u>9</u> ★1
ん	
～んばかりだ	<u><u>23</u></u> <u>II-</u> ★1

～んばかりに

～んばかりの

[6](#)

[23](#)

[II-](#) ★1

[6](#)

[23](#)

[II-](#) ★1

[6](#)

## 参考文献

### ▼教科書

『中級日本語』	東京外国語大学留学生 日本語教育センター編	(1994)	凡人社
『日本語中級J 301—基礎から中級へ—』英語版	土岐哲、関正昭、平高 史也 ほか	(1995)	スリーエーネット ワーク
『日本語の表現技術 中級 読解と作文』	羽田野洋子、倉八順子	(1995)	古今書院
『上級日本語』	東京外国語大学留学生 日本語教育センター編	(1998)	凡人社
『日本語』II	国際学友会日本語学校 編	(1998)	日本学生支援機構 東京日本語教育セ ンター
『日本語中級J501—中級から上級へ』英語版	土岐哲、関正昭、平高 史也 ほか	(2001)	スリーエーネット ワーク
『ニューアプローチ中級日本語』[基礎編] 改訂版	小柳昇	(2002)	日本語研究社
『ニューアプローチ中上級日本語』[完成編]	小柳昇	(2002)	日本語研究社
『テーマ別 中級から学ぶ日本語』改訂版	松田浩志、亀田美保、 長田龍典	(2003)	研究社
『中級へ行こう 日本語の文型と表現59』	三輪さち子、平井悦子	(2004)	スリーエーネット ワーク
『テーマ別 上級で学ぶ日本語』改訂版	松田浩志、阿部祐子、 亀田美保 ほか	(2006)	研究社
『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』	平井悦子、三輪さち子	(2007)	スリーエーネット ワーク
『「大学生」になるための日本語 1』	堤良一、長谷川哲子	(2009)	ひつじ書房

### ▼資料

『日本語能力試験出題基準』改訂版	国際交流基金、日本国 際教育支援協会編著	(2007)	凡人社
------------------	-------------------------	--------	-----

### ▼参考書

『日本語のシンタクスと意味II』	寺村秀夫	(1984)	くろしお出版
『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』	森田良行	(1985)	明治書院
『ケーススタディ日本文法』	寺村秀夫	(1987)	おうふう
『現代の助詞・助動詞』	国立国語研究所	(1987)	秀英出版
『命題の文法』	益岡隆志	(1987)	くろしお出版
『助動詞』（外国人のための日本語例文・問題シリーズ）	北川千里、井口厚夫	(1988)	荒竹出版
『接続の表現』（外国人のための日本語例文・問題シリーズ）	横林宙世、下村彰子	(1988)	荒竹出版
『日本語文法入門』	吉川武時	(1989)	アルク

『日本語の時制とアスペクト』	町田健	(1989)	アルク
「複文文型」『談話の研究と教育2』	北条淳子	(1989)	国立国語研究所
『テンス・アスペクト・ムード』（外国人のための日本語例文・問題シリーズ）	加藤泰彦、福地務	(1989)	荒竹出版
『日本語表現文型』	森田良行、松木正恵	(1989)	アルク
『基礎日本語辞典』	森田良行	(1989)	角川書店
『基礎日本語文法』	益岡隆志、田窪行則	(1989)	くろしお出版
『日本語のモダリティ』	仁田義雄、益岡隆志	(1989)	くろしお出版
『中・上級日本語教科書文型索引』	駒田聡 ほか	(1990)	くろしお出版
『モダリティの文法』	益岡隆志	(1991)	くろしお出版
『日本語のモダリティと人称』	仁田義雄	(1991)	ひつじ書房
『日本語の条件表現』	益岡隆志編	(1993)	くろしお出版
『意味上の言語単位・試論「どうってことない」は辞書にあるか』	有賀千佳子	(1994)	くろしお出版
『日本語の主題と取り立て』	益岡隆志、野田尚史、沼田善子編	(1995)	くろしお出版
『複文の研究』（上・下）	仁田義雄編	(1995)	くろしお出版
『日本語類義表現の文法』（上・下）	宮島達夫、仁田義雄編	(1995)	くろしお出版
『日本語の視点』	森田良行	(1995)	創拓社
『辞書で引けない日本語文中表現』	河原崎幹夫監	(1995)	北星堂書店
『学習者の発想による日本語表現文型例文集』	坂本正編著	(1996)	凡人社
『日本語教師のための現代日本語表現文典』	生田目弥寿編著	(1996)	凡人社
『日本語文法辞典【中級編】』	Seiichi Makino、Michio Tsutsui	(1995)	The Japan Times
『日本語誤用例文小辞典』	市川保子	(1997)	凡人社
『教師と学習者のための日本語文型辞典』	グループ・ジャマシイ編著	(1998)	くろしお出版
『続・日本語誤用例文小辞典—接続詞・副詞—』	市川保子	(2000)	凡人社
『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』	白川博之監 庵功雄 ほか	(2001)	スリーエーネットワーク
『日本語運用文法—文法は表現する—』	阪田雪子編	(2003)	凡人社
『実践にほんご指導見なおし本 機能語指導編』	K.A.I.T編著	(2003)	アスク
『中級日本語文法と教え方のポイント』	市川保子	(2007)	スリーエーネットワーク
『現代日本語文法6 複文』	日本語記述文法研究会編	(2008)	くろしお出版
『現代日本語文法2 格と構文・ヴォイス』	日本語記述文法研究会編	(2009)	くろしお出版

友松悦子（ともまつ・えつこ）

『新装版 どんなときどう使う 日本語表現文型辞典』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型200』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500 短文完成練習帳』（アルク 共著）、『チャレンジ日本語〈読解〉』（国書刊行会 共著）、『初級日本語文法総まとめポイント20』（スリーエーネットワーク 共著）、『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）、『新完全マスター文法日本語能力試験N1』、『同N2』、『同N3』（スリーエーネットワーク 共著）など。

---

宮本 淳（みやもと・じゅん）

『日本語テスト問題集—文法編』（凡人社 共著）、『新装版 どんなときどう使う 日本語表現文型辞典』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型200』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500 短文完成練習帳』（アルク 共著）、『チャレンジ日本語〈読解〉』（国書刊行会 共著）など。

---

和栗雅子（わくり・まさこ）

『新装版 どんなときどう使う 日本語表現文型辞典』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型200』（アルク 共著）、『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500 短文完成練習帳』（アルク 共著）、『日本語の教え方ABC』（アルク 共著）、『チャレンジ日本語〈読解〉』（国書刊行会 共著）、『実力日本語（上）練習帳』（東京外国語大学留学生センター編著〈共著〉）、『改訂版 読むトレーニング 日本留学試験対応』（基礎編及び応用編）（スリーエーネットワーク 共著）、『初級日本語文法総まとめポイント20』（スリーエーネットワーク 共著）、『中級日本語文法要点整理ポイント20』（スリーエーネットワーク 共著）など。

改訂版 どん なとき どう使う 日本語表現文型500  
(電子版)

発行日: 2014年 7 月 1 日(ver.1.0)

著者: 友松悦子 / 宮本淳 / 和栗雅子

校正: 岡田英夫

英語翻訳: ジョン・マクガバン

中国語翻訳: 張文麗

韓国語翻訳: 李明華

装丁: 應家洋子

電子書籍制作: 有限会社ギルド

発行者: 平本照磨

発行所: 株式会社アルク

〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12

Email: [csss@alc.co.jp](mailto:csss@alc.co.jp)

Website: <http://www.alc.co.jp/>

- ・ 本書は『改訂版 どん なとき どう使う 日本語表現文型500』（2010年発行）の電子書籍版です。
- ・ 本書の全部または一部の無断転載を禁じます。著作権法上で認められた場合を除いて、本書からのコピーを禁じます。



©2010 Etsuko Tomomatsu / Jun Miyamoto / Masako Wakuri / ALC Press Inc.

PC: 9580053

ISBN: 9784757417588

地球人ネットワークを創る



アルクのシンボル  
「地球人マーク」です。

## 1

## 行為の対象 答え

し  
知っていますか

1. わたしは日本の民謡<sup>みんよう</sup> a. <sup>しら</sup>について調べている。
2. 大会<sup>たいかい</sup>ではみんなの期待<sup>き たい</sup> d. <sup>こた</sup>えにこたえて、  
精<sup>せい</sup>いっぱいがんばろうと思います。
3. デパートの店員<sup>てんいん</sup>はお客様<sup>きやくさま</sup> b. <sup>たい</sup>に対して、できるだけ丁寧<sup>ていねい</sup>な言葉<sup>ことば</sup>を使<sup>つか</sup>わなければならぬ。
4. ダム建設<sup>けんせつ</sup>の問題<sup>もんだい</sup> e. をめぐるさまざまな  
議論<sup>ぎろん</sup>は簡単<sup>かんたん</sup>にはまとまらないだろう。
5. このバッグは本やノートがたくさん入り

ます。教師<sup>きょうし</sup>のわたし c . 向<sup>む</sup>きにデザイン  
ンされているので気<sup>き</sup>に入<sup>い</sup>っています。

---

つか

使えますか

---

1. わたしはあの人に対して、{ a. 失礼な<sup>しつれい</sup>  
態度<sup>たいど</sup>をとってしまいました。 }
2. わたしのアパートは { b. 独身者向けだ<sup>どくしんしゃ</sup>  
から、あまり広<sup>ひろ</sup>くない。 }
3. わたしはあの人に関<sup>かん</sup>して、{ a. 何も知  
らないのです。 }
4. { a. 社員<sup>しゃいん</sup>たちの要望<sup>ようぼう</sup>にこたえて、 } 社  
員旅行<sup>りょこう</sup>は 2 泊<sup>はく</sup> 3 日<sup>か</sup>と決<sup>け</sup>定<sup>てい</sup>した。
5. 土地<sup>とち</sup>の問題<sup>もんだい</sup>をめぐって、{ b. 兄弟<sup>きょうだい</sup>の  
争<sup>あらそ</sup>いが続<sup>つづ</sup>いている。 }

## 2

もくてき しゅだん ばいかい こた  
目的・手段・媒介 答え

し  
知っていますか

1. 約束の時間に遅れない b. ように、早く  
いえ  
家を出た。
2. 小林さんの話 a. によると、駅前にス  
えきまえ  
ポーツセンターができるそう。
3. 木村さんとは共通の友人 c. を通じて  
し あ  
知り合ったんです。
4. 調査を進めていく e. 上で、関係者全  
ちょう さ すす うえ かんけいしゃぜん  
員から意見を聞くことが必要だ。  
いん い けん ひつよう
5. 農家の努力 d. によって 今年のりんご  
のう か どりよく  
の生産量は増えています。  
せいさんりょう ふ

---

つか

使えますか

---

1. 上野<sup>うえ の</sup>には { a. 地下鉄<sup>ち か てつ</sup>より J R<sup>せん</sup>線で } 行く<sup>ほう べん り</sup>方が便利<sup>べん り</sup>でしょう。
2. この<sup>こうこく</sup>広告<sup>こうこく</sup>によれば、 { b. 新しいゲームソフトが発売されるそうだ。 }
3. 旅行<sup>りょこう</sup>の切符<sup>きつ ぷ</sup>やホテルの予約<sup>よ やく</sup>は、 { a. 旅行<sup>りょ</sup>会社<sup>こうがいしゃ</sup>を通して<sup>とお</sup>の } 予約<sup>よ やく</sup>が簡単<sup>かんたん</sup>で便利<sup>べん り</sup>です。
4. { a. 小学生<sup>しょう せい</sup>とテレビ<sup>てれび</sup>の<sup>かんけい</sup>関係<sup>かんけい</sup>について調査<sup>ちやう さ</sup>するために } アンケート<sup>おこな</sup>を行う<sup>おこな</sup>ことにした。
5. 外国語<sup>べん きやう</sup>を勉強<sup>べん きやう</sup>する上で { b. テレビは

かなり役<sup>やく</sup>に立<sup>た</sup>つ。}

し  
知っていますか

1. 京都には清水寺 e. をはじめ、観光名所がたくさんある。
2. テーブルの上のものは食べたい c. だけ食べていいんですよ。
3. 9月から10月 a. にかけて、日本各地で祭りが行われます。
4. 今、世界ではすべての分野 d. にわたって女性たちの活躍が目立つ。
5. 在学期間 b. を通じて、彼はいつもクラスのリリーダーだった。



---

つか

使えますか

---

1. { b. 夜中から明け方にかけて、 } <sup>よわ</sup>弱い  
<sup>じ しん</sup>地震が<sup>すうかい</sup>数回あった。
2. ここにある本を { a. できるだけたくさん } <sup>も</sup>持って<sup>かえ</sup>帰ってください。
3. { a. <sup>りょうしん</sup>ご両親をはじめ、 } <sup>か ぞく</sup>ご家族のみ  
<sup>げん き</sup>なさんはお元気ですか。
4. あしたは { b. 東北地方の全域にわたって、 } <sup>ゆき</sup>雪が<sup>ふ</sup>降るでしょう。
5. { b. この地方は年間<sup>つう</sup>を通じて、 } 雨が  
<sup>すく</sup>少ない。

し  
知っていますか

1. コーヒーショップで話をしている a. う  
ちに、大切な用事を忘れてしまった。  
たいせつ よう じ わす
2. 留学 e. に 際して、わたしはいろいろな  
人の世話になった。  
りゅうがく さい せ わ
3. 閉会のあいさつが お 終わった b. ところ  
に、中川さんが入ってきた。  
へいかい なかがわ
4. 先日 京 都へ旅行した d. 折に、京都大  
学の山田 教授を訪ねた。  
せんじつきょう と りょこう おり だい がく やま だ きょうじゅ たず
5. 面接試験の c. 最 中に、急におなかが  
痛くなった。  
めんせつ し けん さいちゅう きゅう いた

---

つか

使えますか

---

1. { a. 音楽<sup>おんがく</sup>を聴<sup>き</sup>いているうちに、 } 眠<sup>ねむ</sup>く  
なってきた。
2. { b. わたしは会議<sup>かいぎ</sup>の最中<sup>さいちゅう</sup>でも、 } 眠る  
ことがある。
3. みち子<sup>こ</sup>はちょっと本を読みかけたが、  
{ a. すぐに眠<sup>ねむ</sup>ってしまった。 }
4. { b. 非常<sup>ひじょう</sup>の際<sup>さい</sup>には、 } この出口<sup>でぐち</sup>から出  
てください。
5. 研究発表<sup>けんきゅうはっぴょう</sup>をするにあたって、 { b. い  
ろいろ準備<sup>じゅんび</sup>をした。 }

## 5

## 5 時間的同時性・時間的前後関係 答え

し  
知っていますか

1. ラッシュアワーのときは、今電車が出て行った d. かとおもう ともう次の電車が来る。
2. 料理の材料は忘れない b. うちに ノートに書いておこう。
3. この果物は実がもっと大きくなって c. からでない とおいしくない。
4. 木村さんと別れて a. はじめて、彼女のほんとうの心の深さを知った。

5. 会<sup>かい</sup>に入るかどうか、友だちとよく相談<sup>そうだん</sup>したe. 上<sup>うえ</sup>で<sup>き</sup>決<sup>おも</sup>めたいと思います。

---

つか

使えますか

---

1. { a. テレビをつけたとたんに、テレビ  
の後ろでバチッと音<sup>おと</sup>がした。 }
2. 社<sup>しゃ</sup>長<sup>ちょう</sup>が着<sup>つ</sup>き次第<sup>しだい</sup>、 { b. 会議を始めよう。 }
3. 国では見なかったが、日本に来てからは、 { b. テレビでドラマをよく見ている。 }
4. { a. 研<sup>けん</sup>究<sup>きゅう</sup>会<sup>かい</sup>では、発<sup>は</sup>表<sup>っぴょう</sup>に先<sup>さき</sup>立<sup>だ</sup>って、  
主<sup>しゅ</sup>催<sup>さい</sup>者<sup>しゃ</sup>から発<sup>は</sup>表<sup>っぴょう</sup>者<sup>しゃ</sup>の紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>があった。 }
5. { a. 8時になったら、 } 出<sup>で</sup>かけよう。

し  
知っていますか

1. 退院した<sup>たいいん</sup>後<sup>あと</sup>、日がたつ b. につれて<sup>たい</sup>体  
力も回復<sup>りよく かいふく</sup>してきた。
2. これは山に<sup>のぼ</sup>登<sup>いのち</sup>る人の命を支えるロープな  
のだから、丈夫<sup>じょうぶ</sup>なら丈夫な c. ほどい  
い。
3. 学校で<sup>なら</sup>習<sup>えいご</sup>った英語は、その後ぜんぜん使<sup>つか</sup>  
わないので、忘<sup>わす</sup>れる a. 一方だ<sup>いっぽう</sup>。
4. 都会に<sup>と かい</sup>住<sup>す</sup>む人が失<sup>うしな</sup>い d. つつあるもの、  
それは昔<sup>むかし</sup>の人が生活<sup>せいかつ</sup>の中に感<sup>かん</sup>じた季節感<sup>き せつかん</sup>  
ではないだろうか。

5. 夏期オリンピック大会の入場行進が  
今、始まろうe. としている。観客が  
大きな拍手で迎えている。



---

つか

## 使えますか

---

1. <sup>あたた</sup>暖かくなるにつれて、{ a. いろいろな  
<sup>はな</sup>花が<sup>つぎつぎ</sup>次々と<sup>さ</sup>咲き<sup>はじ</sup>始めた。 }
2. { b. <sup>かいしゃ</sup>会社での<sup>ち い</sup>地位が<sup>あ</sup>上がれば上がるほ  
<sup>せきにん</sup>ど} <sup>し</sup>責任のある<sup>ごと</sup>仕事が増える。
3. この本は<sup>はじ</sup>初めはむずかしいが、<sup>すす</sup>読み進む  
にしたがって { a. おもしろくなってくる。 }
4. カードで<sup>か</sup>買い<sup>もの</sup>物をすると、{ b. <sup>けっきょく</sup>結局  
<sup>い</sup>は<sup>もの</sup>要らない物が増えるばかりだ。 }
5. { b. 試験の日が<sup>ちか</sup>近づく } にしたがっ  
て、だんだん<sup>しんぱい</sup>心配になってきた。

し  
知っていますか

1. 健康診断<sup>けんこうしんだん</sup>には朝 食<sup>ちようしょく</sup> c. ぬきで来てくだ  
さい。
2. その日あったことを考え<sup>かんが</sup> b. つつ、いつ  
も夜散歩<sup>よるさんぽ</sup>をする。
3. ボストンに出 張<sup>しゅっちょう</sup>した a. ついでに、美  
術館<sup>じゅつかん</sup>に寄<sup>よ</sup>ってみた。
4. この教科書代<sup>きょうかしょだい</sup>2,000円というのは消 費税<sup>しょうひぜい</sup>  
d. ぬきの値段<sup>ねだん</sup>です。
5. 今シーズンはけがをしたキャプテンを  
e. ぬきにしてチーム作り<sup>づく</sup>をしなければ

ならない。

---

つか

使えますか

---

1. { a. 駅<sup>えき</sup>前<sup>まえ</sup>の本<sup>ほん</sup>屋<sup>や</sup>まで行ったついでに、  
プリンターのインクを<sup>か</sup>買ってきた。 }
2. { a. さあ、硬<sup>かた</sup>いあいさつはぬきに  
し<sup>こん</sup>て、今<sup>や</sup>夜<sup>の</sup>は大いに飲<sup>の</sup>みましょう。 }
3. { b. 山<sup>やま</sup>道<sup>みち</sup>を登<sup>のぼ</sup>りつつ、人生について  
<sup>かん</sup>考<sup>が</sup>えた。 }
4. { b. 今<sup>こん</sup>晩<sup>ばん</sup>はアルコールぬきのパーティ  
ーです。 }
5. { a. 前<sup>まえ</sup>置<sup>お</sup>きぬきで、先<sup>けつ</sup>に結<sup>ろん</sup>論<sup>ろん</sup>からご説<sup>せつ</sup>  
<sup>めい</sup>明<sup>めい</sup>いたします。 }

し  
知っていますか

---

1. あの人がそばにいてくれる c. かぎり、  
わたしは<sup>あんしん</sup>安心していただける。
2. 名簿<sup>めいぼ</sup>で調べた<sup>しら</sup> d. かぎりでは、そういう  
名前<sup>なまえ</sup>の人はこの学校にはいません。
3. この健康<sup>けんこう</sup>センターでは、お子さま<sup>おこさま</sup>連れの方<sup>かた</sup> a. に<sup>かぎ</sup>限り、遊び<sup>あそ</sup>道具<sup>どうぐ</sup>をお貸<sup>か</sup>しいたします。
4. うちの子 b. に<sup>わる</sup>限って、そんな悪いことをするはずがない。

---

つか

使えますか

---

1. この健康センターの入場料は、{ a .  
70歳以上の方に限り無料です。 }
2. わたしが { a . 疲れているときに限っ  
て } 部長に仕事を頼まれる。
3. あの人に限って { b . そんなばかなこと  
はしないと思う。 }
4. { b . 日本に住んでいるかぎり、 } 日本  
語ができないと不便だ。
5. わたしが知るかぎりでは、 { b . そんな  
町はこの地方にはない。 }

し  
知っていますか

1. うちの妹は、ペットの世話は b . もち  
ろん、家族の手伝いもよくするんだよ。
2. 今のアルバイトは、仕事も簡単 c . な  
ら、店の人もやさしいので、楽です。
3. 正子さんは性格が明るい a . だけでな  
く、だれにでもとてもやさしいので人気  
がある。
4. 東京に d . 限らずどこの大都市でも環  
境に気を配った建物が増えている。
5. 今回のプロジェクトでは、スタッフは

e. もとより、<sup>かくほうめん</sup>各方面からのご協<sup>きょうりょく</sup>力が  
<sup>え</sup>得られたことを感謝<sup>かんしゃ</sup>しております。



---

つか

使えますか

---

1. このレストランは味がいい上に、{ a .  
値段も安いので、いつも込んでいる。 }
2. 手術の後は、{ b . 普通のごはんはも  
ちろん、おかゆも食べられない。 }
3. この服は色がいいのみならず、{ a . デ  
ザインも新しい。 }
4. このバンドは若者に限らず、{ b . 40歳  
以上の人たちにも人気がある。 }
5. 専門の経済問題ばかりか、{ a . 法律に  
ついて詳しい人が入社しました。 }

し  
知っていますか

1. おとうと き たい はん  
弟は、父の期待b.に反してスポーツ  
せ かい  
の世界に入ってしまった。
2. やま だ く ん じ き た な  
山田君のレポートの字はいつも汚い。で  
て い し ゅ つ  
も、提出したe.だけましかな。
3. よるおそ なみだ  
夜遅くまでのアルバイトは涙が出るa.  
ほ ど つ ら か っ た。
4. な つ れ い か よ ほ う  
今年の夏は冷夏という予報だったが、冷  
き ろ く て き あ つ  
夏c.どころか記録的な暑い夏になって  
しまった。
5. た む ら か ち ょ う し ご と き び い っ  
田村課長は仕事には厳しかったd. 一

ほう ぶ か めんどう  
方で、部下の面倒はよく見た。

---

つか

使えますか

---

1. 会社勤めは時間にしばられる反面、  
    { a. 生活の安定というよさがある。 }
2. 駅員「横浜へ行くには 1 番線の特急に  
    { b. 乗るのがいちばん早いです」 }
3. 東京に対して { b. 京都は高層ビルが  
    少ない。 }
4. これはかばんというより、 { a. スーツ  
    ケースみたいです。 }
5. 今度の旅行に行こうか行くまいか、  
    { b. 迷っています。 }

し  
知っていますか

1. わたしはクラスの委員 b. として、1 年間がんばるつもりです。
2. ここは一流ホテル d. だけあって、雰  
囲気がすばらしい。
3. 水は生物 a. にとってなくてはならないものだ。
4. 今日は春の一日 e. にしては、寒かったですね。
5. あの人は年齢の c. わりには若く見える。

---

つか

使えますか

---

1. { a. 議論<sup>ぎろん</sup>に時間をかけたわりには、 }  
いい結論<sup>けつろん</sup>が出なかった。 }
2. 正月<sup>しょうがつ</sup>はわたしにとって、 { b. 1 年中  
でいちばん楽しい時です。 }
3. あの人は仕事<sup>しごと</sup>の上では { a. 満点<sup>まんてん</sup>をあげ  
られる人です。 }
4. ここは観光地<sup>かんこうち</sup>にしては、 { b. 訪れる人  
が少<sup>すく</sup>ない。 }
5. 弟<sup>おとうと</sup>が仕事<sup>しごと</sup>をなくして困<sup>こま</sup>っているが、  
{ a. わたしにしたところで何もしてや  
れない。 }

し  
知っていますか

1. 今日のスピーチ大会は、このプログラム  
d. に沿って行います。
2. これはある伝説b. をもとにして作ら  
れたドラマです。
3. 田中先生のご指導e. のもとで、この論  
文を書きあげました。
4. 法律c. に基づいた公正な選挙が行われ  
なければならない。
5. 教科書に書いてあるa. とおりに実験  
をやってみたが、うまくいかなかった。

---

つか

使えますか

---

1. 受験<sup>じゅけん</sup>は { b. 本人が望んでいたような }  
結果<sup>けっか</sup>にはならなかった。
2. { a. この犬<sup>いぬ</sup>は動物<sup>どうぶつ</sup>好きな田中<sup>たなか</sup>さん夫妻<sup>ふさい</sup>  
のもとで } 毎日<sup>しあわ</sup>幸せ<sup>す</sup>そうに過<sup>す</sup>ぎしていま  
す。
3. ひらがなとかたかなは、漢字<sup>かんじ</sup>をもとにし  
て { b. 作<sup>つく</sup>られた。 }
4. 小説<sup>しょうせつ</sup>はかならずしも読者<sup>どくしゃ</sup>の期待<sup>きたい</sup>に沿<sup>そ</sup>っ  
て { a. 話<sup>てんかい</sup>が展開するわけではない。 }
5. 教育<sup>きょういく</sup>は平等<sup>びやうどう</sup>の原則<sup>げんそく</sup>に基づ<sup>もと</sup>いて { b. 行<sup>おこな</sup>  
われなければならない。 }



し  
知っていますか

1. フランス旅行<sup>りょこう</sup> c. をきっかけに、わたしはフランス料理<sup>りょうり</sup>を習<sup>なら</sup>い始<sup>はじ</sup>めた。
2. 人は地位<sup>ちい</sup> e. に<sup>おう</sup>応じて、社会的責任<sup>しゃかいてきせきにん</sup>も重<sup>おも</sup>くなる。
3. 場合<sup>ばあい</sup> b. によっては、今夜<sup>こんや</sup>は家<sup>うち</sup>に帰<sup>かえ</sup>れないかもしれません。
4. 同じ料理<sup>おな りょうり</sup>でも、店<sup>みせ</sup> a. によって、味<sup>あじ</sup>が違<sup>ちが</sup>う。
5. あの人は出<sup>しゅっちょう</sup>張<sup>しゅるい</sup> d. のたびに、書類<sup>しゅるい</sup>を入<sup>か</sup>れるかばん<sup>か</sup>を<sup>か</sup>買<sup>か</sup>い替<sup>か</sup>える。

---

つか  
使えますか

---

1. 天気によって、{ a. ここから富士山<sup>ふ じ さん</sup>が見えたり見えなかったりする。 }
2. テレビに出たことがきっかけで、{ b. 急に友人<sup>きゅう ふ</sup>が増えた。 }
3. 母は美容院<sup>び よういん</sup>へ行くたびに、{ a. 髪型<sup>かみがた</sup>を<sup>か</sup>変える。 }
4. この音楽<sup>おんがく</sup>を聴く<sup>き</sup>につけて、{ b. 子ども<sup>おも</sup>のころのことを思い出す。 }
5. { b. どんな解決方法<sup>えら</sup>を選ぶかは、 } あなたの考え方<sup>かんが</sup>次第<sup>かた し だい</sup>です。

し  
知っていますか

1. この仕事は内容 b. はともかく、給料  
の面でちょっと問題がある。
2. 値段の高い安い a. にかかわりなく、  
いい物は売れるという傾向がある。
3. 田中さんは相手の都合 c. もかまわず仕  
事を頼んでくるので、本当に困る。
4. この店の料理は値段 b. はともかく、  
味は最高だ。
5. 電車の中で人が見ているの c. もかまわ  
ず泣いている女の人を見た。

---

つか  
使えますか

---

1. { b. 会に参加するしないにかかわら  
ず } アンケートにはお<sup>こた</sup>答えください。
2. 交通信号が<sup>こうつうしんごう</sup>赤<sup>あか</sup>なのもかまわず、 { a. あ  
の<sup>みち</sup>人<sup>わた</sup>は道<sup>みち</sup>を渡<sup>わた</sup>ってしまった。 }
3. このアパートは<sup>や</sup>家賃<sup>ちん</sup>の<sup>たか</sup>高さはさておき、  
{ b. <sup>かんきょう</sup>環境がとても気に入った。 }
4. { a. この<sup>し</sup>仕事<sup>ごと</sup>は<sup>けいけん</sup>経験<sup>う</sup>の有<sup>む</sup>無<sup>と</sup>を問わ  
ず、 } <sup>おう</sup>だれでも<sup>ぼ</sup>応募<sup>ぼ</sup>できます。
5. その車<sup>か</sup>を<sup>か</sup>買<sup>か</sup>うかどうかはともかくとし  
て、 { b. まず見に行こう。 }

し  
知っていますか

1. 机の上には資料や図面 b. や色鉛筆などが置いてある。
2. ただぶらぶらしていないで、本を読むとか旅行をする a. とか、もっと休みを有効に使うかどうか。
3. 太郎にしても次郎 c. にしても、うちの子どもはどうしてみんな運動が苦手なんだろう。
4. 日本語では漢字やひらがな d. やら、3つも文字を覚えなければならない。

5. 天<sup>てん</sup>ぷらを揚<sup>あ</sup>げるにしろ、ケーキ<sup>や</sup>を焼く  
e. にしろ、料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>は火<sup>ひ</sup>加<sup>か</sup>減<sup>げん</sup>が大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>だ。

---

つか  
使えますか

---

1. 決<sup>き</sup>まったら { b. メールするとかファクスするとかして } 知<sup>し</sup>らせてください。
2. わたしは { a. 桜<sup>さくら</sup>とか梅<sup>うめ</sup>とかいった } 木<sup>き</sup>に咲<sup>さ</sup>く花<sup>はな</sup>が好<sup>す</sup>きだ。
3. あけみさんとかミナさんとか、 { b. クラスには人<sup>にん</sup>気<sup>き</sup>者<sup>もの</sup>が多<sup>おほ</sup>い。 }
4. 大学<sup>だいがく</sup>にせよ専<sup>せん</sup>門<sup>もん</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>にせよ、 { b. 行<sup>い</sup>くなら目<sup>もく</sup>的<sup>てき</sup>をはっきり持<sup>も</sup>ちなさい。 }
5. 彼<sup>かれ</sup>の部<sup>へ</sup>屋<sup>や</sup>には大<sup>おお</sup>型<sup>がた</sup>テレビやら高<sup>こう</sup>級<sup>きゅう</sup>ソフアやら、 { a. 高<sup>たか</sup>そうなものがいっぱいある。 }

し  
知っていますか

1. 早く仕事が決まらな<sup>き</sup>いと、家賃<sup>や ちん</sup> c. さえ  
<sup>はら</sup>払えなくなる。
2. 間違<sup>ま ちが</sup>いを認める勇気<sup>みと ゆう き</sup> a. こそが大切だ。<sup>たいせつ</sup>
3. 彼の意見<sup>かれ い けん</sup>に賛成<sup>さんせい</sup>する人は、1 人<sup>ひとり</sup> e. と  
していなかった。
4. 「納豆<sup>なっとう</sup> d. など食べたくない」という人  
は日本人にもいる。
5. その人がどんな人か、ちょっとつきあっ  
た b. くらいではわからない。



---

つか

使えますか

---

1. 課長<sup>か ちょう</sup>は { b. 小さいミスさえ許さ<sup>きび</sup>ない } 厳しい人だ。
2. 目玉焼き<sup>め だま や</sup>ぐらいわたしにも { a. 作れ<sup>つく</sup>ます。 }
3. あの人の言<sup>い</sup>うことなんか { a. 信じ<sup>しん</sup>られない。 }
4. 子どもじゃないんだから { b. ジュースなんか飲<sup>の</sup>みたくない。 }
5. わたしの意見<sup>い けん</sup>は会議<sup>かい ぎ</sup>で何<sup>ひと</sup>1つとして { b. 取り上げられなかった。 }

し  
知っていますか

1. 小学校 c. というと、大勢のおおぜい子どもたち  
ひろ こうてい あたま う  
や広い校庭が頭に浮かびます。
2. 友だち d. というものはありがたいもの  
のだ。
3. 正三角形 a. というのは、3 辺のべん おな なが  
が同じ長さ  
の三角形のことである。
4. 決 勝 戦 で 負けたときの悔しさ e. とい  
くや  
ったら、言葉 では 表せない。  
こと ば あらわ
5. 彼は 走る こと b. に かけてはだれにも 負  
かれ はし ま  
けないだろう。

---

つか

使えますか

---

1. 「うりふたつ」というのは、<sup>ふた</sup>2つのものが { a. よく似<sup>に</sup>ていることです。 }
2. わたしは水泳<sup>すいえい</sup>にかけては、 { a. 自信<sup>じしん</sup>があります。 }
3. 校則<sup>こうそく</sup>というのと、 { b. まず、とてもきびしいものを想像<sup>そうぞう</sup>します。 }
4. { b. 外国で1人で暮らすということ  
は、 } 大変ですね。
5. この夏<sup>なつ</sup>の暑<sup>あつ</sup>さといったら、 { a. ほんとうにひどかった。 }

し  
知っていますか

1. 入院<sup>にゅういん</sup> a. といっても、検査<sup>けんさ</sup>のために 1 日入院するだけです。
2. この辺<sup>へん</sup>は都心<sup>としん</sup>の近く<sup>ちか</sup>にあり d. ながら、  
緑<sup>みどり</sup>も多く、静<sup>しず</sup>かな住宅地<sup>じゅうたくち</sup>です。
3. 太郎<sup>たろう</sup>は自分<sup>じぶん</sup>では歌<sup>うた</sup>えない c. くせに、ほ  
かの人の歌<sup>うた</sup>を「下手<sup>へた</sup>だ、下手<sup>へた</sup>だ」と言<sup>い</sup>  
う。
4. 昼間<sup>ひるま</sup>は晴<sup>は</sup>れる e. ものの、北風<sup>きたかぜ</sup>が強<sup>つよ</sup>く気<sup>き</sup>  
温<sup>おん</sup>は上<sup>あ</sup>がらないでしょう。(天気予報<sup>てんきよほう</sup>)
5. 日本人<sup>にっぽんじん</sup>だ b. からといって、日本のこ

とをよ<sup>く</sup>知<sup>し</sup>っているとは限<sup>かぎ</sup>らない。

つか

使えますか

---

1. { a. 経験<sup>けいけん</sup>があるといっても、 } まだこの仕事<sup>しごと</sup>を始めて<sup>はじ</sup>3年です。
2. 彼は通勤<sup>かれ つうきん</sup>に15分<sup>ふん</sup>しかかからない所<sup>ところ</sup>に住<sup>す</sup>んでいるくせに、 { b. 遅刻<sup>おお</sup>が多い。 }
3. { a. 雨にもかかわらず、 } 大勢<sup>おおぜい</sup>の人があつ集<sup>あつ</sup>まった。
4. 新入社員<sup>しんにゅうしゃいん</sup>であるにしても { a. 彼は仕<sup>し</sup>事が遅<sup>ごと おそ</sup>すぎる。 }
5. { b. 自分<sup>じぶん</sup>でも悪い<sup>わる</sup>と知りつつ、 } 試験<sup>しけん</sup>のときに友だちの答<sup>こた</sup>えを見てしまった。

し  
知っていますか

1. 全国の小学校で、インフルエンザ b.  
による休校が増えている。
2. 先輩が親切に教えてくれた a. おかげ  
で、新入社員のわたしも会社にも早く慣  
れることができた。
3. あのまじめな林さん d. のことだから、約束を守らないということはないだ  
ろう。
4. みんなの前でわたしが「やる」と言った  
c. 以上は、何があっても最後までや

ります。

5. ろくおんちゅう 録音中 e. につきノックをしないでください。



---

つか  
使えますか

---

1. これだけの<sup>かね</sup>お金<sup>つか</sup>を使ったからには、  
{ a. 失敗<sup>しっぱい</sup>は許<sup>ゆる</sup>されない。 }
2. 子どものころに<sup>おも</sup>重い<sup>びょう</sup>病<sup>き</sup>気<sup>き</sup>をしたせい  
で、 { b. わたしは今でも<sup>からだ</sup>体が<sup>よわ</sup>弱い。 }
3. リンさんは<sup>まん</sup>漫画<sup>が</sup>家<sup>か</sup>だけあって、 { a. 人<sup>ひょうじょう</sup>の表<sup>ひょうじょう</sup>情<sup>じょう</sup>をかくのがうまい。 }
4. <sup>へ</sup>部屋<sup>や</sup>の<sup>でん</sup>電<sup>き</sup>気<sup>き</sup>が消えているところを見ると、 { b. 田中さんは留守なのだろう。 }
5. はじめに水<sup>くわ</sup>を 1 cc<sup>くわ</sup>加えなかったばかり  
に、 { a. 実験<sup>じっけん</sup>は失敗<sup>しっぱい</sup>してしまった。 }

し  
知っていますか

1. 結婚するかどうか分からないが、もし、  
する b. としたら 30歳 になる前がいい。
2. みんなの協力 d. をぬきにしてはこの  
仕事は成功しなかっただろう。
3. 家族が病気になる、健康で a. さえ  
あれば ほかに何も要らないと思う。
4. 佐藤さんという人がうちの仕事に合うか  
どうか、会ってみ c. ないことにはわか  
らない。
5. 兄はカメラをととても大切にしている。だ

ま<sup>か</sup>って<sup>あ</sup>借り e. ようものなら後で大変な  
ことになる。

---

つか  
使えますか

---

1. この仕事<sup>しごと</sup>は時間さえ { b. あればできる。 }

2. お金で解決<sup>かいけつ</sup>できるものなら、 { a. そうしたい。 }

3. 宝くじでも当たら<sup>あ</sup>ないかぎり、 { b. 家<sup>いえ</sup>は買<sup>か</sup>えない。 }

4. ミキさんをぬきに<sup>しては</sup>、 { b. パーティーは楽しくないだろう。 }

5. 夜、遅<sup>よる</sup>く帰<sup>おそ</sup>ろうものなら、 { a. 父にど<sup>かえ</sup>なられる。 }

し  
知っていますか

1. たとえ大きい地震が（b. 起きても）、  
このビルは大丈夫だろう。
2. どんな会社を始める（b. としても）、  
お金が必要だ。
3. あなたがどちらの進路を選ぶ（c. にせ  
よ）、わたしはあなたを応援し続けま  
す。
4. 結婚するにしろ、しない（b. にしろ）  
早く自分の家を持ちたい。
5. 今からどんなに（a. がんばったとして

も)、もうどうにもならない。

---

つか

使えますか

---

1. { b. たとえ 1 日が30時間でも、 } わたしはやっぱり忙しい。  
いそが
2. どんなに急いだとしても、 { b. 8 時の新幹線には乗れないだろう。 }  
いそ
3. { b. だれも訪ねてこないとしても、 }  
いつも部屋へやをきれいにしておきなさい。
4. どんなに高い本であるにせよ、 { a. 彼かれなら買えるだろう。 }  
か
5. { a. どこへ行くにしろ、 } 妹はわたしといっしょに行きたがる。

し  
知っていますか

1. テレビの修理屋が今日来ると言っていたから、留守にする b. わけにはいかな  
い。
2. 彼はその晩わたしの家にいたのだから、  
事件の場所にいたなどということはありません。  
d. 得ない。
3. 彼が最近言ったり書いたりしていること  
は、理解し e. がたい。
4. 彼からは国を出てから何の連絡もないの  
で、手紙の出し a. ようがない。



5. 入ったばかりの会社をやめてしまったな  
どとは、両親には言い出し c. かね  
る。

---

つか

使えますか

---

1. { a. 材<sup>ざ</sup>料<sup>いりょう</sup>が何もないのだから、おいしい料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>など作り<sup>つく</sup>ようがない。 }
2. { b. 考<sup>かん</sup>え<sup>が</sup>得<sup>う</sup>る方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>は、もうみんな試<sup>ため</sup>してみたのだが.....。 }
3. { b. 彼<sup>かの</sup>女<sup>じょ</sup>からのせっかくのプレゼントだから、大<sup>い</sup>きすぎるなどと言うわけにはいかない。 }
4. { b. 劳<sup>ろう</sup>働<sup>どう</sup>条<sup>じょう</sup>件<sup>けん</sup>についての会<sup>かい</sup>社<sup>しゃ</sup>側<sup>がわ</sup>のこ  
の提<sup>てい</sup>案<sup>あん</sup>は受<sup>う</sup>け入<sup>い</sup>れがたい。 }
5. { a. それについてはすぐにはお答<sup>こた</sup>えしかねます。 }

し  
知っていますか

1. 忙しくて何日もそうじしなかったから、  
部屋がほこり b. だらけだ。
2. 山の上で見る星は今にも降ってくる e.  
かのように近く感じられる。
3. 外食ばかりしていると、カルシウムが  
不足 a. がちになる。
4. こんな子ども d. っぽい服はもう着られないよ。
5. かばんの中に押し込む c. ようにして、  
たくさんの書類を入れた。

---

つか

使えますか

---

1. 週末は { a. くもりがちの天気になる  
そうだ。 }
2. わあ、 { b. ごみだらけの庭だなあ。そ  
うじした方が<sup>ほう</sup>いいよ。 }
3. 最近、山田<sup>やま だ</sup>さんは { b. 忘れ<sup>わす</sup>っぽくなっ  
て困<sup>こま</sup>ったと言<sup>い</sup>っている。 }
4. { a. このごろ成績<sup>せいせき</sup>が下<sup>さ</sup>がり気味<sup>きみ</sup>で、 }  
心配<sup>しんぱい</sup>している。
5. あの子はけがをしたのか、 { b. 足を引  
きずるようにして歩いています。 }

し  
知っていますか

1. 会社をやめるかどうか、いろいろ迷った  
d. あげく、やはりやめることにした。
2. 先週の火曜から外食しているから、今  
日でもう1週間も外食している b. こ  
とになる。
3. 「高校のサッカーの決勝戦は引き分け  
らしいよ」  
「ということは、つまり両校優勝 a. 。  
ということだね」
4. 前のバスが行った c. きり、30分もたつ

のにまだ次<sup>つぎ</sup>のバスが来ない。

5. 駐<sup>ちゅう</sup>車<sup>しゃ</sup>するとき、あわてていたので、もう少し<sup>すこ</sup>でとなりの車にぶつけるe. ところ  
だった。

---

つか

使えますか

---

1. 就 職<sup>しゅうしょく</sup>について両 親<sup>りょうしん</sup>に相談<sup>そうだん</sup>したところ、  
    { b. 自分<sup>じぶん</sup>で決めろと言われた。 }
2. わたしたちは { b. 3時に出発すること  
    になっている。 }
3. { a. なんでも最後<sup>さいご</sup>までやりぬくことが  
    大切<sup>たいせつ</sup>だ。 }
4. { b. 一生懸命<sup>いっしょうけんめい</sup>がんばらなければ、かな  
    らず後<sup>こう</sup>で後悔<sup>こうかい</sup>することになりますよ。 }
5. { a. 何度<sup>なんど</sup>も教員試験<sup>きょういん し けん</sup>を受<sup>う</sup>けた末<sup>すえ</sup>に、  
    つい<sup>ごうかく</sup>に合格<sup>ごうかく</sup>した。 }

し  
知っていますか

1. こんな不正確な仕事のやり方では、課  
長のOKが出る a. はずがない。
2. 今週はカラオケに行く約束だけど、忙  
しくてカラオケ e. どころじゃない。
3. 彼らは途中で休む c. ことなく、目的  
地まで歩き続けた。
4. 希望者が多いので、申し込んでもみんな  
参加できる b. とは限らない。
5. 「先日の仕事の話、無理をすればやれな  
い d. こともないんですが……」



「そうですか。それではお願<sup>ねが</sup>いします」

---

つか

使えますか

---

1. 大阪<sup>おおさか</sup>から 3 時間はかかるから、 { a . 2  
時<sup>つ</sup>に着くわけがない。 }
2. 昼食<sup>ちゅうしょく</sup>を食べることは食べましたが、  
{ a . サンドイッチ<sup>ひと</sup> 1 つだけなんです。  
す。 }
3. 品物<sup>しなもの</sup>は、安<sup>やす</sup>ければかならず { b . 売れる  
というものではない。 }
4. 大学院<sup>だいがくいん</sup>に行くことを決<sup>き</sup>めたことは決めた  
んだけど、 { a . 自信<sup>じしん</sup>がない。 }
5. あんな映画<sup>えいが</sup>がおもしろいものか。ぼくは  
{ b . 途<sup>と</sup>中<sup>ちゅう</sup>で見<sup>み</sup>るのをやめた。 }

し  
知っていますか

1. 準備体操をせずにはげしいスポーツをしたら、けがをし d. かねない。
2. これ以上森林の木を切り続けると、地球上から多くの動物がいなくなってしまうの c. ではあるまいか。
3. 石井君は最近、元気だね。今回の成功で だいぶ自信をつけた b. とみえる。
4. テレビの長期予報によると、今年の冬は平年より暖かい a. ということだ。
5. 選手の強化を図らないと、オリンピック

しゅつじょう                      き たい  
ク 出 場 など とても 期待 でき e . まい。

---

つか

使えますか

---

1. そちらでは地震じしんの被害ひがいは { a. ほとんど  
なかったとのこと、よかったですね。 }
2. { b. 今日は水曜日だから、 } ごみを出  
そう。
3. { b. 彼は何かいいことがあったとみえ  
て、ニコニコしている。 }
4. 娘むすめ「この不景気ふけいきだから、 { b. お姉さん  
の就職はむずかしいんじゃないかし  
ら」 }  
母「そうねえ。むずかしいかもしれない  
わねえ」

5. この薬<sup>くすり</sup>を飲<sup>の</sup>むと、 { a. 運<sup>うん</sup>転<sup>てん</sup>中<sup>ちゅう</sup>に眠<sup>ね</sup>く  
なりかねない。 }

27

しんじょう きょうちょう さ  
心 情 の 強 調 ・ 避 け ら れ な い 心 情 や

こうどう こた  
行 動 答 え

---

し  
知 っ て い ま す か

---

1. 会には出席できないが、出席の返事を  
してしまったので会費を払わ b. ないわ  
けにはいかない。
2. 電車の中で荷物を持ったお年寄りを見ると、祖母のことを思い出して席を立た  
d. ずにはいられない。
3. この歌を聞くと、この歌をよく歌っていた友のことが思い出されて c. ならな  
い。

4. 今日あさは朝からは歯いたが痛くて a. たまらな  
い。べんきょうぜんぜん勉強ができない。

5. 保ほ証しょう人にんの海外転勤かいがいてんきんが決きまったので、こ  
れからはほかの方かたにお願いせ e. ざるを  
えない。



---

つか  
使えますか

---

1. このゲームは { a. <sup>たの</sup>楽しくてたまらない。 }

2. タノムさんの<sup>じょうだん</sup>冗談には、<sup>た なか</sup>田中さんも  
{ b. 笑わないではいられないよう  
だ。 }

3. <sup>たいせつ</sup>大切な<sup>かいぎ</sup>会議だから { a. <sup>しゅっせき</sup>出席しないわけにはいかない。 }

4. <sup>た なか</sup>田中さんの<sup>ひょうじょう</sup>表情を見ていると、 { a. <sup>おも</sup>うそをついているように思えてならない。 }

5. { b. 寒気がしてならない。 } <sup>か ぜ</sup>風邪をひ

きそうだ。

し  
知っていますか

1. 集 合時間：午前 8 時30分。遅れない  
a. こと。（お知らせ）
2. 電車の中で騒いでいる子どもがいたら、  
ちょっと注 意する c. べきだと思う。
3. ほかの人が何を言っても気にしない e. ことだよ。
4. ほかの人のいる前で携 帯で大きな声で話  
す d. ものではない。
5. このプリントは 1 部あれば十分だ。コピ  
ーを取る b. ことはない。

---

つか

使えますか

---

1. 先生、この言葉<sup>ことば</sup>について { a. もう1度<sup>ど</sup>  
説明<sup>せつめい</sup>していただきたいのですが。 }
2. 年上の人にはていねいな言葉を { b. 使  
うものだ。 }
3. 大型<sup>おおがた</sup>バイクに<sup>の</sup>乗るには、 { b. 免許を取  
らなければならない。 }
4. 何もそんな小さいことで { a. 泣<sup>な</sup>くこと  
はないでしょう。 }
5. さあみんな、この案<sup>あん</sup>をすぐに { a. 実行<sup>じっこう</sup>  
しようではないか。 }

し  
知っていますか

1. こんなに無理むりをしたら病びょう気きになる a.  
にきまっている。
2. 試験しけんの当日とうじつは早はやめに家うちを出る e. にこしたことはない。
3. わたしの論文ろんぶんは、論文というよりレポートていどという程度ていどのもの d. にすぎない。
4. あした手術しゅじゅつをする。今はもう神かみに祈いのる  
b. しかない。
5. 彼かれがふるさとの方言ほうげんを話し続つづけるのは、  
ふるさとへの深い愛ふか着あい c. にほかなら

ない。

---

つか

使えますか

---

1. あの時は病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>だったのだから、{ a .  
仕事を減<sup>し</sup>らす<sup>ごと</sup>し<sup>へ</sup>かななかった。 }
2. { b . もうたばこは吸<sup>す</sup>うまいと決心したが、 } やっぱり吸<sup>す</sup>ってしまう。
3. 大人になるということは、{ a . 親<sup>おや</sup>からの<sup>どくりつ</sup>独立にほかならない。 }
4. この文の本<sup>ぶん</sup>当<sup>ほんとう</sup>の意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>がわかった人は、  
{ a . ほんの数<sup>すう</sup>人<sup>にん</sup>にすぎなかった。 }
5. たくさん働<sup>はたら</sup>いた人の方が給<sup>ほう</sup>料<sup>きゅうりょう</sup>が少<sup>すく</sup>ない。 { b . これでは不公平というものだ。 }

し  
知っていますか

1. 鈴木<sup>すず き</sup>さんに赤ちゃん<sup>あか</sup>が生まれたそうだ。  
ほんとうにおめでたい c. ことだ。
2. 父は時間があると、よくわたしを魚<sup>さかな</sup>つりに<sup>つ</sup>連れて行ってくれた d. ものだ。
3. 5年ぶりに友だちと<sup>あ</sup>会った。昔<sup>むかし</sup>の友だちと話すのはなんと楽しいん b. だろう。  
<sup>たの</sup>
4. ビンさんは、年をとる前になんとかして  
1度<sup>ど</sup>故郷<sup>こきょう</sup>に<sup>かえ</sup>帰り e. たいものだといつも言っている。
5. 雑誌<sup>ざっし</sup>の記事<sup>きじ</sup>の締め切り<sup>し き</sup>が近づいてくる<sup>ちか</sup>



と、1 日でも締め切りを延ばして a . ほ  
しい <sup>おも</sup>と思う。

---

つか

使えますか

---

1. 悔<sup>くや</sup>しいことに、{ a. わたしはこの<sup>かいしゃ</sup>会社をやめさせられたのです。 }
2. 大学時代<sup>じ だい</sup>クラブ活動<sup>かつどう</sup>の<sup>あと</sup>後に、{ b. 何回この喫茶店に入ったことか。 }
3. この子がこんな<sup>りょう り</sup>料理<sup>つく</sup>が作れるようになったのか。{ b. 大きくなったものだ。 }
4. なんとかして今日中にこの<sup>し ごと</sup>仕事を { a. <sup>お</sup>終わらせたいものだ。 }
5. 駅<sup>えき</sup>でさいふ<sup>わす</sup>を<sup>こま</sup>忘れて<sup>あ</sup>困っているときに、友だちに会った。{ a. なんとうれしか

ったことか。}

## 1

## 行為の対 象 練習 答え

## A

1. あなたの林<sup>はやし</sup>さんに（b. 対する）尊敬<sup>そんけい</sup>心<sup>しん</sup>はいつごろからのものですか。
2. これは若い人<sup>わか</sup>（a. 向け<sup>む</sup>に）デザインされた服<sup>ふく</sup>だけれど、母<sup>はは</sup>にもとてもよく似合<sup>にあ</sup>う。
3. 地元<sup>じもと</sup>の人たちの期待<sup>きたい</sup>に（b. こたえる）ような活躍<sup>かつやく</sup>をしたいと思<sup>おも</sup>います。
4. 事故<sup>じこ</sup>の原因<sup>げんいん</sup>に（a. 関<sup>かん</sup>して）ただ今調<sup>ちょう</sup>査<sup>さ</sup>中です。
5. この空<sup>あ</sup>き地<sup>ち</sup>の利用<sup>りようほう</sup>法<sup>ほう</sup>を（a. めぐって）

りょうしゃ    たいりつ    つづ  
まだ両者の対立が続いている。

---

## B

わたしは人間にんげんの命いのちと生き方かた（1. d. にかんする）本をよく読んでいます。最近さいきん読んだこの本は、7、8歳さいぐらいの子ども（2. c. 向けむの）本で、やさしく書かれています。もっともほんとうに子どものためになるものかどうか（3. f. をめぐって）は、いろいろ議論ぎろんがあったようだ。この本を書いたAという作家さっか（4. a. について）わたしはよく知らなかったが、本の中の「病気びょうき（5. b. に対する）反抗はんかうしん心しんより、病気と友だちになる心を持つことが大切だ」という言葉にはたいへん励まされた。この作家には、これからも読者どくしゃの期待きたい（6. e. にこたえて）、いい作品さくひんを書いてほしいと思う。

---

## C

1. その c. 病気 についてインターネットで  
しら  
調べてみました。
2. b. 人命 じんめい にかかわる大切な問題 たいせつ もんだい だから、  
よく聞きなさい。
3. 学校側 がわ は、学生たちの a. 要求 ようきゅう にこた  
とうろんかい おこな  
えて討論会を行うことになった。
4. この服 ふく は汚れても洗 あら えばすぐきれいにな  
あそ す  
るので、外遊び あそ が好きな d. 子ども む 向き  
です。
5. e. 財産問題 ざいさんもんだい をめぐってまだ話し合 あ いが  
つづ  
続いている。

## A

1. テレビの番組案内<sup>ばんぐみあんない</sup> c. によると、わたし<sup>わたし</sup>の好きなアニメがはじめてテレビで放映<sup>ほうえい</sup>されるそうさ。
2. 近所<sup>きんじょ</sup>の人が夜遅く<sup>よるおそ</sup>ごみを出さない b. ように、張り紙<sup>はがみ</sup>を出した。
3. 毎日<sup>まいにち</sup>少しずつ<sup>すこ</sup>でも運動<sup>うんどう</sup>を続けること e. による健康<sup>けんこう</sup>のための効果<sup>こうか</sup>は大きいと思<sup>おも</sup>う。
4. 使<sup>つか</sup>っていない部屋<sup>へや</sup>の電気を消<sup>け</sup>すこと d. によって、少し<sup>すこ</sup>でもエネルギー<sup>エネルギー</sup>を節約<sup>せつやく</sup>しよう。

5. ここに車を置きたいなら、管理事務所

a. を通して頼んでください。

---

## B

わたしの兄は、現在、京都のある大学で  
環境デザインを勉強している。兄（1. e.  
によると）、この学部は若い先生が多く、授  
業もとても活気があるそうだ。先生たちの  
考えでは、いい授業をする（2. d. 上で）何  
より大切なのは、教師と学生の間の知的な  
相互作用であり、その考えから、学生たち  
1人1人が積極的に授業に参加できる（3.  
a. ように）、少人数制のクラスになって  
いるそうだ。また、学生たち（4. c. によ  
る）自主的な活動も盛んだということだ。わ  
たしは兄（5. b. を通じて）この大学につい  
ていろいろ知るようになった。来年はわたし



もこの大学に入れるように、努力<sup>どりょく</sup>するつもりだ。

---

## C

1. あそこなら自転車<sup>じてんしゃ</sup>（b. で）行けば、15分もかからないよ。
2. 先輩<sup>せんぱい</sup>（a. を通<sup>つう</sup>じて）新<sup>あた</sup>しいアルバイトを紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>してもらった。
3. ビザの延<sup>えん</sup>長<sup>ちよう</sup>を（a. する上<sup>ひつ</sup>で）必要<sup>ひつよう</sup>な書類<sup>しょうい</sup>は何ですか。
4. 言葉<sup>ことば</sup>を（a. 増<sup>ふ</sup>やすべく）、彼<sup>かれ</sup>はさまざま<sup>ぶん</sup>な分野<sup>や</sup>の本<sup>ほん</sup>を讀<sup>よ</sup>むこと<sup>つと</sup>に努<sup>つと</sup>めている。
5. 入<sup>に</sup>会<sup>ゆう</sup>金<sup>かい</sup>は、この払<sup>は</sup>込<sup>らい</sup>書<sup>こみ</sup>（b. をもつて）〇〇銀<sup>ぎん</sup>行<sup>こう</sup>の口<sup>ぐち</sup>座<sup>ざ</sup>あて<sup>ふ</sup>にお振<sup>ふ</sup>り込<sup>こ</sup>みく

ださいますようお願<sup>ねが</sup>いいたします。

## 3

き てん しゅうてん げんかい はん い れんしゅう こた  
 起点・終点・限界・範囲 練習 答

え

## A

1. バイキングでは、e. 食べたいだけ食  
 べられるんですよ。

2. d. 3時間にわたる <sup>し あい</sup>試合がやっ <sup>お</sup>と終わ  
<sup>かいじょう</sup>った。会 <sup>はくしゅ</sup>場から大 <sup>お</sup>きな拍 <sup>お</sup>手が起 <sup>お</sup>こっ  
 た。

3. 明日は <sup>あす</sup>a. 夕方から <sup>よる</sup>夜 <sup>こ さめ</sup>にかけて、小 <sup>ふ</sup>雨  
 が降 <sup>ふ</sup>るでし <sup>ふ</sup>ょう。

4. c. 4年間にわたって <sup>けんきゅう</sup>研 <sup>けんきゅう</sup>究 <sup>けんきゅう</sup>されてきた  
<sup>あたら</sup>新しい <sup>あす</sup>ロボ <sup>あす</sup>ットが、明 <sup>はたら</sup>日 <sup>はたら</sup>い <sup>はたら</sup>よいよ <sup>はたら</sup>働 <sup>はたら</sup>き  
<sup>はじ</sup>始 <sup>はじ</sup>める。

5. うちの畑では b. 1 年を つう 通じて つぎつぎ 次々に  
いろいろな草花が育つんです。

---

## B

1. この店の商品 <sup>みせ しょうひん</sup> は高級品 <sup>こうきゅうひん</sup> ばかりだ。  
( a. ハンカチ ) からして、わたしには  
て 手が出ない。
2. 年末 <sup>ねんまつ</sup> から年始 <sup>ねんし</sup> にかけて、わたしは ( b.   
母のところに行っていた ) 。
3. この学校の屋上 <sup>おくじょう</sup> から見ると、見渡す <sup>みわた</sup> か  
ぎり ( b. ビルばかりだ ) 。
4. ( b. 1 週間 <sup>しゅうかん</sup> ) にわたる講習会 <sup>こうしゅうかい</sup> は、と  
ても評判 <sup>ひょうばん</sup> がよく、次回 <sup>じかい</sup> もぜひ参加 <sup>さんか</sup> した  
い <sup>おおぜい</sup> という人が大勢いた。

5. 今年は1年を<sup>つう</sup>通じて（a. <sup>いそが</sup>忙しかった）。

---

## C

わたしは2004年から2005年（1. a. にかけて）、世界のあちこち<sup>せ かい</sup>に行った。そして、2006年から2010年まで日本の大学で勉強<sup>べんきょう</sup>した。4年間（2. b. にわたる）留<sup>ねんかん</sup>学<sup>りゅうがく</sup>生活<sup>せい かつ</sup>の間、田中先生（3. e. をはじめ）いろいろな方<sup>あ い だ た な か</sup>のお世話<sup>か た</sup>になった。日本では食べ物<sup>も の</sup>（4. f. からして）わたしには合<sup>あ</sup>わなくて、はじめのうちはとても困<sup>こま</sup>った。しかし、日本には年間<sup>ねんかん</sup>（5. c. を<sup>つう</sup>通じて）いろいろな野菜<sup>や さい</sup>があるし、田中先生も「うちの畑<sup>はたけ</sup>のものは好<sup>す</sup>きな（6. d. だけ）持<sup>も</sup>っていいですよ」と言<sup>い</sup>ってくれたのでありがたかった。わたしもお金<sup>お かね</sup>が<sup>つづ</sup>続く（7. g. かぎり）がんばって日本

べんきょう つづ おも  
で勉強を続けようと思った。

---

D

1. 彼は 5 年前初めて本を出版したのを皮  
切りに、以後（ a . 次々にいい本を出版  
している）。

2. うちの親は（ b . わたしの友だちの電話  
番号）に至るまで関心があるようだ。

3. 今日を限りに（ b . この薬を飲むのをや  
める）。

4. 今年度をもって（ a . この研究会は終わ  
ります）。

5. わたしの睡眠時間は（ a . 5 時間）とい  
ったところです。

---

E

1. 今日 c. を<sup>かぎ</sup>限りに、A社との交<sup>こう</sup>渉<sup>しょう</sup>を打ち<sup>う</sup>切ることにした。
2. A会社の初任<sup>しょにんきゅう</sup>給はそんなに高くないです。せいぜい18万円 e. といったところでしょうか。
3. この映画 a. を<sup>かわ</sup>皮<sup>き</sup>切りに、以後次々にア<sup>い</sup>ジ<sup>ご</sup>アの映画が日本で上<sup>じょう</sup>映<sup>えい</sup>されるようになった。
4. 彼は神<sup>か</sup>経<sup>れ</sup>の細<sup>しん</sup>かい<sup>けい</sup>人で、その日に食べた食<sup>しょく</sup>事<sup>じ</sup>の<sup>ない</sup>内容<sup>よう</sup>やその<sup>ね</sup>値段<sup>だん</sup>、買<sup>か</sup>った店<sup>てん</sup>の名<sup>な</sup>前<sup>ぜん</sup> b. に<sup>いた</sup>至るまでノートに書いている。
5. 本<sup>ほん</sup>年<sup>ねん</sup>度<sup>ど</sup> d. をもって、当<sup>とう</sup>協<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>は解<sup>かい</sup>散<sup>さん</sup>いたします。

## A

1. たばこを吸<sup>す</sup>っているところを見つけてしまった。
2. 家に帰ると夫が出 張<sup>おと</sup>先<sup>しゅっちょう</sup>から帰<sup>かえ</sup>ったところでだった。
3. コウさんはいつもわたしがご飯<sup>はん</sup>を食べようとしているところに来るんです。
4. き<sup>し</sup>のうの試験<sup>けん</sup>では、もうすぐ書き終<sup>お</sup>わるところで、終<sup>しゅうりょう</sup>了<sup>な</sup>のベルが鳴<sup>な</sup>ってしまっ  
た。
5. 窓<sup>まど</sup>から顔<sup>かお</sup>を出しているところを写<sup>しゃしん</sup>真<sup>と</sup>に撮



られてしまったのです。

6. 今、食<sup>しょくじ</sup>事をしているところxなので、後<sup>あと</sup>でこちらからお電話します。

7. この時計は3時をちょっと過<sup>す</sup>ぎたところとで止まっている。

8. 赤<sup>あか</sup>ちゃんがもう少<sup>すこ</sup>しで眠<sup>ねむ</sup>るところxだから、ちょっと静<sup>しず</sup>かにしてください。

---

## B

年のはじめにひとことごあいさつ申<sup>もう</sup>し上げます。昨<sup>さくねん</sup>年は厳<sup>きび</sup>しい年でした。契<sup>けい</sup>約<sup>やく</sup>交<sup>こう</sup>渉<sup>しょう</sup>の（1. d. 最<sup>さい</sup>中<sup>ちゅう</sup>に）地<sup>じ</sup>震<sup>しん</sup>が起<sup>お</sup>こったり、ようやく工<sup>こう</sup>事<sup>じ</sup>が始<sup>はじ</sup>まった（2. b. ところ<sup>たいふう</sup>に）台<sup>たい</sup>風<sup>ふう</sup>が来<sup>き</sup>たりしました。やり（3. f. かけ<sup>ちゅうだん</sup>て）中<sup>ちゅう</sup>断<sup>だん</sup>された作<sup>さ</sup>業<sup>ぎょう</sup>もいろいろあります。しかし、

きび  
厳しいということはある意味（4. e. におい  
て）いいことです。困難こんなんなときにあれこれ  
かんが  
考えている（5. c. うちに）新しい計画あたが生  
まれてくるのです。今後こんごも何か困こまったことが  
お  
起こった（6. a. 際さい）は、みんなで助け合っ  
たす あ  
ていきたいと思います。

---

## C

1. （a. 上京した）折おりに 高校時代の先生  
に会った。
2. （b. 海外かいがいに転勤てんきんする）に際さいして、どの  
ひつよう  
ようなものが必要でしょうか。
3. スポーツ大会たいかいを開催かいさいするにあたって、  
じっこう い いん  
{ a. 実行委員がごあいさつを申し上げ  
ます。 }

4. 現代の（b. 高齢化社会）にあって、介護の質が問われている。

## 5

## 時間的同時性・時間的前後関係 練

しゅう  
習こた  
答え

## A

1. 子犬<sup>こ いぬ</sup>のマルが家<sup>うち</sup>に来て b. からは、子ども<sup>こども</sup>たちはいつも居間<sup>い ま</sup>でマルと遊<sup>あそ</sup>んでい  
る。
2. 夕方<sup>ゆうがた</sup>になると寒<sup>さむ</sup>くなるから、暖<sup>あた</sup>かい a.  
うちに、買<sup>か</sup>い物<sup>もの</sup>に行こう。
3. あの作家<sup>さっ か</sup>の本を讀んで e. はじめてファ  
ンタジーのおもしろさ<sup>し</sup>を知った。
4. 泳<sup>およ</sup>ぐときは、よく準<sup>じゅん</sup>備<sup>び</sup>運<sup>うん</sup>動<sup>どう</sup>をして d.  
からでないと、危<sup>あぶ</sup>ないよ。

5. お母さんが帰<sup>かえ</sup>ってきた c. とたんに、今までいい子だったケンちゃんがわがママを言<sup>い</sup>い始<sup>はじ</sup>めた。

6. 今井<sup>いま い</sup>さんは外<sup>がい</sup>出<sup>しゅつ</sup>した c. かと思<sup>おも</sup>った  
ら、すぐ帰<sup>かえ</sup>ってきたよ。大事<sup>だいじ</sup>な書<sup>しょ</sup>類<sup>るい</sup>を忘<sup>わす</sup>れたらしい。

7. 社員研<sup>しゃいん</sup>修<sup>けんしゅう</sup>の開<sup>かい</sup>始<sup>し</sup>に d. 先<sup>さき</sup>立<sup>だ</sup>って、社長  
のあいさつがあつた。

8. ホテルの予<sup>よ</sup>約<sup>やく</sup>が確<sup>かく</sup>認<sup>にん</sup>でき b. 次<sup>し</sup>第<sup>だい</sup>、お知  
らせします。

9. どちらのせんたく機<sup>き</sup>がいいか、特<sup>とく</sup>徴<sup>ちよう</sup>を  
よく比<sup>くら</sup>べた e. 上<sup>き</sup>で、決<sup>き</sup>めよう。

10. 学<sup>が</sup>期<sup>っ</sup>が終<sup>しゅう</sup>了<sup>りよう</sup>する a. とともに、学生<sup>がくせい</sup>た  
ちの多<sup>おほ</sup>くはふるさとへ帰<sup>かえ</sup>っていった。

11. 列車のドアが開く b. が早いか、乗客  
たちは次々に乗り込んでいった。
12. 道を歩いていると、男が走って近づいて  
くる c. なり、わたしのバッグを取ろう  
とした。
13. 石井さんは、いいライバルだった池田さ  
んが外国勤務になって d. からというも  
の、すっかり元気がなくなっていまっ  
た。
14. そのニュースを伝える号外は、用意する  
a. そばから飛ぶようになっていっ  
た。
- 

## B

1. いすから（立ち上がる → b. 立ち上がった）

たとたん）、いすが<sup>たお</sup>倒れた。

2. 大学を（卒<sup>そつぎょう</sup>業する→ f. 卒<sup>そつぎょう</sup>業して以<sup>い</sup>来<sup>らい</sup>）1度<sup>ど</sup>もあ<sup>あ</sup>の人<sup>ひと</sup>に会<sup>あ</sup>って<sup>い</sup>ない。

3. （冷<sup>さ</sup>める→ d. 冷<sup>さ</sup>めないうちに）召<sup>め</sup>し上<sup>め</sup>が<sup>め</sup>ってください。

4. （入<sup>にゅういん</sup>院する→ c. 入<sup>にゅういん</sup>院してはじめて）  
看<sup>かん</sup>護<sup>ご</sup>師<sup>し</sup>の仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>の大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>さがわかった。

5. よく（考<sup>かんが</sup>える→ e. 考<sup>かんが</sup>えてからでないと）行<sup>き</sup>くか行<sup>き</sup>かないか決<sup>き</sup>められ<sup>き</sup>ない。

6. 雨<sup>あめ</sup>が（やむ→ a. やみ次<sup>しだい</sup>第<sup>だい</sup>）、出<sup>で</sup>かけま<sup>で</sup>しょう。

7. 親<sup>おや</sup>や先<sup>せん</sup>輩<sup>ぱい</sup>とよ<sup>よ</sup>く（相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>する→ c. 相<sup>そう</sup>談<sup>だん</sup>し  
た上<sup>うへ</sup>で）進<sup>しん</sup>路<sup>ろ</sup>を決<sup>き</sup>めます。

8. 子どもたちは、わたしが（かたづける→  
e. かたづけるそばから）部屋中ちらか  
す。

9. （工事開始→ a. 工事開始に先立って）  
管理の責任者が各家をあいさつして回っ  
た。

10. 彼は家に（着く→ b. 着いたかと思う  
と）玄関に倒れてしまった。

11. 病気で（入院する→ d. 入院してから  
というもの）世間のできごとがまったく  
わからない。



## A

1. 寒<sup>さむ</sup>くなってきたので、{ b. 遅刻する学生<sup>ふ</sup>が増える一方だ。 }
2. 暑<sup>あつ</sup>くなるにつれて、{ b. エアコンの売<sup>う</sup>り上げが伸びてきた。 }
3. 日本にいる期間<sup>き かん</sup>が長くなればなるほど、  
{ a. 日本のことがわからなくなる。 }
4. 女性<sup>じょせい</sup>の社会進出<sup>しゃかいしんしゅつ</sup>に伴って、{ a. 日本<sup>ともな</sup>でも離婚<sup>り こん</sup>が増えてきた。 }
5. このごろ、{ b. 成績<sup>せいせき</sup>が悪<sup>わる</sup>くなるばかり  
なので、わたしは心配<sup>しんぱい</sup>です。 }

6. { a. 卒業式が近づくにしたがっ  
て、 } 高校生活のいろいろなことが心に  
浮かんでくる。

7. { a. A社との共同プロジェクトは順  
調に進行しつつあります }

8. 朝晩は涼しくなり、長く暑かった夏もや  
っと { a. 終わろうとしています。 }

---

## B

1. この本は読んでいくにつれておもしろ  
くなってきた。

2. お礼のメールを出すのは早ければ早いほ  
どいい。

3. 専用テレビを持つ子どもの数は増える一

<sup>ほう</sup>  
方だそうだ。

4. 医学が<sup>い がく</sup> 進<sup>しん</sup>歩<sup>ぽ</sup>するとともに人の<sup>じゅみょう</sup> 寿 命が延  
びてきた。

5. ソーラー<sup>はつでん</sup> 発電の<sup>ぎ じゅつ</sup> 技 術は年々<sup>ねんねん</sup>改 良<sup>かいりょう</sup>されつ  
つある。

---

## C

わたしは今、大学院の<sup>だいがくいん</sup> 2 年生です。専攻は<sup>ねんせい</sup> 専攻は<sup>せんこう</sup>  
「コンピューターによる<sup>が ぞうし ょ り</sup> 画像処理」です。ど  
んな<sup>べんきょう</sup> 勉強をしているのか、家族に<sup>か ぞく</sup> 説 明<sup>せつめい</sup>する  
のですが、みんな、難しくて聞けば聞く（**1.**  
**b.** ほど）わからなくなると言います。社会<sup>い</sup> 社 会<sup>しゃかい</sup>  
の情 報<sup>じょうほう</sup> 化<sup>か</sup>が進む（**2. a.** につれて）重 要<sup>じゅうようせい</sup> 性  
を増してきた分野で、いろいろな方面で注  
目<sup>もく</sup> され（**3. d.** つつある）んですよ。専攻を  
希 望<sup>き ぼう</sup> する学生も増える（**4. f.** 一 方<sup>ふ</sup>）で、教<sup>いっぼう</sup> 教<sup>きょう</sup>

授<sup>じゅ</sup>も喜<sup>よろこ</sup>んでいます。教授<sup>そつぎょうせい</sup>は、卒業生<sup>しゅうらい しゅうしょくさき</sup>が増える（**5. c.** にしたがって）将来<sup>しゅうらい</sup>の就職先<sup>しゅうしょくさき</sup>を  
どん<sup>かいたく</sup>どん開拓<sup>い</sup>するつもりだ、と言<sup>い</sup>っています。  
す。わたしも実験<sup>じっけん</sup>が<sup>おお</sup>多くて、家<sup>いえ</sup>へ帰<sup>かえ</sup>る時間<sup>じかん</sup>が  
遅<sup>おそ</sup>くなる（**6. e.** ばかり）ですが、充<sup>じゅう</sup>実<sup>じつ</sup>した  
毎日<sup>まいにち</sup>を過<sup>す</sup>ごしています。

## A

1. 2度と悲しい事故が起こらないようにと  
いの 祈り a. つつ、わたしはまいあさぶつだん <sup>て</sup> 毎朝仏壇に手を  
<sup>あ</sup> 合わせている。
2. 一郎、買い物に行く c. ついでに、この  
<sup>て がみ</sup> 手紙をポストに入れてくれないか。
3. 塩味 b. ぬきの <sup>りょう り</sup> 料理はおいしくない。
4. 今月の定例ミーティングでは、問題が <sup>もんだい おお</sup> 多  
かったので休み時間 d. ぬきで 3時間も  
<sup>あ</sup> 話し合った。
5. きのう、幼稚園へ子どもを <sup>むか</sup> 迎えに行き

d. がてら、新しくできた図書館に寄<sup>よ</sup>って  
てみた。

6. 堅<sup>かたくる</sup>苦しいあいさつ a. はぬきにして、  
すぐに食事にしましょう。

7. 転<sup>てんしょく</sup>職<sup>ほうこく</sup>の報告 c. かたがた、<sup>ひさ</sup>久しぶりに  
父と外で食事をした。

8. 小川<sup>お がわ</sup>さんは大学で教える b. かたわら、  
<sup>しょうせつ</sup>小説を書いている。

---

## B

1. 朝<sup>あさ</sup>、会社<sup>かいしゃ</sup>を出て b. 昼<sup>ちゅうしょく</sup>食<sup>えいぎょう</sup>ぬきで、5時<sup>まわ</sup>  
まで営業をして回った。

2. 1つのプロジェクトを c. 進<sup>すす</sup>めつつ、別<sup>べつ</sup>  
<sup>あた</sup>ら<sup>はじ</sup>の新しいプロジェクトを始めるのは大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>

だ。

3. 今回のハイキングは子どもが多いから、  
難しい a. 道はぬきにして、コースを  
決めよう。

4. 東京へ e. 行くついでに、浅草に寄っ  
ておみやげを買おう。

5. 大川さんは高校に d. 勤めるかたわら  
塾で英語の講師をしている。

## A

1. e. 早く<sup>とうあん</sup>答案<sup>かぎ</sup>を出す人に限ってあまりよくできていないようだ。
2. ただ b. 最後<sup>さいご</sup>までがんばった人のみが<sup>えいかん</sup>栄冠を手にするのだ。
3. このテーマについて講演<sup>こうえん</sup>をする適任者<sup>てきにんしゃ</sup>は  
a. ノーベル賞<sup>しょう</sup>をもらったO氏<sup>し</sup>をおいてほかにいない。
4. d. 70歳<sup>さい</sup>以<sup>い</sup>上<sup>じょう</sup>の人に限り、第一診察室<sup>だいいちしんさつしつ</sup>  
<sup>けんこうしんだん</sup>で健康診断<sup>う</sup>を受けることができます。
5. この小説<sup>しょうせつ</sup>は c. 医学を学んだことのあ



る K 氏ならではの作品ですね。病気の  
しょうじょう びょうしゃ じつ  
症 状の描 写が実にうまい。

---

**B**

I

わたしの知る（1. d. かぎりでは）、ヤン  
げいじゅつてきさいのう  
さんはとても芸術的才能がある人だ。今度  
こ てん  
の個展でも、ヤンさん（2. f. ならでは）の  
さくひん しん こ てん  
作品を見せてくれると信じている。この個展  
では先着30名（3. a. かぎ に限り）、彼がかれかいた  
色紙をもらえることになっているから、友人  
にもすすめてみようと思っている。

ヤンさんはわたしのこうはい後輩だから、わたしが  
日本にいる（4. c. かぎりでは）ヤンさんのお  
世話をしたいと思っているが、彼はなぜかわ  
たしがお金がないとき（5. b. に限って）、  
しょうらい  
お金を借りに来る。しかし、将来わたしの

画廊<sup>が ろう</sup>を発展<sup>はってん</sup>させてくれる人は、彼（6.g. を  
おいて）ほかにいないと思っているので、わ  
たしは彼との交際<sup>こうさい</sup>を大切にしたい。

ヤンさんは今、ただ前進<sup>ぜんしん</sup>ある（7.e. の  
み）だ。将来<sup>しょうらい</sup>が楽しみ<sup>せいねん</sup>な青年である。

## II

わたしが調べ<sup>しら</sup>た（1.d. かぎりでは）、わ  
が国でこういう手術<sup>しゅじゅつ</sup>ができる人<sup>もり</sup>は森先生（2.  
g. をおいて）ほかにいない。ただ森先生  
（3.e. のみ）がこの難<sup>むずか</sup>しい手術ができるの  
だ。あきらめていた人<sup>き ぼう</sup>に希望<sup>あた</sup>を与える手術  
は、腕<sup>うで</sup>がよくて心がやさしい森先生（4.f.  
ならでは）のものだ。

先生の手術は週に 1 回<sup>かい</sup>だけだが、急<sup>よう</sup>を要す  
る場合<sup>ば あい</sup>（5.a. に限<sup>かぎ</sup>り）、すぐに手術を始め

ることになっている。それで、先生はいつも  
緊張さんちょうしている。夕食後の数時間すうじかんだけが先生  
のリラックスタイムなのだが、そんなとき  
(**6. b.** に限って)、急に患者かんじゃさんが来る。  
森先生がわたしたちの病院にいる (**7. c.** か  
ぎりは)、わたしたちスタッフものんびりし  
てはいられない。

## A

1. この町は小さいけれど、ショッピングセンターも b. あれば 図書館 もあるので便利だ。
2. テレビの人気者が祭りのイベントに来るとか。子どもたち c. はもちろん大人たちもなんとなくわくわくしている。
3. 日本では 1 年に 1、2 回、お世話になった方には e. もとより親しい人にも感謝をこめて贈り物をする習慣がある。
4. 町内会の会長さんは、人柄もいい a. 上 (に) 熱心なので、会はよくまとまっ

ている。

5. 兄は<sup>あに</sup>数学<sup>すうがく</sup> d. に<sup>かぎ</sup>限らず<sup>か がく</sup>化学や生物<sup>せいぶつ</sup>のよう  
な<sup>り か けい</sup>理科系<sup>か もく</sup>の科目<sup>とく い</sup>が得意らしい。
- 

## B

1. 最近<sup>さいきん</sup>の若者<sup>わかもの</sup>は女性<sup>じょせい</sup>は { a. もとより、 }  
男性<sup>だんせい</sup>もファッション<sup>きょうみ</sup>に興味があるよう  
だ。
2. 復習<sup>ふくしゅう</sup> { a. ばかりでなく、 } 予習<sup>よしゅう</sup>もし  
なさいよ。
3. この本<sup>ほん</sup>は内容<sup>ないよう</sup>がむずかしい { a. 上  
に、 } 翻訳<sup>ほんやく</sup>がよくないので読みにくい。
4. このりんご、おいしい! あまい { b.  
だけじゃなく、 } 酸味<sup>さんみ</sup>もちょうどいい  
わ。

---

## C

1. ある大企 業<sup>だい き ぎょう</sup>の倒産<sup>とうさん</sup>は、同じ業 界<sup>ぎょうかい</sup>にとど  
まらず、{ a. 日本経済全体<sup>けいざいぜんたい</sup>にも影 響<sup>えいきょう</sup>  
を及<sup>およ</sup>ぼした。 }
2. このかばん、いいでしょう。{ b. 値段  
はもちろん、便利さも気にいっている  
の。 }
3. この電車は昼の時間帯<sup>じ かんたい</sup>はもとより、  
{ a. ラッシュアワーの間もそんなに込<sup>こ</sup>  
まない。 }
4. うちの子は親<sup>おや</sup>の手伝い<sup>て つだ</sup>はおろか、{ b.  
自分の部屋のそうじもしないんです。 }
5. そうじやせんたくに限らず<sup>かぎ</sup>、{ a. 食事<sup>しょく</sup>  
作りなどの家事<sup>か じ</sup>は、みんなたいへんで

す。 }

---

D

最近さいきんのサッカーの人気にんきはすごい。古くからのファンは（**1. a.** もとより）、普通ふつうのスポーツファンの人気も集めている。特に人気のあるチームの試合しあいとなると、ファンの熱狂ねっきょうはただのスポーツの試合の応援おうえんに（**2. c.** とどまらず）、まるでお祭り騒ぎだ。サッカーがこのような盛んさかになったのは、ファンの熱心ねっしんな応援も（**3. d.** さることながら）、地元じもとに根ねをおろしたプロのチームを作ろうという関係者かんけいしゃの努力どりょくが実みを結んだからだろう。

先月のサッカー大会でも、主催者しゅさいしゃの組織そしき力が、晴天続きという好条件こうじょうけんと（**4. b.** 相あいまって）、大会に大成功だいせいこうをもたらした。しか

し、関係者も選手もこの人気に安心していて  
はいけない。サッカーに（**5. f.** <sup>かぎ</sup>限らず）プロ  
のスポーツというものは、ファンがいるか  
らこそのものである。これから選手たち  
におもしろく、見る者<sup>もの</sup>に感動<sup>かんどう</sup>を<sup>あた</sup>与えるような試  
合を見せてほしいというのが、ひとり熱狂<sup>てき</sup>的  
なファン（**6. e.** <sup>いっぱん</sup>のみならず）、一般のサッ  
カーファン<sup>ねが</sup>の願いだろう。



## A

1. 病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>で試験<sup>しけん</sup>が受<sup>う</sup>けられなかったが、再<sup>さい</sup>試験<sup>しけん</sup>を c. 受<sup>う</sup>けるかわりに、レポートを提出<sup>ていしゅつ</sup>すればいいということだ。
2. 両<sup>りょう</sup>親<sup>しん</sup>の強<sup>つよ</sup>い要望<sup>ようぼう</sup>により、彼<sup>かれ</sup>は自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の a. 希<sup>き</sup>望<sup>ぼう</sup>に反<sup>はん</sup>して進路<sup>しんろ</sup>を変<sup>か</sup>えなければならなかった。
3. 将<sup>しょう</sup>来<sup>らい</sup>、 e. 人<sup>にん</sup>間<sup>げん</sup>にかわってロボッが家事<sup>かじ</sup>を全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>やってくれる日<sup>ひ</sup>が来<sup>く</sup>るだろうか。
4. パソコンで書<sup>て</sup>いた手紙<sup>がみ</sup>はきれいで d. 読<sup>よ</sup>みやすい反<sup>はん</sup>面<sup>めん</sup>あたたか<sup>か</sup>みに欠<sup>か</sup>けるのでは

ないか。

5. 信頼<sup>しんらい</sup>していた友人に b. 裏切<sup>うらぎ</sup>られるく  
らいつらいことはない。

6. 山川<sup>やまかわ</sup>さんは忙しい<sup>いそが</sup>記者生活<sup>きしゃせいかつ</sup>を b. 送<sup>せいかつ</sup>って  
いる一方で、家族との生活も大切に  
している。

7. 「これ、バナナケーキなんです。お口に  
あ<sup>あ</sup>合わないんじゃないかと心配<sup>しんぱい</sup>なんです  
が」

「d. 口に合わないどころか、実は大  
好物<sup>こうぶつ</sup>なんですよ」

8. リンさんに本当<sup>ほんとう</sup>のことを a. 言<sup>なや</sup>おうか言  
うまいかと悩んでいる。

9. 夕食<sup>ゆうしょく</sup>はカレーだけか。でも、夫<sup>おっと</sup>は忙し<sup>いそが</sup>

いのに、作って c. くれただけまし かな。

10. 看護師かんごしになって1年。先輩せんぱいたちはみんなとてもやさしいです。でも、g. それにもましてかんじゃうれしいのは患者さんの「ありがとう」の一言ひとことです。

11. 夕食作りを e. しないまでも 食器洗しょっきあらいぐらい手伝てつだってください。

12. 課長かちょうの仕事のやり方はきちんとしていきますね。 f. それにひきかえ、部長ぶちょうはマイペースでちょっとこま困る……。

---

## B

わたしは考古学こうこがく（**1. c.** ほど）おもしろい  
学問がくもんはないと思おもっている。わたしにとって考

古学は学問（**2.g.** というより）趣味しゅ みに近ちか  
い。考古学者がくしゃは図書館と しょかんで古い文書ふる ぶんしょに囲かこまれて  
過すごすことも多い（**3. b.** 半面はんめん）遺跡い せきなどを  
発掘はくくつするフィールドワークおおも多い。そのどち  
らもわたしに合あっていると思うからだ。将しょう  
来らいは大学で考古学おしを教えたいと思うが、この  
仕事し ごとは収 入しゅうにゅう（**4. f.** に対たいして）支 出し しゅつが意外い がい  
に多いと聞いている。しかし、何（**5. e.** に  
もまして）心配しんぱいなのは、果たはしてわたしが今  
の仕事をやめて、大学に入学できるかどうか  
ということだ。入学できなければ、大学の先  
生（**6. a.** どころか）、高校や中学きょう しの教師に  
さえなれない。考古学科がっ かのある有名な大学と  
は言いわない（**7. d.** までも）、せめて史学科し がく か  
のある大学に入りたい。

## 11

## 判断の立場・評価の視点 練習

こた  
答え

## A

はな子「このくつ<sup>こ</sup>3,000円だったの。値段<sup>ね だん</sup>の  
(1. a. わりに)はきやすいよ」

みち子「そう。わたしのこのくつは高かった  
よ。でも、一流<sup>いちりゅう</sup>メーカーのくつ(2. d.  
だけあって)ほんとうにはきやすいよ」

はな子「へーえ。でも、一流<sup>ひん</sup>メーカー品(3.  
e. にしては)デザイン<sup>わる</sup>が悪いね」

みち子「このメーカーはね。はじめはかばん  
専門<sup>せんもん</sup>のメーカー(4. c. として)名前を  
知<sup>し</sup>られていたのよ。確<sup>たし</sup>かにデザインはあ

まりよくないけど、ジョギングする人  
(**5. b.** にとって) いろいろいい<sup>てん</sup>点がある  
のよ」

はな子「いい点って何？」

みち子「まず、かかとの<sup>あつ</sup>厚さの (**6. a.** わり  
に) <sup>かる</sup>軽いこと。うすい<sup>ぬの</sup>布でできている  
(**7. e.** にしては) <sup>じょうぶ</sup>丈夫なこと。軽く<sup>かる</sup>くて  
丈夫な<sup>うんどう</sup>運動ぐつ (**8. c.** として) <sup>にんき</sup>人気がある  
んだって」

はな子「ふーん。あなたは<sup>せんしゅ</sup>運動選手 (**9. d.**  
だけあって)、くつにはくわしいね」

みち子「そう。わたし (**10. b.** にとっ  
て)、くつは<sup>たいせつ</sup>いちばん<sup>どうぐ</sup>大切な道具なの  
よ」

---

## B

わたしは私費<sup>し ひ りゅうがくせい</sup>留学生（1. b. として）2  
年前に日本に来ました。今ではもう生活の<sup>せいかつ</sup>  
（2. d. 上<sup>うえ</sup>で）は何の問題<sup>もんだい</sup>もありません。け  
れども、日本語はわたし（3. a. にとって）  
は大変<sup>たいへん</sup>難しく、最初<sup>さいしよ</sup>は漢字<sup>かんじ</sup>を覚<sup>おぼ</sup>えるので精<sup>せい</sup>  
いっぱいでした。漢字<sup>ぶんぽう</sup>だけではなく、文法<sup>ぶんぽう</sup>  
（4. e. 上<sup>じょう</sup>）のさまざまな規則<sup>きそく</sup>もめんどうで  
す。でも、めんどうな（5. c. わりに）は覚  
えやすいです。今は日本語<sup>べんきょう</sup>を勉強<sup>べんきょう</sup>するのが  
たの  
楽しいです。

ぼくの会社の社長<sup>さい</sup>は今年80歳<sup>さい</sup>。80歳（6.  
b. にしては）気持<sup>わか</sup>ちが若<sup>わか</sup>い。社長<sup>さけ</sup>はお酒<sup>さけ</sup>を  
飲<sup>らん</sup>むとすぐよっぱらって乱暴<sup>らんぼう</sup>なことを言う。  
社長（7. d. ともあろう）人<sup>こま</sup>がこれでは困<sup>こま</sup>  
る。社長（8. c. ともなると）飲<sup>き</sup>む機<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>が多

くなるのだろうが、このくせはやめてほしい。ぼく（9. a. からすれば）、あまり立派りっぱな社長とはいえない。ぼくだって新入社員しんにゅうしゃいん（10. e. なりに）がんばっているんだから、もっと尊敬そんけいできる社長になってほしい。

---

## C

1. 学校の先生たちは今の若者わかものは本を読まないと言うが、生徒せいとたちにすれば、{ a. 本よりもおもしろいものがあるのだろう。 }
2. この2枚まい えの絵は、表面上ひょうめんじょう、{ b. 何のちがちがいもありません。 }
3. { a. ベテランの歌手かしゅともなると、 } 歌ちがい方がやはり違うね。



4. { b. 学<sup>がく</sup>長<sup>ちょう</sup>ともあろう人が } どうして  
そんな乱暴<sup>らんぼう</sup>な発言<sup>はつげん</sup>をするんですか。

5. 部屋<sup>へや</sup>が狭<sup>せま</sup>ければ狭<sup>せま</sup>いなりに、 { b. 工夫<sup>くふう</sup>  
して楽しく暮<sup>く</sup>らそう。 }

## A

## I

この作家は大病の後、親の保護（**1. f.** のもとに）静かに暮らしていた。そして、その時、母親から聞いた話（**2. e.** をもとにし）書いたのがこの作品である。伝統的な小説作法（**3. c.** に沿って）創作したようだ。若い人が好む（**4. a.** ような）話ではないが、史実（**5. d.** に基づく）貴重な作品である。予想（**6. b.** どおり）今年の賞を受けた。

## II

次の（**1. a.** ような）スケジュールで工場

けんがく おこな  
見学を行いますので、どうぞご参加くださ  
い。見学は案内図（2. c. に沿って）、順 番  
に行います。第1工場では不用ガラスびん  
（3. e. をもとにして）新しい素材を作り出  
す行程を見ることができます。これはA大学  
の山田先生のご指導（4. f. のもとに）実験  
を行ってきたものです。われわれの期待（5.  
b. どり）の結果が得られました。今回ご  
覧いただくのはその実験結果（6. d. に基づ  
く）ものです。

---

## B

1. 自然界にある物質 d. をもとにして、  
キ. 次々に新しい化合物が作られる。
2. あすは関東地方 f. を中心にして、  
ア. 全国的に雨が降ります。

3. 前回の研 修 会の反省 i . を踏まえて、  
イ . <sup>あたら</sup>新しい <sup>き</sup>企 <sup>かく</sup>画 <sup>かんが</sup>を考えてみよう。

4. わたしが発音する b . とおりに、ウ .  
ただ正しくかたかなを書きなさい。

5. 違反者は規定 h . に <sup>そく</sup>即して、オ . <sup>ばつ</sup>罰する。

6. この雑誌は最新の情 報 g . に <sup>もと</sup>基づく  
エ . <sup>き</sup>記 <sup>じ</sup>事 <sup>すく</sup>が少ない。

7. 軍事体制 e . のもとでは、カ . <sup>じ ゆう</sup>自由な  
はっそう発想は生まれないと <sup>おも</sup>思う。

8. ここに書いてある c . ような ク . <sup>にっ</sup>日  
てい程で <sup>ほっかいどう</sup>北海道へ行く。

## A

1. この会では、年齢や条件 f. に 応じた  
アルバイトを 紹介 します。
2. 年 a. に よって、1 年間の総雨量が違  
う。
3. 同窓会での再開 d. を きっかけとし  
て、2 人はまた親しくつき合うようにな  
った。
4. あの人は何か g. に つけて、自分の親の  
ことを 自慢 する。
5. わたしの家は古いので、地震の c. たび

に大きく揺<sup>ゆ</sup>れる。

6. わたしの電話代は、月（b. によって  
は）2万円を超える。

7. 客が増えるか増えないかは、営業の努<sup>えいぎょう</sup>力<sup>ど</sup>  
力<sup>りょく</sup>e. 次第<sup>しだい</sup>だ。

---

## B

この会社は新しい発想<sup>はっそう</sup>に基<sup>もと</sup>づいた介護<sup>かいご</sup>サービスの開発<sup>かいはつ</sup>（**1. d.** を契機<sup>けいき</sup>にして）、急速<sup>きゅうそく</sup>に成長<sup>せい</sup>した。この成長<sup>ちやう</sup>は、新しい発想<sup>ちやうせん</sup>への挑<sup>い</sup>戦<sup>よくてき</sup>にスタッフが意欲<sup>いよく</sup>的になるのもならないのも、トップの人たちの指導<sup>しどう</sup>（**2. e.** いかんだ）ということを示<sup>しめ</sup>していると思う。今後、専門<sup>せんもん</sup>的サービス技術<sup>てきぎゅつ</sup>の伸<sup>の</sup>び方<sup>かた</sup>（**3. b.** 次第<sup>しだい</sup>では）、この会社は業界<sup>しどう</sup>の指導<sup>てきやくわり</sup>的役割<sup>えん</sup>を演<sup>ひつ</sup>じることになるだろう。また、社会<sup>ひつよう</sup>の必要<sup>ひつよう</sup>（**4.**

a. に<sup>おう</sup>応じて）、会社のサービス分野も<sup>か</sup>変わ  
っていくと思う。わたしは<sup>こうれい か</sup>高齢化社会と<sup>かい ご</sup>介護  
サービスについての<sup>ほうどう</sup>報道を目にする（**5. c.**  
につけて）、この会社の<sup>しょうらいせい</sup>将来性を感じるの  
である。

---

## C

1. この山は ☒ b. 見る   a. 位置と<sup>い ち</sup>角度<sup>かく ど</sup>  
d. によって   c. いろいろに<sup>へん</sup>変  
<sup>か</sup>化する。

2. <sup>めんせつ し けん</sup>面接試験の<sup>ごう ひ</sup>合否は、あなたの b. <sup>し ごと</sup>仕事  
☒ d. に<sup>たい</sup>対する   a. <sup>ねつ い</sup>熱意   c. <sup>し だい</sup>次第  
<sup>おも</sup>だと思ひます。

3. この<sup>こうれいしゃ し せつ</sup>高齢者施設では<sup>にゅうきょしゃ</sup>入居者の a. <sup>この</sup>好  
み   d. に<sup>おう</sup>応じた   ☒ c. <sup>たの</sup>楽しい   b.   
レクリエーション   <sup>けいかく</sup>を計画している。

4. わたしは今まで、 a. 仕事を d.  
か  
変えるたびに c. <sup>めんどう</sup>面倒な ■ b. <sup>てつづ</sup>手続  
きを しなければならなかった。

5. 日本に来たばかりのころは、 a. 何を  
d. 見る ■ b. につけても c. <sup>おも</sup>思い  
だ  
出す かぞく のは国の家族のことだった。

6. わたしは a. <sup>かいちょう</sup>会長の<sup>たいど</sup>態度 b. いか  
ん d. によって ■ c. は かい この会を  
たいかい  
退会することになるだろう。



## A

1. コンビニは<sup>ちゅう や</sup>昼夜 { a. <sup>と</sup>を問<sup>えい</sup>わず、 } 営<sup>ぎょう</sup>業している。
2. 合格<sup>ごうかく</sup>するかどうか { a. はともかくとし<sup>じゅけん</sup>て、 } いちおう受験<sup>じゅけん</sup>してみるつもりだ。
3. 会<sup>かい</sup>長<sup>ちょう</sup>の責<sup>せき</sup>任<sup>にん</sup>問題 { b. はさておき、 }  
今はどうやって会<sup>かい</sup>をま<sup>まと</sup>め<sup>め</sup>るかを考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>よ<sup>う</sup>う。
4. 最<sup>さい</sup>近<sup>きん</sup>、他<sup>た</sup>人<sup>にん</sup>がどう思<sup>おも</sup>うか { b. もかまわ<sup>わ</sup>ず、 } 電<sup>でん</sup>車<sup>しや</sup>の中<sup>なか</sup>で物<sup>もの</sup>を食<sup>く</sup>べ<sup>べ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る人<sup>ひと</sup>を見<sup>み</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>る。

5. 面接の結果は、採否 { a. にかかわらず、 } 手紙で通知します。
6. 山田さんの家庭事情 { b. をよそに、 } 会社は彼を異動させた。
7. 伊藤さんは経済的困難 { b. をものともせず、 } いつも力強く生きている。
8. サッカーの試合は天候 { b. のいかによらず } 行われます。
9. きちょうめんな青山さん { a. ならいざしらず、 } あの池田さんがあの時のメモを持っているはずがないでしょう。
- 

## B

わたしの友だちはみんな、うちの家族はお

もしろいと言う。おもしろいかどうかは（**1. e.** ともかく）、ちょっと<sup>へん</sup>変な<sup>たし</sup>ことは確かだ。まず、父だ。父はもう<sup>ていねん</sup>定年を<sup>す</sup>過ぎたのに、仕事があるない（**2. b.** にかかわらず）、毎日どこかへ出かけていく。いったいどこへ行くのかは、神様（**3. f.** はいざしらず）、家族のだれも知らない。次は、母。母は、「あそこの<sup>おく</sup>奥さんは……」という<sup>きんじょ</sup>近所の人たちの<sup>し せん</sup>視線を（**4. d.** よそに）、毎日着飾ってショッピングだ。姉は朝、時間がないからと言って<sup>かみ</sup>髪もとかさずに家を出ていく。きっと、他人の<sup>た にん めいわく</sup>迷惑（**5. a.** もかまわず）、電車の中で長い髪を<sup>ちが</sup>と<sup>か</sup>かしているに違いない。弟はどうかというと、こんな<sup>か てい かん きょう</sup>家庭環境（**6. c.** をものともせず<sup>ひとすじ</sup>に）、勉強一筋だ。こんな家族でも、<sup>よる</sup>夜になるとなんとなく集まって、おしゃべりする。さて、家族のこと

(7.g. はさておき)、わたしもそろそろ25  
さい さが たび  
歳。自分探しの旅に出ようか。

1. パーティーでは、すし b. やらサンドイッチ やら 食べきれないほどのごちそうが出た。
2. この町は、住む a. にしても 通勤 するに しても、便利 ですね。
3. わたしはインド c. とか タイ とか いった 暑い 国が 好き だ。
4. 東京の名所といえは、上野 b. や浅草と いった町 がすぐ頭に浮かぶ。これらの町は東京の「下町」と呼ばれ、人々に親しまれている。上野には公園や美術館や動物園があり、浅草には「浅草寺」とい

う有名なお寺がある。また、上野<sup>てら</sup> a. に  
しろ浅草にしろ、古くからの店がたくさ  
ん残<sup>のこ</sup>っていて、おもしろい。特に浅草  
は、休<sup>きゅうじつ</sup>日 c. といわず 普<sup>ふ</sup>段<sup>だん</sup>の日といわ  
ず、いつも観<sup>かん</sup>光<sup>こう</sup>客<sup>きゃく</sup>でにぎわっている。

5. だれかの家<sup>しょうたい</sup>に招<sup>しょう</sup>待<sup>たい</sup>されたときは、後で  
カードを送る a. なり電話をするなりし  
てお礼<sup>れい</sup>の気持<sup>あらわ</sup>ちを表<sup>あらわ</sup>すといい。

6. 「井上<sup>いのうえ</sup>さんて、おもしろい人でしょ  
う？」  
「おもしろい c. というか ちょっ<sup>か</sup>と<sup>か</sup> 変<sup>か</sup>わ  
っている というか、でも、なかなか魅<sup>み</sup>  
<sup>りよくてき</sup>力的<sup>りよくてき</sup>な人ですね」

7. 自分<sup>た</sup>の子<sup>にん</sup> b. であろうと 他人<sup>た</sup>の子<sup>にん</sup> であ  
ろうと、いけないことはいけないと言え

る大人でありたい。

8. JR a. であれほかの私鉄<sup>してつ</sup>であれ、故障<sup>こしょう</sup>  
や事故<sup>じこ</sup>が多いのは困<sup>こま</sup>る。

9. 駅<sup>じけん</sup>で何か事件<sup>じけん</sup>があったらしく、駅の中  
c. といい周<sup>しゅうへん</sup>辺<sup>しゅうへん</sup>といい、人<sup>きゅうきゅうしゃ</sup>や救<sup>きゅうきゅうしゃ</sup>急<sup>きゅうきゅうしゃ</sup>車<sup>きゅうきゅうしゃ</sup>な  
どでいっぱいだった。

10. 連<sup>れんきゅう</sup>休<sup>きゅう</sup>には、海<sup>うみ</sup> b. なり山<sup>やま</sup>なり、どこか  
空<sup>ところ</sup>気のきれいな所<sup>ところ</sup>へ行きたい。

## A

1. 外国語の勉強<sup>べんきょう</sup>は、毎日の積みかさね<sup>つ</sup>  
a. こそが大切<sup>たいせつ</sup>だと思う<sup>おも</sup>。
2. 1度<sup>ど</sup>や2度先生にしかられたe. くらい  
で、がっかりしてはだめですよ。しっか  
りして。
3. これについてはもう話し合う必要<sup>あ ひつよう</sup>d. な  
どない。もう決<sup>き</sup>まったことだ。
4. 物語<sup>ものがたり</sup>だけでなく、経済<sup>けいざい</sup>や歴史<sup>れきし</sup>c. まで  
まんが漫画<sup>まんが</sup>になっている。
5. (音声<sup>おんせい</sup>付き電子辞書<sup>でんしじしょ</sup>の広告<sup>こうこく</sup>) 「外国旅行<sup>りょこう</sup>



も、これ b. さえ あれば大丈夫！」

6. この1か月は忙しくて、1日 e. として ゆっくり休めなかった。

7. 課長のイエスマンになって b. まで 課長に気に入られようとは思わない。

8. 新聞の地方版 a. に さえないような小さい事故が毎日たくさん起こっている。

9. その国のことは言葉がわかるようになって c. こそ 本当に理解できるんじゃないか。

10. いつもいい加減なことばかり言っているあの人のこと d. なんて 信じません。

11. サービス業というものはお客様 d. あ

っての仕事だから、そのことを<sup>わす</sup>忘れない  
ように。

12. 東京の学校に行っている<sup>むすこ</sup>息子から、「電  
気代を<sup>はら</sup>払うお<sup>こま</sup>金a. すらなくなった」と  
言ってきた。困ったものだ。

13. <sup>たんしん ふ にん おっと</sup>单身赴任の夫から、この3週間c. とい  
うもの<sup>れんらく</sup>連絡がない。どうしたのだろう  
か。

14. <sup>でんとうこうげい</sup>伝統工芸というのは、<sup>けいけん</sup>経験30年という  
<sup>しょくにん</sup>職人b. にしてはじめて<sup>かのう</sup>可能な仕事な  
のだろう。

15. 「そのことなら、もう聞いているよ」  
<sup>まんいち わす</sup>「万一、忘れてるといけないからと思  
って、<sup>かくにん</sup>確認したe. までだよ」

---

## B

山田「やあ、木村さん、久しぶり。元気？」

木村「うーん、課を移ってから（**1. a.** というもの）、忙しくてね。1日（**2. d.** として）外出しない日はないくらい」

山田「そりゃ、期待されて行ったんだからね。今や木村さん（**3. e.** あっての）課なんだろう？」

木村「大げさねえ。でも、このごろ夜よく眠れないことがあるのよ」

山田「それはよくないよ。体を壊して（**4. b.** まで）会社のために働くっていうのは問題だよ。くれぐれも気をつけなさいよ」

木村「それは、ご親切（**5. c .** <sup>きわ</sup>極まる）お言  
葉、<sup>かんげき</sup>感激するわ」

## A

## I

時間（1. b. というものは）早くたってしまうものだ。今はもう秋。あたたかいお風呂<sup>ふ ろ</sup>がうれしい季節<sup>き せつ</sup>だ。お風呂といえは、去年行った温泉<sup>おんせん</sup>を思い出<sup>おも だ</sup>す。温泉（2. c. という）大きなお風呂を思い浮か<sup>う</sup>べるが、そこは小さなお風呂<sup>ふた</sup>が2つあるだけだった。しかし、そのお風呂に入<sup>き も</sup>ったときの気持ちのよさ（3. d. といったら）今でも忘れられない。宿<sup>やど</sup>の主人は「料理<sup>へん</sup>（4. a. にかけては）この辺でここが一番<sup>いちばん</sup>だ」と自慢<sup>じ まん</sup>していた。彼は料理<sup>かれ りょう り</sup>（5. f. のこととなると）、話<sup>はなし</sup>が止まらない。ほかの客<sup>きやく</sup>たちはのんびり楽し<sup>たの</sup>んでいた

が、わたし（**6. e.** はというと）、一日中<sup>いちにちじゅう</sup>  
机<sup>つくえ</sup>に向かって<sup>む</sup>原稿<sup>げんこう</sup>を書いていた。

## II

弟<sup>おとうと</sup>や妹<sup>いもうと</sup>たちは今、夏休み<sup>なつやす</sup>だ。サラリーマ  
ンのわたし（**1. e.** はというと）、毎日会社<sup>かいしゃ</sup>  
勤め<sup>づと</sup>だ。会社（**2. c.** というと）、立派<sup>りっぱ</sup>な建<sup>たて</sup>  
物<sup>もの</sup>を想像<sup>そうぞう</sup>する人も多いが、わたしの会社はマ  
ンションの1室である。マンションといえ  
ば、林<sup>はやし</sup>さんが今のマンションを売りたいと言<sup>い</sup>  
っていた。林さんは腕<sup>うで</sup>のいいエンジニアなの  
だが、土地<sup>とち</sup>の売り買い（**3. f.** のこととなる  
と）、まったく無知<sup>むち</sup>なのだ。わたしはそうい  
うこと（**4. a.** にかけては）腕<sup>うで</sup>のいい営業<sup>えいぎょう</sup>マ  
ンだから、林さんの力<sup>ちから</sup>になってあげられると  
思<sup>おも</sup>う。営業マン（**5. b.** というものは）、こ  
のよう<sup>つね</sup>に常に売り買いを考<sup>かんが</sup>えているのだ。土<sup>ど</sup>  
曜<sup>よう</sup>も日曜<sup>にちよう</sup>もない。それでもわたしはこの仕事<sup>しごと</sup>

す けいやく せいりつ  
が好きだ。契約が成立したときのうれしさ  
(6.d. といったら) 何とも言えない。

---

## B

1. インフラ c. とはインフラストラクチャ  
りやく さんぎょう せいかつかんれん しゃかいてき し  
一の略で、産業や生活関連の社会的資  
ほん  
本のことである。
2. ぼくはおいしいカレーを作ること a. に  
かけては じ しん 自信がある。
3. となりのおばさん h. ときたら毎日大き  
こえ れんしゅう  
い声でカラオケの練習をして、とても  
うるさい。
4. あの人のイラストのうまさ e. といっ  
たら、プロみたいだ。
5. 山口さんはワイン f. のこととなる  
やまぐち

と、<sup>がくしゃ</sup>学者のよう<sup>ねっしん</sup>に<sup>かた</sup>熱心に語り出す。

6. <sup>いのち</sup>命 b. というものは<sup>ふ し ぎ</sup>不思議なものです  
ね。

7. わたしは旅行が<sup>す</sup>好きで<sup>こくない</sup>国内はあちこちよく行くのですが、外国g. はという<sup>ど</sup>と、  
まだ1度も行ったことがないんです。

8. <sup>わ し ょ く て い し ょ く</sup>和食定食 d. といえば、やはりさしみ  
とてんぷらですかね。これがないければ和  
食ではないみたいだなあ。



## A

1. 知らない b. くせに、よく知っているよ  
うなことを言<sup>い</sup>ってはいけない。
2. わたしの書いた文<sup>ぶん</sup>章<sup>しょう</sup>が雑誌に出るんで  
すよ。雑誌 a. といっても学校の雑誌な  
んですが.....。
3. お年<sup>とし</sup>寄<sup>よ</sup>りだ c. からとい<sup>ふ</sup>って古<sup>ふる</sup>い歌<sup>うた</sup>が  
好<sup>す</sup>きだとは限<sup>かぎ</sup>らない。新<sup>あた</sup>しいポッ<sup>ぽ</sup>プス<sup>ぷ</sup>が  
好<sup>す</sup>きな人もいる。
4. この車は小<sup>こ</sup>型<sup>がた</sup>であり d. ながら、とても  
強<sup>つよ</sup>い力<sup>ちから</sup>がある。

5. 積雪が1メートルを越える大雪<sup>こ おおゆき</sup> c. にも  
かかわらず<sup>かれ</sup>彼は出かけていった。

6. いけないと知り b. つつまた大酒<sup>おおざけ</sup>を飲んで  
しまった。

7. 自分ではわかっている a. ものの、人に  
わかるように説明<sup>せつめい</sup>するのは難<sup>むずか</sup>しい。

8. 無料<sup>むりょう</sup> d. にしても要<sup>い</sup>らない物はもらい  
たくない。ごみ<sup>ふ</sup>が増えるのは困<sup>こま</sup>る。

9. 人にはメモの大切さを力説<sup>りきせつ</sup>し c. ながら  
も、自分ではときどき忘<sup>わす</sup>れてしまう。

10. お疲れ<sup>つか</sup>の a. ところをわざわざ荷物<sup>にもつ</sup>を届<sup>とど</sup>  
けてくださり、ありがとうございました。

11. 今回の市民マラソン大会では、わたしは  
コンディションが悪かったので、完走も  
できないだろうd. と思いきや、なんと  
3位に入賞してしまった。

12. 緑の少ない大都会b. といえども、春が  
近いことを感じさせる場所は至るところ  
にある。

---

## B

1. 祖母はデジタルカメラを買ったものの、  
使いこなすのはむずかしいようだ。

2. 日本人会の皆様にたいへんお世話になっ  
たにもかかわらず、川田さんはあいさつ  
もしないで帰国してしまった。

3. 寒いからといって、室内にばかりいる

と健康けんこうによくない。外に出て運動しなさい。

4. せっかく行ったのに、残念ざんねんながら、セールの品しなは完売かんばいしていました。

5. わたしが失恋しつれんしたのを知っていたながら、姉はわたしにやさしくしてくれない。

6. 「子どものくせに大人の話くびに首をつっこむんじゃない」と、子どものころよく言われた。

7. 体調たいちょうがよくないながらも、人数不足にんずう ぶ そくのため、ぼくは試合し あいに出 場しゅつじょうしなければならなかった。

8. 田中氏た なかしは大学の教 授きょうじゅだとはいえ / 教 授きょうじゅとはいえ、研究おもが主な仕事で、学生しを指

どう  
導することはほとんどないそうだ。

9. もっと早く来ればよかったものを! も  
う、おいしいものは残っていないよ。

10. 社長といえども、会社のルールは守って  
ほしい。

---

## C

ぼくは、母が音楽家であり（**1. d.** ながら）、今まで特に音楽に興味なかった。  
「音楽家の親がいる（**2. b.** くせに）何も楽器が弾けないのか」と友だちに言われて、最近、ギターでも弾けるようになりたいと思うようになった。友だちが「一口にギター（**3. a.** といっても）いろいろあるから、1度見に行ってみたら」と言うので、ある日、楽器店へ行ってみた。ギターはさぞかし高いだろ

う（**4. g.** <sup>おも</sup> と思いきや）、ぼくにも買えそう  
な安いものもあった。ぼくが安いギターばかり  
見ていたら、店員が「初心者だ（**5. c.** <sup>てんいん</sup> <sup>しょしんしゃ</sup> か  
らといって）安い楽器でいいというわけじゃ  
ありませんよ」と言う。ぼくは「なるほど」  
とは思った（**6. e.** <sup>けいざい</sup> ものの）、やはり経済  
<sup>じょうきょう</sup> <sup>かんが</sup> 状況を考えて安めのを買った。さて、練  
<sup>しゅう</sup> 習は……せっかく楽器を<sup>て</sup>手に入れたのだから、  
<sup>はや</sup> <sup>じょうず</sup> 早く上手になりたいと思い（**7. h.** つつ  
も）、なかなか練習の時間がとれない。その  
上、母に「このギター、あまり音<sup>おと</sup>がよくない  
わね」と言われてしまった。あの店員のアド  
バイスを聞いていればよかった（**8. f.** もの  
を）と、ちょっと<sup>こうかい</sup>後悔している。

## A

1. この山は形が富士山に似ている b. ところから「信濃富士」 と呼ばれている。
2. 事故 a. による 電車の遅れは10分ぐらいだった。
3. この本が好きだ c. からこそ あげるのですよ。要らないからじゃありません。
4. 新しいバイオリンを買ってもらった d. からには一生懸命に練習して上手にならなくては。
5. きのはコンピューターシステムの故

しょう ひ こう き の  
障 c . から飛行機に乗れなくなった人  
がおおぜい  
が大勢いたそうだ。

しょうがっこう おし かた じょう ず  
6 . 小 学校の先生の教え方が上手だった  
a . おかげで、理科が好きになった。

さく や ね まえ こ ちゃ の  
7 . 昨夜は寝る前に濃いお茶を飲んだ d . せ  
いか、なかなか寝られなかった。

は は あたら か  
8 . 母「また、新しいTシャツを買ったの。  
たくさんあるじゃないの」  
むすめ いろ  
娘「だって、こんな色のがほしかった  
んだ b . もん」

いもうと なら  
9 . 妹はフルートを1年ほど習っていた  
が、 a . あまりの むずか 難しさにとうとうやめ  
てしまった。

む り  
10 . 無理をして車を買った d . ばかりに、お



金がなくて旅行に行けなくなっていました。  
た。

11. 自分からやってみたいと言った b. 以  
上、この仕事は難しくても最後<sup>さいご</sup>までやり  
ます。

12. 「工事<sup>こうじ</sup>中<sup>ちゅう</sup> c. につき足もとにご注<sup>ちゅう</sup>意<sup>い</sup>  
ださい」 (立<sup>た</sup>て札<sup>ふだ</sup>)

13. このように方針<sup>ほうしん</sup>を決<sup>き</sup>めた d. 上<sup>うへ</sup>は、もう  
迷<sup>まよ</sup>わずにやるだけだ。

14. 足をひきずるようにして歩いている b. ところ  
をみると、明子<sup>あきこ</sup>さんはさっき<sup>ころ</sup>転ん  
だときにけがをしたんじゃないだろう  
か。

15. 鈴木<sup>すずき</sup>さんは若い<sup>わか</sup> c. だけに、外国語を習

っても上手になるのが早い。

16. 「田中、<sup>た なか おそ</sup>遅いなあ。もう12時だぞ」  
「あいつ a. のことだ。またどこかで飲  
んでいるんだろう」

17. 今日は「成人の日」<sup>せいじん ひ</sup> d. とあって、着物  
やスーツでおしゃれをした<sup>わかもの</sup>若者が多い。

18. 夏休みには<sup>おきなわ</sup>沖縄の海にいっしょに行こう  
とわたしから友だちを<sup>さそ</sup>誘った a. <sup>て まえ</sup>手前、  
<sup>いそが</sup>いまさら忙しくて行けないとは言えな  
い。

19. あなたのことを<sup>しんぱい</sup>心配すれば b. こそ、わ  
たしは今、<sup>きび</sup>厳しいことを言うのです。

20. 神様<sup>かみさま</sup> c. ではあるまいし、わたしは<sup>しょう</sup>将  
<sup>らい</sup>来のことはわかりません。

---

## B

1. 道路工事が多い { a . せいで、 } うるさ  
く<sup>こま</sup>て困る。
2. 王さんが翻訳してくださった { a . おか  
げで、 } よくわかりました。
3. この電車は強風 { b . によって、 } 運  
転<sup>てん と</sup>が止まること<sup>おお</sup>が多い。
4. すてきな彼の<sup>かれ</sup>ことをいろいろと考える  
{ b . あまり、 } 昨夜は眠<sup>さく や</sup>れな<sup>ねむ</sup>かった。
5. 彼は才能<sup>さいのう</sup>がある { a . だけに、 } 今後<sup>こん ご</sup>の  
活躍<sup>かつやく</sup>が期待<sup>き たい</sup>される。
6. 彼は郵便物の配達<sup>ゆうびんぶつ</sup>を早く終わりにしたい  
{ b . ばかりに、 } 郵便物を捨<sup>す</sup>ててしま

ったのだそうだ。

7. のどかな春の日 { a. とあって、 } <sup>こうえん</sup>公園  
ではゆったりと休 <sup>きゅうじつ</sup>日を <sup>す</sup>過 <sup>ひとびと</sup>ごす人々が見  
られた。

8. 心をなぐさめるピアノが { b. あればこ  
そ、 } <sup>かれ</sup>彼は <sup>た</sup>つらい仕事にも耐えていける  
のだろう。

---

## C

1. 日本では d. <sup>つ ゆ</sup>梅雨のおかげで、<sup>あき</sup>秋には  
<sup>ゆた</sup>豊かに <sup>こめ</sup>米が <sup>みの</sup>実る。

2. <sup>ゆき</sup>雪が c. <sup>ふ</sup>降ったせいで、<sup>し あい</sup>試合が <sup>ちゅう し</sup>中止に  
なってしまった。

3. 今年は a. <sup>ふ けい き</sup>不景気による <sup>とうさん</sup>倒産が <sup>おお</sup>多かった。

4. 兄は部屋の中をぐるぐる e. 歩きまわる  
ことから、友だちから「くま」と呼ばれ  
ている。

5. 外国へ b. 行くからには、その国の言  
葉が少しはわからないと 困る だろう。

6. 大声を a. 出したばかりに、子どもが  
起きてしまった。

7. c. 改装中につき、しばらく休ませて  
いただきます。

8. e. 大金持ちじゃあるまいし、そんな  
高い指輪は買えません。

9. 「期日までに間に合います」と b. 言っ  
た手前、もし間に合わなかったら恥ずか  
しい。

10. d . ゴールデンウィークとあって<sup>かんこう</sup>観光  
<sup>ち</sup>地はどこも人がいっぱいだ。

## A

1. もし世界一周旅行に d. 行くとした  
ら、飛行機と船旅とどちらがいいだろう  
か。
2. この会は一般会員の人たちの b. 協力  
をぬきにしては運営できない。
3. 設備も人材もそろっている。ただ、もう  
少し十分な a. 研究費さえあれば、も  
っとよい仕事ができるのだが。
4. だれの人生にも、c. 会えるものなら  
ぜひもう1度会いたいという人が何人も

いるだろう。

5. そのクラスがどんなクラスか、e. 入っ  
てみないことにはわからない。 ど けんがく 1 度見学  
してみよう。

6. 父は、子どもがよわ弱い者いじめのようなこ  
とを d. しょうものなら、ぜったい 絶対に許さな  
いという人でした。

7. 彼が誠意を c. しめ示さないかぎり、わた  
どしは 2 度と彼と仕事をするつもりはな  
い。

8. 君との e. ゆうじょう友情なくしては、ぼくは今  
日まで生きてはこれなかった。

9. あの人にお金を b. わた渡したら さい ご最後、な  
さけくなるまでお酒を飲んでしまう。



10. 交流会に f. 参加 するとなると、アルバイトを休まなければならない。休みをもらえるかなあ。

11. お世話になった a. 木村 さんのためと  
あれば、相当の援助を惜しまないつもりだ。

---

## B

マキ「久しぶりで歌舞伎を見に行こうと思う  
んだけど、あなたも行ってみない？」

ゆり「歌舞伎？ 学生のころ、1回見ただけ  
だけど」

マキ「大丈夫よ。ストーリー（**1.b.** さ  
え）読んでおけば、楽しめるよ」

ゆり「それなら、行ってみようか。行く（**2.**  
d. とすると）、いつ？ わたしは、日<sup>にち</sup>  
曜<sup>よう</sup>日<sup>び</sup>じゃ（**3. g.** ないかぎり）いつでも  
いいよ」

マキ「じゃ、土曜<sup>どようび</sup>日の晩<sup>ばん</sup>にしよう。一郎<sup>いちろう</sup>さん  
も誘<sup>さそ</sup>ったら？」

ゆり「彼は、コンサートや芝居<sup>しばい</sup>が始まるとす  
ぐ眠<sup>ねむ</sup>くなって、居眠<sup>いねむ</sup>りを始めた（**4. f.**  
が最後<sup>さいご</sup>）、絶対<sup>ぜったい</sup>に起きないからねえ。で  
も、誘<sup>さそ</sup>ってみるわ。ひろし君<sup>くん</sup>は？」

マキ「彼はわたしとどこへでも行きたがるか  
ら、誘<sup>さそ</sup>わずに行こう（**5. a.** ものな  
ら）、大変よ。それに、彼は歌舞伎<sup>かれ</sup>に特<sup>とく</sup>  
に詳しいから、彼（**6. c.** をぬきにして  
は）歌舞伎観<sup>かんしょう</sup>賞<sup>むり</sup>は無理ね」

ゆり「へえ、そうなの」

マキ「さて、4<sup>よ にん</sup>人で行く（7.e. となる  
と）、早めに<sup>せき</sup>席を<sup>よ やく</sup>予約しないとね」

ゆり「じゃあ、<sup>ねが</sup>お願いします」

## A

1. たとえ病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>になっても、<sup>かれ</sup>彼はたばこをやめないだろう。
2. <sup>ひとり</sup>1人<sup>ぐ</sup>暮らしを<sup>おやもと</sup>するとしても、親元からあまり<sup>はな</sup>離れたくない。
3. 山の中の暮らしがたとえ<sup>ふ</sup>不便<sup>べん</sup>であるにしても、わたしはやはり<sup>と</sup>都会<sup>かい</sup>を<sup>はな</sup>離れて山に<sup>す</sup>住みたい。
4. この<sup>けいかく</sup>計画<sup>じっこう</sup>を実行するかしないか、<sup>けんとう</sup>今検討中<sup>ちゅう</sup>です。どちらにせよ、<sup>こんげつまつ</sup>今月末までに<sup>けつろん</sup>結論を出します。

5. どんなに忠告したところで、あの人は聞き入れないだろう。
6. たとえアルバイトであろうと仕事には責任を持たなければいけない。
7. 相手がだれであれ、川田さんはていねいに話す人です。
8. 人になんと言われようと、わたしは決心を変えるつもりはない。
9. 雨が降ろうが、雪が降ろうが、走る練習をしなければならない。
10. 試合に勝とうが勝つまいが、この大会に参加することに意味がある。
-

1. 今の態度を <sup>たいど</sup> b. 改めなければ a.  
<sup>かいしゃ</sup> 会社を ☒ d. 移った c. にせよ <sup>おな</sup> 同  
<sup>けっか</sup> じ結果に終わるだろう。

2. 人に c. なんと b. 非難<sup>ひなん</sup>されよう  
と ☒ a. あの人は d. 自分の<sup>い</sup>生き方<sup>かた</sup>  
を <sup>か</sup> 変えるつもりはないらしい。

3. d. いくら ☒ a. 考えた<sup>かんが</sup> c. ところ  
で b. 結論<sup>けつろん</sup>は 今の段階<sup>だんかい</sup>では、出ない  
だろう。

4. どんなに c. 仕事で d. 忙しくて  
も ☒ a. メールぐらい b. くれて  
も よさそうなものだ。

5. 「旅行<sup>りょこう</sup>に行けそう？」

「そうね、d. 行く ☒ b. にしたっ

て a. 連休が c. 終わってから  
の方がいいんじゃない？」

6. d. 国民の b. 支持率が ■ c. 上が  
ろうが a. 上がるまいが、 政府は約  
束を守ってほしい。

## A

1. 「このCDプレーヤー、もう少し<sup>すこ やす</sup>安くなりませんか」  
「申し訳<sup>もう わけ</sup>ございませんが、これ以上<sup>い じょう</sup>お安<sup>やす</sup>くは b. いたしかねます」
2. 申し訳ありません。このそうじ機<sup>き</sup>は型<sup>かた</sup>が古<sup>ふる</sup>いため部品<sup>ぶ ぴん</sup>がなく、c. 直<sup>なお</sup>しようがないんです。
3. わたしの仕事<sup>し ごと</sup>の遅<sup>おく</sup>れで同僚<sup>どうりょう</sup>には何回<sup>なんかい</sup>も迷惑<sup>めいわく</sup>をかけているので、今回<sup>こんかい</sup>の仕事<sup>し ごと</sup>では a. 遅<sup>おく</sup>れるわけにはいかないんです。



4. 田中課長は今、休暇を取って旅行中なので、この2日間は連絡のc. 取りようがないということです。

5. 先週もバイトを休んだから、今週はa. 休むわけにはいかないだろうな。

6. 友人にお金を借りに行ったのですが、やはりb. 言い出しかねて、そのまま帰ってきてしまいました。

---

## B

山下さんが会社のお金を不正に使ってしまったんですって。山下さんという人をよく知っているわたしとしてはとても1. c. 信じがたいことです。そんなことは絶対に2. d. ありえ得ないと思います。だって彼ほど3. b. 信らい頼にた足る人はいないといつも思っていたんで

すもの。もし事<sup>じ</sup>実<sup>じつ</sup>だとしたら、今ごろは後<sup>こう</sup>悔<sup>かい</sup>して、どんなに苦<sup>くる</sup>しんでいるか……。上<sup>うえ</sup>田<sup>だ</sup>さんなんか、**4.a.** 聞くにたえないひどいことを言っているんですよ。もし、このことが原<sup>げん</sup>因<sup>いん</sup>で会社をやめることにでもなったら、わたしは**5.e.** なぐさめようにもなぐさめられません。わたしに何かしてあげられることはな<sup>じ</sup>い<sup>じつ</sup>かしら。早く事<sup>じ</sup>実<sup>じつ</sup>を知らなければ……。

## A

1. 最近、{ b. 仕事が忙しくて、疲れ気味だ。 }
2. 彼の話がとても愉快なので、{ a. みんなおなか<sup>いた</sup>が痛くなるくらい笑った。 }
3. { b. だれでも面倒<sup>めんどう</sup>な仕事は後回しにするくらいがある。 }
4. タンカーの事故<sup>じこ</sup>で油<sup>あぶら</sup>が流れ出して、  
{ b. 海<sup>とり</sup>の鳥たちが油まみれになってしまった。 }
5. { a. 見るともなくテレビを見ていたら、懐<sup>なつ</sup>かしい歌<sup>うた</sup>が流<sup>なが</sup>れてきた。 }

6. 子どもが { a. 泣き出さんばかりの顔で  
帰ってきた。 }

---

**B**

かいしゃ  
(会社で)

よう子「あら、どうしたの。気分が悪そう  
ね」

ひろし「うん、ちょっと熱 (1. b. っぽい)  
んだ。きのうからちょっとかぜ (2. e.  
ぎ み いた  
気味) でね。のども痛いし.....」

よう子「そう。きのうは何事もない (3. a.  
かのよう) な顔して会議に出ていたか  
ら、気がつかなかったわ」

ひろし「ちょっと無理していたんだ。仕事が

おく  
遅れると、どうしても無理をし（4. c .  
がち）になるね」

よう子「そうね……なあに、何か探<sup>さが</sup>している  
の」

ひろし「うん、机<sup>つくえ</sup>の上<sup>かみ</sup>が紙<sup>かみ</sup>くず（5. d . だら  
け）だから、ちょっと片<sup>かた</sup>づけてるん  
だ……。あ！ あった。昨日探<sup>きのう さが</sup>してたか  
ぐすり  
ぜ薬<sup>ぐすり</sup>がこんなところにあった」

---

## C

わたしは飽<sup>あ</sup>き（1. c . っぽい）ので、勉強  
を始めても長<sup>つづ</sup>くは続<sup>せいせき</sup>けられない。成績は下<sup>う</sup>が  
り（2. d . 気<sup>き</sup>味<sup>み</sup>）だ。姉はわたしをばかにす  
る（3. a . かのよう<sup>う</sup>に）、「あなたって生ま  
れ（4. f . なが<sup>あそ</sup>ら）の遊<sup>にんげん</sup>び人間<sup>にんげん</sup>ね」と言う。  
姉はどうも妹<sup>きび</sup>に厳<sup>きび</sup>しすぎる（5. h . きらいが

ある）。確かに子ども<sup>たし</sup>のころは毎日汗<sup>あせ</sup>（**6.**  
i. まみれ）になって外で遊んだ。毎日楽しいこと（**7.g.** ずくめ）だった。が、今は学校が終わると飛<sup>と</sup>ぶ（**8. b.** ようにして）家に帰り、勉強を始めるのだ。そんなことを考える（**9. e.** ともなく）考えていたら、また眠<sup>ねむ</sup>くなってしまった。

## A

1. 売り場に問い合わせしてみたd. ところ、  
その切符はもう売り切れということだった。
2. よう子は職場の人間関係の難しさに困  
りa. きて、先輩に相談した。
3. 今日中に資料を提出しないと、来週の  
国際会議までに印刷が間に合わないe.  
ことになります。
4. 新入社員は入社後、4週間の研修を  
受けるb. ことになっています。

5. 父が古典文学、兄が英文学の研究者なので、わたしも文学に興味をもった  
c. わけです。

6. 出版社の人「この本は秋の初めごろには出版したいのです」  
著者「つまり原稿を6月には出してほしい f. ということですね」

---

## B

山本「えー、実は南君が横浜事務所に移りたいという希望を会社に 1. e. 出したところ、認められましたので、今日は送別会というか、いっしょに食事をしようと 2. g. いうわけなんです」

大田「南君がここをやめるなんて知らなかったなあ」



南 「ええ、さんざん**3.c.** <sup>かんが</sup>考えた<sup>すえ</sup>末に出した<sup>けつろん</sup>結論なんです」

大田 「でも、せっかく<sup>な</sup>慣れたのに、どうして？」

南 「家<sup>いえ</sup>が横浜だし、子どもも小さいので、**4.a.** <sup>かよ</sup>通いきれないんですよ」

山本 「担当<sup>たんとう</sup>の仕事<sup>しごと</sup>の引き継<sup>ひ</sup>ぎ<sup>つ</sup>はうまくいっているの？」

南 「大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>ですよ。仕事を**5.b.** やりっぱなしでやめるなんていうことはしませんから」

大田 「いっしょに山に行こうって<sup>い</sup>言っていたのに、とうとう**6.d.** 行かずじまいだったなあ」

南 「横浜にいるんですよ。いつでも行けますよ」

前川<sup>まえかわ</sup>「実は、わたしも来年には横浜に**7.f.**  
うつ  
移ることになっているんですよ」

南 「そうですか。それはよろしくお願<sup>ねが</sup>いします」

---

## C

1. 彼<sup>かれ</sup>は夏<sup>なつ</sup>ごろ 1 度<sup>ど</sup>手紙<sup>てがみ</sup>をくれた b. きり、  
その後<sup>ご</sup>何も言<sup>い</sup>って来<sup>き</sup>ません。
2. 友<sup>とも</sup>だちに教<sup>おし</sup>えてもら<sup>もら</sup>ったお菓<sup>かし</sup>子<sup>こ</sup>の店<sup>みせ</sup>を探<sup>さが</sup>  
して、さんざん浅<sup>あ</sup>草<sup>さくさ</sup>の町<sup>まち</sup>を歩<sup>あ</sup>き回<sup>まわ</sup>った  
e. あげく、とうとう見<sup>み</sup>つけられずに帰<sup>かえ</sup>  
ってきた。

3. 入り口にずっと置き c. っぱなし のかさは、だれのでしょうね。

4. けさ、人に押されてもう すこ 少いで電車とホームの間に a. 落ちる ところだった。

5. 子どもたちが じゅぎょう 授業をボイコットする d. に いた 至 って、先生たちはようやく子どもたちの い ぶん みみ かたむ 言い分に耳を傾けるようになった。

6. A選手は今日の せんしゅ 試合で、自分の し あい ミスで てん 点 うご を入れられるし、動きも悪いし、最後に さい ご は はんそく たいじょう 反則で退場させられる f. しまつ だ。彼は ほんとう ちょう し 本当に調子が悪い。

## A

夫「この小説、読んだ（1. b. ことは）読  
んだんだけど、よく理解できなかった  
よ。あい子、この主人公の気持ち、わか  
る？」

妻「わたしにわかる（2. a. わけがない）で  
しょ。主人公は老人よ」

夫「でも、あい子はこの作家がすきなんだろう？ よく読んでいるよね」

妻「特にすきな（3. c. わけではない）の  
よ。それに、すきだからって、必ずしも  
主人公の心理がわかる（4. d. とは限ら

ない)でしょう」

せんばい

先輩「あれ、今年は花見には行かないのか」

こうはい

じつ

後輩「ええ、実は今、花見(5. b. どころで  
はない)んです。運送会社うんそうがいしゃでアルバイト  
をしているんです」

先輩「へえー。仕事、きついだろう」

後輩「ええ、きつくない(6. d. ことはな  
い)んですが、まあ、アルバイト料りょうは高  
いですから。1日も休む(7. a. ことな  
く)2週間がんばれば、かなりの額がくにな  
るんですよ」

に もつ

先輩「去年、重い荷物を山に運ぶアルバイト  
をしたんだけど、もう2度とあんなきつ  
い仕事はやる(8. c. ものか)と思った

よ。でも、この仕事ならぼくにもやれない（9. g. ものでもない）なあ」

後輩「でも、言う（10. f. までもない）ことですけど、ただ運べばいい（11. e. というものではない）んですよ。決まった時間までに<sup>かくじつ</sup>確実に<sup>とど</sup>届けることが大切なんです」

---

## B

1. リーさんがマラソン大会で a. 入賞するはずがない。  
<sup>たいかい</sup>大会で <sup>にゅうしょう</sup>入賞するはずがない。
2. タムさんとリーさん、どちらが<sup>はや</sup>速いかわざわざタイムを e. 計るまでもない。 はっきりわかっている。  
<sup>はか</sup>計るまでもない。
3. といっても、タムさんが<sup>とく</sup>特に d. 速いわ

けではない。

4. <sup>たいちょう</sup>体調がいつも c. <sup>かぎ</sup>いいとは限らないからである。

5. <sup>いそが</sup>ぼくは今、忙しいので b. マラソンどころではないが、いつか <sup>ふたり</sup>2人 <sup>つよ</sup>に強く <sup>さそ</sup>誘われれば、マラソン大会に絶対 <sup>たいかい</sup>f. <sup>ぜったい</sup>で <sup>で</sup>出ないものでもない。

## A

1. 「リンさんは今週末には帰国したい  
{ a. ということでしたが、 } 切符が取  
れず、帰国を延期したそうですよ」
2. 最近お体の調子がありません  
{ a. とのこと、 } どうぞご自愛くださ  
い。
3. 社長、お電話によると、井上さんは3  
時には見える { b. とのことです。 }
4. お母さん、あしたは10cmぐらい雪が  
{ b. 積もりそうだって。 } うれしい  
な、友だちと雪で遊べるね。



5. あしたもいい天気だ { a. とみえて、 }  
西<sup>そら</sup>の空<sup>あか</sup>が赤い。

6. 最近<sup>さいきん</sup>の木村<sup>きむら</sup>さんの暗<sup>くら</sup>い顔<sup>かお</sup>を見ると、何か  
大きな問題<sup>かか</sup>を抱えているのでは { b. あ  
るまいか } と気になる。

7. けさ、また電車の信号機<sup>しんごう き</sup>のトラブルが  
{ a. あったとか。 } 最近<sup>さいきん</sup>、多いね。

8. 「佐々木君<sup>さ さ き くん</sup>、このところ練習<sup>れんしゅう</sup>に来ない  
ね」

「佐々木? <sup>かれ</sup>彼はもうこのチームには  
{ a. <sup>もど</sup>戻らないんじゃない? }」

9. 「店長<sup>てんちょう</sup>、店員にそんな厳<sup>きび</sup>しいことを言  
ったら、すぐ { b. やめかねません  
よ }」

「だめなことはだめだよ」

---

**B**

4月<sup>あた</sup>は新しい<sup>はじ</sup>ことが始まる<sup>ぶ ちょう</sup>月だ。部長<sup>ぶ ちょう</sup>の話  
では、わが社<sup>しゃ</sup>も20人<sup>しんにゅうしゃいん</sup>の新入社員<sup>むか</sup>を迎える  
(1. b. とのこと)、しばらくは<sup>お</sup>落ち着<sup>つ</sup>かな  
い日<sup>つづ</sup>が続<sup>ふる</sup>くだろう。古い社員<sup>ふる</sup>たちも、それな  
りに緊張<sup>さんちょう</sup>している(2. a. とみえて)、いつ  
もとは違<sup>ちが</sup>った表<sup>ひょうじょう</sup>情だ。だれもが新<sup>ねん</sup>しい年度<sup>ど</sup>  
がスタートする緊張<sup>さんちょうかん</sup>感<sup>しんせん</sup>と新鮮<sup>かん</sup>さを感じてい  
る(3. d. に違<sup>ちが</sup>いない)。話<sup>かい</sup>によると、会社<sup>しゃ</sup>  
も近々<sup>ちかぢか</sup>、新<sup>しん</sup>しいシステム<sup>こ</sup>を入れる(4. e. と  
いうこと)だ。ぼくものんびりしていると、  
若い<sup>わか</sup>パワーに追<sup>お</sup>い越<sup>こ</sup>され(5. c. かねない)  
から、がんばろう。

27

しんじょう きょうちょう さ  
心情の強調・避けられない心情や

こうどう れんしゅう こた  
行動 練習 答え

A

1. 彼が何か悩んでいるような b. 気がして  
なりません。
2. まだ体調がよくないのですが、人手が  
足りないので今日から c. 出勤せざる  
をえません。
3. このごろ国のことが思い出されて a. 寂  
しくてたまりません。
4. わたしは細かいことをどうしても b. 確  
かめないではいられない 性格なので  
す。

5. これは高い本ですが、仕事にどうしても  
<sup>ひつよう</sup>  
必要だから a. 買わないわけにはいき  
ません。

6. 今度あいつに会ったら、ひとこと d.  
<sup>あやま</sup>  
謝らせないではおかないぞ。

7. 1日も早く被災地が復興することを c.  
<sup>ひ さい ち ふっこう</sup>  
<sup>ねが</sup>  
願ってやみません。

8. 失礼なことを言ってしまったのだから、  
<sup>しつれい</sup>  
d. おわびしないではすまないと思  
う。

9. クラスのヤンさんのスピーチの c. うま  
さといったらない。 a. うらやましい  
かぎりだ。

10. 父は働きすぎて体を壊し、 b. 退職を  
<sup>はたら</sup> <sup>こわ</sup> <sup>たいしよく</sup>

よ ぎ  
余儀なくされた。

---

**B**

1. 早く b. ビデオが d. 見たくて ■

a. たまらなかったので c. 急い  
で <sup>き たく</sup>帰宅した。

2. あの人は a. どうも b. うそをつ  
いている ■ c. という d. 気がし  
て ならない。

3. ひとつ c. 言わないでは b. い  
られない ■ d. ときは a. どうすれ  
ば 気持ちがおさまるかな。

4. <sup>だいとうりょう</sup>大統領が<sup>う</sup>撃たれたと b. 聞いた  
d. ときの ■ <sup>おどろ</sup>c. 驚きと a. いっ  
たら なかった。

5. 今日はこの書類を a. どうしても  
c. 書き上げない ■ b. わけには  
d. いかない んです。

6. 一人暮らしの高齢者に d. 不自由な  
b. 生活を ■ c. 余儀なくさせる  
a. 政治 ではないと思う。

7. 彼は a. 人を d. 感動させないで  
は ■ c. おかない b. 演説の 名手  
だ。

## A

1. 君、人生の先輩の言うことにはもう少し  
みみ　かたむ  
耳を傾けるものだよ。
2. 国民のみなさん、今こそわが国を立て直  
そうではありませんか。
3. 薬の飲み忘れをすることがあります。1  
くすり　の　わす  
日ぐらい飲まなくてもさしつかえありま  
せんよね。
4. 命が惜しかったら決してスピードを出さ  
いのち　お　けっ  
ないことですね。
5. （立て札）ここで釣りをするべからず。  
た　ふだ　っ

---

## B

1. 「このごろ<sup>いそが</sup>忙しくて、なかなか<sup>かぞく</sup>家族とい  
っしょに<sup>しょくじ</sup>食事ができないんですよ」

「そうですか。わたしも<sup>おな</sup>同じなんです  
よ。でも、こういう<sup>しごと</sup>仕事が<sup>だいいち</sup>第一という<sup>せい</sup>生  
活<sup>かつ</sup>を見直<sup>なお</sup>す（**1. e.** べきだ）と思<sup>おも</sup>ってい  
ます。仕事<sup>しごと</sup>のために<sup>じぶん</sup>自分の<sup>たいせつ</sup>大切なものを  
捨<sup>す</sup>てる（**2. c.** べきではない）と思いま  
す」

2. （<sup>としょしつ</sup>図書室でおしゃべりをしている子ども  
たちに）

「図書室では<sup>しず</sup>静かにする（**3. d.** こ  
と）」って書いてあるだろう。おしゃべ  
りをする（**4. b.** ものではない）よ」

3. 「<sup>えき</sup>A駅へ行きたいんですが、<sup>きゅうこう</sup>B駅で急行



の か ほう  
に乗り換えた方がいいでしょうか」

いそ  
「お急ぎでなければ、乗り換える（5.

a. ことはない）ですよ。たった2分の  
ちが  
違いですから」

だいきん あす  
4. 「すみません。代金は明日でも（6. g.  
さしつかえない）ですか」

もう こ  
「はい。申し込みは今日までですが、代  
金は今日でなくてもいいですよ」

さいきん いそが  
5. 「最近、みんな自分の仕事が忙しくてお  
たが れんらく ふ じゅうぶん  
互いに連絡が不十分なことがよくあり  
ますね」

かん  
「そうですね。朝、仕事を始める前に簡  
たん  
単なミーティングの時間があるといいん  
じゃないでしょうか」

か ちょう ていあん  
「それはいい。課長に提案してみよう  
（7. i. じゃありませんか）」

6. 「先生、わたし、大学に入ったのに、新しい友だちができなくて……」

「友だちを増やすには、専攻の同じ人とだけ付き合うのではなく、部やサークルに入って違う学部の人とも話してみる（8.f. ことです）よ」

7. 「おじさん、これ、何という意味」

「『ここに駐車する（9.h. べからず）』か。車を止めてはいけないっていう意味だよ」

8. 自分が悪いと思ったらまず謝るべきだ。  
言い訳をいろいろと並べる（10.j. ものではない）。

## A

息子<sup>むすこ</sup>の太郎<sup>たろう</sup>はバイクの腕<sup>うで</sup>がいい。しかし、  
1度大けが<sup>ど おお</sup>がをしてからは、もうバイクには乗<sup>の</sup>  
る（1. c. まい）と決心<sup>けっしん</sup>したようだった。で  
も、それは一時的<sup>いちじてき</sup>な決心（2. e. にすぎなか  
った）。夫<sup>おっと</sup>はあの事故<sup>じこ</sup>の後<sup>あと</sup>、彼<sup>かれ</sup>からバイクを  
とりあげてしまった。「いいバイクを持<sup>も</sup>って  
いても、命<sup>いのち</sup>をなくしたら（3. g. それまで  
だ）」と夫<sup>い</sup>は言う。もちろん太郎<sup>しん</sup>のことを心  
配<sup>ばい</sup>するから（4. d. にほかならない）。しか  
し、あれでは太郎<sup>はたち</sup>がかわいそう（5. f. とい  
うものだ）。太郎<sup>はたち</sup>もまもなく20歳。バイクが  
危険<sup>きけん</sup>なことはわかっている（6. a. にきまっ  
ている）。わかっていて乗<sup>の</sup>るのだ。わたし

は、今はもうあの<sup>こ</sup>子の<sup>す</sup>好きなようにさせる  
(7.b. <sup>おも</sup>しかない) と思っている。

---

## B

1. 親<sup>おや</sup>がわたしの気持ちをわかってくれない  
のなら、家を出る g. までのことだ。
2. この論文<sup>ろんぶん</sup>は大作<sup>たいさく</sup>ではあるけれど、データ  
が少し古い<sup>ゆうしゅうさく</sup>ですね。優<sup>けい</sup>秀<sup>さい</sup>作として掲載  
する f. にはあたらないと思います。
3. 日本<sup>にほん</sup>が資源<sup>しげん</sup>問題<sup>かんしん</sup>に関心<sup>りゆう</sup>を持ってきた理由  
は、日本が資源<sup>とほ</sup>に乏しい国だから b. に  
ほかならない。
4. 自由<sup>じゆう</sup>をあきらめるくらいなら、わたしは  
一<sup>いっ</sup>生<sup>しょう</sup>結婚<sup>けっこん</sup>する a. まい。

5. この質問の意味が理解<sup>り かい</sup>できる人は、ごく  
少数<sup>しょうすう</sup> c. にすぎない。

6. やりたくないからやらないなんて、君<sup>きみ</sup>、  
それはわがまま d. というものだ。

7. ふだんは健康<sup>けんこう</sup>でも、無理<sup>む り</sup>をしない生活<sup>せいかつ</sup>を  
心<sup>こころ</sup>がける e. にこしたことはない。

8. どんなに練習<sup>れんしゅう</sup>しても、けがをして試合<sup>し あい</sup>  
に出られなくなったら h. それまでだ。

## A

1. いつもはばらばらな<sup>かぞく</sup>家族が1年に1回<sup>ふる</sup>故郷<sup>さと</sup>に帰って、皆<sup>みな</sup>が集<sup>あつ</sup>まるのはなんとうれ  
しい b. ことか。
2. 昔<sup>むかし</sup>は年上<sup>としうえ</sup>の子も小さい子も近所<sup>きんじょ</sup>の子ども  
たちがいっしょになってよく外<sup>あそ</sup>で遊んだ  
c. ものだ。
3. ABC社<sup>しゃ</sup>の受付<sup>うけつけ</sup>の人はなんと感<sup>かん</sup>じのいい人  
d. だろう。
4. 今年こそジョギングを生活<sup>せいかつ</sup>の習<sup>しゅう</sup>慣<sup>かん</sup>にし  
a. たいものだ。

5. 子どもの時に無口<sup>むくち</sup>だった健<sup>けん</sup>ちゃんが、今しゃべるのが仕事の司会者<sup>しかいしゃ</sup>になっている。  
g. とは。びっくりしたなあ。

6. なんとかしてこの商談<sup>しょうだん</sup>を成立<sup>せいりつ</sup>させることができないh. ものかと、毎日、交<sup>こう</sup>渉<sup>しょう</sup>を重ねている。

7. 会社に入<sup>はんとし</sup>って半年もしないうちに新人<sup>しんじん</sup>が新人らしい新鮮<sup>しんせん</sup>さを失<sup>うしな</sup>ってしまうのを見るのは、ちょっと残念<sup>ざんねん</sup>なe. ものがある。

8. 幸運<sup>こううん</sup>なf. ことに、妹は事故<sup>じこ</sup>があった電車<sup>の</sup>には乗<sup>の</sup>っていないかった。いつもなら乗っていた時間なのだが。

1. おめでたいことに、あの夫婦は2人合  
せて190歳だそうですよ。

2. わたしが結婚したとき、祖母がどんなに  
喜んだことか。

3. 母のことを思い出すと、懐かしいという  
よりは寂しいものがある。

4. つらい練習をして、しかも逆転優勝し  
たA選手はどんなにうれしかったことだ  
ろう。

5. 何とかして時間を取り戻せないものかと  
いつも思う。

6. え? 小学6年生が1人で海外旅  
行? よくまあ、親が許したものだ。



7. 昔はわたしもよく1人で山へ行ったもの  
だが、今は1人で行くより数人で行く方  
が楽しい。

8. ああ、いろいろな国の言葉が話せるよう  
になりたいものだなあ。